令 和 6 年

波佐見町議会定例会会議録

第1回

開 会：令和　6年　2月29日

閉 会：令和　6年　3月22日

波 佐 見 町 議 会

令和６年第１回（３月）波佐見町議会定例会　会期日程

日　次	月　　日	曜	区　分	内　　容
第１日	２月 29 日	木	**本会議**	開会　諸報告 会議録署名議員の指名　会期の決定 委員会報告 町長の施政方針及び提案要旨の説明 議案審議（委員会付託、質疑・討論・採決）
			委員会	予算特別委員会
第２日	３月１日	金	休　会	※議事整理
第３日	３月２日	土	休　会	
第４日	３月３日	日	休　会	
第５日	３月４日	月	**本会議**	一般質問（５人）
第６日	３月５日	火	**本会議**	一般質問（６人）
第７日	３月６日	水	委員会	予算特別委員会（第一分科会）
第８日	３月７日	木	委員会	予算特別委員会（第二分科会）
第９日	３月８日	金	委員会	予算特別委員会（第一分科会）
第 10 日	３月９日	土	休　会	
第 11 日	３月 10 日	日	休　会	
第 12 日	３月 11 日	月	委員会	予算特別委員会（第二分科会）
第 13 日	３月 12 日	火	休　会	※議事整理
第 14 日	３月 13 日	水	休　会	※議事整理
第 15 日	３月 14 日	木	休　会	※議事整理
第 16 日	３月 15 日	金	委員会	予算特別委員会（執行部出席なし）
第 17 日	３月 16 日	土	休　会	
第 18 日	３月 17 日	日	休　会	
第 19 日	３月 18 日	月	休　会	※議事整理
第 20 日	３月 19 日	火	委員会	予算特別委員会（全体会）
第 21 日	３月 20 日	水	休　会	
第 22 日	３月 21 日	木	休　会	※議事整理
第 23 日	３月 22 日	金	**本会議**	各委員長報告（質疑・討論・採決） 議案審議（質疑・討論・採決）

令和６年第１回（３月）波佐見町議会定例会　目次

第１日目（２月 29 日）（木曜日）

○開　会 2

○諸報告　諸般の報告 2

○会議日程

日程第１　会議録署名議員の指名 2

日程第２　会期の決定 2

日程第３　町長の施政方針及び提案要旨の説明 2

議案審議（質疑・討論・採決）

日程第４　議案第 16 号 14

日程第５　議案第 17 号 29

日程第６　議案第 18 号 30

日程第７　議案第 19 号 31

日程第８　議案第 20 号 32

日程第９　議案第 21 号 33

日程第 10　議案第 22 号（産業厚生員会付託） 34

日程第 11　議案第 32 号 37

日程第 12　議案第 33 号 38

日程第 13　議案第 34 号 39

日程第 14　議案第 35 号 41

日程第 15～21　議案第９～15 号（予算特別委員会付託） 43

○散　会 69

第５日目（３月４日）（月曜日）

○開　会 71

○会議日程

日程第１　一般質問

横山 聖代 議員 71

岡村 達馬 議員 85

澤田 昭則 議員 99

田添 有喜 議員 116

濵本 秋人 議員 132

○散　会 140

第６日目（３月５日）（火曜日）

○開　会 142
○会議日程
日程第１　一般質問
前田 博司 議員 142
福田 勝也 議員 158
岡村 真由美 議員 173
城後 光 議員 189
脇坂 正孝 議員 206
北村 清美 議員 221
○散　会 238

第 23 日目（３月 22 日）（金曜日）

○開　会 240
○会議日程
日程第１　提案要旨の説明 240
議案審議（質疑・討論・採決）
日程第２～８　議案第９～15 号（予算特別委員長報告） 240
日程第９　議案第 23 号 245
日程第 10　議案第 24 号..... 247
日程第 11　議案第 25 号..... 248
日程第 12　議案第 26 号..... 249
日程第 13　議案第 27 号..... 251
日程第 14　議案第 28 号..... 252
日程第 15　議案第 29 号..... 254
日程第 16　議案第 30 号..... 255
日程第 17　議案第 31 号..... 257
日程第 18　議案第 36 号..... 258
日程第 19　議案第 37 号..... 259
閉会中の継続調査
日程第 20　閉会中の継続審査申出について..... 264
（総務文教委員長、産業厚生委員長、議会運営委員長）
○閉　会 265

第１日目（２月 29 日）（木曜日）

諸　報　告

諸般の報告

（１）例月現金出納検査結果の報告（11、12、１月分）

（２）定期監査報告

（３）委員会報告

議事日程

第１　会議録署名議員の指名

第２　会期の決定

第３　町長の施政方針及び提案要旨の説明

第４　議案第 16 号　令和５年度波佐見町一般会計補正予算（第８号）

第５　議案第 17 号　令和５年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）

第６　議案第 18 号　令和５年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）

第７　議案第 19 号　令和５年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第３号）

第８　議案第 20 号　令和５年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第４号）

第９　議案第 21 号　令和５年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第３号）

第 10　議案第 22 号　波佐見町キャンプ場の設置及び管理に関する条例

（以上１件　産業厚生委員会付託）

第 11　議案第 32 号　波佐見町防災行政無線再整備工事請負契約の変更について

第 12　議案第 33 号　稗木場地区急傾斜地崩壊対策工事請負契約の変更について

第 13　議案第 34 号　令和３年災　大鬼木地区他４地区災害復旧工事請負契約の変更について

第 14　議案第 35 号　財産の取得の変更について

第 15　議案第 ９号　令和６年度波佐見町一般会計予算

第 16　議案第 10 号　令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計予算

第 17　議案第 11 号　令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計予算

第 18　議案第 12 号　令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計予算

第 19　議案第 13 号　令和６年度波佐見町上水道事業会計予算

第 20　議案第 14 号　令和６年度波佐見町下水道事業会計予算

第 21　議案第 15 号　令和６年度波佐見町工業用水道事業会計予算

（以上７件　予算特別委員会付託）

第１日目（２月 29 日）（木曜日）

１．出席議員

１　番	前田	博司	２　番	濵本	秋人
３　番	澤田	昭則	４　番	岡村	真由美
５　番	田添	有喜	６　番	岡村	達馬
７　番	福田	勝也	８　番	城後	光
９　番	横山	聖代	１０　番	欠	員
１１　番	北村	清美	１２　番	脇坂	正孝
１３　番	尾上	和孝	１４　番	百武	辰美

２．欠席議員

な　し

３．議会事務局職員出席者

議会事務局局長	林田　孝行	書記	一瀬　若菜

４．説明のため出席した者

町長	前川　芳徳	総務課長	福田　博治
企画情報課長	澤田　健一	商工観光課長	太田　誠也
庁舎建設推進室長	大橋　秀一	税務財政課長	古賀　真悟
住民福祉課長	井関　昌男	農林課長兼 農業委員会事務局長	伊藤　幸治
建設課長	本山　征一郎	水道課長	中村　和彦
長寿支援課長	松添　博	子ども・健康保険課長	石橋　万里子
会計管理者 兼会計課長	串島　佳織	教育長	森田　法幸
教育次長兼 給食センター所長	朝長　哲也	総務課総務班係長	坂本　昌俊
税務財政課 財政管財班係長	鶴田　秀幸		

午前10時　　開　会

○議長（百武辰美君）

御起立ください。おはようございます。ただいまから、令和６年第１回波佐見町議会定例会を開会します。

これから本日の会議を開きます。本日の議事日程は、あらかじめ御手元に配付のとおりです。

諸報告　諸般の報告

○議長（百武辰美君）

これから諸般の報告を行います。例月現金出納検査結果の報告、定期監査報告及び委員会報告については、その写しを配付しておりますので御了承願います。

また今定例会までに受理した陳情１件については、配付にとどめておきますので御了承願います。これから議事に入ります。

日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（百武辰美君）

日程第１．会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は会議規則第125条の規定により、６番　岡村達馬議員、７番　福田勝也議員を指名します。

日程第２　会期の決定

○議長（百武辰美君）

日程第２．会期の決定の件を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は本日から３月22日までの23日間としたいと思います。御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

異議なしと認めます。

したがって、会期は本日から３月22日までの23日間と決定しました。

日程第３　町長の施政方針及び提案要旨の説明

○議長（百武辰美君）

日程第３．町長の施政方針及び提案要旨の説明を求めます。

町長。

○町長（前川芳徳君）

皆様おはようございます。本日ここに令和６年第１回波佐見町議会定例会を招集しましたと

ころ、議員の皆様には御健勝にて御出席を賜り、厚くお礼を申し上げます。

まず、改めて１月１日に発生しました能登半島地震で亡くなられた方々に、深く哀悼の意を表するとともに、けがをされた方や被災された方に、心からのお見舞いを申し上げ、一刻も早い復旧、復興を祈るばかりであります。既に町民皆様からの義援金については、第１陣として日本赤十字社を通じて、被災地に届けたところです。

また職員の派遣については長崎県と調整のうえ、３月下旬に東彼３町、西海市と共同で被災地に派遣することで進めております。今後とも県下市町と歩調を合わせ、被災者皆様の生活再建、被災地の復旧と復興を支援してまいりたいと考えています。

なお別件でありますが、本町では昨年の異常な少雨により、年末から節水のお願いをしておりましたが、先週の降雨により貯水量も回復し一安心したところであります。この間の町民皆様の御協力に感謝を申し上げます。

さて、２月16日に東京都において、令和５年度ふるさとづくり大賞の受賞式が開催され、波佐見焼石膏型のリサイクル化などの本町の取組が高い評価を受け、総務大臣賞を受賞したことから出席をいたしました。総務大臣賞は、内閣総理大臣賞に次ぐ大きな賞であり、使用済み石膏型の肥料リサイクル化、その肥料により育てた米を使った米粉クッキーと、波佐見焼の陶箱を組合せた陶箱クッキーの商品化。

リサイクル肥料を使った米を八三三米（はさみまい）としてブランド化した一連の取組が、波佐見焼産地並びに波佐見町全体として高く評価されたものであり、業界をはじめ関係者皆様の御理解と御協力なしでは受賞出来なかったものであり、町民皆様と一緒にいただいた賞と考えております。

今回の受賞を契機に、さらに波佐見焼の振興をはじめとする波佐見町の活性化を進めるとともに、持続可能な地域内循環社会の構築など時代の要請と期待に応える波佐見町への取組を進めてまいりたいと考えています。

さて、明日から３月となり事務事業の仕上げの月となりましたが、令和５年度を振り返ってみますと、新型コロナ後の経済の再生が大きな柱となる中、世界各地での戦争や混乱を発端とする燃料費や資材の高騰、それに伴う物価高が町内の経済活動にも大きな影を落としています。

これまで国の経済対策に加え、町独自の財源を充当し、経済支援策を積極的に進めてきたところであり、さらに力強い経済活動につなげていく必要があると考えています。

また町内で行われるイベント等は、コロナ禍前のにぎわいを取り戻しつつあり、３月に行われる小・中学校の卒業式も従来のかたちで行われると聞いておりますので、新たなステージにステップアップする卒業生が、大きく羽ばたく式になることを祈念しております。それでは開会にあたり、町政運営についての所信を述べ令和６年度当初予算の概要を御説明いたします。

私はこれまで「継承・変革・進化」を掲げ、選ばれる波佐見町を目標に据え、様々な施策を実行してまいりました。この間、議会の御理解をいただきながら、具体的な事業を進めてきた

ところではありますが、自治体を取り巻く環境は想定を超えるスピードで変化しており、その対応も迅速化が求められていることは言うまでもありません。特に人口減少社会による人手不足は官民問わず大きな課題であり、産業の振興、担い手の育成、人口流出の防止、移住定住の促進、ふるさと納税の対応など既に自治体間の競争は激化しており、自治体の生き残りと町民の福祉の向上、まちの活性化を図り、波佐見町に住みたい、住んでよかったと思っていただける施策が重要になってまいります。

このため限りある財源の中、選択と集中、事務事業の再構築も迅速に進めていく必要があり、将来を見据え、まちづくりの根幹である人と次世代を担う子育て世代に、投資する施策を具体化する必要があります。

それでは総合計画の基本計画に掲げた「創る　つなげる　超えていく」を基本理念に、「暮らしと絆を大切にするまち」を新たなまちづくりの将来像に据えており、これに基づき、取り組もうとする主要な施策の概要を御説明します。

１．居心地のよい安心を生むまちづくり

（１）防災、防犯について。

近年の自然災害は大規模化、局地化が顕著になっており、加えて能登半島地震で顕在化したように、多くの避難者が発生する災害に備えるため、指定避難場である体育センターに空調機を導入し、避難者が少しでも安心して避難ができるよう環境整備を進めるとともに、町民皆様への災害情報伝達の一元化を図るため、情報発信集約システムを構築します。

地域防災の要となる消防団の強化については、消防水利の整備をはじめ、消防団運営費補助金を拡充しつつ処遇改善を引き続き進め、団員の確保を図るとともに、消防団と連携する自主防災組織については、共助の体制構築を支援しながら、町民の危機管理意識の醸成に努めます。

防犯については警察をはじめとする関係機関との連携を引き続き行い、児童生徒の見守りをはじめとする地域防犯組織の意識醸成に努めます。またコロナ禍で普及拡大したインターネット通販による定期購入や訪問販売に関するトラブル。さらにはＳＮＳをきっかけとする詐欺被害が増加しております。

１人の方が複数の被害に遭うトラブルも増加傾向にあり、相談内容も悪質、複雑化しています。このような問題に対し専門相談員による啓発活動、相談支援を行い、問題の解決に取り組むとともに、消費者安全地域協議会など他機関との連携や、見守り体制の強化を行い、出前講座、中学生に向けた授業支援の開催を行いながら、被害の未然防止を図ります。

（２）道路交通について。

町内全域をつなぐ生活に欠かせない身近な施設として、生活基盤である道路網の整備は住民が快適に生活していく上で必要不可欠なものです。このことから県道の整備については、町内の状況を踏まえ、要望を行うなど県との連携を図り、町道の整備については継続路線のほか地

元からの要望を確認しながら、計画的に事業の進捗を図ってまいります。

また老朽化する橋梁の整備については、従来の事後保全型から予防保全型の修繕を意識し長寿命化を図ってまいります。

これからの道路整備は、より維持管理が主眼となってまいります。住民の皆様が安心して利用できるよう適切な維持管理に努めてまいります。地域公共交通として始めた予約制乗り合い交通は、現在利用者も増加傾向にあり、今後も見直しを行いながら継続して運行してまいります。

また地域公共交通計画の策定を行い、本町の公共交通の現状及び町民のニーズを把握し、予約制乗り合い交通の利便性向上のための方策を検討してまいります。あわせて路線バスとタクシーとの３層による交通システムの連携維持に努めます。

交通安全対策については、自治会等の要望を踏まえ、計画的な施設整備を進めるとともに、免許証自主返納支援などこれまでの制度を活用しながら、幅広い世代の交通安全の確立を図ります。

（３）土地利用について。

西ノ原区画整理事業は、本町の財政事情等を鑑みながら事業を進めてきたところです。長期にわたる計画となっていることから、事業の早期完了に向けた様々な手法を検討するとともに、生活環境、防災に対する課題解決に向け、地区の皆様の協力を得ながら、協議、調整を図り、事業を進めてまいります。都市公園については、それぞれの公園が持つ異なる特徴を積極的に生かし、町民の憩いの場としての活用と、観光資源としての活用を並行して進めるため、計画的な施設の維持管理及び更新を行ってまいります。

（４）住環境について。

公営住宅については、財政状況と将来的な利用状況を踏まえた波佐見町公営住宅長寿命化計画に沿って、適切な維持管理に努めてまいります。良好な景観の形成については、地域の特徴を生かした歴史と風土に根差した暮らしの景観を守ることを重視し、文化庁が選定する重要文化的景観への取組として、中尾地区、鬼木地区を対象とした重点景観計画区域の設定に向け進めてまいります。

上水道事業は、次世代につなぐ波佐見の水道を基本理念に、安全・強靭・持続の観点から、安心しておいしく飲める水。いつでもどこでも安定した水道水。健全な経営を維持する水道水の向上に努めます。

下水道事業は、宅地の生活環境改善及び公共用水域の水質保全を目的に、計画区域内の整備を進めながら、早期接続を促し普及に努めます。また、施設の適切な維持管理を図りながら、健全経営を目指し、衛生的で快適な生活環境づくりを推進します。

（５）自然環境について。

本町は豊かな自然に恵まれております。その美しい自然環境を維持し、継承するためには、

町民一人一人が環境に対する意識の高揚を図りながら、自然と調和した快適な生活環境の保全に努める必要があります。これまでも郷自治会や集団資源回収団体会、河川愛護団体などの活動により、地域環境の維持、向上が図られており、今後につきましても地域の環境美化活動への支援を図ります。

また公共用水域の水中水質保全と公衆衛生の向上のために、下水道事業実施区域外を対象に、合併浄化槽設置に対して国が示す基準以上に町独自で額のかさ上げや、対象内容の拡大を行い、さらなる合併浄化槽の普及に努めます。

（６）移住定住について。若年層の転出超過や少子高齢化による人口減少。地域や産業の活力低下に歯止めをかけるため、引き続きＵＩＪターンの促進や、関係人口の拡大、転入・転居者に対する定住支援施策の充実を図るとともに、支援の在り方の検討を行い、選ばれる魅力あるまちづくりを目指してまいります。

あわせて波佐見町で新規または移住して創業する事業者を対象とした創業チャレンジ支援事業補助金も引き続き実施し、波佐見町での新たなチャレンジに対して支援してまいります。また少子化の中、町の活性化のためにも、引き続き波佐見高校の支援を実施し、将来の関係人口。移住定住の拡大にもつなげてまいります。

２．商業、産業交流を軸とした人が輝くまちづくり

（１）商工業について。

これまで業界と行政が一体となり行ってきた、波佐見焼のブランド化への取組が実を結び、波佐見焼が数多くのメディア等で取上げられるとともに、ふるさと応援寄附金の返礼品についても、波佐見焼が数多く出品されるなど、波佐見焼の知名度は格段に向上しています。

一方で燃料費等価格の高騰により、事業所は大きな影響を受けるとともに、これまでブランド化や知名度向上に大きく寄与したテーブルウェアフェスティバルの規模縮小。さらには波佐見焼の後継者や窯業人材不足など、本町の窯業を取り巻く環境は厳しい状況下にあります。このような中、これまで長年の懸案事項であった使用済み廃石膏型のリサイクルについて波佐見陶磁器工業協同組合により、一時保管場所が設置され、町内各事業所から廃石膏の持込み、一時保管、最終処分場への運搬という工程が確立し、今後リサイクル促進が大きく前進するものと期待しております。これらＳＤＧｓの取組が波佐見焼ブランドの強化に寄与していくものと考えております。

窯業振興については、情報収集に業界と一体となって積極的に取組、インターネットを活用した販路拡大方法の研究や波佐見焼振興とブランド化に努めます。

また後継者や、窯業人材の確保に向けた支援も行いながら、新しい時代の窯業一大産地としての認知向上を図ります。地域経済の活性化のためには、地域を支える中小企業、小規模企業の振興が不可欠で、その対策の一層の推進を図る必要があり、燃料費等高騰対策や、事業継続支援金による経営支援などを、国や県と連携し実施してきました。今後も、現状把握に努め、

商工会をはじめ関係団体とも連携し、引き続き商工業者の皆様の経営基盤の安定に寄与してまいります。

（２）農林業について。

農業を取り巻く環境は、農業者の高齢化や担い手不足、不安定な世界情勢や、円安の影響による生産資材等の高騰など、農業生産活動を維持していく上でも大変厳しい状況となっています。このことから本町では、中山間地域等直接支払交付金事業や多面的機能支払交付金事業、鳥獣被害防止対策事業などの国・県の支援を活用した農地の維持、保全の推進を行います。また農地の管理においては、法面の草刈りが負担増となり、営農意欲の低下を招き、ひいては担い手の農地貸借にも影響を及ぼしていることから、センチピードグラス吹きつけ工法による事業を、小規模農林業の補助対象メニューに加えて農地保全活動を支援します。

新規就農者への総合的支援、認定農業者や集落営農法人等の育成を行い、担い手確保について関係機関と連携し対応するとともに、水田フル活用による水田農業の所得向上や、施設園芸の普及振興に取組ます。

さらに、長崎牛の評価も高いことから、畜産農家の経営安定や県央牛ブランド確立についてもしっかりと支援してまいります。

また林業については、森林環境譲与税を財源とした森林経営管理事業により、管理がされていない人工林の保育間伐を施行し整備を行うことにしており、さらに県産材を使用した木製品を幼児に配布する木育活動についても取り組んでまいります。

（３）観光について。

本町を訪れる観光客数は、目標としていた100万人を平成29年に達成し、その後コロナ禍の影響により大幅に減少しましたが、令和４年度には97万人まで回復しています。

窯業・農業を中心とするなりわいや人物、生活文化などあらゆる素材を資源と捉えて、人と人が交わることを主眼に、令和３年度に策定した波佐見町観光振興計画に沿って事業を推進します。

引き続き感染対策を十分に講じた、新しい体験型観光事業造成やこれまで整備した古民家やキャンプ場などの運用を開始して、本町への誘客に努めます。一般社団法人波佐見町観光協会と連携した事業では、収益性や消費額のアップなどを図るため、滞在型観光に力を入れて、数から質を重視した施策に努め観光面での地域ブランド確立を目指します。

３．ぬくもりがある福祉のまちづくり。

（１）地域福祉について。

地域のつながりが希薄化している現在、誰もが住み慣れた地域で安全・安心に暮らすため、社会福祉協議会及び民生委員児童委員や関係機関との連携のもとに、適切な相談指導体制の強化を図り、身近な地域における見守りや助け合いなどの相互扶助意識の高揚に努め、地域福祉の推進を図ってまいります。

（２）高齢者福祉について。

本町における65歳以上人口の割合、いわゆる高齢化率は年々上昇し、令和５年12月末現在で33.3％と全体の３分の１を占めています。このような中、高齢者が生涯元気で生きがいを持って社会参加できるよう、高齢者福祉計画に基づき一人暮らしの高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう支援を行います。

介護保険におきましては、介護需要の急増という困難な課題がございますが、今年度新たに策定いたしました第９期介護保険事業計画に基づき、中長期的視点に立ち、介護予防事業の充実や地域全体で支え合う体制整備への支援を実施し、各種団体と協力しながら、ひとり暮らしや認知症高齢者等の見守り、高齢者の権利擁護などの課題に取り組んでまいります。

また近年、複合的な課題を抱える高齢者が増加しており、地域包括支援センターを中心とした丁寧な相談体制を今後も継続し、高齢者がいつまでも住みなれた地域で健康で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域共生社会の実現を目指してまいります。

（３）障がい者福祉について。

障がい者、障がい児が安心し、生きがいを持って生活できる地域社会づくりの実現を目指して、生涯を通じた切れ目のない支援を行うとともに、令和６年度を初年とする第７期障がい福祉計画及び第３期障がい児福祉計画に基づき障害者、障がい児が自立した生活を送ることができるよう、「東彼地区障がい者支援センター　エール」や関係機関等との連携によるきめ細やかな相談支援体制の充実を目指してまいります。

（４）出産、子育てについて。

国においても最重要施策として、「こども・子育て施策」を掲げられているように、子育て支援は特に人口減少する自治体にとって、その存続を揺るがす大きな課題となっています。そのことからも子供たちの健やかな成長を、町全体で後押ししていくことが最重要と考えております。出産前から出産。そして育児においても切れ目のない継続的なサポート。相談機能を充実させ、児童福祉と母子保健の一体的な支援につながるように、旧庁舎を利活用したこども家庭センターの開設準備を進めてまいります。

また試行的に「子ども（みんな）食堂」事業をスタートさせ、経済的または家庭の事情等による食生活の課題を解決していくように努めてまいります。さらに保育士確保対策を継続するとともに、コロナ禍等の影響を受ける子育て世帯の経済的負担や第２子出産を後押しするため、第２子の保育料を無償化し子育て世帯を応援してまいります。

（５）保健医療について。

人生100年とうたわれ平均寿命が延びていますが、長生きするだけでなく、健康であることが重要です。自分の健康は自分で守ることを基本に、生活習慣の見直しによる病気の予防、早期発見や重症化予防などに取り組むとともに、さらなる健康推進のため、健康アプリ事業の普及促進にも努めてまいります。

現在改定作業中で、令和６年度から発行する第三次波佐見町健康増進計画は、健康を推進するための指標を示すものです。この計画が町民の皆様の身近なものとなるように周知を図ってまいります。公約である小児科誘致については、医師の働き方改革が進む中大変厳しい状況ではありますが、あらゆる可能性を探りながら、その実現に向けて引き続き取り組んでまいります。

（６）社会保障について。

国民健康保険事業や後期高齢者医療制度については、全世代型の社会保障制度として改革が行われており、保険証の廃止や負担の在り方が議論されてきました。国の動向を注視しながら、公平・公正な運営に努めてまいります。増大する医療費に対しては、疾病予防あるいは重症化予防が重要ですが、健康診断の受診率は目標の60％まで達していません。医療機関や健診機関とも連携を図り、受診率の向上に努めてまいります。

４．生きる力と郷土愛を育むまちづくり。

（１）学校教育について。

保護者の経済的負担軽減のため、県内で初の取組となる給食費の完全無償化について、新年度から本格的に取り組み、波佐見町を選んでもらえるよう子育て世代へのＰＲにつなげてまいります。

子供たちの学力向上については、各学校の現状を把握しながら連携を密にし、これまでの成果や課題を分析し、学校現場の主体性を促しながら子供たちの着実な学力向上につなげてまいります。

そのために標準学力調査の年２回実施や漢字検定、英語検定など、子供たちの分かりやすい目標を設定しながら、子供たちの気づきや自ら学ぶ大切さの自覚を促してまいります。

また各学校でそれぞれに取り組んでいますふるさと教育、キャリア教育については、ふるさと波佐見をもっと知ることによって、波佐見町の他所にない魅力やすばらしさを発見・自覚させ、ふるさと波佐見をもっとよりよくするという意識の醸成を図ってまいります。

特別な配慮や支援を必要としたり、不登校、不適応行動を示したりする子供に対しては、一人一人に寄り添った対応を地域の力なども生かしつつ進めてまいります。

学校施設の適切な管理については、長寿命化計画に基づいた中央小学校体育館の改修工事などをはじめ、バリアフリーに対応した改修工事も計画的に行いながら、教育環境の充実、維持に努めてまいります。

（２）生涯学習について。

生涯学習は自分自身や生活を充実させ、学んだことを生かして、活力ある地域や社会をつくるなど社会貢献にもつながる取り組みと思っており、個人のためにも社会のためにも大切なものであります。

子供からお年寄りまで一生涯学び続ける環境づくりが大切であることから、各世代に合った

学びを深める取り組みを推進してまいります。

特に大人世代の方々には生涯現役で充実した人生、豊かな人生、生きがいのある人生を送ってもらうために各種講座やいきいき大学などの充実を図ってまいります。

（３）歴史文化・スポーツについて。

歴史・文化については、先人たちが築き上げてきた波佐見町の歴史を学び、それをどう現代につなげさらに発展させていくか。まさに温故創新をキーワードに取組を進めます。

そのため歴史文化交流館を中心に、波佐見町が誇る窯業・農業・景観・地区に受け継がれている人形浄瑠璃や浮立など、あらゆる分野における歴史文化の再確認をしてもらう取組を行ってまいります。

特に郷土に埋もれている文化財の発見にも努めてまいります。また令和７年度に開催される国民文化祭に向けて本町でも準備を進めてまいります。これを契機として、本町にある文化財を生かした本町らしい文化イベントを構築し、波佐見町のさらなる魅力アップにつなげ、交流人口の拡大を文化面でも後押ししてまいります。

一方、波佐見町は子供から大人まで盛んにスポーツが行われています。「スポーツのまち波佐見町」としての取組も継続して推進してまいります。特に子供たちの健全育成のためにも、中学校部活動の地域移行問題については、現場の状況や他市町の動向等を踏まえながら波佐見町に合った取組を進めてまいります。

（４）青少年健全育成について。

子供たちの健全育成については、あいさつ運動の推進をはじめとする地域ぐるみで見守る、そして育てることを基本に、健やかで健全な育成につなげてまいります。またＰＴＡと連携した活動を行い、家庭教育講演会などで子供と一緒に親世代も学ぶ機会を設けてまいります。

現在、社会的問題となっているＳＮＳ絡みの問題については、都会も地方もなく、いつ子供たちが被害に巻き込まれるか分かりません。そのため家庭でのスマートフォン等の使用ルールが最も大切になってまいりますので、家庭と連携した取組を行ってまいります。

（５）人権男女共同参画について。

互いの多様性を認め合い、誰もが自分らしく生き生きと暮らせる社会の実現が求められる中、人権問題に対する正しい理解と認識を深めるため、広報活動や命の大切さや思いやりの心を育む教育活動を行ってまいります。また令和５年に策定の第三次波佐見町男女共同参画計画に基づき、引き続き男女がともに活躍できる社会の実現を目指してまいります。

（６）国内外交流について。

グローバルな時代において子供たちにも外国の文化や考え方に触れる機会をつくり、世界を意識するような教育は一層必要となります。授業ではもとより、各種講演会などを通じて、これらの学びを深めてまいります。

新型コロナウイルス感染症の影響により停滞していました国内外との交流も、状況が落ちつ

いてきていることから徐々に再開し交流活動の活性化を図ってまいります。

５．協働による地域のつながりを生かすまちづくり。

（１）住民参画コミュニティーについて。

本町の行政の活性化の源泉は、毎月の自治会長定例会をはじめとする関係団体との情報共有が大きいことは言うまでもありません。今後も自治会等の自主性と伝統を尊重しながら、地域の皆様に寄り添い耳を傾け、可能な限り地域活性化を支援してまいります。

一方で全国的には自治会の役員の負担軽減や行事の在り方など、様々な議論がありますので、自治会の皆様が将来を見据え検討ができるよう研究を行います。

また、令和６年度は町民の皆様の声を直接聞く場も設けて、双方向のコミュニケーションを図るとともにコミュニティー活動や地域づくり活動、リーダーの育成に支援を行い、住民意識の高揚を図ります。

（２）情報基盤について。

国は2025年度令和７年度までに、地方自治体の情報化システムの標準化共通化を行う方針を掲げていることから、本町においても基幹系のシステム移行を進めます。

マイナンバーカードを中心とした電子申請の拡大や、令和６年３月に導入開始する各種証明書のコンビニエンスストア交付の運用。窓口キャッシュレス、オンライン施設予約システムの導入など積極的な取組を行います。

一方で、2040年問題でも提起されている人口減少社会、少子高齢化など、多様化、複雑化する行政需要に対応するためには、自治体ＤＸ――自治体トランスフォーメーションは避けては通れません。10年、20年先の自治体運営を見据えて、引き続き外部人材の登用などを行い、町民皆様の利便性向上や業務効率化のため自治体ＤＸを進めます。

（３）行財政について。

行財政改革は、自治体にとって普遍的で常に意識しながら取り組む課題であり、本町を取り巻く環境は時事刻々と変化しており、行政に期待される課題解決は多種多様化していますので、町民皆様が安心して暮らせるよう、組織の活性化並びに職員の資質向上を図ります。

また令和６年度は、第７次行政改革実施計画の最終年度になりますので、第７次の検証を進め、第８次計画の策定を進めてまいります。

今後、複雑多様化する行政需要の需要に対応するためには、財政の健全化を基盤とした効率的かつ効果的な行財政運営が求められます。そのためには最少の経費で最大の効果を上げることを基本に、公金も自分のお金と思って使う意識を常に持って、予算の執行に努めます。

また近年、多額の寄附をいただいていますふるさと納税などの自主財源の確保を引き続き図るとともに、歳出については事業の選択と集中を図ることにより、計画的で安定的な行財政運営に努めてまいります。なお新庁舎建設事業については、引き続き第２期工事として、旧庁舎本館解体工事、新館の改修工事、解体跡地に来庁者用駐車場整備工事を行い、それに並行して

庁舎周辺の歩道整備工事を実施し、全ての新庁舎建設事業の完成を令和７年３月に予定しています。

以上が令和６年度の主要な施策の概要であります。

次に今回上程しています議案について御説明をいたします各会計当初予算について。まず議案第９号から第15号までの令和６年度各会計の当初予算については、先ほど申し上げた主要施策に基づき、現下の社会情勢や国、県の動向と、これまでの推移を踏まえて編成しています。まず一般会計の予算額は95億2,000万円としており、令和５年度と比較して７億8,000万円の減額となっています。

これは障害者総合支援法に基づく各種給付費等の扶助費の増や、学校給食支援費補助金等の補助費の増などがありますが、新庁舎建設工事及び災害復旧事業の完了等による普通建設事業費の減が主な要因となっています。

なお、ふるさと納税額は令和５年度の決算見込額を勘案して、令和５年度と同等の寄附額を見込み、活用基金事業費も同水準としています。

次に国民健康保険事業特別会計の予算額は16億2,700万円で、前年度と比較して3,500万円の増額となっています。後期高齢者医療特別会計の予算額は２億2,300万円で、前年度と比較して1,900万円の増額となっています。

介護保険事業特別会計の予算額は13億6,900万円で、前年度と比較して4,000万円の増額となっています。上水道事業会計の収益的支出及び資本的支出の総額は、４億5,528万円となっています。下水道事業会計の収益的支出及び資本的支出の総額は、５億9,052万円となっています。工業用水道事業会計の収益的支出及び資本的支出の総額は、2,354万円となっています。

次に議案第16号　令和５年度一般会計補正予算（第８号）は、歳入歳出の総額から2,800万円を減額し、補正後の予算総額を110億2,000万円とするものです。令和５年度の実績及び決算を見込み、衆議院議員補欠選挙費、非課税世帯及び均等割世帯に対する特定生活支援給付金等の追加、年度中途における事業計画の変更に伴い所要額を計上しています。

歳入については町税、地方交付税、国県支出金、寄附金等の増額がありますが、一方で基金繰入金、町債等の減額を行っています。また歳出は事業実績や変更に伴う減額を行っている一方、先ほど申し上げた追加事業に係る所要額や、ふるさと納税管理費等の増額を行っています。あわせて繰越明許費について追加を行っています。

次に議案第17号から第21号までの令和５年度各会計補正予算でありますが、国民健康保険事業特別会計は400万円の減額。後期高齢者医療特別会計は600万円の減額。介護保険事業特別会計は2,000万円の減額。上水道事業会計は420万円の増額。下水道事業会計は437万円の減額とした補正をそれぞれ行っています。

次に、予算以外の議案について御説明をします。議案第22号　波佐見町キャンプ場の設置及び管理に関する条例は、鴻ノ巣公園ふれあい広場に隣接する波佐見町キャンプ場の設置及び管

理について必要な事項を定めるものです。

議案第23号町長等の損害賠償責任の一部を免責する条例の一部を改正する条例は、地方自治法及び同施行令の改正に伴い、引用する条例に異動が生じたことから所要の改正を行うものです。

議案第24号　波佐見町町営住宅条例の一部を改正する条例は、配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律の改正に伴う所要の改正を行うものです。議案第25号　波佐見町特定教育保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例は、就業前の子供に関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の改正に伴い所要の改正を行うものです。

議案第26号　波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例は、後期高齢者支援金等賦課額限度額及び軽減措置判定所得の算定値の基準金額の見直しを行うため、所要の改定を行うものです。

議案第27号　波佐見町介護保険条例の一部を改正する条例は、介護保険計画の見直しに伴う保険料改定に係る所要の改正を行うものです。

議案第28号　波佐見町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例は、指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部改正に伴い、条文等を引用している本庁関係条例を改正するものです。

議案第29号　波佐見町水道条例の一部を改正する条例は、水道事業が厚生労働省から国土交通省及び環境省に移管され、省令の名称が変更されることに伴い水道法が改正されたことから関係条例も含め所要の改正を行うものです。

議案第30号　波佐見町公共下水道事業条例の一部を改正する条例は、下水道法施行令の一部改正に伴い特定事業場からの下水の基準の見直しに係る所要の改正となっています。

議案第31号東彼地区保健福祉組合規約の変更については、管理者の選任方法について、所要の改正を行うものです。議案第32号　波佐見町防災行政無線再整備工事請負契約の変更については、令和５年６月７日に議決を受け、鋭意工事を進めている防災無線再整備工事について、工事内容に変更が生じたため契約額を変更したく、議会の議決を求めるものです。

議案第33号　稗木場地区急傾斜地崩壊対策工事請負契約の変更については、令和５年３月３日に議決を受け工事を進めていますが、工事内容に変更が生じたので契約額を変更したく、議会の議決を求めるものです。

議案第34号　令和３年災大鬼木他４地区災害復旧工事請負契約の変更については、令和４年８月５日に議決を受け工事を進めておりますが、工事内容に変更が生じたので契約額を変更したく議会の議決を求めるものです。

議案第35号　財産の取得の変更については、令和５年11月24日に契約の議決を受け、事業を進めていますが、鴻ノ巣公園夜間照明設備について事業内容に変更が生じたので契約額を変更

したく議会の議決を求めるものです。

議案第36号固定資産評価審査委員会委員の選任については、現委員の浦野正規氏の任期が３月31日までとなっており、同氏を再任したく議会の同意を求めるものです。

本日提出した議案は以上のとおりです。詳細につきましては審議の折に御説明をいたしますので、何とぞ慎重に御審議の上、適正なる御決定を賜りますようお願いを申し上げます。

○議長（百武辰美君）

会議の途中ですがしばらく休憩します。11時より再開します。

午前10時50分　休憩

午前11時00分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第４　議案第 16 号

○議長（百武辰美君）

日程第４．議案第16号　令和５年度波佐見町一般会計補正予算（第８号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

議案第16号　令和５年度波佐見町一般会計補正予算（第８号）について説明します。歳入歳出予算の補正ですが、歳入歳出それぞれ2,800万円を減額し総額を110億2,000万円とします。繰越明許費の追加及び変更は第２表によります。債務負担行為の追加及び変更は第３表によります。地方債の変更及び廃止は第４表によります。

今回の補正は、各種事務事業の実績を見込んでの補正に合わせ、その財源調整を行っています。なお特定生活支援給付金などの新規事業費の計上のほか、子育てや障害者支援などの扶助費、ふるさと納税管理費などを増額しているものもありますが、全体では減額補正となっております。

６ページをお願いします。第２表繰越明許費ですが、１の追加としている11事業は、諸般の理由により年度内での完了が現時点で未確定であるため、次年度への繰越明許費として措置するものです。

２の変更する３事業については、既に承諾いただいたものですが、内容に変更が必要となったことから計上するものでございます。

続いて７ページから11ページの第３表。債務負担行為の補正ですが、追加４件と変更１件を計上しています。

12ページをお願いします。第４表地方債の補正ですが、変更については事業費の変更に伴い、二つの事業について限度額の変更を行います。また対象事業が発生しなかったため４件に

ついては廃止します。

続いて歳入に移ります。額が大きいものを中心に説明しますので、あらかじめ御了承ください。

15ページをお願いします。１款，１項，１目．町民税個人の3,380万円と、次ページの２項，１目，固定資産税1,956万7,000円の増額は、収納実績見込みにより計上しております。

17ページをお願いします。10款，１項，１目．地方交付税は、国からの追加交付決定により4,364万8,000円増額しています。

18ページをお願いします。12款，２項，１目．民生費負担金のうち、１節．社会福祉費負担金の老人ホーム入所者費用負担金を実績見込みにより、334万4,000円減額しています。次の３目．土木費。負担金691万2,000円の減額は、事業を次年度へ繰り越すことから一旦減額し令和６年度予算へ新たに計上します。

19ページをお願いします。19ページから25ページまでの14款，国庫支出金及び15款，県支出金については、各課が実施する事業に対し、所定の率や定額で交付される金額を実績見込みにより増減しております。

それでは、この中で補正する主なものについて説明しますが、まずは増額するものから説明します。

19ページをお願いします。14款，１項，１目．民生費国庫負担金１節．障害者福祉サービスの需要増加による補正で、５目．総務費国庫負担金の１節．災害救助費国庫負担金は新規計上となっております。

次のページをお願いします。14款，２項，１目．総務費国庫補助金の１節．特定生活支援給付金の追加と、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金からの組替えにより、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を新たに計上しております。

次の社会保障税番号制度導入事業についても、マイナンバーカードへの氏名、ローマ字表記に係るシステム改修分として新規計上しております。

３目．衛生費国庫補助金の１節．19ページ２目．衛生費国庫負担金の新型コロナウイルス感染症予防接種費を新型コロナウイルス予防接種体制確保事業費へ組替えたことに加え、集団接種費用が増加したことから増額をしております。

23ページをお願いします。15款，１項．１目．民生費県負担金の１節．障害者福祉サービスの需要増による県負担金を増額しています。

次に減額するものについてでありますが、19ページの14款，１項，１目．民生費国庫負担金の１節と、２目．衛生費国庫負担金、４目．災害復旧費国庫負担金、20ページ14款，２項，２目．民生費国庫負担金、４目．土木費国庫負担金、24ページ15款，２項，４目．農林水産費県費補助金。６目．農林水産費県補助金について、それぞれ減額としておりますが、いずれも事業実績見込みによるものとなっております。

それでは27ページをお願いします。17款，１項，２目．ふるさとづくり応援寄附金については、今年度18億7,000万円程度の寄附を見込んでおりますので、今回7,000万円増額補正しております。４目．教育費寄附金については、実績により133万9,000円を増額しております。

29ページをお願いします。18款，２項，基金繰入金ですが、１目．財政調整基金繰入金については、一般財源が不足する分を基金繰入れとして予算計上しておりましたが、歳入において一般財源として確保出来た3,420万円について今回減額するものでございます。４目．庁舎建設基金繰入金は、財源調整を行ったことに伴い１億1,500万円減額しております。

31ページをお願いします。21款，町債ですが、12ページの第４表でも説明したとおり、起債の対象となる事業費や、その財源に連動して、それぞれ増減しております。以上が歳入の主なものになります。

次に、歳出について説明します。初めに税務財政課分を説明し、引き続き各担当課長から主な事業について説明がございます。

33ページをお願いします。２款，１項，５目．財産管理費です。12節．委託料を467万9,000円減額しておりますが、旧教育委員会分室解体工事実施設計業務委託を今年度見合せたことが主なものとなっております。

34ページをお願いします。15目．ふるさと納税管理費です。歳入において寄附の増加を見込んでいることから、それに伴って7,000万円を増額しております。その内訳として、11節．役務費、12節．委託料、13節．使用料及び賃借料が経費で、それらを差し引いた5,685万6,000円を24節．積立金として計上しております。なお、年間の積立額の予算としては８億6,634万円になります。

以上で税務財政課の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

続きまして企画情報課所管の補正の主なものについて説明いたします。まず34ページをお願いします。２款，１項，13目．電算管理費のうち12節．委託料で、システム改修委託料348万5,000円の増額については、重点支援地方交付金システム改修で、住民税均等割のみ課税世帯、子供加算に対応する改修など、３件分の改修のため計上しております。

次に、同じページで14目．地域情報化管理費の管理費のうち、12節．地域活性化人材委託料については、ＤＸ推進に係る専門家の招聘を予定しておりましたが、人材の専門家の人選、登用出来なかったことによる減となっております。

次に35ページをお願いいたします。同じく14目．17節．備品購入費の２行目。デジタル印刷機購入費については、新庁舎で使用している印刷機７台分の入札の結果、安価に契約することが出来たため785万7,000円を減額するものでございます。

以上で企画情報課所管の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　住民福祉課長。

○住民福祉課長（井関昌男君）

それでは住民福祉課所管に関して御説明いたします。42ページをお願いいたします。３款，１項，３目．障害者福祉費で、952万9,000円を増額しております。主なものは、19節．扶助費で772万5,000円を増額するものでございます。これは障がい者の方に対する福祉医療費や、それぞれの福祉サービス等の給付額見込みに伴い増減するものでございます。

43ページをお願いいたします。22節．償還金利子及び割引料で、過年度障害者医療費負担金返還金でございますが、実績に基づき169万4,000円増額するものでございます。３款，１項，６目．生活支援給付費で、6,312万円を増額しております。

次ページをお願いいたします。主なものは18節．負担金、補助及び交付金で6,100万円を増額しております。これは物価高騰対策給付費でございまして、国の政策に伴い本町においても、令和５年度の非課税世帯に対して第１期に３万円、第２期に７万円給付をしているところでございますが、その非課税世帯のうち18歳以下の子供に対して、1人当たり５万円を給付するものでございます。対象は220名を見込んでおります。

新たに追加事業でございますが、今までは非課税世帯に対しての給付金事業でございましたが、それに準ずる世帯といたしまして、住民税均等割課税世帯に対しての給付事業でございます。給付金が10万円で対象世帯は450世帯を見込んでおります。ここにも、18歳以下の子供に対しての1人当たり５万円の給付金でございますが、対象が100名を見込んでおります。合計で6,100万円になります。

46ページをお願いいたします。３款，２項，２目．児童措置費で19節．扶助費720万9,000円を増額しておりますが、住民福祉課所管分についての主なものは、障害児通所給付費で140万7,000円を増額いたしております。これは、障害児支援施設の利用者増によるものでございます。

以上で住民福祉課所管分の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

子ども・健康保険課所管分について説明をいたします。42ページをお願いします。３款，１項，１目．社会福祉総務費27節．繰出金を399万1,000円増額しています。低所得世帯に対する保険料軽減分は国県町の公費で負担することで、国保財政の基盤安定を図ることになっており、今年度の軽減状況を見込み、繰出金を算定したもので不足分を増額するものです。

43ページ３款，１項，５目．後期高齢医療費27節．繰出金を205万8,000円減額しています。こちらは低所得者に対する保険料軽減分として、必要額が予算を下回りましたので減額するものです。

45ページ３款，２項，１目．児童福祉総務費は、総額で684万円を減額しています。主な要因

として、18節．負担金補助及び交付金になりますが、いずれも支給実績に基づくものです。

46ページ３款，２項，２目．児童措置費は、総額で2,060万5,000円増額しています。令和５年４月に遡り公定価格の引上げがなされたことで、保育所、認定こども園の施設型給付費の増額を行うものと、児童手当の支給実績に応じ予算を減額しています。

47ページ４款，１項，２目．予防費543万6,000円減額をしていますが、主にコロナワクチン接種の経費に係る予算の組替えと、実績を見込んだ12節．予防接種委託料の減額になります。

48ページ４款，１項，３目．母子衛生費及び４款，１項，４目．健康増進費は、ともに受診実績を見込み減額するものです。

以上で子ども・健康保険課所管の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

長寿支援課所管分について御説明いたします。42ページにお戻りください。

３款，１項，２目．老人福祉費18節．負担金補助及び交付金ですが、高齢者タクシー利用助成事業を現在の利用状況から227万7,000円を減額しています。

また、家族介護支援事業費補助金についても申請状況から136万円減額しています。

19節．扶助費については、養護老人ホーム入所措置費を実績見込みにより、1,346万7,000円減額しています。

27節．繰出金。介護保険事業特別会計繰出金については、現時点における介護保険事業特別会計の実績見込みにより、314万5,000円を減額しています。

以上で長寿支援課所管分の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

次に農林課所管の主な補正内容について説明いたします。予算書の35ページをお願いいたします。２款，１項，17目．12節．委託料の減額についてですが、地域おこし協力隊事業委託料分で、全体で205万4,000円の減額で計上されていますが、農林課分につきましては採用内定者との協議の結果、年度内の採用が難しかったため104万8,000円の減額となっております。

次に50ページをお願いいたします。６款，１項，３目．12節．委託料。有害鳥獣捕獲対策委託料219万9,000円の減額についてですが、有害鳥獣捕獲頭数による減となっております。次に下段になりますけども、18節．負担金、補助及び交付金についてですが、まずながさき農林業・農山村構造改善加速化事業費補助金については、農業関係の機械の補助になりますが入札による減の実績となっております。

次に鳥獣被害対策費補助金については、鳥獣被害防止のメッシュ柵を張るようにしておりましたが、入札による減額分と地域自体の採択が出来なかった部分での減額となっております。次に下段の農泊・民泊開設支援事業費補助金ですけども、申請実績がないため減額となってお

ります。

次に51ページをお願いいたします。６款，１項，７目．12節．112万円の減額についてですが、内訳については説明欄に記載されておりますが、特殊建築物・設備定期点検委託料101万4,000円の減額。焼却炉撤去工事設計業務委託料10万6,000円の減額となっており入札の減によるものです。

次に６款，１項，10目．18節．負担金、補助及び交付金ですけども、831万3,000円の減額でございますが、説明欄に記載しておりますが多面的機能支払交付金事業（農地維持・資源向上（共同活動））の145万5,000円の減額。同じく多面的機能支払交付金（資源向上（長寿命化））685万8,000円の減額となっていますが、この分については国の補助割当てによる減額になっております。

次に52ページをお願いいたします。６款，１項，11目．18節．負担金、補助及び交付金についてですが、164万円の減額になっておりますが、内訳につきましては説明欄に記入されております経営継承・発展等支援事業補助金100万円の減額、集落営農活性化プロジェクト促進事業費補助金64万円の減額となっております。これは申請実績による減となっております。

以上で農林課所管分の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

それでは商工観光課所管の主なものについて、御説明いたします。34ページをお開きください。

２款，１項，８目．諸費18節．負担金、補助及び交付金でございます。バス路線維持費補助金を152万8,000円増額するものです。川棚内海線における欠損額に対しての補助について実績に応じ増額しております。

35ページをお開きください。続きまして、２款，１項，17目．地域づくり事業費12節．委託料、地域おこし協力隊事業委託料でございます。先ほど農林課から説明がありましたが、補正総額250万4,000円のうち商工観光課分については109万6,000円を減額いたします。現在中尾山伝習館、キャンプ場、古民家における地域おこし協力隊について予算計上しておりましたが、現時点で正式採用に至っておりませんので予算を減額するものです。

54ページを御覧ください。７款，１項，２目．商工振興費でございます。18節．負担金、補助及び交付金について、3,304万1,000円を減額いたします。内訳の主なものとしまして、町燃料費等高騰対策支援金については、交付実績に応じて2,749万1,000円を減額いたします。経営改善・拡大支援事業費補助金については、交付実績に応じて120万円を減額いたします。産地組織力強化支援事業費補助金については、工業組合において各種伝票の電子化や組合と窯元のネットワーク構築のためのシステム導入が行われる予定でしたが、次年度以降に変更されたため400万円を減額しております。

続きまして７款，１項，３目．観光費でございます。12節．委託料で合計234万円を減額しております。主なものとして、ＨＡＳＡＭＩキャンプサイトパーク指定管理運営業務委託料について、今年度指定管理業務委託の発注に至らなかったため、今回180万円を減額するものです。

以上で商工観光課所管分についての説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

それでは、建設課所管分の主なものについて御説明いたします。

57ページをお願いいたします。８款，土木費２項，２目．道路橋梁維持費12節．委託料については、説明にありますそれぞれの業務について事業費の確定が出たため、全体で128万1,000円を減額するものでございます。同じく14節．工事請負費についても同様に、事業費の確定に伴い642万4,000円を減額いたしております。

次に59ページをお願いいたします。４項，３目．土地区画整理事業費12節．委託料及び21節．補償、補填及び賠償金について、補償交渉の進捗に伴う予算の組替えを行っております。

60ページをお願いいたします。５項，１目．住宅管理費18節．負担金、補助及び交付金について。対象となる申込み実績がございませんでしたので、140万5,000円の減額をいたしております。

次に飛びまして、68ページをお願いいたします。11款，災害復旧費１項，２目．林道施設災害復旧費14節．工事請負費については、実績を見込み194万4,000円の減額をいたしております。

69ページをお願いいたします。２項，１目．公共土木施設災害復旧費14節．工事請負費については、対象となる災害が今年度はございませんでしたので、全額減額をいたしております。

以上で建設課所管の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

それでは教育委員会関係を御説明します。

65ページをお願いいたします。10款，４項，１目．24節．積立金でございますけども、先ほども説明がございましたけども、今年度は２個人と２団体からいただいたものでございます。

10款，４項，４目．12節．委託料の減額でございますけども、特殊建築物・設備定期点検委託料の218万8,000円の減額でございますけども、こちらにつきましては予算額より安く委託をすることが出来まして、減額をいたしております。

その２行下でございます。施設予約システム導入業務委託料でございますけども、こちらにつきましては総合文化館のそういった貸出業務につきまして、ネットで予約できるようなかたちでシステム化を図ろうとしておりましたけども、文化会館だけではなくほかの施設、農業改善センター、勤労福祉会館のそういった施設予約についてもこのシステムの中で取り入れてい

こうということを来年度検討するということで、今年度は教育委員会で計上していた分の予算を落とすものでございます。

以上、議案第16号　令和５年度波佐見町一般会計補正予算（第８号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これより質疑を行いますが、質疑にあたっては会議規則第53条の規定のとおり全て簡潔に行い、議案外の内容及び自己の意見を述べることがないようにお願いをいたします。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

３番　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

54ページですね。７款，商工費１項，商工費の２目．商工振興費の町燃料費等高騰対策支援金で2,749万1,000円が減額されておりますけども、この事業は6,000万円の予算を立てられて、600件ほど対象にされていたと思いますけども、これかなり大きな減額なのですけども実際には何件申請されたのか教えてください。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

申請件数ですが370件となっております。

○議長（百武辰美君）　３番　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

この支援制度は上限を30万円に設定されて、令和５年の１月から６月までの１か月を選択されて申請されたと思うのですけども、予定よりもかなり少なかったというのは、やはり事業者専用のこれ支援制度でありましたけど、何かそういう内容的に不備があったのか、申請に関して何かちょっとやりにくいところがあったのか。そのあたりの原因は把握されていらっしゃいますか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

まず件数が想定よりも少なかったというふうなことに関しまして、その理由につきましては、前回も２か年にわたってこの事業を行ったのですが、申請の中身が難しいとか、そういったことでのお声は聞いてはおりません。

申請の漏れがないようにということで、町内の広報や放送等でも呼びかけをしたり、各種団体についても案内をしたりして、声かけを行ってきたところであるのですが、この申請が少なかったというところの要因について、各事業所の状況とかそういったところについて、どのようなそれ以外に原因があったかというところまでは把握しておりません。

○議長（百武辰美君）　３番　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

分かりました。この事業は大変大きな会社にとってはいい支援事業だと思いますけども、今後も継続されていくような、減額も大きかったのですけど。今後も継続していかれるような事業の対象になるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

今後の継続の見込みにつきましては、やはり国からの交付金を活用して行うというようなこともございます。当然この事業費自体も、多額の費用経費になってきますので、現在のところ継続は考えておりません。

○議長（百武辰美君）　６番　岡村達馬議員。

○６番（岡村達馬君）

52ページ。６款，１項，11目．担い手対策費なのですけども、今この農業にかかわらず非常に町内の産業の担い手というのは非常に大切な事業だと思うのですね。先ほどの説明によれば、いわゆる申請実績によって減額をいたしましたということだったのですけども、町としての積極的な働きかけ。そういったことはなされているのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

ここに書いてある分については経営継承ということで、例えば親から子供に引き継がれるというときの補助金なのですよね。それに対して子供に引き継がれたときに経営拡大とかという部分で、されるってことであればそういう補助をしましょうということなので、今回はちょっと対象がなかったってことで。そういう関係者がいれば、私どもも農家の方が亡くなられたりしたら情報は入るので、もしそういう方がおられればもちろん指導等は行っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　12番　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

34ページ。２款，１項，８目．25目．寄付金５万円でございます。能登半島地震義援金寄付金でございますが、この５万円の金額の決定ですね。これがどのような経緯でなされたものかということです。

そしてもう１件、44ページの３款，１項，６目．18節。33ページの２款，１項，５目．12節．旧教育委員会分室解体工事実施設計業務委託料。これの減額でございますけども、委託料333万3,000円。今年度見合せたということですが、この見合せた理由。この２件についてお尋ねをいたします。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

２款，１項，８目．諸費25節．寄附金。能登半島地震寄附金でございますが、これは長崎県の町村会を通じて被災地のほうに届けるようにしております。したがいまして町村会８町構成の中で決定をされたものでございます。金額については、その中で協議をしたのですが、過去の例平成28年の熊本震災のときは50万円の寄附をしているそうでございますが、そのあたりの状況。あるいは他の県の町村会の動向。それを踏まえたところでの決定というように聞いております。以上です。

○議長（百武辰美君）　税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

２款，１項，５目．財産管理費12節．委託料のうちの旧教育委員会分室解体工事実施設計業務委託料の減額でございますが、旧教育委員会分室には現在シルバー人材センターが入っているわけでございます。当初の予定といたしましては６年度中には、別のところに移転するという計画でございましたが、その移転先のほうがなかなか見つからないということで、６年度の解体は出来ないということになりましたので、今回減額をするということでございます。

移転先が見つかれば次の予算で計上いたしまして、実施設計をやっていくということになります。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　12番　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

先ほどの能登半島地震の見舞金につきましては５万円ということは、波佐見町１万4,000人からすれば、1人当たり３円50銭なのですよね。果たしてこれでいいのかという疑問がまず沸きます。本町は御存じのとおり、ふるさと納税ということで20億円もの寄附金をいただいております。

そういったことも踏まえて、せめて１人100円程度以上は寄附が出来ないものか。被災地のほうも３県でおそらく２市町、相当の自治体に及ぶものと思いますので、そのあたりも踏まえて、今後どうしても町村会で縛りがあるなら別ですけども、本町で出来ないものか、独自に。そのあたり御検討願いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

脇坂議員のおっしゃる心情はよく理解出来ます。ただし今回の決定につきましては、町村会の中で総会におきましてこの決定額、決定をしております。ですから８町とも５万円。ですから総額で40万円を行うという決定を行っております。

あわせて本町では寄附金。もう今撤収していますが募金をいたしまして、その額につきましても寄附をいたしておりますし、今ふるさと納税、本町のふるさと納税ではなくて、それぞれの自治体のふるさと納税が逆に被災されたことによって、集まっているという状況もあるようでございますので、今回につきましては町村会と同じ取組を進めてまいりたいというふうに思

いまして、今回の５万円で計上させていただきたいというように思っております。

○議長（百武辰美君）　12番　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

せめて町村会としても熊本地震の50億円ですか。このあたりも確保できればと思うのですけども、その構成員であります町長。そのあたりは再度いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

先ほど50億円とおっしゃいましたけれども、50万円ですけれども。

この寄附だけに限らず本町は職員派遣も予定をしておるわけでございます。それからこの寄附額は、熊本地震は確かに大きくございましたけれども、その前に九州北部地方の災害においても恐らくこの５万円だったと思うのですが――これは町村会か。同等の額を町村会がしております。そういったことで前例に照らし合わせての額というふうに説明があっておりますので、今回はそのような取組を行いたいというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　７番　福田議員。

○７番（福田勝也君）

42ページ。３款，１項，２目．老人福祉費18節．負担金、補助及び交付金ですね。この分の高齢者タクシー利用助成費が、実績見込みで227万7,000円の減額となっておりますが、この利用率といいますか。執行率はどのくらいになるか。お知らせください。

○議長（百武辰美君）　長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

当初予算で70％程度を今補助しているのが、70歳以上で免許を持たない方に１万2,000円。75歳以上でその申請をされていない方に6,000円配布をしております。当初予算で70％程度を見込んで予算を計上しておりましたが、３月見込みが55％程度になるかなと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　５番　田添議員。

○５番（田添有喜君）

50ページ。６款，１項，３目．18節．負担金、補助及び交付金についてです。鳥獣被害対策費補助金について、先ほどの御説明の中ではメッシュ柵の設置。その対象地区が決定出来なかったというような御説明でしたが、この補助金についてはメッシュ柵の更新に伴う予算が計上されていたのでしょうか。

もし更新に充てた予算であるならば、昨年度私一般質問でもしましたけども、更新地区は決定しているのではないかなと思うのですけど。もう14年以上経過した地区というのは１年、１年追加をされて、担当地区はすぐ分かのではないかなと思いますが。そのあたり私の考えが間違いでしょうか。もう一度御説明お願いします。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

２地区ほど実際施行出来なかったという部分があります。その中で、これはもうちょっと県の判断により出来なかった部分ですね。あと一つは地元のまとまりがなくて、ちょっと出来なかった部分というのがありまして、ここの費用につきましては更新とか、新設とか含まれてはおります。その中で、結果的に延長で申しますと、当初12キロメートルあったのが３キロメートルしか出来なかったというのが現状でございます。

○議長（百武辰美君）　４番　岡村真由美議員。

○４番（岡村真由美君）

54ページをお願いします。７款，１項，３目．12節．キャンプ場に関するロゴマーク等のデザイン委託料30万円についてでございます。この30万円のまずこの「等」という中身と、あとどこに委託をされて、もう完成をしたものかと。条例が定例会で審議されて、４月１日には施行の運びとなる。そして５月１日にオープンの予定というように理解しているのですけれども、そのロゴマーク等が完成しているのであれば、それはもうホームページ等にも掲載されているのかということと、されていないのであれば、いつ頃公表されるのか。そして楽しみにしているそのキャンプ場がオープンしますよ。というコマーシャルというのですかね、公表、宣伝というのはいつ頃開始される予定なのかということについてお聞きしたいと思います。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

７款，１項，３目．観光費12節．ＨＡＳＡＭＩキャンプサイトパークロゴマーク等デザイン制作業務委託料についての御質問ですが、この「等」につきましては、ロゴマークと、あとはそれ以外の名称のイメージの分を今、製作を発注しようというように考えています。実際に現在まだ発注しておりませんので、この補正が通りましたら、あと今後本日条例の説明をさせていただきますが、その内容につきまして状況を見て発注をするというようなことで考えております。

そして、そのホームページ等の公表につきましては、まずは一義的には条例が可決された後にそのデザインを用いて公表とか。あとホームページに掲載したりとかというふうなことで考えておりますので、基本的には３月。早ければ３月下旬もしくは４月上旬ぐらいになってくるのではないかなというように考えております。

ただし、このこれも繰越にかけておりますので、ここで製作の状況等によっては、やはり４月以降にずれ込むようなところも出てこようかというように考えております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　４番　岡村真由美議員。

○４番（岡村真由美君）

まだ出来てはいない。今この予算、これが通ったら発注にかけると。発注にかけるというのが私はよくわからないのですけども、いわゆるたくさん印刷会社とかそういう何かここあたりに発注をかけるとかいうような意図はあるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

これはですね、いわゆる印刷物とか看板を設置するとかということではなくて、そこのデザインをキャンプ場のキャンプ場をイメージしたデザインとかを外注して、そのデザインを制作してもらうというようなことになります。

発注といいますか、予算が可決した後にそのデザインの内容等をこちらのほうでも精査して、仕様を固めて、それから発注作業を行うというようなことを考えております。よろしいでしょうか。

○議長（百武辰美君）　４番　岡村真由美議員。

○４番（岡村真由美君）

しつこいようですけれども発注先というのは、デザイン会社とかそういったところに発注をかけるということですね。

○議長（百武辰美君）　13番　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

同じく54ページの７款，１項，３目．これの14節．工事請負費の中で、観光施設看板設置工事ということで60万円ほど上がっております。これはどういった工事でどこをなされるのかよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

７款，１項，３目．観光費の14節．工事請負費。観光施設看板設置工事についてでございます。現在予定している場所につきましては、キャンプ場の誘導看板等をおよそ８か所程度、それから今焼き物公園の大型駐車場のところ。ここに駐車場の内容の決まり事項というか、無断駐車禁止とかそういったものを看板として設置するように予定をしておりまして、そちらが２か所ということですね。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　13番　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

ちょっと確認いたします。やきもの公園のところの駐車場に、ちょっと長時間停めないでとか、そういった感じのものを二つと。それとキャンプ場は誘導とおっしゃいましたが、大体あそこちょっとなかなか分かりにくいところもございますので、何箇所に、現在どこに設置するのかもし分かっていましたら、どこと、どこということでお答えお願いします。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

鴻ノ巣公園のキャンプ場の設置箇所につきましては、まだあくまでも予定ではございますが、まず鴻ノ巣公園の入り口。ふれあい広場のほうに上っていくところの入り口ですね。乙長野郷の公民館から右折をして、それからふれあい広場のほうに参りますが、そこのところに今、鴻ノ巣公園という看板がありますけども、そこのところに１か所、それから、そこを上って行ったところに、ちょうど今お試し住宅がありますけどもそこの手前のほうに、今倉庫がありまして、そういうそこにも１か所。それからさらに上っていったところに、ちょうどキャンプ場のテントといいますか炊事場があるところに、大きな看板を１か所。それから炊事場の中にいろんな注意喚起とかをする案内版を１か所、それからあと１か所、ふれあい広場とキャンプ場へ行くところのちょうど分岐点のところに１か所。そしてあとキャンプ場の範囲の中に、その施設の中にそこの注意喚起の関係の看板を２か所ほど設置するというふうなことを考えております。

まだちょっと用地の関係のこともありますので、具体的な場所の話はちょっと出来ませんが、一応南小学校近辺にも看板を設置するというようなことを考えております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　13番　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

あそこの場所は結構入り口が、麓のライスセンターのほうからも入れるし、先ほどおっしゃっていましたように、農村改善センターのほうからも入れます。あっちのほうから入れますので、まずはその入り口というのも大切じゃないかなと。

もう私たちは大体もう分かっていますから、この方向ということで第１回目の大きな道から入りますけど、他町からやはりいらっしゃった方は初めの入り口がなかなかこう分かりづらいということもございますので、そこあたりは考慮していただきたいと思いますがどうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

いろんな進入路があって、看板の誘導看板を設置するところを、それも設置も必要かと思いますので、まずは今言ったところで設置をさせていただいて、状況に応じて場所を確保しながら、看板の設置を検討していきたいというふうに考えております。

○議長（百武辰美君）　８番　城後議員。

○８番（城後光君）

34ページをお願いします。２款，総務費１項，総務管理費の８目．諸費の18節．バス路線維持費補助金なのですけども、決算法上で追加ということだったのですけど、具体的に内訳についてちょっとお伺いしたいのですけど、どういうかたちで増額になったのか。ある程度分かる

範囲でお願いします。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

この欠損補助の内訳というようなことでよろしいですかね。この川棚内海線における経費の総費用が波佐見町の分に関しましては総額2,597万円。というようなことで聞いております。そして総経費が2,888万4,000円というように聞いております。

失礼しました。その中の今回の要因ということでよろしかったですか。今回増額したのは、当初国庫補助国のほうからの補助をこれまでコロナ関係で国庫補助も手厚く支給されてきたというようなところもありまして、当初予算ではその国庫補助額を見越したところでの申請を想定していたというようなところでございましたが、今回、国庫補助の分がコロナの対応からも減額されたというようなところで、今回の補正については、その分が増額されたというようなことになります。以上です。

○議長（百武辰美君）　８番　城後議員。

○８番（城後光君）

同じところでちょっと確認です。国庫補助の減ということなのですけども、例えば燃料費高騰によるものとか、利用者減によって現実問題費用負担が生じたので、増額になったというわけではなくて、国庫補助が限界減少した分を、財源を充てるために増額したということでよろしいでしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

主な要因としては国庫補助の減額というのがあるのですが、先ほど議員がおっしゃったように、燃料費高騰であるとか、輸送人員が減少したというふうなことも要因として挙げられるとは思います。

○議長（百武辰美君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第16号　令和５年度波佐見町一般会計補正予算（第８号）を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって議案第16号は原案のとおり可決されました。

しばらく休憩します。13時より再開します。

午後０時01分　休憩

午後１時00分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第５　議案第17号

○議長（百武辰美君）

日程第５．議案第17号　令和５年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

議案第17号　令和５年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）について説明いたします。歳入歳出予算からそれぞれ400万円を減額し、予算の総額を16億7,200万円とするものです。

２ページをお願いします。歳入については交付決定など実績を見込んだ補正ですが、１款，１項，国民健康保険料を154万9,000円の減額。４款，１項，県支出金を632万8,000円の減額。６款，２項，他会計繰入金399万1,000円増額しています。

歳出については３ページをお願いします。主なものとしては１款，２項，徴収費は総額で162万6,000円の減額ですが、長らく募集していました徴収員については、２月から採用することが出来ましたので、10か月分の人件費を不用額として減額するものです。２款，保険給付費は、合計で114万円を減額していますが実績を見込んだ補正となります。

４款，１項，保健事業費を総額で276万3,000円減額しています。特定健診の受診率向上対策費を計上していますが、２年連続受診や60％の受診率目標を達成する自治会が、当初予算を下回ったため、不用額を減額し、４款，２項，特定健康診査等事業費は総額で281万3,000円を減額しています。主な要因としましては、特定健康診査委託料の減額です。

８款，１項，予備費は歳入歳出予算の調整で501万1,000円を計上しています。

以上で、令和５年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第17号　令和５年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって議案第17号は原案のとおり可決されました。

日程第６　議案第 18 号

○議長（百武辰美君）

日程第６．議案第18号　令和５年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

議案第18号　令和５年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）について説明いたします。歳入歳出予算からそれぞれ600万円を減額し、予算の総額を１億9,800万円とするものです。

２ページをお願いします。歳入の主なものは、収入の見込みにより１款，１項，後期高齢者医療保険料455万1,000円の減額。４款，１項，一般会計繰入金205万8,000円の減額です。

３ページをお願いします。２款，１項，後期高齢者医療広域連合納付金は、収入の減額に応じて628万7,000円を減額しています。

以上で、令和５年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第18号　令和５年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって議案第18号は原案のとおり可決されました。

日程第７　議案第 19 号

○議長（百武辰美君）

日程第７．議案第19号　令和５年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第３号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

議案第19号　令和５年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第３号）について御説明申し上げます。

歳入歳出予算の補正でございますが、歳入歳出それぞれ2,000万円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ14億300万円とするものでございます。今回の補正は３月までの決算を見込み、予算の調整を行ったものになります。

４ページをお願いいたします。歳入でございます。４款，国庫支出金について735万7,000円減額しています。５款，支払基金交付金660万8,000円減。６款，県支出金289万円減。８款，繰入金。一般会計からの繰入金になりますが、314万5,000円減額しています。これら減額の主な要因は、歳出側２款，保険給付費の減によるものです。

５ページをお願いいたします。歳出になります。２款，保険給付費を事業実績の見込みから2,000万円減額しています。主なものは、１款，介護サービス等諸費３目．地域密着型介護サービス給付費において、小規模多機能型居宅介護支援事業所が、２か所のうち１か所閉鎖され、デイサービス事業所へ変更となったため3,300万円の減額をいたしております。

その他、５目．施設介護サービス給付費においては、老人保健施設等に900万円増額。９目．居宅介護サービス計画給付費に200万円増となっております。３款，地域支援事業費についても、事業実績の見込みから372万2,000円減額しています。なお予備費については、今回計上した歳入から歳出を差し引いた余剰分を計上しております。

以上で令和５年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第３号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。これから議案第19号　令和５年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第３号）を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって、議案第19号は原案のとおり可決されました。

日程第８　議案第 20 号

○議長（百武辰美君）

日程第８．議案第20号　令和５年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第４号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

○議長（百武辰美君）　水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

それでは議案第20号　令和５年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第４号）について説明します。

令和５年度波佐見町上水道事業会計の補正予算（第４号）は、収益的収入及び支出の補正と、議会の議決を得なければ流用することが出来ない経費の補正になります。補正予算書１ページをお開きください。収益的収入及び支出の補正になります。収入の補正はありません。支出は営業費用を420万円増額し、補正後の予定額を２億7,995万6,000円とするものです。

第１項，営業費用で15万円増額します。時間外勤務手当が不足を生じるため、総係費の増額を行うものです。

第２項，営業外費用を405万円増額します。実績見込みに伴い、消費税及び地方消費税の増額を行うものです。また議会の議決を得なければ流用することが出来ない経費は、職員給与費で15万円を増額し、補正後の予定額を3,962万3,000円とするものです。

以上で、議案第20号　令和５年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第４号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第20号　令和５年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第４号）を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって議案第20号は原案のとおり可決されました。

日程第９　議案第 21 号

○議長（百武辰美君）

日程第９．第21号　令和５年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第３号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

それでは、議案第21号　令和５年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第３号）について説明いたします。令和５年度波佐見町下水道事業会計の補正予算（第３号）は、収益的収入及び支出の補正になります。

補正予算書１ページをお開きください。収益的収入及び支出の補正になります。収入は、下水道事業収益を511万9,000円増額し、補正後の予定額を３億6,650万2,000円とし、支出は下水道事業費用を437万円増額し、補正後の予定額を３億6,030万2,000円とするものです。

収入では、第１款，営業収益を274万9,000円増額します。実績見込みによる下水道使用料の増額になります。第２項，営業外収益を237万円増額します。長期前受金戻入になります。

支出では第１項，営業費用を237万円増額します。処理能力が低下し、運転に支障をきたしていたため、汚泥脱水機の更新を行いました。既存の汚泥脱水機を処分したため、固定資産を除却するものです。

第２項，営業外費用を200万円増額します。実績見込みに伴い、消費税及び地方消費税の増額を行うものです。

以上で議案第20号　令和５年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第３号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。これから議案第21号　令和５年度波佐見町下水道事業会計補正予算第３号を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第21号は原案のとおり可決されました。

日程第 10　議案第 22 号

○議長（百武辰美君）

日程第10．議案第22号　波佐見町キャンプ場の設置及び管理に関する条例を議題とします。

本案について内容説明を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

議案第22号　波佐見町キャンプ場の設置及び管理に関する条例について御説明いたします。波佐見町キャンプ場の設置及び管理に関する条例を別紙のとおり制定します。提案理由でございます。波佐見町鴻ノ巣公園に設置するキャンプ施設の設置及び管理について、必要な事項を定めるため、本条例を制定いたします。

それでは条例の内容を御説明する前に、施設の概要などについて説明をいたします。９ページ。波佐見町鴻ノ巣キャンプ場の設置及び運営概要を御覧ください。まず施設概要について御説明します。施設名は波佐見町鴻ノ巣キャンプ場。通称キャンピングフォレスト波佐見といたします。住所波佐見町長野郷2170番地、2174番地。施設概要。ドームアップテント――４人用です。１か所。ツリーフロア２人用２か所。炊事場１か所。それから管理棟――これは受付やキャンプ用品の貸出しを行う施設となります。令和６年度に整備をする予定となっております。

運用開始ですが令和６年５月を予定しております。施設の配置については、11ページに掲載をしておりますので、御参照ください。

続きまして、施設の運営について御説明いたします。施設管理については波佐見町観光協会へ委託を予定しております。委託内容としましては、予約受付、備品の貸出、施設清掃等にな

ります。使用時間につきましては、宿泊のみとしまして到着の日の午後３時から出発の日の午前10時までとなります。休場日につきましては毎週水曜日。それから12月28日から翌年１月４日の期間といたします。

ただし季節ごとの事情、施設の利用形態等により休場日を変更し、または臨時に休場日とすることができるとしております。使用料につきましてはドムアップ、ツリーフロアともに１棟１泊の料金とし、使用料の上限を条例で規定いたします。理由としましては、今後想定される指定管理委託を見据えるとともに、宿泊需要に応じた料金設定を柔軟に行うために、条例で定める規定は使用料の上限を規定することとし、金額については年に１回程度他の宿泊施設の料金改定状況や、施設の稼働状況を確認しながら定めることといたします。

条例に定める使用料の上限についてはドムアップ５万円、ツリーフロア２万5,000円といたします。この範囲内で価格を設定していきたいと思っております。

なお使用料の想定として、ドムアップですが金曜日、土曜日、祝日前は２万8,000円。日曜日から木曜日１万9,000円。ピークシーズンは３万6,000円としております。

続きましてツリーフロアですが金曜日、土曜日、祝日前は１万2,000円。日曜から木曜日は8,000円。ピークシーズンは１万6,000円としております。備付け備品、貸出し備品については記載のとおりでございます。

10ページを御覧ください。都市公園内の占用について御説明いたします。今回都市公園である鴻ノ巣公園内に施設を設置するということで、法令及び本町の条例との手続について記載をしております。

まず、都市公園法第６条について、都市公園を占用する場合、公園管理者の許可を受けなければならないと規定されております。このことから波佐見町都市公園条例第９条の規定に法第６条の引用条文があり、この規定に基づき公園管理所管課の建設課と設置を行う商工観光課で協議を行っております。

都市公園法では、公園管理者の許可となっておりますが、今回の設置は波佐見町が行う事業であるため、都市公園条例第９条の規定に基づき、内容を協議した上で合意形成を図っております。

続きまして、施設内での火の取扱いについて御説明いたします。波佐見町都市公園条例第５条の規定により、都市公園内における禁止事項が規定されておりますが、先ほど御説明した都市公園法第６条の規定の許可に関わるものについては、この限りではないとのことからも、占用により条例第５条第１項の規定は適用除外となります。

したがって、当該施設において火を取り扱うことは規定上可能であり、施設利用者には一定の条件を踏まえて火の使用を認めることといたします。

施設内における防火対策について御説明いたします。火の利用については、火災の危険性のある炭の使用を禁止し、燃焼性が高く安全性のあるソロストーブや、ガスコンロを貸与するこ

とといたします。

次に防火設備として、消火器や消火用バケツをドムアップ、ツリーフロア付近に設置するとともに、防火用タンクを設置いたします。また火の使用について、利用客への周知を行います。炭の使用禁止、焚火台等火気器具の持込み禁止、火が使用できる場所を限定いたします。

火が使用できる場所については、12ページを御覧ください。各施設前にある瓦チップの広場に限定して、火の使用を許可することといたします。あわせて係員による火の取扱いの事前指導を徹底することといたします。

以上が、施設の設置及び運営概要の説明となります。

続きまして条例の内容について御説明いたします。７ページをお開きください。波佐見町キャンプ場の設置及び管理に関する条例、条文の構成一覧となっております。条例の構成について御説明いたします。

第１条趣旨、名称及び施設の設置及び管理について必要な事項を定めることを規定しております。

第２条名称及び位置。名称波佐見町鴻ノ巣キャンプ場。位置、波佐見町長野郷2170番地、2174番地。

第３条管理。町長が管理、一部業務委託について規定しております。

第４条使用の許可。使用における町長の許可、許可不可とする場合を規定しております。

第５条使用許可の取消し及び使用の中止等。第４条の規定に伴い使用許可の取消し、使用中止とすることができることを規定しております。

第６条使用許可事項の変更。使用許可を受けた者が許可内容を変更し、または使用中止をする場合は、町長の承認が必要であることを規定しております。

第７条使用料、使用料について別表２の範囲内で定めることを規定しております。併せて町長特認の場合の減額を規定しております。使用料の上限につきましては、先ほど御説明しいたしましたとおりでございます。

第８条使用料の還付。使用料の還付について規定しております。

第９条原状回復でございますが、使用を終了したとき又は施設の使用の変更又は中止に係る承認を受けたときに関する原状回復について規定をしております。

第10条損害賠償等でございます。施設及びその附属設備を損傷し又は滅失させたときに、損害賠償についての規定をしております。

第11条指定管理者による管理。指定管理者に行わせることができる旨を規定しております。

第12条指定管理者の義務でございます。

それから、第13条指定管理者が行う管理の基準について定めております。

第14条利用料金。指定管理者に管理を行わせる場合の利用料金について規定をしております。

第15条利用料金の還付。指定管理者が行う利用料金の還付について規定をしております。

第16条利用料金の減免。指定管理者が行う利用料金の減免について規定しております。

第17条委任。規則への委任を規定しております。附則でございます。この条例は令和６年４月１日から施行いたします。８ページ目には条例施行規則（案）について掲載をしておりますので御覧ください。

以上で、議案第22号　波佐見町キャンプ場の設置及び管理に関する条例について説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

お諮りします。ただいま議題となりました議案第22号　波佐見町キャンプ場の設置及び管理に関する条例については、産業厚生委員会に付託したいと思いますが、御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

異議なしと認めます。したがって、議案第22号は産業厚生委員会に付託します。

日程第 11　議案第 32 号

○議長（百武辰美君）

日程第11．議案第32号　波佐見町防災行政無線再整備工事請負契約の変更についてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

それでは議案第32号　波佐見町防災行政無線再整備工事請負契約の変更について御説明します。令和５年６月７日付けで請負契約を締結した波佐見町防災行政無線再整備工事について、別紙のとおり変更契約を締結するため、地方自治法第96条第１項第５号の規定により、議会の議決を求めるものでございます。

提案理由でございますが、波佐見町防災行政無線再整備工事について、工事内容について変更が生じたため、変更契約を締結するものでございます。

次ページ別紙をお願いいたします。契約額の変更として変更前の契約金額４億3,120万円に、今回343万9,700円を増額し、変更後の契約金額を４億3,463万9,700円とするものでございます。契約の相手先については記載のとおりでございます。

次ページ。参考資料をお願いいたします。今回の変更内容として新庁舎における雨量計測について、総務課と建設課の双方で直接観測できるよう記録機器、観測機器――これはパソコンソフトウエアを含むものでございますが。に加え配線工事を追加したものでございます。また警備員室指令卓の無停電装置及び収納デスクを追加し、新庁舎移転時における旧庁舎の機器類撤去の出来高による数量を変更したものでございます。また追加機器等の内容については記載のとおりでございます。

以上で議案第32号の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。

これから議案第32号　波佐見町防災行政無線再整備工事請負契約の変更についてを採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって議案第32号は原案のとおり可決されました。

日程第 12　議案第 33 号

○議長（百武辰美君）

日程第12．議案第33号　稗木場地区急傾斜地崩壊対策工事請負契約の変更についてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

それでは議案第33号　稗木場地区急傾斜地崩壊対策工事請負契約の変更について御説明いたします。

令和５年３月３日付で請負契約を締結した「稗木場地区急傾斜地崩壊対策工事」について、別紙のとおり変更契約を締結するため、地方自治法第96条第１項第５号の規定により議会の議決を求めるものでございます。

提案理由でございますが、稗木場地区急傾斜地崩壊対策工事について、工事内容に変更が生じたため、変更契約を締結するものであります。

次ページをお願いいたします。契約の目的は、稗木場地区急傾斜地崩壊対策工事でございます。契約の金額。変更前の契約金額9,976万7,800円。今回の変更で増額133万1,000円、変更後の契約金額を１億109万8,800円とするものでございます。契約の相手方に変更はございません。

次ページの参考資料をお願いいたします。今回の変更は抑止工として実施するアンカー工における受圧板との角度調整のための材料変更、横ボーリング工実施における足場を平地足場か

ら傾斜地足場へ変更、工事施工における取り付けのための舗装面積の変更、法面保護のための法面工（防草シート）の追加を行うものでございます。変更した内容については、次に記載のとおりでございます。

４ページを御覧ください。朱書きで記載をしておりますが、中心付近の着色部分が角度調整の箇所でございます。ちょっと小さくて見にくいですけれども、その左側が防草シートで対応する部分になります。そしてその下が取付けを行う舗装の部分になります。

以上で議案第33号　稗木場地区急傾斜地崩壊対策工事請負契約の変更についての説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第33号　稗木場地区急傾斜地崩壊対策工事請負契約の変更についてを採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって、議案第33号は原案のとおり可決されました。

日程第 13　議案第 34 号

○議長（百武辰美君）

日程第13．議案第34号　令和３年災　大鬼木地区他４地区災害復旧工事請負契約の変更についてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

それでは議案第34号　令和３年災　大鬼木他４地区災害復旧工事請負契約の変更について御説明いたします。

令和４年８月５日付で請負契約を締結した「令和３年災　大鬼木地区他４地区災害復旧工事」について、別紙のとおり変更契約を締結するため、地方自治法第96条第１項第５号の規定により議会の議決を求めるものでございます。

提案理由でございますが、令和３年災　大鬼木他４地区災害復旧工事について、工事内容に

変更が生じたため、変更契約の締結を行うものでございます。

次ページをお願いいたします。契約の目的、令和３年災　大鬼木他４地区災害復旧工事。契約金額でございますが、変更前の金額が３億9,050万円。今回の増額1,799万3,800円。変更後の契約金額を４億849万3,800円とするものでございます。契約の相手方に変更はございません。

次のページをお願いいたします。参考資料でございます。今回の変更内容ですが、今回の変更は各工区において工法の変更並びに数量の変更を行うものでございます。主なものといたしまして、大鬼木地区（農地保全・地すべり）の13工区の対策工によるものが大きく、その中でも特に杭長の増によるものでございます。杭の本数に変更はございません。

また地元の要望により、上部の仮設道路について残すこととしております。全般的なものといたしまして施工範囲が広く、石材の入手が困難であったことや、工事の施工性を考慮し、練石積工からブロック積工へ変更いたしております。

数量の詳細は次のとおり工区ごとにまとめておりますので、そちらを御覧いただきたいと思います。大まかに説明いたしますと、まず大鬼木地区での農地保全、地滑りでございますが、こちらの１工区から12工区。こちらが練石積工からブロック積工に変更いたしております。そして13工区。これが杭長の増。上段分で68メートルの増加。下段分で21.5メートルの増加。あと仮設道路を残すことといたしました。

次のページに行きまして、山川地区こちらは数量の増でございます。４メートルの増。次の田﨑地区こちらについても、数量の増で8.5メートルの増となっております。で、大鬼木地区（道路）については、こちらが練石積工からブロック積工への工法の変更を行っております。

そして大鬼木地区水路。こちらについては、U型溝敷設工ですけれども、こちらの敷設の長さが0.7メートル減少。そして暗渠排水管の布設を追加しております。数量の詳細については、先ほど言いましたとおり確認をお願いしたいと思います。

以上で議案第34号　令和３年災　大鬼木他４地区災害復旧工事請負契約の変更についての説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

すいません。なお１ページのほうにあります条文のほうにちょっと誤りがございました。一行目「令和３年災　大鬼木地区」となっておりますが、正しくは「大鬼木他４地区」でございます。よろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第34号　令和３年災　大鬼木他４地区災害復旧工事請負契約の変更についてを採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって議案第34号は原案のとおり可決されました。

日程第 14　議案第 35 号

○議長（百武辰美君）

日程第14．議案第35号　財産の取得の変更についてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

それでは議案第35号の説明を行います。議案第35号　財産の取得の変更について。令和５年11月24日付けで契約を締結した「鴻ノ巣公園夜間照明設備」について、別紙のとおり変更契約を締結するため、地方自治法第96条第１項第５号の規定により、議会の議決を求めるものでございます。

提案理由としまして本件は、鴻ノ巣公園夜間照明設備につきまして業務内容に変更が生じたために、変更契約を締結するものでございます。

２ページをお願いします。財産の種類でございますけども、鴻ノ巣公園夜間照明設備。契約金額でございます。変更前の契約金額は3,362万400円でございます。今回の増額が1,071万8,400円。変更後の契約金額でございますけども4,433万8,800円となっております。なお契約の相手について変更はございません。

３ページをお願いいたします。参考資料。今回の追加変更分ということで書いておりますけども、照明盤の設備を追加いたしております。これは工事発注後にそういう電気関係の定期検針を行っておりますけども、その工事発注後の定期検針におきまして、この照明盤の操作盤、分電盤の不良が見つかりまして、そういった錆び等から水の侵入がございまして、絶縁不良を起こしているということが判明いたしました。ですので、今回のこの工事の中で、追加で変更をすることによりまして、一体的に整備を行うということで考えております。

４ページを御覧いただきたいと思いますけども、今回の照明盤の操作盤でございますけれどもこの３か所、テニスコートの横とＡコートのところ２か所でございますけども、この３か所について変更を行うものでございます。

以上で議案第35号　財産の取得の変更についての説明を終わります。御審議のほどよろしく

お願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

11番　北村議員。

○11番（北村清美君）

もう大体今の説明で分かるのですけど、まず追加の金額が大きいということですね。1,000万円と。だから設計前に分からなかったのかということと、もう一つ次にまた別に発生はしないのですか。その点は大丈夫ですか。その２点です。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

まずこの照明の変更を行うということで設計を組みまして、これは一般競争入札で行いましたけども、その時点では分かりませんでした。その後に工事発注が行われた後に、九州電気管理技術者協会というところに定期的にこういった電気設備等点検を行っていただいております。そのときに、こういった分電盤に絶縁不良を起こしている箇所が見つかったということで御報告をいただきましたので、今回の変更ということで上げさせていただいております。

なお、またこういった変更が生じないのかということでございますけども、今回は先ほど申しました３照明盤――分電盤の変更を行いますけれども、あと二つ照明盤がございます。そちらについても今後必要かと思いますけども、まずは早急に対応するべき、この三つにつきまして対応を行うということと、もう一つこの鴻ノ巣公園につきましては屋外キュービクルがもう相当年数がたっているということで、そういったキュービクルの工事もあわせてちょっと将来的に行うということで計画をいたしておりますので、そのときにその照明盤が不良を起こしてもう交換をしなければいけないということで、その際キュービクルの工事と一緒に、将来的に交換が必要になってこようかということで思っております。

今回は先ほど申しました３つの照明盤――分電盤について変更を行うものでございます。以上でございます。

○議長（百武辰美君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第35号　財産の取得の変更についてを採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第35号は原案のとおり可決されました。

会議の途中ですが、しばらく休憩します。14時より再開をいたします。

午後１時51分　休憩

午後２時00分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第 15～21　議案第９～15 号

○議長（百武辰美君）

日程第15．議案第９号　令和６年度波佐見町一般会計予算から、日程第21．議案第15号　令和６年度波佐見町工業用水道事業会計予算までの７件を一括議題とします。まず議案第９号　令和６年度波佐見町一般会計予算から順次、内容説明を求めます。

税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

議案第９号　令和６年度波佐見町一般会計予算について説明します。令和６年度波佐見町の一般会計予算は次に定めるところによります。

まず、歳入歳出予算の総額は95億2,000万円となり、前年度当初の103億円と比較して、７億8,000万円7.6％の減となっています。歳入歳出予算の款項の区分の金額については、第１表歳入歳出予算によります。債務負担行為については第２表によります。地方債については第３表によります。一時借入金の借入れの最高額については５億円とします。歳出予算の流用については、同一款内で各項の款の流用ができるのは、給料、職員手当等及び共済費とします。

次の２ページから６ページについては、13ページ以降の歳入歳出の事項別明細においてその内容を説明するため省略します。

７ページをお願いします。第２表債務負担行為では、債務負担が令和７年度以降に及ぶものについて、11ページまでの５件を計上しており、期間及び限度額はそれぞれ記載のとおりです。

12ページをお願いします。第３表地方債は各事業の財源とするために、公用車購入事業360万円から公共施設災害復旧事業40万円までの13事業の建設事業債などを４億5,700万円。普通交付税の振替措置として起債が可能となる臨時財政対策債1,000万円と合計し、４億6,700万円を計上しています。起債の方法、利率、償還の方法については記載のとおりです。

続いて歳入歳出の説明に移りますが、歳出については各担当課で説明しますのでページが前後する場合がありますが、御容赦願います。また、事業が大きいものや、新規事業を中心に説明しますので、あわせて御了承をお願いします。

それでは歳入から説明します。15ページをお願いします。１款，１項，１目．個人町民税は、給与所得の増加傾向と、その他所得についても大きな変動がない状況から、滞納繰越分を含め2,426万円増の４億9,270万円としています。

次に２目の法人町民税は、近年の物価高騰等の影響を踏まえ、法人税割を160万円減額しておりますが、全体として、4,856万5,000円を計上しております。

16ページをお願いします。１款，２項，１目．固定資産税は、土地については分譲地の開発により、宅地化が進んでいる状況から、270万円増の１億7,260万円に、家屋については評価替えの影響から310万円減の３億2,510万円に、償却資産については企業の設備投資もあり、690万円増の１億1,300万円とし、滞納繰越分を含めた全体額を627万円増の６億1,364万8,000円と計上しております。

17ページをお願いします。１款，３項，１目．軽自動車税の種別割は、課税台数は横ばいと見込んでいますが、新規検査年月から13年を経過する前までの車両更新による税額の増や13年を超える経年重課税台数の増を見込み、滞納繰越分を含めた全体額を134万7,000円増の6,194万2,000円と計上しております。

18ページをお願いします。１款，４項，１目．町たばこ税は課税本数をほぼ横ばいと見込み、昨年同様の8,420万円としております。

次に19ページをお願いします。１款，５項，１目．入湯税は日帰り入浴客を約２万人、宿泊客を約100人の増と見込み、41万円増の191万円を計上しています。

20ページをお願いします。２款，地方譲与税から、29ページの９款，地方特例交付金までは、それぞれ令和５年度、基準財政収入額を参考に、国が示した地方財政計画による推計伸び率などを考慮し計上しております。

30ページをお願いします。10款，１項，１目．地方交付税は、8,000万円増の21億8,000万円としております。普通交付税については子育て支援等の充実や、物価高への対応などの増加要因と、臨時財政対策債振替額を考慮し、8,000万円増の20億8,000万円としています。特別交付税については、これまでの実績や地域づくり事業等の交付税対象事業を考慮して、前年同額の１億円としております。

少し飛びまして33ページをお願いします。12款，２項，負担金は合計で877万円減の3,588万3,000円としています。主な要因は老人ホーム入所者費用負担の減や、第２子無償化による保育料の減によるものです。

34ページをお願いします。13款，１項，使用料は、合計で389万3,000円増の8,837万7,000円としています。主な要因は、新たに陶芸の里伝習館使用料やキャンプ場使用料、鬼木古民家使

用料を加えたほか、公営住宅やその他公共施設等の使用料の増額を見込んだことによるものです。

36ページをお願いします。14款，２項，国庫負担金のうち１目．民生費国庫負担金は、障害者福祉サービスの需要の拡大から、3,691万3,000円増の８億3,934万5,000円としています。これに伴い40ページの15款，１項，１目．民生費県費県負担金についても同様に増額となっています。

戻りまして36ページの２目．衛生費については、新型コロナウイルス感染症予防接種費の廃止により3,439万7,000円が減額となっています。

37ページをお願いします。38ページまでの14款，２項，国庫補助金は、合計で4,048万4,000円増の２億3,239万6,000円としています。主な要因は、３Ｄ都市モデル整備活用オープンデータ化を進める都市空間情報デジタル基盤構築支援事業補助金や、保育施設の整備に係る就学前教育・保育施設整備事業費、小中学校施設整備に係る学校施設環境改善交付金などにより増額となっております。

少し飛びまして42ページをお願いします。44ページまでの15款，２項，県補助金は合計で7,539万2,000円減の２億5,892万4,000円としています。主な減額の要因としては44ページの８目．災害復旧費県補助金が１億387万6,000円の減となったことによるものです。

45ページをお願いします。３項，委託金は合計で517万円増の3,109万3,000円としています。主な要因は１目．総務費委託金が令和６年度に予定されている衆議院議員選挙等により357万円の増。５目．商工費委託金が、世界農林業センサス調査の実施により、144万1,000円増となったことによるものです。

少し飛んで52ページをお願いします。18款，２項，基金繰入金については、それぞれの事業に充当するため基金取崩額を計上しています。１目．財政調整基金繰入金は当初予算を編成するに当たり、その財源に一部不足が生じることから、9,200万円を計上しております。

２目．ふるさとづくり応援基金繰入金については、これまでの積立額の状況を踏まえ、3,300万円増の７億9,600万円を取崩し、各種事業へ充当することとしています。

３目．庁舎建設基金繰入金は、外構工事などのために１億1,300万円を計上しています。４目．地域福祉基金繰入金は、東彼地区保健福祉組合の「エール」建て替えに係る町負担金等に充てるため5,070万円を計上しています。６目．教育施設整備基金繰入金は、総合文化会館や各学校の改修工事などのために4,000万円計上しております。

８目．有福勲教育振興基金繰入金は、各小学校と中学校の教育環境の充実と整備のために600万円計上しています。

少し飛びまして57ページをお願いします。20款，４項，３目，雑入について。1,851万4,000円の増額となっていますが、主な要因としては59ページの地域おこし協力隊個人負担金。陶芸の里伝習館体験料、デジタル基盤改革支援補助金、歩道橋定期点検助成金、地域活性化センタ

一補助金の新規計上によるものです。

60ページをお願いします。21款，１項，町債については、各事業が起債対象となるかの見極めを行い、交付税措置があるものを優先し、事業費に対して示された充当率により計上することとしており、全体で２億6,440万円減の４億6,700万円としています。主な増減の理由としましては、２目．農林業債、３目．土木債の道路橋梁河川及びため池整備事業に係る緊急自然災害防止対策事業債。４目．消防債の防災行政無線事業及び体育センター空調整備事業に係る緊急防災・減災事業債が増加した一方で、１目．総務債の庁舎建設にかかる公共施設等適正管理推進事業債３億7,950万円減などによるものです。

なお、臨時財政対策債は、普通交付税の国の財源不足に応じた振替額として、2,000万円減の1,000万円を計上しています。以上が歳入の主なものになります。

次に、歳出について説明します。最初に税務財政課分を説明し、引き続き各担当課長から新規事業や主な事業等について説明があります。なお委託料や工事請負費、備品購入費等について、今後の入札や随意契約の関係から、説明欄の金額を記載しない箇所がありますので、御了承ください。

少し飛んで74ページをお願いします。２款，１項，15目．ふるさと納税管理費については、歳入に計上しているふるさとづくり応援寄附金18億円に対する返礼品や、事務経費及び基金積立金を計上しています。

80ページをお願いします。２款，２項，２目．賦課徴収費12節．委託料に、1,617万1,000円を計上しております。この中で、今年度新たに計上したものは最後の行、土地家屋台帳履歴管理システム構築委託料で、これは法務局から送られてくる情報をペーパーレス化し、電子データとして管理するシステムを構築するためのものです。なお13節．使用料及び賃借料にも、年間使用料を計上しております。

大きく飛びます。189ページをお願いします。12款，１項，公債費は令和６年度の定時償還分として、歴史文化交流館改修工事や防災行政無線戸別受信機整備等に係る起債元金償還開始により元金は2,089万円増の４億9,728万9,000円。

一時借入れ分を含んだ利子は、577万5,000円増の、3,448万8,000円を計上しています。

以上で税務財政課分の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

それでは総務課関係の主なものについて御説明をいたします。68ページをお開きください。

２款，１項，５目．財産管理費17節．公用車購入費でございますが、これは普通車タイプの電気自動車を購入することで、所要額を計上しております。

70ページをお願いします。２款，１項，７目．交通安全対策費14節．交通安全施設設置工事に650万円を計上しており、自治会等から要望があったガードレール125メートル、カーブミラ

ー23基、ガードパイプ50メートル、区画線15か所を計上しております。

少し飛びまして、85ページをお願いいたします。２款，４項，２目．衆議院議員選挙費でございますが、４月16日告示、４月28日に執行されます現長崎３区衆議院議員補欠選挙に係る費用を計上しております。

次ページをお願いいたします。３目．町議会議員選挙費でございますが、10月末に任期満了を迎えます町議会議員通常選挙の費用を計上しています。今回から定数が12名となりますが、立候補15名で所要額を計上しています。

なお、今回から選挙公報を発行することとしておりますので、その所要額も計上しています。

大きく飛びまして、136ページをお願いいたします。８款，１項，１目．土木総務費でございます。18節．負担金、補助金及び交付金。空き家解体補助金でございますが、令和５年度同様に10件分300万円を計上しています。

少し飛びまして147ページをお願いたします。９款，１項，２目．非常備消防費でございます。今回649万6,000円の増となっておりますが、主なものは８節で、消防団全国大会参加に係る費用弁償。節．備品購入でＩＰ無線購入。

次ページをお願いします。18節．負担金、助金及び交付金、消防分団運営費、交付金の見直しに係るものでございます。３目．消防施設費でございます。208万3,000円の増となっておりますが、主なものは消防標識等の修繕及び消火栓の塗装等となっており、加えて消火栓設置工事負担金150万円の増となっております。

次ページをお願いいたします。５目．災害対策費でございまして、今回8,405万4,000円の増、２億3,058万2,000円を計上しています。主な内容として、まず新規事業として12節一番下段でございますが、３Ｄ都市モデル構築業務委託料となっております。この３Ｄ都市モデルは、国交省が推奨しています市町村の地形図を立体化――３Ｄ化し様々な用途に活用するもので、本町では浸水想定区域、土砂災害区域等を可視化する目的で、その基盤となる航空写真撮影、地形図作成、それをもとにした３Ｄ化を行う所要額を計上しております。

次ページをお願いいたします。同じく新規事業として、12節．災害一斉配信システム構築業務、14節．体育センター空調機設置工事となっております。なお体育センター空調設置工事は、指定避難所である体育センターに空調機、エアコンを設置するものであり、その電源について、停電等を考慮しＬＰガスによる発電方式としております。

また防災行政無線再整備工事は、３か年計画の２年度工事となります。以上で総務課所管分を終わります。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

続きまして企画情報課所管の新規事業や主な事業等について説明いたします。

まず69ページをお願いします。２款，１項，６目．企画費のうち、18節．コミュニティー助成事業費補助金については、宝くじの収益金を原資とした自治総合センターの補助事業であり、町内の４つの自主自治会からの要望があり、合計で980万円を計上しています。

次のページ70ページをお願いします。同じく企画費。18節．地域振興事業費補助金については、各自治会の施設改修等に係る補助金で、今回は自治会からの要望が少なかったこともあり、前年度より1,800万円減の500万円を計上しています。

次に72ページをお願いします。13目．電算管理費12節．システム改修委託料については、標準化共通化に伴う各種改修分として1,718万2,000円を計上しています。同じく13節．上から２行目の基本ソフトウエア使用料は、戸籍システム「ｅＬＴＡＸ（エルタックス）」コンビニ交付に係る使用料で1,218万1,000円を計上しています。

次のページ、73ページをお願いいたします。同じく18節．一番下になりますが、特定個人情報に係る電子計算機設置等関連事務の委任に係る交付金については、マイナンバーを使った他市町との情報連携のため、「Ｊ－ＬＩＳ」への負担金として697万7,000円を計上しています。

次に同じページで、14目．地域情報化管理費のうち、12節．町ホームページリニューアル業務委託料は、一部リニューアルを計画し、その一つ下の施設予約システム導入業務委託料は、公共施設のオンライン予約のシステム構築費として。また、その下のＤＸ推進アドバイザー業務委託料については、ＤＸの推進に向けて外部人材のアドバイスを受けるために、それぞれ新規事業として予算計上しているものであります。

次に74ページをお願いします。同じく14目．13節．一番下の窓口キャッシュレスシステム利用料は、役場窓口やウェイブホール、歴史文化交流館で導入するキャッシュレスのシステム使用料として85万8,000円を計上しています。

次に75ページをお願いします。16目．定住促進事業費のうち、12節．波佐見吉祥寺プロジェクト運営業務委託料は、移住相談や関係人口の創出、ＳＤＧｓの発信など、サスティナブルなイベントを東京都武蔵野市の誘客力ある吉祥寺において、地元の商店街等と連携して行う新規事業であります。

その下の公式マスコットキャラクターぬいぐるみトラップ作成委託料は、中学生議会でも質問があっていた事案で、移住促進のためのノベルティとして新規に制作するものであります。

次のページ76ページをお願いします。同じく14節，工事請負費として360万円を計上しておりますが、これはお試し住宅ユニットバス改修工事と、法面整備工事であり、コロナ開けで高い需要があるお試し住宅を気持ちよく快適に安全に利用していただき、町のイメージアップを図るために、それぞれ整備するものであります。

その下の18節．定住奨励金については、昨年同様の1,715万円を計上しています。３年ごとのクールで見直しを図っておりますが、令和５年度が３年目で、令和６年度から新しいクールになりますけども、高い事業効果と事業実績も見込まれることから、一部条件やメニューの変更

を行うものの、継続して実施してまいります。

次に同じページの17目．地域づくり事業費の12節．地域おこし協力隊事業委託料は、商工観光課で４名、農林課、教育委員会で各１名の合計６名分を計上しております。

次に78ページをお願いいたします。18目．地方創生推進費について、18節に上から４つ目から５つ事業をそれぞれ計上しておりますが、結婚新生活移住支援事業の創業拡充、空き家の利活用などのための事業であり、移住促進へつなげていきたいと考えております。

以上で企画情報課分の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　庁舎建設推進室長。

○庁舎建設推進室長（大橋秀一君）

それでは庁舎建設推進室所管予算の説明をさせていただきます。78ページをお願いします。２款，１項，19目．12節．委託料。400万円。外構工事、２期工事監理業務委託料、庁舎関連用地分筆登記業務委託料となります。

14節．工事請負費１億2,800万円。内訳としまして外構２期工事、駐車場整備工事、電気自動車急速充電器設置工事、町道鹿山飛瀬線道路改良工事――郵便局隣接分となります。それと新庁舎の改修工事となります。16節．公有財産購入費125万円。町道鹿山飛瀬線用地購入費となります。

79ページをお願いします。21節．補償、補填及び賠償金150万円。支障電柱移転補償費町道鹿山飛瀬線分となります。庁舎建設推進室所管の説明は以上となります。

○議長（百武辰美君）　住民福祉課長。

○住民福祉課長（井関昌男君）

続きまして住民福祉課所管についての御説明をいたします。90ページをお願いいたします。３款，１項，１目．社会福祉総務費です。91ページをお願いします。

18節．負担金、補助及び交付金になりますが、各福祉団体等の運営費に対する補助が主なものでございます。３行目の社会福祉協議会運営費補助金については、社協職員の３人分の人件費に当たる分になります。６行目の生活困窮者自立促進支援事業補助金ですが、これは社会福祉協議会が国から委託されている生活困窮者支援事業の補助金で、コロナの５類の移行により減額になりますが、相談は今後も続く見通しであり、現在の制度維持は本町にとっても必要不可欠になるため補助するものでございます。

次に93ページをお願いします。３項，１項，３目．障害者福祉費でございます。7,524万3,000円増の６億1,913万4,000円を計上しております。18節，負担金、補助及び交付金は4,890万1,000円増の6,562万7,000円になります。東彼地区保健福祉組合負担金（地域生活支援事業）は、東彼地区保健福祉組合が運営する東彼地区障がい者支援センター「エール」が６年度に建て替え工事をする分についての、負担金の増が主なものになります。

94ページをお願いします。19節．扶助費は2,939万7,000円増の５億5,137万8,000円になりま

す。いずれの事業も過去の実績及び令和５年度の見込みから積算し計上しております。

次に100ページをお願いいたします。３款，２項，２目．児童措置費措置費でございますが、住民福祉課関係は19節．扶助費の上から６行目障害児通所給付費以降になります。これらの事業も過去の実績及び令和５年度の見込みから積算をいたしておりますが、障害児通所給付費は8,575万円を計上いたしております。

次に108ページをお願いいたします。４款，１項，５目．環境衛生費です。

次のページ109ページをお願いします。12節．委託料の環境美化推進事業委託料につきましては100万円を増額して、550万円を計上いたしております。これは各自治会で組織している環境衛生振興会連合会に対して、各地区の河川等の除草清掃作業をお願いするものでございます。18節，負担金、補助及び交付金についてでございますが、５行目の火葬場施設に係る東彼地区保健福祉組合分担金といたしまして、644万2,000円を計上いたしております。あと町の野良猫の不妊去勢手術補助金といたしまして、12万円増の36万円を計上いたしております。

次に111ページをお願いします。４款，２項，１目．し尿処理費です。し尿処理に係る東彼地区保健福祉組合分担金になりますが、653万円の減で4,000万5,000円を計上いたしております。これは工事費の減額に伴い事業費が減額をいたしております。

次に２目．じん芥処理費でございますが、ごみ処理に係る東彼地区保健福祉組合分担金ですが1,628万6,000円増の１億6,954万4,000円を計上いたしております。

これはごみ処理施設の改修工事等の増額によるものが主な要因でございます。

次に140ページをお願いいたします。８款，３項，２目．河川公園管理費でございますが1,057万7,000円増の2,622万2,000円を計上いたしております。

14節，工事請負費でございますが、桜づつみ河川公園の路面改修工事でございまして、これにつきましては年次計画で行っておりまして、６年度につきましては志折橋下流から梅高屋駐車場までの岳辺田川の528メートルを予定をいたしております。

以上で住民福祉課の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

子ども・健康保険課所管分について説明をいたします。

97ページまでお戻りください。３款，２項，１目．児童福祉総務費は、前年度比5,591万1,000円を増額し、２億5,275万5,000円を計上しています。

主な増額の要因としましては、こども家庭センターの開設準備にかかる経費として、10節，需用費や14節，工事請負費などに約1,200万円。新規事業として99ページ18節，負担金、補助及び交付金の最終行、就学前教育保育施設整備事業費補助金に2,260万円で、町内保育所のトイレ改修工事や保育所、認定こども園の防犯対策工事に対して補助を行うものです。

また100ページ、１行目。学ぶ保育士等応援事業費補助金は、長崎県が実施する幼児教育、保

育の質の向上を目的とした新たに設けられた補助金です。

園内研修等に参加した保育士等へ手当を支給するための費用を助成するもので、併せて保育士の離職防止を図ることを目的としており380万円を計上しています。

５行目。障害児保育事業費補助金は、園で障害のあるお子さんを預かっていただく場合、手厚く保育士等の配置が必要になりますが、支給単価の見直しを行いましたので、前年度比約240万円の増額となっています。９行目。保育充実人員配置支援事業費補助金は、年度途中での保育士の確保が難しいことから、年度当初から余裕を持った人員を配置していただくよう園に補助を行うもので、前年度比約1,000万円の増額をしました。

２目．児童措置費については、前年度比2,148万4,000円を増額し、10億5,033万2,000円を計上しています。主な増額の要因としましては、19節．扶助費の５行目２億7,034万円の児童手当です。令和６年度の10月分からこれまで中学生までを対象にして、所得制限がありました児童手当が、高校生までの所得制限なしでの支給に対象が拡大されることになり前年度比1,466万円の増額になります。

12節．私立保育所施設給付委託費と、19節．認定こども園施設型給付費は、出生数の減少に伴い、園児数の減少を見込み予算を減額したところです。

104ページ。４款，１項，２目．予防費については、前年度比3,029万3,000円を減額し、6,150万5,000円を計上しています。減額の要因は、新型コロナウイルスワクチンが、インフルエンザワクチンと同様の取扱いとなることから、集団接種等に要した費用が不要となったものです。

105ページ。４款，１項，３目．母子衛生費については、出生数の減少から７節．報償費出産子育て応援給付金や、12節．委託料母子健康診査委託料などで、前年度比468万4,000円減額し、3,062万9,000円を計上しています。

以上で子ども・健康保険課所管分の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

長寿支援課所管分について説明いたします。91ページをお願いいたします。３款，１項，２目．老人福祉費でございます。老人福祉費全体で、前年度比790万2,000円減の３億608万8,000円を計上しております。

92ページをお願いいたします。18節．負担金、補助及び交付金について。まず増額となったものについては、東彼地区保健福祉組合負担金介護認定について、昨年度比161万1,000円増の1,368万7,000円となっておりますが、これは介護認定システムの更新によるものとなっております。

次に、主な減額の理由といたしましては、19節．扶助費の養護老人ホーム措置費について、昨年度比1,314万7,000円減の4,282万円を計上しております。これは現在の入所状況をもとに、

長崎県市町村福祉振興協議会が試算したものになります。

93ページをお願いいたします。27節．繰出金について介護保険事業特別会計繰出金を232万4,000円増の１億9,915万9,000円計上しております。介護保険事業に係る事務費のほか、介護給付費や総合事業の実施において、国が定める繰り出し基準に基づき繰り出すこととなっております。

以上で長寿支援課所管分の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

それでは、農林課所管の主なものについて説明いたします。

116ページをお願いいたします。６款，１項，３目．農業振興費12節．委託料は、有害鳥獣捕獲対策委託料として、イノシシ900等、アナグマ、アライグマ100頭捕獲頭数と見込み990万円を計上しております。

次に117ページをお願いいたします。18節．負担金、補助及び交付金には、説明の中段部分になりますが、ながさき農林業・農山村構造改善加速化事業費補助金として1,115万円を計上し、農地組合等の法人にコンバインなどの農業機械の導入を支援するものであります。

その一番下になりますが、鳥獣被害対策費補助金として963万4,000円を計上し、この分につきましては対策用ワイヤーメッシュ約9.6キロメートルの設置を予定しております。

次に２段下になります。農林業経営拡大支援事業費補助金200万円は町単独事業となります。５団体の農事組合や、部会等に農業機械や設備等の補助を行うものであります。

次に118ページをお願いいたします。４目．畜産業費になりますが、18節．負担金、補助及び交付金の説明の５段目になりますが、肉用牛肥育経営安定対策事業費補助金について１頭当たりこれまで3,000円だったのを4,000円に増額して、40頭分160万円の計上を行っております。

次に５目．土地改良費になりますが、12節．委託料に1,124万6,000円を計上しておりますが、内容については説明に記載しております防災重点ため池劣化状況調査業務委託料として２か所のため池の調査。次の段、鶴ノ川地区頭首工改修工事設計業務委託料。この分につきましては同じく14節．工事請負費で計上しておりますが、鶴ノ川地区頭首工改修工事に係る設計業務の委託料となっております。

次の県営ため池改修事業計画書単価更新業務委託料につきましては、県営事業で行う予定の２か所のため池の、ため池改修事業計画に必要な単価更新の業務を行うように予定しております。防災重点ため池廃止工事測量設計業務委託料については、新地新規事業となりますが、狸山ため池が老朽化の危険な状況にあるため、廃止に向けて町営の事業として実施予定です。

次のページをお願いいたします。18節．負担金、補助及び交付金には、説明の２段目に書いておりますが、防災重点農業用ため池緊急整備事業費負担金として550万円を計上しております。この分につきましては、県営で予定されております３か所のため池の測量設計業務の委託

料の負担金となっております。

次に下から４段目に記載してあります農業経営高度化促進事業費補助金の5,500万円については県営駄野地区圃場整備事業における集積促進費の町負担分となっております。

次に下から２段目の小規模農林事業補助金については、近年の申請実績により700万円を計上しております。

次に120ページをお願いいたします。６目．水田農業対策費になりますが、18節．負担金、補助及び交付金に、波佐見町農業再生協議会の事務費助成となる経営所得安定対策等推進事業費補助金343万9,000円。次に、減農薬等の環境に配慮した農業に取り組む集落法人などを支援する環境保全型農業直接支払交付金516万円。そして、新規就農者への支援として、農業次世代人材育成投資資金３名分450万円それぞれ計上しております。

次に122ページをお願いいたします。９目．中山間地域等直接支払交付金事業費になりますが、18節．負担金、補助及び交付金に中山間地域等直接支払交付金として1,971万5,000円を計上し、この事業に取り組まれる地域の14地域を支援いたします。

次に10目．多面的機能支払交付金事業費になりますが、これも多面的機能支払交付金として軽微な補修や草刈りなどを支援する共同活動分として2,075万8,000円と、その下になりますけども、農業施設等の改修などを支援する長寿命化として1,874万2,000円を計上し、この事業に取り組まれる14地区を支援いたします。

次は123ページをお願いいたします。18節．負担金、補助及び交付金に、新規就農者支援事業費補助金として農業機械、資材購入、中古ハウス移設費用などの補助として、２分の１を補助する制度を設けて400万円を計上しています。下段になりますが、新規事業としまして、新規就農者家賃補助事業費補助金を72万円計上しております。これは町内に就農や就農見込みの方が町内の賃貸物件に住所を移されるものについては３年間の家賃補助の助成を行うものであります。中身につきましては３万円の12か月の２名分で計上しております。

次に124ページをお願いいたします。６款，２項，林業費１目．林業振興費になりますが、12節．委託料は保育間伐に係る森林所有者意向調査等業務委託料と、令和６年度に保育間伐を行う折敷瀬地区の保育間伐実施業務委託料を計上しております。

以上で農林課所管の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

商工観光課所管分の主なものについて御説明いたします。

71ページ目をお開きください。２款，１項，８目．諸費18節．負担金、補助及び交付金でございます。地域公共交通計画策定事業補助金として、新たに600万円を計上しております。地域公共交通計画は、本町にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿を明らかにするマスタープランであり、行政が地域の移動に関する関係者を集めて、法定協議会で協議を行って作成する

ものでございます。予算は補助金として計上し、今後組織される法定協議会において事業が実施されることとなります。

77ページをお開きください。２款，１項，18目．地方創生推進費でございます。12節．委託料下から２番目。ＳＮＳ情報発信体制強化業務委託料230万円を計上しております。これにつきましては、本町が行っております公式インスタグラムにつきまして、内政を図るように予定をしておりますが、それについての支援であったり、町内事業所がＳＮＳで情報発信をすることに対しての支援を行うために、こういった委託料を掲載しております。

128ページ目をお開きください。続きまして７款，１項，２目．商工費でございます。18節．負担金、補助及び交付金の下から３段目。生地生産環境改善対策事業費補助金として312万円を計上しております。この事業は、生地組合に対し組合員の事業所においてスポットクーラーの導入など、労働環境の改善に伴う費用について支援をすることとし予算を計上しております。

続いて下から２段目。窯業人材確保対策事業費補助金として360万円を計上しております。この補助事業は、窯業界で緊急の課題となっている窯業人材の確保について、正社員を積極的に採用し、定着を図る事業所を支援するために予算を計上しております。

補助対象者は町内窯業関係事業所とし、補助対象経費は町外から本庁へ転入し、町内の事業所へ新たに就職したものへ支払った住居手当としております。月当たりの上限額を２万円としております。

130ページを御覧ください。続きまして、７款，１項，３目．観光費でございます。12節．委託料。漫画「青の花器の森」を活用した周遊観光事業委託料について、予算を計上しております。本町中尾郷を舞台とした小玉ユキ先生の漫画を活用して、周遊マップや体験ツアーの造成などを行い、観光客が漫画に登場する施設や観光スポットを周遊しながら、滞在時間を延ばし消費を促す取組を実施いたします。

続きまして、陶芸の里伝習館管理委託料でございますが、令和６年度から施設の運営を町が直営で行うこととなりますが、施設の清掃等を地元自治会へ委託する経費として計上いたしております。それからキャンプ場管理棟建設工事実施設計監理業務委託料ですが、今後オープンするキャンプ場に、受付及び備品の貸出しを行う施設として、管理棟を設置したいと考えており、それに伴う設計監理業務と建築確認申請に係る予算を計上しております。

131ページ目を御覧ください。14節．工事請負費でございます。ＨＡＳＡＭＩキャンプサイトパーク整備工事として掲載しておりますが、先ほど委託料で御説明いたしました管理棟を設置する費用として計上しております。

中尾郷トイレ横駐車場ほか整備工事につきましては、今年度にトイレ横の空き家を解体いたしましたので、解体後の土地についてアスファルト舗装を施すとともに、街路灯の移設などを行うための予算を計上しております。

続きまして17節．備品購入費でございます。電動キックボード購入費として、65万円を計上

しております。観光客による町内の移動について、現在電動自転車の貸出しを行っておりますが、安全性の高い電動切符ボードを導入することにより、町内の移動を快適に行っていただくため、今回導入を行うものです。

以上で、商工観光課所管分についての説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

次に、建設課所管分の主なものについて御説明いたします。135ページをお願いいたします。８款，土木費１項，１目．土木総務費でございますが、12節．委託料について、土木積算システムの県内統一化に伴う増額計上、17節．備品購入費については、職員端末の入替えに伴う製図ソフトの購入費用を計上しております。それ以外は前年並みの計上としております。

次に137ページをお願いいたします。２項，２目，道路橋梁維持費12節．及び14節．橋梁の点検や、工事に係る事業費を計上しております。令和６年度は点検を９橋、補修工事に係る設計業務１橋、修繕工事を３橋予定しております。また、道路の維持補修に係る工事については、緊急自然災害防止対策を含む６路線を予定しているところです。

次に138ページをお願いいたします。３目．道路橋梁改良費。12節．測量設計業務委託料については、３路線を予定しております。14節．工事請負費。町道改良及び舗装工事については、改良工事を12路線、舗装工事を11路線予定しております。

16節．公有財産購入費及び139ページ、21節．補償補填及び賠償金は、改良工事に伴うものでございまして、支柱電柱移設を除き、４路線を予定しております。

次に140ページをお願いいたします。３項，１目．河川総務費14節．工事請負費については、緊急自然災害防止対策事業として、改修工事を２河川、河川及び水路改修工事として、しゅんせつ工事を２河川予定しております。

次に141ページをお願いいたします。４項，１目，都市計画総務費18節．負担金、補助及び交付金ですが、21世紀まちづくり支援事業補助金について、令和５年度に要望があった２か所を予定しております。次、142ページをお願いいたします。

２目．公園管理費は、鴻ノ巣グラウンドの駐車場整備工事のほか、全般的な維持補修を予定しております。

次に143ページをお願いいたします。３目．土地区画整理事業費は、事業の早期完了に向けた事業見直しのほか、波佐見中央線に係る整備や補償に係る予算の計上を行っております。

次に145ページをお願いいたします。５項，１目．住宅管理費については、例年とほぼ同様の予算計上となっており、146ページの２目．住宅建設費については長寿命化計画に基づく、折敷瀬団地の設備改修に向けた設計業務を計上しております。

少し飛びまして186ページをお願いいたします。11款，災害復旧につきましては、過年度災害も落ちつきを見せたことから、平時の顔出し予算としての計上を行っております。なお１項，

２目．林道施設災害復旧費においては、林道虚空蔵線の地滑り工事の事業化に向けた設計業務の予算を計上しております。

以上で、建設課関係の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）

説明の途中ですが、しばらく休憩します。

15時15分より再開します。

午後３時02分　休憩

午後３時15分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。議案第９号の内容説明を続けてください。

水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

それでは、水道課所管分について説明いたします。

109ページをお願いいたします。４款，１項，５目．環境衛生費18節．負担金、補助及び交付金の７項目になりますが、浄化槽設置整備事業費補助金になります。前年度比で573万2,000円増の2,701万円を計上しています。新築住宅における浄化槽設置に対し、新たに配管工事に係る部分を上乗せして補助するため、増額になるものです。

次に、112ページをお願いします。４款，３項，１目．上水道管理費は、前年度比で８万6,000円減の123万6,000円を計上しています。上水道事業会計への繰出基準、児童手当負担金になります。

次に134ページをお願いします。７款，２項，１目．工業用水道費は、前年度比で40万円減の1,450万円を計上しています。工業用水道事業会計の補助金ですが、工業用水道の供給は１社のみで料金収入も限られていますので、事業運営の不足分を計上しています。

次に143ページをお願いします。８款，４項，４目．下水道費は前年度比で、14万5,000円減の２億2,772万7,000円を計上しています。18節．負担金、補助及び交付金で、下水道事業会計負担金は1,045万4,000円で、雨水処理に係る負担金です。雨水処理関係は一般財源で負担すべきものであるため、下水道事業会計の負担金になります。

下水道事業会計補助金は２億1,722万2,000円で、下水道事業の運営に要する補助金になります。

以上で水道課所管分を終わります。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

それでは教育委員会関係の予算の説明を行います。

151ページをお願いいたします。10款，１項，２目．事務局費１．報酬でございます。会計年

度任用職員を26名ということで、昨年度よりも４名増員を行っております。こちらにつきまして学校現場から要望をお聞きしまして、先生方の働き方改革ということで増員を行っております。内容としましてはスクールサポートスタッフ、先生方のいろんなそういったプリントのお世話とかそういったものをしていただく方が中学校に今まで２名でございましたのを、１名増して３名でございます。中学校にお１人、中央小学校にお１人、それと東と南にお１人というような体制を取らせていただきたいと思っております。

それと学力支援員を７名から３名増やしまして10名ということで、それぞれの学校で学力支援に当たっていただくということで４名増をいたしております。

153ページをお願いいたします。10款，１項，同じく事務局費の12節．委託費でございます。上から５つ目でございます。ＩＴＣ支援員配置業務委託料でございますけども、こちらにつきましても学校からの要望がございまして、今１名体制で行っておりますけども、そこを２名体制で行いたいと思っております。

その下段、波佐見町標準学力調査業務委託料でございますけども、これは今年度からも実施いたしておりますけども、年２回の標準学力調査というところでございます。

続きまして、154ページをお願いいたします。10款，１項，２目．17節．備品購入費でございます。印刷機購入ということであげておりますけども、これは４校に新たに印刷機をそれぞれ１台ずつ購入いたしたいと思っております。

続きまして156ページをお願いいたします。10款，２項，１目．東小学校管理費の10節．需用費でございます。消耗品でございますけども昨年からほぼどこの学校も、すいません小学校においては倍額をしているかと思いますけども、こちらにつきまして小学校の教科書が改訂に伴いまして、先生方の指導書というのも更新を行わなければいけないということで、こちらのほうで増額を行っております。３小学校ともそういうように見ていただければと思っております。

続きまして157ページをお願いいたします。東小学校費の14節．工事請負でございますけども、こちらにつきましては学校設備改修工事ということでフェンスの改修工事の要望があっておりますので、そちらを計上させていただいております。

同じく17節．備品購入費でございます。一般備品購入費654万8,000円を計上いたしておりますけども、こちらにつきましては東小学校の机・椅子がもうちょっとささくれだっているということで、机椅子の更新と、それと有福勲教育振興基金を使いまして、それぞれの学校が欲しいというものを予算計上、要望をいただいておりますので、それぞれの学校においてこの一般備品が昨年より上がっているというところは、有福勲教育振興基金の要望があったというところで御覧いただければというふうに思っております。ちなみに東小学校はトランポリンとかサッカーゴールとか、そういったものを要望されております。

160ページをお願いいたします。10款，２項，４目．中央小学校の予算でございますけども、

14節．工事請負費5,000万円でございます。こちらにつきまして、中央小学校の体育館の改修工事を予定をいたしております。

162ページをお願いいたします。10款，２項，７目．こちらの南小学校の予算になりますけども11節．役務費。手数料で149万8,000円を上げておりますけども、こちらにつきましてグラウンドの支障木がちょっと気になるということで、グラウンド支障木の伐採費用を併せて計上いたしております。

続きまして163ページをお願いいたします。同じく南小学校の14節．工事請負費でございますけども、こちらにつきまして音楽室の床がカーペット。今カーペットで整備をしておりますけども、長年の使用によりましてほこりとかそういったダスト関係が、ちょっと気になるということで、そちらのフローリングのほうに改修工事ということで予定をいたしております。

167ページをお願いいたします。10款，３項，１目．こちら中学校の費用でございますけども14節．工事請負費でございます。今回中学校にエレベーターを設置するような予定をいたしております。

それと先ほど南小学校と同じく、中学校の音楽室のカーペットということで、それをフローリングに変えるとそういう工事を予定いたしております。

171ページをお願いいたします。10款，４項，１目．社会教育総務費の18節．負担金、補助及び交付金でございますけども、中段あたりに文化芸術活動ブラッシュアップ事業費補助金ということで計200万円計上いたしておりますけども、こちらにつきましては国民文化祭を盛り上げるということで、県から補助金をいただきまして今年で４年目の取組となります。

主に講堂ファンクラブさんが中心になって事業をしていただきますけども今年につきましては合唱とコーラスを行いたいということでお聞きいたしております。

173ページをお願いいたします。10款，４項，２目．文化財保護費でございますけども、17節．備品購入費に公用車購入ということで120万円計上いたしておりますけども、歴史文化交流館のほうで軽トラックの公用車を新しく購入ということで予定をいたしております。

174ページをお願いいたします。10款，４項，３目．国指定史跡整備の費用の14節．工事請負費でございますけども、今回畑ノ原窯跡公園のトイレが単独浄化槽でございますけれども、そこはちょっと不具合が起こっておりまして、それを改修工事をする予算を上げております。

177ページをお願いいたします。10款，４項，４目．こちらの総合文化会館の費用でございますけれども、14節．工事請負費でございます。全部で785万円を計上しておりますけどもカーテンの取替え工事。これ各会議室のブラインドがもう壊れているということで、それをロールカーテンのほうに変更と。それとあと大道具室の入り口の扉がちょっと開けにくいということでそれの改修。それとあと大ホールの音響設備の改修工事の予定いたしております。

同じくその下段の備品購入費でございますけども、プロジェクター購入費でございますけども、大ホールに映し出すプロジェクターがもうちょっと古くなりまして、光源的に弱いという

ことで新しいやつに変えて、影が出来ないというか見えやすいようにプロジェクターの更新を行いたいと思っております。下段の学習用テーブル等購入費でございますけども、こちらにつきましては子供たちの居場所ということで文化会館にそういった子供たちが集えるような学習用のテーブルですね。そういったのを置こうかということで、予算を計上させていただいております。

続きまして178ページをお願いいたします。10款，４項，５目．の歴史文化交流館管理費でございます。10節．需用費。印刷製本費を112万6,000円上げておりますけども、来年の歴史文化交流館の特別展を夏休みに恐竜展、長崎市にあります恐竜博物館と連携しまして、恐竜展を行いたいと思っております。それで秋口は、それが済みましては和鏡展、鏡ですね。何か一方からは普通に見えていて、何かずらしてくれば別の絵柄が出てくるとかそういった鏡があるみたいなのですけども、そちらのほうを行いたいと思っております。　３月からは、「くらわんかの藤田コレクション展」を行いますので、年間３回ぐらいそういった形で特別展を行っていきたいというふうに思っております。それの図録代ということで上げております。

それと、その次の役務費でございます。手数料が123万3,000円上がっておりますけども、こちらにつきましては歴史文化交流館の庭木の剪定を以前工事費で上げておりましたけども、それを手数料のほうに計上し直したということで御理解いただければと思っております。

181ページをお願いいたします。10款，５項，１目．保健体育総務費の上のほうがこれは19節ですかね。すいません18節の負担金、補助及び交付金でございますけども、下から３つ目。中学校部活動振興会の補助金でございます400万円昨年と同額を上げておりますけれども、中学校の地域移行、部活動の地域移行に伴いましてですね、この予算で、そういった指導者の謝礼等の補填をしていこうということで昨年と同様額を上げさせていただいております。

そのページの10款，５項，２目．保健体育施設費の13節．使用料及び賃貸料でございます。鴻ノ巣公園夜間照明設備リース料。先ほど議決いただきました変更の分のリースが来年度から始まってまいります。そのリース料を計上させていただいております。

182ページをお願いいたします。一番上の工事請負費でございます。甲辰園グラウンドＢコート。防球ネット改修工事でございます。こちらにつきましては、Ｂコートのほうで手前の上っていく登り口のほうですね――階段から上っていく。あちらの防球ネットのほうがちょっともう古くなってるということで、そこの改修を行いたいというふうに思っております。

184ページをお願いいたします。10款，６項，学校給食１目．学校給食センターの管理費でございますけれども、17節．備品購入費でございます。立体浸漬槽及び食器洗浄機電気自動供給装置購入費ということで、これは食器洗浄機でございます。現在各いろんな機種の更新を行っておりますけども、ここは最後に残った大きなものかなというふうに思っておりますけども、現在もちょっと修理を行いながら、もう騙し騙し使っているということでございますので、夏休み中に更新をかけて、そういった学校給食の業務に支障がないように予算を計上させていた

だきたいと思っております。

最後に185ページでございます。18節．負担金、補助及び交付金の上から４つ目でございます。学校給食支援事業費補助金6,000万円を計上させていただいております。学校給食の完全無償化ということで、その予算を計上させていただいております。

以上で議案第９号　令和６年度波佐見町一般会計予算の説明を終わります。

御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

説明漏れなどございませんか。あったら発言を許しますが。

それでは、次に議案第10号　波佐見町国民健康保険事業特別会計予算について内容説明を求めます。

子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

議案第10号　令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計当初予算について概要を説明いたします。歳入歳出予算の総額を16億2,700万円。一時借入金の最高額を5,000万円と定めるものです。

２ページをお願いします。歳入は１款，１項，国民健康保険料は、前年度比410万円減の２億8,490万円を計上しています。３款，１項，国庫補助金は234万6,000円を計上していますが、令和６年度中にマイナ保険証への移行に伴う啓発や、紙の保険証廃止に伴うシステム改修などの費用について国からの補助を受けるものです。

４款，１項，県負担金は、前年度比3,693万1,000円増の、12億2,526万2,000円を計上しています。

６款，２項，他会計繰入金は前年度比958万1,000円減の、9,257万5,000円を計上しています。

７款，１項，繰越金は令和５年度繰越額の見込みにより、前年度比930万5,000円増の2,033万9,000円を計上しています。

次に歳出について説明いたします。３ページをお願いします。１款，総務費は国保事業に係る事務的経費や、賦課徴収費、医療費適正化特別対策事業費など前年度比164万4,000円を増額し1,507万3,000円を計上しています。

２款，保険給付費の合計は、前年度比3,412万8,000円を増額し、11億9,098万円を計上しています。

３款，国民健康保険事業費納付金は、前年度比650万1,000円を増額し、３億7,491万1,000円を計上しています。納付金については、被保険者数や医療費実績などをもとに、県で算定された額を計上しています。

４款，保健事業費は、短期総合健診助成金や特定健診事業費などで161万2,000円減の、4,141

万3,000円計上しています。

５款，基金積立金から７款，諸支出金までは前年度並みの計上です。

８款，予備費は予算の調整として、前年度比560万6,000円を減額し、230万4,000円を計上しています。

国民健康保険事業に関しましては、特徴としまして２点ございます。１点目としましては、団塊の世代が後期高齢者医療保険へ移行することなどから、被保険者数の減少がありますが、歳入の１款，国民健康保険料、６款，基金繰入金の減額に影響しています。

２点目としましては、被保険者数が減少しているにもかかわらず医療費は増えていること。つまり１人当たり医療費が増加していることが特徴として挙げられます。

歳入の４款，県負担金。歳出の２款，保険給付費。３款，国民健康保険事業費納付金の増額につながっています。

以上で、令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計当初予算の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）

次に議案第11号　波佐見町後期高齢者医療特別会計予算について、内容説明を求めます。

子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

議案第11号　令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計当初予算について概要を説明いたします。歳入歳出の予算の総額を２億2,300万円と定めるものです。

２ページをお願いします。歳入の主なものとして、１款，１項，後期高齢者医療保険料１億4,180万5,000円を計上しています。前年度比1,136万3,000円の増額です。３款，１項，一般会計繰入金は、事務費分と保険基盤安定分で7,124万8,000円、前年度比665万7,000円の増額です。５款，諸収入は前年度並みで、健診委託に係る広域連合からの収入などで901万3,000円を計上しています。

続いて歳出です。３ページをお願いします。１款，総務費は事務費などで978万7,000円を計上しています。前年度比36万1,000円の増額ですが、健診委託料の増額を見込んでいます。

２款，後期高齢者医療広域連合納付金は、前年度比1,794万円増の、２億1,217万7,000円を計上しています。後期高齢者医療保険制度につきましては、２年ごとに保険料が改定されることとなっており、令和６年度に増額改定の予定です。

75歳以上の被保険者数、1人当たり医療費の増加に加え、医療保険制度改革で、出産育児一時金の費用の一部を後期高齢者にも御負担いただき、全世代で公正公平に、支え合う社会保障制度とされたこともあり、

歳入１款，保険料、歳出２款，納付金の予算を増額したものです。

以上で、令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計当初予算の概要説明を終わります。

○議長（百武辰美君）

次に、議案第12号　波佐見町介護保険事業特別会計予算について内容説明を求めます。

長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

議案第12号　令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計予算について御説明申し上げます。

歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ13億6,900万円と定めるものでございます。一時借入金は地方自治法第235条の３第２項の規定により、最高額を2,000万円と定めています。

２ページをお願いいたします。歳入について御説明いたします。１款，保険料第１号被保険者保険料は総額で前年度比518万円減の２億9,250万円を計上しています。４款，国庫支出金。５款，支払い基金交付金。６款，県支出金は前年度実績を見込み、それぞれ計上いたしており、総額で636万1,000円増の８億6,842万8,000円を計上しております。増額の理由といたしましては、主に歳出側の２款，保険給付費及び３款、地域支援事業費の増によるものです。

４ページをお願いいたします。歳出について御説明いたします。１款，総務費として、介護保険の事務に係る経費を前年度比207万9,000円減の1,122万3,000円計上いたしております。減額の理由といたしましては、主に令和５年度策定いたしました第９期介護保険事業計画の策定経費がなくなり、減額となったものです。

２款，保険給付費は前年度実績を基に計上しており、前年度比900万円増の12億2,300万円を計上しております。

３款，地域支援事業費は、前年度比1,220万9,000円増の１億1,641万円を計上しております。増額の理由といたしましては、主にデイサービスなどの通所型サービス事業費負担金の増と、会計年度任用職員１名分の雇用見込みによるものとなっております。

以上で、令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計予算の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）

次に、議案第13号　波佐見町上水道事業会計予算について、内容説明を求めます。

水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

それでは議案第13号　令和６年度波佐見町上水道事業会計予算について説明します。業務の予定量は、給水件数を6,043件、年間給水量を128万3,000立方メートル。１日平均給水量を3,515立方メートルとしています。

主な事業は浄水施設整備事業費1,800万円。配水施設整備事業8,200万円を予定します。

２ページをお願いします。収益的収入及び支出の予定額になります。収入は水道事業収益を２億9,550万2,000円とします。前年度比で464万5,000円の増になります。支出は水道事業費用を２億7,435万3,000円とします。前年度比で15万円の減になります。

次に資本的収入及び支出の予定額になります。収入は資本的収入を5,300万円としています。前年度比で148万9,000円の増になります。支出は資本的支出を１億8,092万7,000円としていま

す。前年度比で２万円の増になります。資本的収入額が、資本的支出額に対し不足する額、１億2,792万7,000円は、過年度分損益勘定留保資金で補填するものとしています。

３ページをお願いします。企業債については配水施設整備事業費を目的として、限度額5,000万円とし、起債の方法、利率、償還の方法については一般会計と同様でございます。

次に予定支出の各項の経費の金額を流用することができる場合を、営業費用と営業外費用としています。

次に、議会の議決を得なければ流用することが出来ない経費は、職員給与費4,031万9,000円としています。

次に児童手当に要する経費のため、一般会計から補助を受ける金額は123万6,000円としています。前年度比で８万6,000円の減になります。

４ページをお願いします。たな卸資産購入限度額は500万円としています。

８ページをお願いします。令和６年度上水道事業会計予算の調整にあたり、８ページから予定キャッシュフロー計算書、給与費明細書、債務負担行為に関する調書、令和５年度予定損益計算書、令和５年度及び令和６年度の予定貸借対照表を記載しています。

飛びまして24ページをお願いします。予算の主な内容について予算説明資料で説明します。収益的収入及び支出になります。まず収入ですが、１款，１項，１目．給水収益は予定額を２億8,050万円としています。前年度比で330万円の増になります。３目．その他の営業収益は、予定額を408万3,000円としています。前年度比で132万1,000円の増になります。25ページをお願いします。

２項，２目．他会計補助金は予定額を123万6,000円。３目．長期前受金戻入は、予定額を944万3,000円としています。

26ページをお願いします。支出になりますが、１款，１項，１目．原水及び浄水費の予定額を5,716万9,000円としています。前年度比で439万8,000円の減になります。委託料は2,239万8,000円で、前年度比196万円の増。26ページの動力費を2,052万円とし、前年度比で778万8,000円の減としています。電気代が高騰していたため、令和５年10月使用分から、契約先の見直しを行った結果、大幅な減額になる見込みであるためでございます。

２目．配水及び給水費の予定額は1,613万3,000円としています。前年度比で64万4,000円の増になります。

29ページをお願いします。４目．総係費は予定額を5,696万円としています。前年度比で178万1,000円の減になります。９ページの給与費明細で確認していただければ分かると思いますが、人件費に係るもので127万2,000円の減が主な要因です。

31ページをお願いします。５目．減価償却費は、予定額を１億1,642万9,000円としています。前年度比で450万1,000円の増になります。６目．資産減耗費は予定額を前年度と同額の405万円としています。

32ページをお願いします。２項，１目．支払利息及び企業債取扱い諸費は、予定額を1,327万円としています。企業債利息になりますが、前年度比で43万7,000円の減になります。２目．消費税は予定額を927万1,000円としています。前年度比で132万1,000円の増となります。

33ページをお願いします。資本的収入及び支出になります。収入は１款，１項，１目．企業債で予定額を5,000万円としています。前年度と同額になります。建設改良費等の財源に充てる上水道事業企業債になります。２項，１目．工事負担金は予定額を300万円としています。前年度比で150万円の増になります。消火栓等の設置工事負担金になります。

34ページをお願いします。次に支出になります。１款，１項，１目．固定資産購入費は、予定額を800万円としています。前年度と同額になります。２目．建設改良費は予定額を１億円としています。前年比と同額になります。老朽管布設替工事を７件、機械電気設備工事を１件のほか、町道改修工事に伴う配水管の布設工事のほか、水道施設関係を予定しております。２項，１目．企業債償還金は、予定額を7,292万7,000円としています。前年度比で２万円の増になります。

以上で、議案第13号　令和６年度波佐見町上水道事業会計予算の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）

次に、議案第14号　波佐見町下水道事業会計予算について、内容説明を求めます。

水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

それでは議案第14号　令和６年度波佐見町下水道事業会計予算について説明いたします。

業務の予定量は接続件数を2,560件、年間総配水量を59万立方メートル、１日平均配水量を1,616立方メートルとしています。主要事業は管渠建設工事、6,694万1,000円を予定します。

２ページをお願いします。収益的収入及び支出の予定額になります。収入は下水道事業収益を３億7,280万1,000円とします。前年度比で263万4,000円の増になります。支出は下水道事業費用を３億7,123万5,000円とします。前年度比で1,266万8,000円の増になります。

次に資本的収入及び支出の予定額になります。収入は資本的収入を１億3,122万5,000円としています。前年度比で598万5,000円の増になります。

支出は、資本的支出を２億1,928万7,000円としています。前年度比で128万1,000円の増になります。資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額、8,806万2,000円は、当年度分損益勘定留保資金8,806万2,000円で補填するものとしています。

３ページをお願いします。企業債については下水道事業を目的とし、限度額3,610万円とし、起債の方法、利率、償還の方法については一般会計と同様でございます。

次に一時借入金の限度額は4,000万円としています。

次に、予定支出の各項の経費の金額を流用することができる場合を、営業費用と営業外費用としています。

次に、議会の議決を得なければ流用することが出来ない経費は、職員給与費3,314万2,000円としています。

４ページをお願いします。下水道事業に助成するため、一般会計から補助を受ける金額は２億1,722万2,000円としています。令和６年度下水道事業会計予算の調整にあたり、９ページから予定キャッシュフロー計算書、給与費明細書、債務負担行為に関する調書、令和５年度予定損益計算書、令和５年度及び令和６年度予定貸借対照表を記載しています。

ページ飛びまして25ページをお願いします。予算の主な内容について予算説明資料で説明いたします。収益的収入及び支出になります。まず収入ですが、１款，１項，１目．下水道使用料は予定額を9,440万円としています。前年度比で396万9,000円の増になります。２目．負担金は予定額を621万3,000円としています。前年度比で36万6,000円の減になります。雨水処理に係る負担金で、雨水処理関係については一般財源で負担するものであるため負担金として繰入れているものでございます。

26ページをお願いします。２項，２目．他会計補助金は、予定額を１億5,508万7,000円としています。前年度比で166万6,000円の減になります。上水道事業会計補助金は504万9,000円になりますけども、水道課長の人件費負担分で一般会計補助金１億5,003万8,000円は下水道事業の運営に対する補助金でございます。３目．長期前受金戻入は予定額を１億1,402万1,000円としています。前年度比で79万2,000円の増になります。５目．雑収益は予定額を280万円としています。前年度と同額になります。公営企業適用債になります。

27ページをお願いします。支出になりますが、１款，１項，１目．管渠費の予定額を1,333万8,000円としています。前年度比で307万8,000円の増になります。主なものは光熱水費253万5,000円で64万6,000円の減になります。修繕費は環境施設の修繕のため30万円を新たに計上しています。これまで小規模な修繕については、補正予算で対応していましたが、供用開始から19年が経過し、修繕の頻度も増えてきたため、当初予算で計上しているものでございます。工事請負費は150万円で、324万1,000円の減。委託料は801万9,000円で618万円の増になります。下水道施設である汚水ポンプについては、機器の長寿命化のため定期的なオーバーホールを実施しています。

これまで工事請負費に計上しておりましたが、業務内容から宅内委託料に組み替えるものでございます。

28ページをお願いします。賃借料50万5,000円で49万5,000円の増になります。新たにマンホールポンプへの流入量をリアルタイムで監視するマンホールポンプ場監視システム利用料を計上しております。流入量をリアルタイムで監視することにより、大雨時等に流入量が増加した際、適切な運転に切り替えることが出来、異常事態への対応や機器の長寿命化を図ります。

３目．処理場費の予定額は8,629万9,000円としています。前年度比で1,659万円の増になります。主なものは水道光熱費1,139万6,000円で、382万8,000円の減になります。上水道事業同様

令和５年10月使用分から契約先の見直しを行った結果、減額になる見込みがあるためです。

前年度に計上していました工事請負費はゼロ円で、613万円の減になります。管渠費同様、業務内容から委託料に組み替えるものでございます。委託料7,344万8,000円で、2,611万7,000円の増になります。浄化センターの機械及び電気設備については、機器の長寿命化のため定期的なオーバーホールを実施しています。

前年度に計上していました４条予算資本的支出の方ですけども、の処理場建設改良費の工事請負費の部分も、こちらのほうへ組み替えることとしております。

29ページをお願いします。５目．総係費は予定額を3,244万9,000円としています。前年度比で34万1,000円の減になります。令和５年度は一般職を４人で計上していましたが、令和６年度は３人としており給料、手当、賞与引当金繰入額、法定福利費引当金繰入額が減額になります。

31ページをお願いします。委託料は603万6,000円で、237万3,000円の増になります。令和５年度に村木郷のつつじケ丘団地の取り込みや、民間業者の宅地造成に伴い資産が例年より増加したことから、下水道台帳及び資産台帳作成業務委託料を増額して計上しております。

32ページをお願いします。６目．減価償却費は予定額を２億2,208万2,000円としています。前年度比で50万5,000円の増になります。２項，１目．支払利息及び企業債取扱諸費は、予定額を3,306万6,000円としております。前年度比で221万8,000円の減になります。３目．消費税は予定額を400万円としています。前年度比で43万3,000円の増になります。

33ページをお願いします。３項，５目．その他特別損失は０円で、538万円の減になります。令和５年度は企業会計への移行に伴い、前年度賞与引当金繰入分相当分、令和４年度分消費税及び地方消費税などを計上する必要がございました。

34ページをお願いします。資本的収入及び支出になります。収入は、１款，１項，１目．企業債の予定額を3,330万円としています。前年度比で650万円の増になります。３項，１目．他会計補助金は予定額を7,142万5,000円としております。176万5,000円の増になります。

一般会計補助金6,718万4,000円と、雨水処理負担金424万1,000円でございます。

５項，１目．国庫補助金は予定額を2,500万円としております。300万円の増になります。

35ページをお願いします。７項，１目．受益者負担金は、予定額を150万円としています。528万円の減になります。

36ページをお願いします。次に支出になります。１款，１項，１目．管渠建設改良費は、予定額を6,694万1,000円としています。786万9,000円の増になります。工事請負費の汚水管布設工事は、井石地区を予定しております。そのほか路面復旧工事を予定しております。

３目．処理場建設改良費は、３条予算の１款，１項，３目．処理場費の委託料に組み替えることから０円で、1,081万8,000円の減になります。

37ページをお願いします。３項，企業債償還金は、予定額を１億5,234万6,000円としており

ます。423万円の増になります。

以上で議案第14号　令和６年度波佐見町下水道事業会計予算の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）

次に議案第15号　波佐見町工業用水道事業会計予算について、内容説明を求めます。

水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

それでは、議案第15号　令和６年度波佐見町工業用水道事業会計予算について説明いたします。業務の予定量は給水事業所数は１社、年間給水量を14万6,000立方メートル。１日平均給水量は400立方メートルとしています。

次に収益的収入及び支出の予定額になります。収入は工業用水道事業収益を1,305万7,000円とします。172万5,000円の減になります。支出は工業用水道事業費を1,301万4,000円とします。171万5,000円の減になります。

２ページをお願いします。資本的収入及び支出の予定額になります。収入は資本的収入を1,060万円としております。130万円の増になります。支出は資本的支出を1,053万2,000円としています。131万3,000円の増になります。新たに固定資産購入費を117万4,000円計上しております。次に他会計からの補助金は、一般会計からこの会計に繰り入れるもので、1,450万円としています。

６ページをお願いします。令和６年度工業用水道事業会計予算の調整にあたり、予定キャッシュフロー計算書、令和５年度損益計算書、令和５年度及び令和６年度の予定貸借対照表を記載しております。

13ページをお願いします。予算の主な内容について、予算説明資料で説明します。収益的収入及び支出になります。まず収入ですが、１款，１項，１目．給水収益の予定額を915万4,000円としています。２万5,000円の減になります。２項，１目．他会計補助金の予定額は390万円としています。170万円の減になります。

14ページをお願いします。支出になりますが、１款，１項，１目．原水及び浄水費の予定額を208万円としています。43万6,000円の減になります。

15ページをお願いします。５目．減価償却費は、予定額を694万4,000円としています。84万円の減になります。

16ページをお願いします。２項，１目．支払い利息及び企業債取扱い諸費は予定額を304万7,000円としています。13万9,000円の減になります。２目．消費税は予定額を27万5,000円としています。17ページをお願いします。資本的収入及び支出になります。資本収入は１款，１項，１目．負担区分に基づかない出資金は、予定額を1,060万円としています。130万円の増になります。

主に企業債の元金償還に充てるものですが、令和６年度は固定資産購入費分を含みます。次

に支出になります。１款，１項，１目．建設改良費は、現在予定する工事はありませんが、30万円を計上しています。２目．固定資産購入費は、予定額を117万4,000円としています。電磁式水道メーターを購入するもので量水器については、７年で更新する必要があるためでございます。

１款，２項，１目．企業債償還金は予定額を905万8,000円としています。13万9,000円の増になります。

以上で、議案第15号　令和６年度波佐見町工業用水道事業会計予算の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）

ただいま議案第９号から議案第15号まで説明をいただきました。説明漏れなどございませんか。

子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

申し訳ございません。議案第９号一般会計当初予算のほうで１点説明漏れがございましたので説明させていただきます。

ページが105ページになります。４款，１項，２目．予防費の19節．扶助費の一番上、インフルエンザワクチン接種費ですけれども、予算額としましては前年度と同じ1,000万円でございますが、このうち対象者の拡大を行っております。これまで65歳以上の高齢者の方と、中学生までのお子さんを対象にしておりましたが、令和６年度からはこのお子さんの中で高校生のほうも対象にしたいというように考えております。以上で説明終わります。

○議長（百武辰美君）

ほかに説明漏れ等ございませんか。

それではお諮りします。ただいま議題となっております日程第15議案第９号　令和６年度波佐見町一般会計予算から、日程第21議案第15号　令和６年度波佐見町工業用水道事業会計予算の７件については、議長を除く12名の委員で構成する予算特別委員会を設置し、これに付託し審査したいと思います。御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

異議なしと認めます。

したがって議案第９号から議案第15号までの７件については、12名の委員で構成する予算特別委員会を設置し、これに付託することに決定しました。

お諮りします。ただいま設置されました予算特別委員会の委員の選任については、委員会条例第７条第４項の規定により、ただいま御手元に配付しました名簿のとおり指名したいと思います。御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

異議なしと認めます。

したがって、予算特別委員会の委員は、御手元に配付しました名簿のとおり選任することに決定しました。

しばらく休憩します。

午後４時15分　休憩

午後４時55分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

お知らせします。予算特別委員会の委員長に尾上和孝議員が、副委員長に脇坂正孝議員が決定した旨、通知を受けましたのでお知らせします。

また分科会を設置し、第一分科会の委員長に脇坂正孝委員が、副委員長に田添有喜議員。第二分科会の委員長に北村清美委員が、副委員長に岡村達馬委員が決定した旨、通知を受けましたので併せてお知らせをいたします。

以上で、本日の日程は全部終了しました。本日はこれで散会します。

御起立ください。お疲れでございました。

午後４時 56 分　散会

第５日目（３月４日）（月曜日）

議事日程

日程第１．町政に対する一般質問

横山 聖代 議員

持続可能な地域公共交通について

岡村 達馬 議員

１．道路・交通、及び農林業について

２．商工業について

澤田 昭則 議員

１．施政方針について

２．消費生活の支援について

３．副町長の選任について

田添 有喜 議員

１．住みよいまちづくりについて

２．教育行政について

濵本 秋人 議員

１．コミュニティバスについて

２．物価高騰対策について

３．高齢者支援について

第５日目（３月４日）（月曜日）

１．出席議員

１　番	前田　博司	２　番	濵本　秋人
３　番	澤田　昭則	４　番	岡村　真由美
５　番	田添　有喜	６　番	岡村　達馬
７　番	福田　勝也	８　番	城後　光
９　番	横山　聖代	１０番	欠　員
１１番	北村　清美	１２番	脇坂　正孝
１３番	尾上　和孝	１４番	百武　辰美

２．欠席議員

な　し

３．議会事務局職員出席者

議会事務局局長	林田　孝行	書記	一瀬　若菜

４．説明のため出席した者

町長	前川　芳徳	総務課長	福田　博治
企画情報課長	澤田　健一	商工観光課長	太田　誠也
庁舎建設推進室長	大橋　秀一	税務財政課長	古賀　真悟
住民福祉課長	井関　昌男	農林課長兼 農業委員会事務局長	伊藤　幸治
建設課長	本山　征一郎	水道課長	中村　和彦
長寿支援課長	松添　博	子ども・健康保険課長	石橋　万里子
会計管理者 兼会計課長	串島　佳織	教育長	森田　法幸
教育次長兼 給食センター所長	朝長　哲也	総務課総務班係長	坂本　昌俊
税務財政課 財政管財班係長	鶴田　秀幸		

午前10時　　開　会

○議長（百武辰美君）

御起立ください。おはようございます。

ただいまから、令和６年第１回波佐見町議会定例会第５日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめ御手元に配付のとおりです。

日程第１　町政に対する一般質問

○議長（百武辰美君）

日程第１．町政に対する一般質問を行います。

これから通告に従い、順次発言を許します。

９番　横山聖代議員。

○９番（横山聖代君）

皆さんおはようございます。新庁舎での初の定例会での一般質問トップバッターとして登壇できることに大変光栄に思っております。新たな波佐見町の幕開けとなる質問にするぞという気持ちで、挑みたいと思います。では、通告に従い始めます。

持続可能な地域公共交通について。

平成14年２月の道路運送法改正で、需給調整規制が廃止されたことに伴い、本町の路線バスは、平成14年３月末から平成24年９月末にかけて７路線が廃止されました。このような経緯から交通弱者対策や交通空白地解消の対策として、平成24年度から予約制乗合交通「のんなっせ号」が運行をスタートしました。その間、停留所や便数の増設等の改善策が図られてきましたが、12年が経過しようとしている今、見直す時期が来ていると考えます。

そこで、次のことを問います。

（１）現状の問題点、課題はなにか。

（２）地域公共交通会議のメンバー及び位置づけは。

（３）自治体に求められる公共交通施策をどう捉えているか。

（４）自治体ライドシェアに対する見解は。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

皆さんおはようございます。それでは、９番　横山聖代議員の御質問についてお答えをいたします。持続可能な地域公共交通についてということで、

（１）現状の問題点、課題は何かというお尋ねですが、本町における乗り合い交通については、バス路線の廃止に伴う交通空白地の解消や、交通弱者対策として、平成24年から運行を開始しており現在で12年が経過しています。

運行の形態としましては、町内のタクシー事業者２社に委託をし、12の路線を配置するとともに各路線週３回、１日あたり４便の定時、定ルートで運行しており料金は片道200円となっております。これまで停留所や便数の増設などを行い、利用者数も制度開始当初から少しずつ増加してきており、発足当初から62%の増加となっています。

予約制乗り合い交通の前提となっているものについて御説明いたしますと、バス路線との共存、タクシー事業とのバランスが重要であり、このことからバス路線上の移動に関しては、路線競合となるため乗り合い交通の停留所の設置に一定の制約があります。お尋ねの現状の問題点課題ですが、利用者に対する課題は電話予約が面倒であること。バス路線上には停留所が設けられず、バス路線付近の住民は利用が困難であること。停留所が遠い、利用者が望むダイヤの設定が難しいなどがあり、バス、タクシーなどの公共交通事業者の課題としては、乗り合い交通の予約や報告などがアナログであり、手間がかかることや、乗務員の確保が難しく柔軟な運行体制が構築出来ないことなどが挙げられます。

（２）地域公共交通会議のメンバー及び位置づけはとのお尋ねですが、地域公共交通会議は、地域のニーズに応じた多様な形態の運送サービスの普及を促進し、旅客の利便を向上させるため、地域の実情に応じたバス運行の対応及び運賃、料金、事業計画等について、地方公共団体が主催者となり地域の関係者による合意形成を図る場として、平成18年10月の改正道路運送法に位置づけられました。

また法令に規定される市町村が主体となる地域公共交通に関する協議組織は、道路運送法に基づく地域公共交通会議と、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づく法定協議会があり、本町が活用しているのは前者の地域公共交通会議となります。

本町の地域公共交通会議は、自治会の代表者や老人会、婦人会の代表、バスやタクシーなどの交通事業者や労働組合代表、タクシー協会、警察、運輸局、町で組織し近年は特に乗り合い交通に関する議題を中心に協議しています。

（３）自治体に求められている公共交通対策をどう捉えているのかとのお尋ねですが、地域公共交通に対して自治体に求められる役割として、地域住民の移動手段の確保、まちのにぎわいの創出や健康増進、観光客などの人の交流の活発化などが挙げられます。

地域公共交通の整備は、地域住民の移動手段だけでなく、まちづくり、観光、健康、福祉、教育環境等、様々な分野で大変重要な政策であり、今後確実に進んでいく少子高齢化社会において、公共交通や自家用車での輸送だけでは対応出来ない時代がすぐそこまで来ていることを踏まえ、直ちに対策を講じる必要があると考えています。

これまで路線バス、乗り合い交通、タクシーと異なった３層の各交通が、それぞれがその役目を担い、町民の移動手段を確保してきましたが、今後はさらに自家用有償旅客運送や介護や障がい者への移動支援など、包括的な交通体系の在り方を住民の皆様も参画していただきながら、検討していく必要があると考えています。

このことから新年度の予算により、地域公共交通計画の策定に係る予算を計上しており、計画の策定において、本町における公共交通の現状把握や課題の洗い出し、バス路線やタクシー、乗り合い交通などの公共交通の利便性向上や他の移動支援の検討などを行うようにしております。

本町における地域公共交通の在り方について、今後さらに研究・検討を進めていきたいと思います。

（4）自治体ライドシェアに対する見解はとのお尋ねですが、ライドシェアとは移動手段である車と、それを運転するドライバーをシェアリングする新しい移動のかたちです。スマートフォンアプリなどで配車を依頼し、タクシーのように利用する形式が一般的なライドシェアの仕組みとなっています。つまり、現状のタクシー事業では不足している移動の足を、地域の自家用車や一般ドライバーを生かしたライドシェアで補うこととするものです。

現在の公共交通は、バスやタクシーのように専門のドライバーが専用の車両を運転するケースがほとんどで、法律で多くの規制が課せられており事業の許可制や第二種免許と呼ばれる免許制度が代表的な規制です。このような中で、危機的なドライバー不足を解決するために、このような規制を緩和してライドシェアを解禁し、ドライバーを確保する政策が政府で検討されています。現在、全国でも自治体ライドシェアの導入について検討し始めた自治体も出始めており、今後この動きは増加していくものと思います。

一方で公共交通事業者の団体からはこの動きに対して、民業圧迫につながるのではないかとの懸念も出されているとも聞いております。

本町における自治体ライドシェアについては、地域公共交通計画の策定を行う際に、先進自治体の状況を踏まえながら、本町の課題を解決する手段となり得るのであれば、検討してみたいと考えています。

以上で壇上からの答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　横山議員。

○９番（横山聖代君）

まずこの質問をするために、私も道路運送法の編成等々勉強いたしましたが、めちゃくちゃ難しかったです。そして九州大学の教授が講師をされた勉強会に行かせてもらって、その資料も何度も読み返したのですけれども、どんどんやはり沼にはまっていきました。なので、こういった波佐見町でされているように需給調整規制が廃止されて間もなく「のんなっせ号」をつくり、続けられていることにまずもって感謝と敬意を表します。

しかし、人口推移の表ですがこのグラフをちょっと見ながら聞いていただきたいなと思います。平成24年は2012年ですが、そこから12年たって人口形態は確実に変化しておりますし、今後もしていきます。もちろんその間、老人クラブ等への説明会で周知を図り、停留所や便数を増やすなど改善されております。先ほど町長の答弁でもありました利用者も増加しております

が、「のんなっせ号」が路線バスの空白地全てをカバーできるものではないということです。

私は自治体に求められている公共交通とは、生存権にも匹敵すると思っております。まちづくりの土台にもなるもので、地域公共交通の再構築、移動制約者のための移動手段の確保。町長も言われました。様々な観点を取り入れて取り組むことだと思っております。

また本町はマイカーがあるとなんら不便は感じないのでしょうが、現在マイカー移動されている方も、路線バスが全て撤退されると、数年後、数十年後は生活に不便を来すという危機感を持ってもらい、地域の公共交通は住民自身がつくっていかないといけないという意識づけも重要だと思っております。

質問いたしますけれども、平成６年度より地域公共交通計画の策定に着手されるということで、一歩前進したなと嬉しく思っております。計画を策定するためには法定協議会が設置されますけれども、法定協議会のメンバーは大変重要と考えます。どのようなメンバー構成にされる予定でしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

地域公共交通計画の策定に係るためには法定協議会を設置しなければならないというようになっておりまして、その法定協議会のメンバーといたしましては、まず学識経験者。それから自治会、老人クラブ、婦人会、ＰＴＡなどの利用者の代表の方。それから運輸局――県ですね。長崎県それから警察、近隣自治体などの関係行政機関。そしてバス、タクシー、交通運輸労働組合などの公共交通事業者。そして役場内部の関係部署ですね。こちらの構成になります。

○議長（百武辰美君）　横山議員。

○９番（横山聖代君）

先ほどメンバーで学識経験者が出てきたので、よかったなと思っています。確かに道路運送法とか、それに付随するような法令等に熟知した人がいないといけないなと思っていたので、そこは安心です。

あと利用者なのですけれども、自治体、老人クラブ、婦人会、ＰＴＡ。この代表者と言われましたけれども、も、私はこの「のんなっせ号」を利用出来ない地区の住民だったり、あとは高校生の保護者だったり、昔我が子が高校生の頃に登下校を送迎されていたような、そういったリアルな住民の声も必要だなと思っておりますので、ちょっとそこあたりは検討していただきたいなと思います。

次に、地域公共交通会議と法定協議会の違いの説明をお願いします。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

地域公共交通会議と法定協議会の違いはというようなことでの御質問ですが、まず地域公共

交通会議につきましては、根拠法令が道路運送法になります。内容につきましては、乗り合いタクシーや、路線バス、タクシーなど、道路上で自動車を用いて、利用者から運賃を得て、運送サービスを提供するものが地域公共交通会議の協議の対象となります。本町におきましては、予約制乗り合い交通の運行に関する内容が、近年では主になっております。

国からこの乗り合い交通の運行認可をとる場合でも地域の利害関係者が参加する、地域公共交通会議において合意が得られること。これが前提となっておりますので、運行の事業認可を得るために必要な組織というようなことになります。

一方で法定協議会につきましては、根拠法令が地域公共交通活性化再生法という法令に基づき、組織をされることになります。この場合、鉄道や船なども含む全ての公共交通が対象となりまして、ここで協議される内容については、日常生活に必要な交通手段の確保について、まちづくりと連携しながら地域全体の交通網を広げる、つくり上げることを目指すほかに、地域公共交通計画の策定やその運用を行う場というようなことになります。

地域公共交通会議と法定協議会の違いというふうなことですが、先ほども述べましたように、地域公共交通会議はバス、タクシーそれから乗り合い交通などが対象になりまして、国の事業認可など事業規制に関わる組織というようになりますけども、法定協議会は全ての公共交通を対象としまして、地域公共交通計画の策定や、事業の実施及び評価について協議する組織となっております。

国の認可など事業規制に関連することは、法定協議会にありませんが、法定協議会には参加応諾義務がございまして、主催者から参加を要請された場合拒むことが出来ないことも違いとして挙げられます。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　横山議員。

○９番（横山聖代君）

地域公共交通会議は簡単に言いますといいますと、事業規制ができるけれども法定協議会はその機能はないと。法定協議会は参加応諾義務と結果尊重義務と。そしたら町が公共交通施策を行おうとしたときに、地域公共交通会議で民間事業者が拒否した場合には実効性が担保出来ないと。法定協議会を活用することで民間公共交通事業者をはじめとする様々な関係者を巻き込んだ取組を行うことができるということですよね。

地域公共交通会議と法定協議会は、機能が違うとはいえ参加する関係者はかぶるところが多いです。また法定協議会で策定した地域公共交通計画に基づく事業を具現化するためには、道路運送法上の手続が必要であることが多いため、地域公共交通会議と法定協議会を別々に設けるのではなく、一つの協議組織に両者の機能をあわせ持つようにしてはいかがかなと思うのですけれども、どうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

議員がおっしゃるように、地域公共交通会議と法定協議会の構成メンバーというのは、ほぼ同じような方々が組織されるというようなことになりますが、これは今後別々に開催するというようなことになると非常に効率が悪いというふうな側面もございます。

ですので、ほかの自治体によっては、この地域公共交通会議と法定協議会を同じ組織として、取り扱っているようなところもあるようですので、今後そういったところの事案を見ながら、もし今後組織変えするというふうなことになれば、検討していきたいというように考えております。

○議長（百武辰美君）　横山議員。

○９番（横山聖代君）

協議会の設置規約に両者の機能を持つことを規定すればできるとのことですので、そこはよろしくお願いしたいと思います。

次にですが、地域公共交通計画の策定にはどのくらい時間を要するのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

長崎県内でも多くの自治体がこの地域公共交通計画の策定に取り組まれているところではございますが、地域公共交通計画の内容としましては、住民アンケート調査それから公共交通事業者に対するヒアリング調査、公共交通乗降調査などを行いまして、地域や公共交通の現状把握それから課題の整理、基本的な方針の方針や具体的な施策の検討を行うため、作成については長い時間を要するというようなことになっております。ほかの自治体の実施状況などを見ますと、おおむね１年程度の期間を要しているようですので、本町も実施する場合はその程度の期間になるのではないかなというように考えております。

○議長（百武辰美君）横山議員。

○９番（横山聖代君）

方針を固めて具体的な計画策定に１年以上はかかるのかなと。それから交通網の導入や編成とかをされていくとしたら、軽くもっても３年、４年。多くて５年かかるのかなと思います。

生産年齢人口を、車に乗れる年齢層――老年人口と年少人口を足したのが車に乗れない年齢層と仮定して、ちょっとお話をします。2035年までは多いのですけれども、半々って感じになっているのかなと。2040年からはもうさすがにやはり、2040年問題というのがありますので、生産人口が少なくなっております。

これを見ていただいて、現在移動手段に困っている方、また数年後にはもっと増える。なら今すぐにでも既存の公共交通で改善できるところがあるはずだと思うのです。

左手が西肥バスさんの内海のバス停の時刻表で、右側が「のんなっせ号」の東地区の中尾湯無田線の時刻表なのですが、赤丸を見てください。路線バスが運行しない時間帯がこうやってあるわけです。その時間帯だけでものんなっせ号に乗車出来ない地区でも乗車可能にすると

か。こういったことを西肥バスさんには交渉出来ないのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

西肥バス路線が本町には佐世保嬉野線と川棚内海線という２路線が走っております。年々、ダイヤ改正等で１日の便数が減少したりとかというようなことも、近年では行われているようなところでございますが、そこの空いている時間帯に、乗合交通など運行出来ないかというふうなことでのお話ですけども、これまで西肥バスとは、乗り合い交通の利便性の向上のために、数度となく停留所の設置等が出来ないかなど交渉を行ってまいっております。しかしながらバス路線と乗り合い交通の競合については、民業圧迫になりかねないとのことから非常に厳しい交渉というようになっております。バス路線が運行しない時間帯でもあっても、認められていないというような状況がございます。

ただし先ほどもお話がありましたように、今後の人口推移等を見ますと、本町の公共交通の在り方も今後大きく見直しを図る必要もございますので、今後、地域公共交通計画を策定するにあたりまして、いろんな方々の意見を参考にさせていただきながら、もしくはまたは西肥バスさんの実情、現状等を把握をして、今後交渉などを進めていければなというふうに考えております。

○議長（百武辰美君）　横山議員。

○９番（横山聖代君）

確かに競合とかって民業圧迫。もちろん民間事業者は採算がとれる事業をするのが基本だから重々分かるのです。また来年度、もう来月からまた路線が減便するという記事が、２月29日に長崎新聞に載っておりました。やはり現に運行していない時間帯であれば、この西肥バスさんの守備範囲に進捗しないのではないかと思うわけですけれども、でもそしてそのニッチなところをカバーしていくのが行政の役割ではないかと思うのです。

年末に私、娘とちょっと佐世保までバスと電車を乗り継いで行ってきたのですけれども、三河内駅からの電車がうまいことなかったので、行きは早岐駅まで行って早岐駅から佐世保に行ったのです。帰りは川棚駅まで電車で行って、川棚からバスで帰ってきたのです。これはただただ遊びで行ったから、本当楽しい社会科見学だったのです。でもこれが高校生などの通学って考えると、とても不便だなと実感しました。

やはり西肥バスさんへ、もう新聞にも出ていたのですけれども、もう少しちょっと見直しをしてもらえないかというようなことをぜひ町長、トップセールスの交渉をしていただけないでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

西肥バスさんとのトップセールスをお願いしたいという御要望でございます。

以前、私が副町長時代に一度前の町長と本社を訪問しまして、トップセールスといいますか交渉、お話をさせていただいたこともございますが、その時点では大変厳しい御返答でございました。

必要に応じてトップセールスで事業を行うようであれば、私も出向いて話をさせていただきたいというように思います。ただ現状としてはやはり経営そのものが大変厳しい状況の中ではなかなか難しいものがあろうかと思いますけれども、そういった時間的折り合いがつけば、そういったものもとっていきたいなというふうには思っております。

○議長（百武辰美君）　横山議員。

○９番（横山聖代君）

まず分かりました。その件は一旦ちょっと置いていて。後で行きます。

次に行くのですが、昨年私の事務所に、お孫さんがおばあちゃんを連れて相談に来られた方がいました。そこで久々波佐見に帰ってきてびっくりしましたって言われていました。何かというと、おばあちゃんとおじいちゃんが病院に行くのに、病院代よりも高いタクシー代を払って行っていますと。バスがこんなにも減っているからタクシーを使うしかないのですと。年金だけの生活だからきついですと、切実に訴えられました。

相談に来られた方の住まいが「のんなっせ号」には乗車出来ない地区だったのですね。このように感じられている方というのはほかにもいらっしゃるはずです。ですので、特に高齢者の医療機関への通院対応。これどうしますか。

○議長（百武辰美君）　長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

交通弱者には多くの高齢者や障がい者等があたると思いますが、長寿支援課としても、介護予防の観点また、高齢者福祉の観点からも、重要だと考えております。

高齢者タクシー助成事業もその一環とはなりますが、その他連携という点になりますと私どもが進めております、支え合いの勉強会の中で皆様から移動支援の問題をあげられておりまして、特に高齢者には乗り合い交通の予約という面が大変だというお話をよくお聞きします。まずはそのあたりの改善等出来ないか、商工観光課や社会福祉協議会と一緒になって検討をしているところでございます。

その他、有償ボランティアによる移動支援が出来ないかについても支え合いの勉強会において協議をしているところです。以上です。

○議長（百武辰美君）　横山議員。

○９番（横山聖代君）

私ちょっと質問を少し飛ばしていたのですけど、すいませんありがとうございました。先ほど言われた連携ですね。私この連携の必要性を質問したかったのですけど、そこを飛ばしていまして申し訳ないです。

この連携の必要性というのが、交通弱者対策や交通空白地解消対策としての、この公共交通の単体で見みたら多額の予算がかかる。けれども介護とか福祉とか含めて、様々な費用をトータルで考えるとクロスセクター効果があるから質問したのですけれども。

クロスセクター効果とは、イメージ図を見ていただけると分かりやすいと思うのですが。ちょっと介護とか福祉の面だけでちょっと言うのですが、公共交通の利便性が高まることで、高齢者の外出機会が増えるなら、町長の答弁でも言われました高齢者の健康増進あと消費活動の増加につながって、結果として医療費や社会保障費が削減されるなど、むしろ予算全体、社会全体としての費用が下がる可能性があるとのことです。

そこで本町の介護給付費用を見てみますと、介護給付費用。令和４年の決算です。11億3,535万円で、要介護認定実人数、要介護１から要介護５の人数が730人で１号被保険者65歳以上が4,736人と。この令和４年度の決算の数字で計算しますと、１号被保険者に対する介護認定者数の割合というのが15.4％です。

１号被保険者に1人当たりの介護給付費を計算すると、約150万円ぐらいです。もし公共交通の利便性が高まって高齢者の健康増進につながり、この１号被保険者に対する要介護認定者数の割合が10％になるとすると、介護給付費用が約７億3,900万円となるので、約４億円の軽減につながるという試算です。

次のモニターをお願いします。しかしながらなかなか５％低くするというのは相当難しいです。なので、３％低くなった12％と計算すると、それでも約２億5,000万円の軽減につながるという計算になります。

こちらが単純計算であって、国とか県の負担額も入れてないです。町の全てが町の負担額ではありませんけれども、これでもクロスセクター効果があると言えます。

先ほど、長寿支援課長が言われました、支えまちづくり等とかで勉強会をされていると。こういった支え合いまちづくりの有償ボランティアによる移動支援もいいのですけれども、まだまだ有償ボランティアをされている自治会というのは少ないということもありますし、その自治会の方しか利用出来ない。

例えばですね、浜松市西区の庄内地区社会協議会さんでは自家用有償運送により、その地区内の方であれば利用できるようにされております。さらに本町にはないサービスではあるのですけれども、介護予防、日常生活支援総合事業の訪問サービスＤですね。移動支援も考えられると思うのですけれども、こちらはどうお考えでしょうか。

○議長（百武辰美君）　長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

庄内地区社会福祉協議会さんについては、社会福祉協議会が中心となって、タクシー事業者と住民が協力されて運行されており、高齢者の移動支援のみでなく高校生の通学課題などの解決などを期待されておりまして、大変すばらしい取組だと思っております。

昨年末から始まった事業とのことですので、今後の状況を見させていただきたいなと思っております。また議員言われました訪問型サービスＤですが、ＮＰＯ法人や社会福祉協議会、有償ボランティア団体などが実施をされるようであれば、通院や日常の買物の付添い支援として御利用いただける生活支援のサービスではございます。

ただし、介護保険のサービスの対象の方となりますので、補助の対象が基本チェックリスト該当者で――事業対象者と申しますが。これは認定を受けていないが要支援に準じる方が事業対象者と言いますけど、または介護認定で要支援の認定を受けている方が、基本的に対象になるものでございます。一応、他の方も利用できるとなっていますが、あくまで対象者が基本的に利用されるということになりますので、スポット的な事業になってまいります。

また福祉有償運送いわゆる介護タクシーとか、福祉タクシーを運行されている方との事業調整といいますか、民業圧迫のところにもならないかというところもありますので、その辺も考えないといけないかなと思っております。いずれにしても町全体の移動手段に困っている方の根本的な課題解決になるものでありませんので、乗り合い交通などとあわせて、総合的に検討していくべきものだと思っております。

○議長（百武辰美君）　横山議員。

○９番（横山聖代君）

先ほどからずっと地域公共交の計画の策定から、策定に時間がかかるからってことでその間どうするか様々な質問をさせてもらいましたけれども、まずは「のんなっせ号」予約制乗り合い交通かなと。この件は過去にも多くの同僚議員が言われておりましたけれども、乗降場所。あとダイヤ。波佐見町は路線固定型のデマンドであるのをもっと柔軟性を持たせて、利便性を高めていきいかないといけないと思っております。

デマンドの種類には４つあります。迂回型、路線固定型、起終点固定型、完全デマンド。この乗降場所とダイヤの組合せで様々なパターンのデマンド交通ができるということです。

例えばなのですが福岡県の宇美町。昨年の夏に産業厚生委員会で視察に行ってきまして、そこでは停留所はあります――ミーティングポイントって言われていましたが。ありますが、時刻表や決まったルートはなくて、ＡＩが予約の状況に応じて、運行ルートを考えながら走行する乗り合いバスでした。ワンボックスカーでした。

これが行きたい場所をアプリ内の地図で指定すると、乗車できる時間がドワーッと出てきます。そして、その時間を指定して乗車するようになっておりました。

その宇美町の場合は、乗降場所は迂回形かなと。ダイヤは完全デマンドのパターンかなと思っております。

以前は福祉巡回バスを運行されていたようなのですが、コミュニティーバスの一つかなと思うのですが。利便性の悪さを抜本的に解決するために、このＡＩのものを導入されたそうです。

本町もたくさん考えられた停留所があるじゃないですか。それを是非とも利便性の改善に柔軟に対応していただきたいのですけれども、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

ＡＩを活用したデマンド運行についてということで、先日土曜日の長崎新聞に東彼杵町が、今町営バスについてデマンドの実証実験を３路線で行ったというふうな記事も出ております。このように先ほど議員さんもおっしゃられたように、全国的にＡＩを導入して、予約制のデマンド方式の運行を行うような自治体も増えてきているような状況がございます。

本町におきましては、町長も答弁いたしましたとおり、電話予約ということで利用者の方も電話で予約していただいて、事業者もその電話予約を受けてアナログで配車等されているというようなことで、非常にここが課題になっているようなところもございます。

そこの課題について、いろいろ解消に向けた取組を行う必要があるというようなことは、当然認識をしているようなところでございますので、今後ほかの自治体の事例等も、宇美町もそうですけども。ほかの自治体の事例なども含めまして、本町の地域性とか特性、そういったものに合うようなかたちで、タクシー事業者とも協議を行いながらＡＩ型のデマンドの導入に向けて検討を進めていければというふうに考えております。以上です。

○議長（百武辰美君）　横山議員。

○９番（横山聖代君）

検討していただけるということで、ありがたく思います。

そもそもバスの運転さんとか、タクシーの運転さん自体が不足して、車も仕事もあるけど人手が足りないから運行出来ないという問題が、この波佐見町でも浮き彫りになってきていると思います――これ全国的ですけれども。まさしく2024年問題ですよね。

そこで自治体ライドシェアなのですけれども、町長も言われましたけれども、今年４月からタクシー会社の管理のもとで、地域を限定してなのですが、一般ドライバーが自家用車を使って有償で送迎するライドシェアが解禁されるということで。これが道路運送法で言ったら78条の３号です。タクシー事業者による民間ライドシェアだから３号ライドシェアと言うそうで。それに対して自治体ライドシェアが、この道路運送法78条２号の分だから、２号ライドシェアと言うそうです。

今年から、今月から10自治体で２号ライドシェアが先行実施されるとのこともあります。国では、今年の６月までにダイヤのところにあるのですが、雇用契約に限らないドライバーの働き方。あと自家用有償旅客運送の適用対象の拡大。あとダイナミックプライシングの導入。あと地域公共交通会議等の協議で市長の権限。あと業務委託、新規参入。こういったものについて議論されていくという報道があっておりました。

また活力ある地方をつくる市長の会で、自治体ライドシェア研究会というものを作られて、

この１月末に第一次答申書が出ておりましたので、拝読させてもらいました。そしたら車両を２号で使用することも可能と。運行区域外の病院への送り迎えもできると。それをタクシー会社が使用していない車両を自治体ライドシェアでもすることが可能ですよと。それが書いてありました。

ぜひ本町もいろんな「のんなっせ号」もしかりなのですけど、足りないところをそういった違うもので補っていき、地域の移動手段の確保に努めていただきたいのでぜひ検討材料の一つにしてほしいのですけれども、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

自治体ライドシェアについてということで、町長も答弁で言いましたとおり、今現在としては乗り合いバス、それから乗り合い交通とタクシーと、異なった３層の交通がそれぞれの役目を補い、町民の移動手段を確保しているというような状況でございます。

先ほど議員さんもおっしゃっているように、この３層の各交通分野だけでは、今後対応出来ないというふうなところがもう既に出てきているようなところでございますので、今後の本町における公共交通を考えたときに、いろんな手段を活用しながら町民の利便性を高めていく。というようなところが重要なのではないかなというふうに考えております。

その中で、自治体ライドシェアも先行自治体でどのような状況をされているのか。まずそこの情報収集と、運用実態の確認をしながら本町のタクシー事業者とも十分協議検討を行い、本町に合わせて非常に適切といいますか、本町の実態に即したような、導入を進めるような方向なども今後検討できるものは検討していきたいというように考えております。

○議長（百武辰美君）　横山議員。

○９番（横山聖代君）

内海川棚線の赤字補填の推移です。年々上昇していますね。もう一目瞭然で上昇しています。私が議員になって、今まで確かにこの路線バスの赤字補填がどんどん上昇しているから、もう路線バスを廃止して町営で何かすればいいじゃないって思っていたのです。

でも先ほど言いましたけれども、昨年の夏に勉強会に行って、資料もずっと読んでいた時にこの考えが変わりました。先ほども申し上げたクロスセクター効果もそうなのですけれども、地域公共交通というのは、もう町長も太田課長も言われていますけれども、移動手段の確保、充実あっての高齢者支援だったり、移住定住だったり、子育て支援、産業振興になると、様々な施策の土台となり得るものだと。

そのためにはまちづくりの重要な位置づけにして、クロスセクター効果もしっかり考え、交通分野における単なる赤字補填ではなく、地域を支える効果的な支出と捉え予算をしっかり確保していただきたいなと、そういう考えになりました。

また先ほどからずっと民業圧迫とか言われています。確かに民間公共交通の事業者との共存

共栄。これもしっかりやっていかないといけないと本当私も思っております。しかし2024年問題で人手不足に輪をかけて、また来月から始まります働き方改革。ドライバーの時間外労働の上限規制、あと拘束時間の上限基準も変わります。それに対する政府の対応というのが自動運転ですよね。自動でヒューっと行く、人がいなくてヒューと行く。自動運転などに対する経済的支援です。

しかし近隣のバスとか、バス会社とかタクシー会社さんは中小企業であって、ＤＸを実現する時間的、余裕あと経済的な体力があるかといえば、無いに等しいと思います。国がＤＸに対する支援しかしないなら、それ以外は自治体がしないといけない。でも、本町のみでできるものでもないと思っています。

なら広域で佐世保市とか、県を跨ぐけれど有田町とか嬉野市とか。県は跨がないですが、川棚町、東彼杵町とか。もうこう近隣一帯の広域でタッグを組んで、取り組んでいかないとと思っております。そこを町長に答弁してもらいたいのですけど、あと一つごめんなさい。本町は民間公共交通の事業者との「のんなっせ号」の連携にとどまらず、各所管との連携もしっかりしていってもらって、地域公共交通の利便性を高め、進めていってもらいたいって思う反面ですね。現在商工観光課の担当者さんが、ほかの業務に従事しながら片手間でこの地域公共交通に関する仕事をされています。私も勉強してめちゃくちゃ難しいなと本当思ったのです。

公共交通関係の法制とか熟知するには相当難しいし、各種情報を収集して、分析して、整理して。そういうのもままならないのではないかなと考えたら、この地域公共交通を選管的に所掌する課など――課が出来なかったら係でもいいです。創設することが持続可能な地域公共交通の体制整備を実現する全前提条件じゃないかと考えるわけですけれども、町長見解をお願いします。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

おっしゃるとおり、公共交通この交通体系というのは非常に重要な問題であろうかと思います。しかし、現在において本町で解決すべき行政課題は多種多様に渡っておりますので、今後波佐見町の人口が2060年ですから、9,000人まで減るというような予想もなされておりますが、そういった中において職員をこれ以上増やすというのは非常に厳しくございます。

そういった中において、先ほど申した多種多様な行政需要を解決していくためには、なかなかそこに公共交通のみに専任をするような職員を配置するというのは、現状では大変厳しいものがございます。

でもおっしゃることはよく分かりますので、そういったものの専門性を持った方に依頼、ある程度そのコンサルに入ってもらって、その地域公共交通計画というのは策定されているものと思います。現状の分析であったり、それらの方策であったり、あるいは他市町の先行事例等の検討ですね。

そういったものを職員のみじゃなくて、そういった方のお力をお借りしながら、策定していきたいと思いますので、現状では専任の係あるいは専任の担当職員を配置するようなことは考えておりません。

申し訳御座いません。前段どのような質問でしたでしょうか。確認でよろしくお願いします。前段の質問をもう１回お願いします。

○９番（横山聖代君）

長く質問したので申し訳ないです。2024年問題で、この働き方改革が輪をかけて、ドライバーの時間外労働の条件とか拘束時間の上限基準が変わることで、国がそれに対する対応が自動運転に対する経済的支援だけです。

でも、バスや近隣のバス会社やタクシー会社というのは中小企業会社が多いですので、このＤＸを実現するための時間的余裕とか、経済的体力がないに等しいと思っています。国がＤＸしかしないのならそれ以外は町がしないといけないと思うのですが、波佐見町だけでは到底簡単ではない。だから近隣の市町村とのタッグを組んで取り組んでいってほしいというところです。共存・共栄をしっかりしてほしいということが前提でお願いします。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

大変失礼いたしました。おっしゃるとおり確かに町単独ではなかなか解決出来ない問題、あるいは隣接する市町と協議、情報共有しながら解決すべき問題たくさんあろうかと思いますので、折を見てそういった話を議題に上げながら協議をしてまいりたいと思います。ただそれがすぐに実現可能なのかどうかは別として、そういったものの必要性は感じております。

○議長（百武辰美君）　横山議員。

○９番（横山聖代君）

終わろうと思ったのですけど、ここ本当しっかりしていってほしいです。

もう民間事業者の事業圧迫とか分かるのですよ。でも、やはり行政というのはニッチなところをちゃんとカバーしていってもらいたい。でも民業圧迫になるところがあるから、そこはしっかり地域にある事業者さんの公共交通がしっかりあった上で、町がその周りをカバーする。そこが地域公共交通の土台をつくるのではないかと私は思っております。そこに予算がたくさんかかっても、やはりクロスセクター効果をしっかり考えて、これは公共交通だけの問題じゃなくて、まちづくりの土台になると思っておりますので、本当町長ここしっかりよろしくお願いしたいです。

もう一度答弁お願いします。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

そういう重要性を再認識しながら、しっかりと検討してまいりたいというふうに思っており

ます。

○議長（百武辰美君）

９番　横山聖代議員の質問を終わります。

しばらく休憩をいたします。11時10分から再開します。

午前10時55分　休憩

午前11時10分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、６番　岡村達馬議員。

○６番（岡村達馬君）

おはようございます。お疲れさまです。

通告に従い一般質問を行います。

施政方針について。

１．道路・交通及び農林業について。

道路・農業政策方針については、具体的な施策方針が見られなかった。

特に道路等公共事業や農林業事業は地区からの要望を優先していると思うが、本町としての確としたプランが必要と考えます。

そこで、次のことを問います。

（１）町道の道路整備は、町が中長期的な計画を定め町民に提示するものと考える。また、近年の自然災害等を踏まえ２方向以上の避難に耐えるためのスピード感も必要だと思うがどうか。

（２）農林業の施策については、個々への支援や普及振興は見てとれるが、町としての施策や、経営計画が具体的に見えない。保全する地区や開発する地区を定め、事業を実施すべきだと思うがどうか。

２．商工業について。

商工業については、施政方針の中に課題と対策が述べられております。議会としても窯業関係団体との意見交換会を行ったが、共通する課題があり対策が急がれます。

そこで、次のことを問います。

（１）波佐見焼を大きくクローズアップさせてきた東京ドームテーブルウェアの開催が、日時と場所の変更により規模が縮小され、入場者数と売上等が縮小したと聞いております。

今後の対応はどうするのか。

（２）現在、窯業界における就労経営形態として高齢者化が進んでいます。しかし、若い人たちが就労したいという希望も少なくありません。新しい人材確保をどのように図っていくのか。

（３）「物流2024年問題」として、トラックドライバーの労働時間の上限が設けられる。こ

のことによりトラック輸送が減少し、「物が運べなくなる」「物が作れなくなる」の問題が発生する。行政としての対応はどうするのか。

（４）波佐見焼の知名度を上げるための施策は、これまで多く行われ実績を残してきた。全国の多くの伝統的工芸品のやきもの産地は記念切手を発行しております。しかし波佐見焼きはありません。町として展開できる一つだと思うが動けないか。

以上、壇上からの質問を終わり、詳細については発言席より行います。

○議長（百武辰美君）　町長。

○６番（岡村達馬君）

６番　岡村達馬議員の御質問についてお答えをいたします。

１．道路・交通及び農林業について。

まず道路・農業施策方針については、具体的な施策方針が見られなかった。という感想をいただき、（１）町道の道路整備は、町が中長期的な計画を定め町民に提示すべきものと考えるということで、近年の自然災害等を踏まえ２方向以上の避難に耐えうるためのスピード感も必要だと思うが、どうかというふうなお尋ねでございますが、道路の整備については具体的な施策方針が見られなかったということでありますが、主要な道路の整備は以前からの計画に基づき整備を行っており、進めているところでございます。

現状においては、全体的にある一定の整備は果たされたものと思っており、これからは維持管理が重要と考えているところです。中長的な計画については、一定の方向性を示すことは可能かと思われますが、地域からの要望を優先して対応を行っておりますので、ある意味スピード感を持った対応が出来ていると思っております。

災害を意識した路線の整備も当然実施していくべきものとは理解をしておりますが、各地域からの要望は常に寄せられており、その内容いかんでは優先順位も入れ替わることもありますので、計画を立てるというより時代の流れや、社会状況を考慮しながら柔軟に対応していきたいと思っております。いずれにしましても住民の生活を支えるインフラの整備として、近年は災害時の安全確保という視点は重要と考えておりますので、様々な問題の整理を行い適切な道路ネットワークの構築に努めていきたいと思っております。

（２）農林業の施策について、保全する地区や開発する地区を定め事業を実施するべきだと思うがどうかとのお尋ねですが、これにも町としての施策や計画が具体的に見えないとのことでありますが、施策としてはソフト事業を中心として、農林業の振興という大きな柱のもと担い手の育成支援、農地の保全と高度利用、老朽化した農林施設の改修等の取組、中山間地域等直接支払交付金、多面的機能支払交付金、小規模農林事業を活用しながらの農地の維持、有害鳥獣対策としてのワイヤーメッシュの更新や新設、猟友会に対する支援また地域おこし協力隊の雇用による支援等も計画しています。

農地に関する土地利用計画の施策や計画については、農業者の意見や考えを基本に、水田の

フル活用としての米や大豆の後作に、麦の栽培の推進や高収益作物への転換を考えています。

保全する地区や開発地を定め事業を実施すべきとの御指摘ですが、農地として保全すべき土地は農振農用地で指定をしておりますし、中山間地についても一定要件のもと指定をして、交付金事業が展開されています。また岳辺田地区、駄野地区においては、２度目の基盤整備事業を完了しており、新たな地区の掘り起こしに向けて全体説明会を開催しています。その中で関心が高い地区については、その後に個別説明会を開催し、今後条件等が整えば事業実施に向けて進んでいくことが予想されます。

そのほかに県営事業での農業用ため池の改修事業や、農地の利用状況に応じてため池の統廃合を予定しています。根本的な問題は、後継者不足によることに起因しており、幅広い世代での新規就農者の獲得に向けて進めて行くことも必要だと考えています。

２．商工業について。

（１）波佐見焼を大きくクローズアップさせてきた東京ドームテーブルフェスティバルが縮小され、今後の対応策についての取組はどうするのかとのお尋ねですが、東京ドームテーブルウェアフェスティバルについては、波佐見焼振興会として町内の窯元、商社が平成18年から出展を始め、現在まで波佐見焼のブランド化や知名度向上に大きく寄与してまいりました。

消費者のニーズに合う波佐見焼いわゆるカジュアルリッチという、波佐見焼の価値を創造、確立し、全国に認知される産地としての地位を築くきっかけとなったイベントであります。このテーブルウェアフェスティバルが、令和５年12月開催においては、東京ドームでは行われず、別会場で規模を縮小して開催されたことに伴い来場者も売上げも大幅に減少しています。

今後もこのような状況での開催となる見込みであるため、今後どのように対応するか現在業界でも検討が行われています。

町におきましても、県とともにこのイベントへの出展に関する支援をこれまで行ってきた経緯もあり、業界の意向を踏まえ、これまで同様適切な支援を行えるよう対応を図ってまいります。

（２）窯業界における新しい人材確保をどのように図っていくのかとのお尋ねですが、業界における人材確保については、以前から喫緊の課題として取上げられており、特に生地事業者の後継者不足は深刻な問題となっております。また窯元や商社についても、変化する市場環境に対応できる人材の育成や確保が急務となっており、事業所によっては、スマートフォンアプリを活用した採用活動を行うなど、様々な対応が行われています。

業界における人材確保対策として、波佐見焼振興会を中心に窯業人材確保事業が実施されております。町内の窯元や商社においては、インターンシップを行い就業につなげる「オープン波佐見」では、昨年度３名の就業に結びつけることが出来ております。

また、後継者の育成として波佐見焼サクセッサー養成講座を開催し、大学生に対し波佐見焼の製造工程の実演や座学などを行っています。

しかしながらこれらの施策だけでは、課題の解決にはつながらないため、今後業界や行政だけでなく、建設業界なども参画する課題解決への協議も行われることから、業界の新たな取組に対し、行政もしっかりと支援を行っていきたいと考えております。

（３）「物流2024年問題」で、「物が運べなくなる」「物が作れなくなる」の問題が発生する。行政としての対応はとのお尋ねですが、物流2024年問題とはトラックドライバーの労働時間の上限規制により労働時間が短くなることで、輸送能力が不足し、物が運べなくなる可能性が懸念されているものです。

荷主に対して起こり得る想定としては、必要なときに必要なものが届かない。輸送を断られるなどの問題があると言われています。

また値上げされた運賃の原材料費への価格転嫁や、配達の遅れなども想定されています。行政の対応についてのお尋ねですが、まずはこの物流問題に対して、町内の事業者において、どのような状況にあるのか。またどのような影響があるのかを把握する必要があると考えます。今後状況を把握し、支援が必要であれば検討を行いたいと思います。

（４）波佐見焼の知名度を上げるため記念切手を出して、町としての展開で出してはどうかというふうなお尋ねですが、日本郵便のサービスでオリジナルフレーム切手の作成ができ、全国の伝統的工芸品の産地で記念切手を発行しているところもあると聞いております。記念切手を発行している産地を確認してみますと、産地でとりわけ大きな記念行事が開催されたりする際に、併せて記念切手が作成されているものや、日本郵便から産地へオリジナル切手が贈呈されている場合が多いようです。

波佐見焼の知名度向上については、これまで行われた様々な取組により一定の成果が果たされているものと考えており、業界としても波佐見焼の知名度向上の取組から、個社のブランド力強化への取組へとシフトしてきています。

波佐見焼の記念切手に向けた取組は、産地波佐見町の節目などをお祝いするための記念切手であるならば、検討する余地もあろうかとも考えますが、先に述べた業界の動向や費用対効果の観点からも、記念切手発行は現在のところ考えておりません。

以上で、壇上からの答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

先の12月議会においても町長のまちづくり計画について、少しお伺いをいたしました。今回は改めてハード面を中心に、まちづくりについてお伺いをしたいと思います。

元日の日に能登半島地震が起きました。被災地の皆様には心よりお見舞いを申し上げます。今回の地震において被災状況調査、現地把握の一番の妨げになったことの理由に、そこに行けなかった、その場所に入れなかったということが新聞報道等で大きく取上げられています。私は災害復旧工事に携わってきましたので、こうした自然災害等いつも波佐見町の状況に置き換

えてみております。

今回は地震が大きかったことが原因ではありますけども、避難の原則である２方向以上への避難インフラが壊滅になったということが大きく取上げられております。波佐見町も今後の道路政策には、これまでの利便性だけでなく、自然災害にも対応できるようにするべきだと強く思いました。

今回のこうした状況を見て、町長として能登半島地震どのようなかたちで見られておりますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

まずもって今回のこの地震については１日も早い復旧・復興を祈るものでございます。

この地震の状況についてどう思われたかというようなお尋ねでございますから、被害の大きさから、自然災害の怖さ、恐ろしさというものを痛感したところでございます。

また、このような災害は現在波佐見町ではあまり発生しないであろうというようなことは言われておりますが、これまで想定しなかった災害があちこちで発生しておりますので、発生しうるということも常に頭の中には置いておくべきものだというように考えております。

こういったものを参考にしながら今後の道路整備も進めるべきものだというようには考えております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

平成16年の波佐見都市計画を作成する折に、各自治会等に交通網の問題点をお伺いしたことがあります。そのときに多く出されたのは、隣の地区と普通に往来できる連絡道路がないことを挙げられたことを今回の能登半島地震の現状を見て思い出しました。

都市計画ですから当然、都市計画に見合わせてあることの必要性がありましたので、多くの要望物件はその対象から外れましたけれども、現在の波佐見町の道路インフラを考えますと、その必要性は十分に考慮するに値すると思います。

波佐見町は以前から中心部、いわゆるコアがないまちだと言われてきておりました。中心部から周辺に向けての発達していく町の形態ではありません。各地区が各々の集落をつくり、川棚有田線、佐世保嬉野線、いわゆる昔の往還道路から枝を張るようにして、発達してきました。それゆえに各地区を結ぶ道路が貧弱で、隣接地区に行くにも一旦県道まで降り、また県道から上がるという道路形態となっております。

波佐見町のこうした道路状況を踏まえ、自然災害にも対応できる循環する道路が必要だと思います。

また先ほどの、いわゆる「のんなっせ号」あたりも一旦いちいち県道まで降りてくる、循環するいわゆるライドがないってことも、ライド計画が出来ないということも、その大きな要因

だと思っております。

町長の考え方をお聞かせください。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

まず今回の大地震で２方向の道の重要性、以外の重要性といいますか。これは今回の地震を見てみますと、その町に行くそのものの道路が寸断されたということで、本町に考えますと先ほど議員が出された資料から言いますと、川棚町からも有田町からも、嬉野からも、あるいは山内、武雄市のほうからも、来られるようなルートの確保は出来ているのかなというように思っておりますので、その御指摘は若干ずれるのかなというふうな思いがいたしております。

ただし、おっしゃったように各地域をつなぐ循環道路があるべきだというふうなお話でございますけれども、これまでもいろいろな経験といいますか、地形の関係で作るに作れなかったという部分も多分にあろうかと思うのです。恐らくおっしゃるようなことは、理想に近いと思います。

私もそのような道路があれば非常に便利ではあろうかと思いますが、それに関わる経費の問題であるとか、あるいは造った上で果たして利用があるのかということを考えれば、今やるべきことは、どうしても不便をかけている基幹道路の整備であるとか、あるいは生活道路の充実というのがまずは優先すべき課題ではないのかなというように判断するところです。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

先ほどの路線図でも御理解いただいたと思いますけども、例えば鬼木郷から中尾郷、それからあるいは協和郷から志折郷ですね。八ツ尾線あたりのような、誰でも安心していける、あるいは避難できる一定の道幅がある道がほかの地区にはあまりありません。

平成２年災に県道川棚有田線の中で、川内の片渕のところが50センチほど水没いたしました。その結果、川内郷の方は身動きが出来なくなりましたし、町道面丁原線の井手ノ元橋あるいは小石原住宅の御堂橋のところが冠水しましたので、そこでもしばらく見動きが出来ない状態が発生いたしました。その後の道路改良で幾ばくかは解消されましたけれども、先ほども申しましたように、そう道路は多くありません。

これは金屋郷と田ノ頭郷をつなぐ井手ノ平線。それから小樽郷と野々川郷をつなぐ第二西ノ谷線ですけども、やはり昼間でもかなり暗く、道幅も狭く、いわゆる地区を結んではおりますけども、その対向車両等も非常に少なくて、災害時の避難道路にはなり得ないというふうに思いました。

事実、令和３年祭の時の開田地区ですけども、あそこは山ノ上地区から開田地区に至る道路がなかったら、孤立状態になったであろうとは想像に難くありません。

示している画像は、石川県志賀町の道路の通行止めになった幹線道路です。数だけ志賀町の

町内で23路線あって、赤でしているところが建物等の崩壊により通行止め箇所があるというように書かれております。町全体が麻痺状態に陥り、救援活動や避難状況把握、その他の救護活動も出来なかったというように書かれておりました。波佐見町でもこうした状況が出ないとは言い切れるものではありません。

こうした事実を踏まえて、これまでの安全性や利便性だけの道路改良工事等の理由に、もう一つ自然災害への対応への見直しということも早急に行う必要があると思います。通常町道は利便性や安全性を優先し、これまではあまり自然災害等を考えず、整備をしてまいりましたけれども、近年の頻発する自然災害や今回の能登半島地震からの教訓として、ふだんから備え、生かし、正しく恐れる必要があると考えます。

町長。こういった今後の道路改良工事、いわゆるスピード感等についてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

まずこれまでは、利便性や安全性を優先して自然災害を考えずというような御指摘でございますけれども、安全性、利便性こそが、そういった災害避難に対する対応ではなかろうかというように思っております。

そういった中で、構造においては国で示されております道路構造例等を参考にしながら作っているところでございまして、それ以上の安全性はちょっと厳しいのかなと。過大な投資になりかねないということもございますので、ありますし、また安全性の捉え方なのでしょうけども。もう少し、先ほどからの御指摘のように、２方向ではなくもっといろんなルートを作れよというふうな話であれば、今ある道を有効に活用するような対策を講じたほうが、経費的には安くあがるのではないかなというような思いをいたしております。

それから一方で、先ほど申しましたとおり、災害は全国的にどこでも発生するのではないかというように示唆をされておりますので、地震に限らず豪雨災害もしかりです。これらの事例はデータとしてしっかり分析されておりますので、分析され全国にフィードバックされております。こういった事例を参考に、国が示す国土強靭化計画では、それらライフラインの強靭化策もうたわれておりますので、そういった指針も踏まえながら今後取り組んでまいりたいというように思っております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

続いて農林水産の事業についてお伺いします。

波佐見町はかつて、まちづくりの手法として、あるいは労働力の軽減のための手法として、農林水産業の事業も数多く取り組んできました。そのために農業振興地域や農用地区域を策定し、また状況に応じて見直しも行ってきました。画像は平成９年度以前の図面。それから現在

の農業地域土地利用計画図です。右側の図の濃いところがそのまま左側の水色の線になって、ほぼ変わっておりません。

30年ほど前は、いわゆる農業従事者も若く、今以上に活発に営農され、こうした計画を受け入れるキャパシティーもありました。しかし現状は当時の働き盛りの人がそのまま持ち上がって、高齢化しております。夫婦２人の農家も多く、後継者がいないという実態もあります。

特に山間地などの田畑はもう手に負えない状況も見てとれます。何十年もかかっていない、農業振興地域の見直しも必要というように思いますけども、現在の営農状況を踏まえた今後の農業振興計画が本当にできるのでしょうか。

そうした場合、どのような農業形態への振興が必要だというように思いますか。お伺いします。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

御質問についてですが、平成12年を最後に農業振興地域の全域の分の見直しは行っていない状況です。農用地につきましては、随時部分的には外している状況はございます。現在ですね、中山間地等波佐見は盆地を形成していることから中心部に大きな広い農地があって、山間部に小さな農地というかたちになっているのですけども、中山地域等においては今の農業を守っていくという部分で、先ほど答弁でもいたしましたが、多面的支払交付金とか中山間支払交付金を利用して、今の農地を守るってことで最低でも、保全管理ということで、年に１回、２回程度は草刈りをして今の農地を守るという施策を行っているところでございます。

どうしても例えば特に山のほうは水利の関係とかの条件が悪くて、田起こしとかで田んぼを起こしていくという部分もあるので、どうしても上まで作るとなれば、影響範囲がちょっと広がってくる部分もあるので、そういった部分も踏まえて、まずは現状を維持するということが重要でないかと考えております。

あと答弁で説明しましたけども、昨年秋に波佐見町で農業者を呼んで、地域の方を呼んで圃場整備。今後の基盤整備等の説明会を開催しているところでございます。その中で興味がある地区、関心がある地区ってことで、そこにはまた再度年末にお邪魔して、基盤整備に向けての説明をいたしているところでございます。

岳辺田、駄野地区を今まで２回目の基盤整備をしてきて、駄野もちょっと換地処分までは至っていないのですけども、そのあとの地区ってことで今考えているところでございます。

ただ近年の状況を見ていますと、いろいろ事業を行う上で費用対効果が非常に求められる部分があって、どうしても例えば田んぼと稲作と米だけでは駄目で、高収益作物への転換という部分も求められている部分があります。

その中でどういう問題が起きるかというのは、どうしても畑作にしなきゃいけないという状況があって、その中で今の労働力ですね。高齢化して、もう今さら畑は出来ないとか、そうい

う部分もあってなかなか新規事業に参入するのが難しくなっている状況です。以上です。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

波佐見町も昭和40年代から50年代にかけては活発にいわゆる、農業の事業が行われていきました。例えば40年代にはですね鬼木本線、金屋本線――いわゆる中ノ原線等は一旦町道から外して、いわゆる農林業資金による農道事業としての道路改良工事が行われてきました。

その後昭和48７年に国の農業振興地域指定を受けて、農業振興地域整備計画を策定して、農業に関する事業を活発に行われてきました。その中で、いわゆる左側の赤線は農村総合整備モデル事業。中央部の赤線もいわゆる農村総合整備モデル事業。それから一番下の赤線は、構造改善事業というようになっております。

いわゆる昭和48年に創設された農村総合整備モデル事業は、県内で一番早く取り入れ、面的工事や農村環境改善センターの建設、その後昭和54年度には一次、二次構造改善事業による川内地区、井石地区の圃場整備、55年度は折敷瀬地区、湯無田地区、井石郷の橋ノ谷地区の圃場整備などを行い、計画的な施策と、策略により町民に見えるかたちで示して、いわゆる農林業事業が推進されてきました。いわゆる一連の農業基盤や農業施設の事業推進のため、この事業が済んだら次の事業、済んだら次の事業というのがいわゆる町の姿勢がはっきり見えておりました。それにより、農業の効率化と労働の大幅な軽減が図られてきました。

今はどうでしょうか。前回の一般質問でも申し上げましたけども、具体的に保全数地区、今後農業を展開していく地区が町民に見えるようなかたちになっておりません。ぜひとも図上や振興策も併せて、示していただきたいというように思うのですがいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

御質問についてですけども、確かに昭和40年代、50年代はやはり波佐見町が県を先行して、いろいろな事業をやられたということはもちろん知っておりますし、町内全域が圃場整備された状態には今なっております。

そういう部分で今40年ぐらい経過していろいろ排水不良とか、いろんな問題が出てきており、その中で先ほども言いましたが岳辺田地区が２度目、駄野地区が２度目というかたちになってきております。

そのあとの事業ということで、昨年の秋に説明会を開催して新たな基盤整備を行うような地区を模索している状況ですけど、１か所だけ関心があるってことで上げられていて、そこが今後事業化に向けて進む方向ではあると思います。

あとですね、それ以外の土地改良施設の問題もあって、特に農業用ため池が全国的な問題になっていて、そういった部分についても貴重な水源ですので、今後県営事業やら、町の単独事業やらを通じて、見直し等、改修等を行っていって、今後農業がしやすいような環境をつくっ

ていきたいと思っております。

またなかなか地図上で示せないという部分はちょっと御指摘のとおりあるのですけども、やはり農業振興地域という線引きの枠を、なかなか変えにくい部分はちょっとあるので。住宅等と混在している地域ということで。そうしながらも、なかなかそう言っているわけにもいかないので、今後多少はちょっといろいろ現状の農地に合わせたかたちでの見直しは必要かと考えております。

○議長（百武辰美君）

時計をとめてください。町長お願いします。

○町長（前川芳徳君）

確認権の行使をさせていただきたいと思います。ただいま岡村議員の御質問をお聞きしますと昭和40年代後半から50年代にかけて、数々のハード事業を進めてこられたという、その実績はよく理解出来ております。

ただお話をお伺いすると、ハード事業を進めることこそが何か農業振興につながるようなというようにお聞きしているのですが、そのようなお考えでよろしいのか確認だけさせてください。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

例えば農村総合整備モデル事業後の一次構造改善事業、二次構造改善事業に含めても、その工事を実施することにより、いわゆる小さな田んぼが大きくなってみたり、圃場整備が行われたりしたことにより、労働力の軽減というものは多大だっただろうというように思います。そういったことの御返答でいいでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

であるならばハード事業こそが、農業振興につながるというふうなお考えをお持ちというふうに理解してよろしいでしょうか。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

例えばそれまで10人かかっていたのが、５人でできるようになったとすれば、それは人口よりもむしろ今ある状況に合わせて、労働力に合わせての作業ができるようになったというように考えております。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

ありがとうございます。確認権の行使終わります。

○議長（百武辰美君）

これで確認を終了いたします。時間の再開をしてください。質問を続けてください。

岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

先ほど課長からも話もありましたけども、いわゆる事業が済んで40年、50年が経過をしております。施政方針にも書いてありましたけども、今農業においては水路管理あるいは草刈り等が農家にとって大きな負担となっております。さらには後継者がいないために、高齢者に頼る農業形態にもなっております。

方針には農業意欲低下というように書かれておりますけども、多くの高齢農家は営農への行き詰まりを感じていらっしゃいます。こうしたことを踏まえ、法面の草刈りなどをセンチピートグラス、吹付工法を補助対象メニューとされておりますけども、私はこういった問題については、町が事業主体となって取組をされるべきだというように考えております。

圃場が整備され、比較的畝が小さいところはまだしも、棚田や山田においては収益率も低く、いくら小規模農林事業の補助対象での支援を受けても、対応できるものではないというように考えます。特に高齢者等により補助対象を受けたにしても、補助への長期の返済も必要になり、実質補助を受けること自体が不可能になっております。

また多面的機能支払い交付金については、その庶務、会計の負担が大きく、事業から撤退された地区もあるとの説明を受けております。その事業の目的よりも、事務的なもので事業中止というのは非常にもったいないと思います。以前から農水省の事業は、受益者負担が大前提ですけども、その事務事業が煩雑になることや、会計検査受検等の事由から事業主体は地元でも事務対応は役場で対応していただくというように思っております。

また棚田、山田の農地の整備をすることこそ、波佐見町の農地や美しい自然景観を守ることにもなりますし、センチピードグラス、吹付工法などは、ぜひとも町が事業主体となって進めるべきというように思いますけれどもいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

まずセンチピードグラスの件ですけれども、今回次の予算から一応対象ということで事業を行うようにしています。今まで川内郷とか、鬼木郷とかが実際されていて非常に良かったという部分もあって、軽減出来た部分があってこうしております。そのなかなか町の事業とするのはちょっと厳しい部分があるかと思っています。

実際今中山間地においては多面的事業、中山間直接支払事業を使いながらやっている部分もあるので、町がというよりもやはり地元でしていく方向が適切ではないかと自分はちょっと思っております。

あと、多面的支払交付金の事務的な助成というか、その部分のちょっと話ですけども、一応役場としては年に１回、２回講習会等を行って、もちろんそのパソコンの使い方から一応シス

テムで管理されていて、いろいろな報告関係はもうパソコンを通じて提出してもらうようになっております。

もうほとんどの地区は慣れられているのですけども、事務的な部分ですね。やはり人を、いろいろな行事に出席した人数を把握したりとか、写真を撮ったりとか、確かに労力的に係る部分があるのですけども、慣れられた地区は普通になさっている状況です。

事務的な問題という部分もあるのですけども、どちらかというとそれも含めてなのですけども、そこを耕作する方が、いなくなった部分でのそこの地区がなくなったという部分もあるので、町としてはそういう事務的な部分は補佐できる部分は補佐していきたいと思っておりますが、直接業務されるのはもう地元でして行かなきゃいけない事業になっていますので、そのあたりはもう地元のほうの対応でと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

ぜひとも、こういった農業政策については町自体で事業主体となって進められて行くことを要望したいというように思います。

林道振興のための林道工事も昭和53年の虚空蔵線、永尾線から始まり、最後は小樽永尾線で終わったのではないかというように思っております。しかし、その後の計画が見えません。町では山は緑豊かなと形容されておりますけども、実態を見れば間伐もされず、蔓や下草が生い茂っております。こうした現状から、打ち出すべき計画をすぐしていただきたいのですけれども、今後のこういった山を保全するための計画というものはどのようになっているのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

林道の整備についてはおっしゃられるとおり、永尾線か黒似田線がちょっと前後どっちか分かりませんでしたが、それが一応林道の整備については最後となっております。今波佐見町全体で、林道が17路線33キロメートル今管理している状況でございます。現在、作業員さんを雇用して林道沿いはいつでも人が、来られるようにきれいな状態を保っているところでございます。

山全体を守るとしてはとしては森林経営計画の中で、波佐見町も毎年間伐等の事業を行っております。現在も川内地区でそれを行っており、その中でも間伐する際に実際作業道とかって言って、実際こう作って入る部分があるのですね。路網自体は自然に広がっていく部分があると考えています。今年もちょっと聞いたところによると、実際40ヘクタールぐらいの間伐等を波佐見町内で実施をしている状況でございます。

そういった部分でなるべく、山に近づきやすい環境を維持することと、あとは今後の計画に従って森林を整備していくってことで、なかなか全体的に一気には出来ないのですけども、少

しずつでありますが山を守る事業をしていきたいとは思っております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

商工業についてお伺いいたします。町長も言われたとおり、波佐見焼、波佐見町の知名度はこれまでになく上がっております。クローズアップされてきた東京ドームでのテーブルウェアフェスティバルがありますけども、この件のいきさつについては昨年12月14日の朝日新聞、経済プラスの記事の中で白山陶器の松尾社長が詳細に述べられておりました。期間中に数十万人が訪れること、出荷ルートへの変更で苦悩をされたことなどが載っておりました。

今年から、この今までの新春開催から12月の繁茂期にかわって、しかも規模縮小により、入場者数も売上高も減少したというように聞いております。入場者数においても20万人から約３万人に、85％の減。売上高も3,500万円から1,500万円45％も減ったと聞いております。

行政として参加されたというように思っておりますけども、特にこれまでと大きく変わったなというところがあれば、その印象をお聞かせください。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

テーブルウェアフェスティバルにつきましては、町長も答弁をいたしましたとおり、これまで産地波佐見町の認知度向上、それから販売、販路拡大に大きく貢献をしたイベントでありまして、これまでの波佐見焼のブランド化。それから消費者ニーズに合った売れる焼き物の商品開発に大きく寄与してきているところでございます。

今回から東京ドームから、その隣接するプリズムホールというところに場所を移して開催をされまして、開催時期も２月から12月に変更があったというようなことになりまして、議員さんおっしゃるように、規模、売上高それから来場者数これが大幅に減少しております。

今回ですね、これまでの経過とちょっと感じるような中身というようなことであれば、来場されたお客様の客層については、やはりこれまでどおり女性の方が非常に多かったというようなことで。ただしやはり、来場者が少なかったということで、波佐見焼のブースにこれまでできていた長蛇の列がなくなったというふうなこともございます。

あとは当日の話ではないのですが、２月から12月に開催期間が変更されたというようなこともありまして、各出店業者の方々が開催までの間に行う商品開発。こういったところの時間が取れなくて、御苦労されたのではないのかなというように感じております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

今、全ての業種に言えるのですけども、いわゆる高齢化。それから少子化によって、働き不足が当たり前のようになっております。この問題についてはもう一朝一夕に解決するという問

題でもありません。先に議会としても窯業会等との話合いを持ちましたけども、やはり高齢化の問題。それから若い人たちの就職等についても、一番の問題として捉えられておりました。今後こういった人材不足についての何らかの協議はもう始められているのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

焼き物業界の後継者不足、働き手不足に関しましては、数年前から例えば生地業での後継者問題とか、そういったものについては、取上げられておりましたが、ここ数年直販からインターネットなどの通信販売が増えるなど市場の変化に伴いまして、この状況に対応できる人材の確保も課題というようになっております。

これまで町長も答弁いたしましたとおり、業界に対しては窯業人材の確保対策事業ということで、インターンシップであったりとか、大学を対象とした波佐見焼の講座を行ったりとか、そういった政策を打っているのですが、それもやはり抜本的な解決に結びついているような状況ではございません。

今後、この人材確保をいかに行っていくかというようなことで業界をはじめ、行政それから建設業界を踏まえたところで、先日意見交換が行われておりまして、今後もこういった様々な観点から、どのような対策が必要なのかどうかというようなことに対して議論を深めていけるように、今後検討が進められていくものと思います。以上です。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

先ほど同僚議員から話がありましたけども、本年からトラック輸送問題が出てきます。いわゆる時間外労働の96時間上限規制等が適用されて、ドライバーによる労働時間が短くなるというようにされております。

図は全日本トラック協会に問合せたときにいただいた資料ですけども、トラック業界としての各産地に今後は、物流の行き詰まりによるものがつくれない状況も懸念しておりますということでした。

これについては、今後今までも動きがあったと思うのですけども、対策あるいは協議等はもう進んでいるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

このトラック輸送の物流問題に関しましては、先ほど町長も答弁いたしましたとおり、現時点では協議、対策等は特に行われておりません。ただし今後、物流問題の影響がどの程度、業界に出てくるのか。今後ともその聞き取り等を踏まえながら、対応等も検討していければというように考えております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

これは記念切手ですね。左側が薩摩焼、右側が伊万里、有田焼の記念切手です。やはりこの近辺では有田焼が一番数多く、何回となく発行されているみたいです。

先ほど町長は、何らかのアニバーサリーがなければ発行は難しいというようにされておりますけども、今の各自治体で共同申請をして、別にアニバーサリーでなくても記念切手が発行されるようになっております。

このように常滑焼、美濃焼、こういったアニバーサリー的なものでなくてもいいですので、波佐見の名前を売るぞという趣旨があれば、検討できるものであるというように考えておりますけども、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

こちらの記念切手の製作につきましては、先ほども議員さんおっしゃられたようにいろんなかたちで作成されている自治体もあるようですが、やはり町長も申し上げましたとおり、業界としても一定の波佐見の知名度につきましては、一定の成果が果たされているものというような認識がございまして、これからは個社のブランド化をいかに高めていくかというふうなことに注力していきたいというふうな、そういった御意向もありますので、この切手の作成につきましては、やはり今の段階では、知名度向上の手段としては考えていないというようなことでございます。

○議長（百武辰美君）

以上で、６番　岡村達馬議員の質問を終わります。

しばらく休憩をいたします。13時30分から再開します。

午後０時11分　終了

午後１時30分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、３番　澤田昭則議員。

○３番（澤田昭則君）

皆さんこんにちは。それでは通告に従い一般質問を行います。

１．施政方針について

町長は「選ばれる波佐見町」を目標に据え、町政運営についての所信を述べられた。そこで次のことを問う。

（１）公営住宅の建替えの進捗状況と、長寿命化計画や維持管理はどうなっているのか。また、今後策定予定である基本計画に地域対応活用等の導入はできないか。

（２）キャンプ場が供用開始されるが、鴻ノ巣公園入り口や園内道路の整備計画及び安全対策は。

（３）県道１０２号線塩田波佐見線（小樽地区）に歩道整備工事が計画されているが、地元自治会から街路灯の新設等の要望は。

２．消費生活の支援について

新型コロナ禍の経済再生の中、燃料費や資材等の高騰が町内の地域経済活動や町民の消費生活にも大きな影響を与えている。

そこで、次のことを問う。

（１）消費生活相談の内容と傾向は。また消費者行政推進事業における整備等は。

（２）家計負担が大きくなっている生活者や事業者への支援として、町内の多様な店舗で利用できる２種類（電子と紙）の波佐見町プレミアム商品券（仮称）を配布、もしくは販売ができないか。

３．副町長の選任について

進捗状況と長期不在による影響は。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

３番　澤田昭則議員の御質問についてお答えをいたします。

まず、１．施政方針について

（１）公営住宅の建て替えの進捗状況と長寿命化計画や維持管理について。それから、今後策定予定の基本計画に地域対応活用等の導入は出来ないかとのお尋ねですが、公営住宅の建て替えの進捗については前回の質問でもお答えしましたとおり、耐用年数についても既に経過していることから、建て替えについては検討の必要があると認識しているものの現状では着手しておりません。

また現行の公営住宅長寿命化計画は令和５年度で終了するため、令和６年度を初年度とした第２期計画を策定したところであります。この計画では、適正な住宅ストック数を設定した上での適切な管理を重要と捉えており、建て替えの必要性も考慮しつつ、人口、世帯数の減少を踏まえた公営住宅の需要数を勘案していく必要があると考えております。

さらに建てかえる際には、脱炭素社会の構築に向けたカーボンニュートラルの考え方にも即した住まいづくりが求められておりますが、この実現には多大な費用を要するため、これらを総合的に判断して進めていくことになりますので、現段階において具体的な動きはこれからということになります。

お尋ねの基本計画への地域対応活用等の導入についてでありますが、まず地域対応活用とはどのようなものかと申しますと、公営住宅の余剰地を活用して、子育て世帯や高齢者などが住みなれた地域で、安心して暮らせる環境を創出することであるとされています。地域の在り方を考慮して、その地域特性やニーズに合わせ、弾力的に活用を行うものと理解しているところ

です。

全国の活用事例では、高齢者の見守りを含めたコミュニティーの活性化、定住促進、社宅や学生寮などがありますが、前提として空き家であることや、本来の入居対象者への阻害とならないことが対象要件でもありますので、当初から空き家を見込み計画することは先ほども申しましたが、適正なストック数を見込み、管理を行う公営住宅の趣旨に合致しないため、建て替え対象となる公営住宅の基本計画に盛り込むことは出来ません。

しかしながら地域対応活用の取組について、現在のところ予定していないものの、今後人口減少により生じる空き家の有効活用にもつながるため、公営住宅の応募状況の推移と、既存の空き家の状況を鑑みながら研究してまいりたいと思います。

（２）キャンプ場が供用されるが、鴻ノ巣公園入り口や園内道路の整備計画及び安全対策は、とのお尋ねですが、鴻ノ巣公園内の通路については、これまでも御質問をいただいているところでありますが、キャンプ場の供用開始においては、１度にたくさんの方が利用するものではありませんので、供用開始に合わせた対応は今のところ考えてはおりません。

一方で安全対策については、カーブミラーの設置や視界確保のための樹木伐採等の整備を行っております。また、園内通路の利用者は車両だけではなく、歩行者への配慮も必要になってまいりますので、総合的に判断する必要があると思っています。現状の敷地においては、余地がないことから、まず注意喚起のお知らせ等で様子を見ながら対応を考えていきたいと思います。

（３）県道102号一般県道塩田波佐見線（小樽地区）に歩道整備工事が計画されているが、地元自治会から街路灯の新設等の要望は。というふうなお尋ねでございますが、県の担当課に確認しましたところ、地元からの要望は今のところないとのことでした。また町に対しても街路灯の新設等の要望はあっておりません。

２．消費生活への支援について

（１）消費生活相談の内容と傾向また消費者行政推進事業における整備等はとのお尋ねですが、施政方針でも述べましたように、近年新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、自宅で頼める通信販売による定期購入や訪問販売に関するトラブル、さらにはＳＮＳをきっかけとする詐欺被害が増加しています。

１人の方が複数の被害に遭うトラブルも増加傾向にあり、相談内容も悪質、複雑化しています。このような状況下において専門相談員による啓発活動、相談支援、他機関との連携により見守り体制を強化し、中学生に向けた授業支援、出前講座の開催を行いながら問題の解決や被害の未然防止を現在図っております。

また消費者行政推進事業における整備等は、とのお尋ねですが、平成29年度から専門相談員の配置を行い、相談員研修に参加することで相談員の資質の向上を図っており、窓口での相談体制の強化を行っています。

（２）家計負担が大きくなっている生活や事業者の支援として、波佐見町プレミアム商品券の配布、販売が出来ないかとのお尋ねですが、本町ではこれまで新型コロナにおける経済対策として、令和２年度から４年度にかけてプレミアム商品券販売事業を燃油高騰対策として令和４年度、令和５年度に燃料費等対策支援事業を昨年の12月の定例会では、上水道基本料金の減免を予算化しており、消費喚起や事業所支援について取り組んでまいりました。

このようにこれまで行ってきた住民や事業所支援は本町の経済活性化に寄与しているものと考えておりますので、今のところプレミアム商品券の配布販売は考えておりません。

３．副町長の選任について

その進捗状況と長期不在による影響はとのお尋ねですが、前回の12月議会定例会においても同じ質問を受けており、まず副町長不在による影響についてお答えをいたします。本来副町長で済むような専決案件でも、町長決裁となって事務量が増えること。長期出張などで不在の場合、代理決裁処理で担当課長の負担が過重になるなどの影響があり、先の議会でも答弁しましたとおりであります。

また各種会議が重複した場合に、課長に代理出席をお願いすることなどもあります。このような影響がありますが、副町長不在による行政の遅滞がないように鋭意努力してきたところであります。

このような事態を一刻も早く解消するために、副町長の人選について進めており、現状について御報告させていただきます。適任だと思う御本人及び関係する方面へ御相談をして、内諾をいただきましたので今議会に上程する準備を進めております。

ただしその詳細につきましては、御本人及び関係先からの要望により、３月半ばまでは控えてほしいとのことから大変申し訳ありませんが、この場では控えさせていただきたいと思います。

以上で壇上からの答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

それでは最初に、施政方針の公営住宅の件についてお尋ねいたします。建て替えの話もございまして、ずばり言いましたら小樽地区の小石原団地のことで、私も昨年の６月の定例会において、同じような内容で質問させていただきました。

確かに先ほど町長からも答弁ありましたように、いろんなこの社会情勢、エネルギー問題等兼ねてまた人口減少、様々なことを考えたら、需要と供給が合っているのか。今これだけ民間のアパートも増えている中で、町が公営住宅、町営住宅としてつくるのが最適かどうかを今から検討されていくわけなのですけども。先日もテレビである番組があっておりました。もうとにかく社会的な問題で、公営住宅をどのように処理するかというのもありますし、新しくつくるとなれば、ますますこれは重要な問題であるということで放送もされておりました。

今回、私がまた同じ質問させていただきますのは、もう小石原住宅に住んでいる方も――ちょっと知り合いもいらっしゃいますけども、何で先に新庁舎、役場が出来たのか。私たちはかなり待っている。築55年の建物の中で、住んでいらっしゃるかたがまだ20戸ぐらいいらっしゃると思います。

前回の定例会においては、住んでいる方の御意向を聞くというお話もありました。そのあとどうなっているのかも今後質問しますけども、私も建て替えには反対はしてませんが――逆に賛成なのですけども。

土地を有効活用するあど、地域にとって本当に住んでる方がここから離れたくないとおっしゃるようであれば、よりそれなりの公営住宅、町営住宅をつくらないといけないと思います。

前回の定例会でもききましたけれども、今住んでいる方の御意向というのは聞かれたのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

現在お住まいの方の御意向ということですけれども、まず長寿命化計画を策定するにあたっては、小石原団地に限らず住宅の入居者に対して、アンケートをとっております。その中でそういった建て替えの意向だとか、そういうものは実際に聞いておりまして、それで申し上げますと、あくまでも小石原でということでちょっと整理はちょっとまだ行っていないですが、建て替えの希望としては約７割がそういった希望をお持ちです。

ただし、これは10年前にも同様の質問をしておりまして、そのときからすると希望のポイント数としては、実は減少をしているところです。その辺りについてはやはり家賃とか、そういったものも考えられるのかなと思いますし、様々な理由でそういったところがあるのかなというふうに考えいるところです。以上です。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

それではちょっと私が持っている資料――これは２年前の議員の新人研修の折に、建設課のほうより議員に渡された資料をちょっと私も目にしたのですけども、町営住宅の項目の中で、小石原団地のことが書いてありまして、令和７年度に基本計画を立て令和９年度には建設を開始する予定ですと書いてありました。

また、こちら第６次総合計画においても、数値目標とされる数字の中で令和９年度に40戸を建設する目標数と書いてありました。

これは現在その目標数とされているのか。多分この総合計画に沿って行政の事務的な仕事をされると思いますけども、この数値に間違いはないのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

この数値につきましては、確かに当時の数字では、そのような計画で立てておりました。しかしながら、この総合計画の後に長寿命化計画が出来まして、それが先ほど町長の答弁でもありましたけれども。その中で今後考えていくということでは適正な公営住宅のストック数。こういったものが数字としてあらわれてまいりました。この数字は現在314戸ではありますが、2045年をちょっと基準にして考えますと、268戸という数字が出ております。これは今後の人口減少等を加味して出てきた数字でありまして、そういったところを考えますと、なかなか令和７年からの実行というのは少し厳しいのかなというところもありますし、またこれも答弁でありましたけれども、カーボンニュートラルの考え方が出てきておりまして、いわゆるゼロエネルギーハウス設置というふうな考え方ですね。これは補助対象の中に、そういった基準がこういったものも盛り込まれてくるような情報も入っておりまして、そうなってくると建築費用が、これまで想定しておりましたけれども、それは1.5倍ほどに膨れ上がる予定です。

これあくまでも概算ですがやっぱそういった形になってきますと、やはり建築費用が家賃に跳ね返るというところもありますので。ただ、今こういった情報が入ったばかりで、我々が考える情報というか、そういったものを持ち合わせておりませんので、やはりこういったところは研究する必要があるのかなということもありまして、先ほどの町長の答弁のようなかたちになったということであります。以上であります。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

先ほどからですね第２次長寿化計画ですか、基本計画ですかそれを立てられるとおっしゃっておりましたけども、これは10年に一遍ぐらいの計画だと思いますけども、これを計画に当たって、その検討される構成メンバーというのはどういうメンバーの方でこの基本計画をつくられるのかお尋ねします。

○議長（百武辰美君）　建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

この計画を立てるにあたってのメンバーということですけれども、これにつきましては、特に協議会とかそういったものを設置して行うものではございませんので、基本的には専門家であるコンサルタントを交えて、そういった情報を集めながら作成をしたということでございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

それではですね、私もこの公営住宅についてちょっと調べておりましたら先ほども答弁にありましたように、私は計画の段階でそういう地域対応できるような、その制度が導入できるかなと思っておりましたけども、答弁にもありましたように完成した後に空室が出ている。ストック状態の住居に関しての活用ということで、なるほどやはりこういう条件、公営住宅という

のは条件があり、誰でも住めるような状況ではない。でも、かなり完成後に利用してない場所には国交省の承諾を得て、そういう地域が対応できるような活用方法があるということを見まして、時代に合わせているような制度もあるなと思ったのですけども。

もう一つ先に調べましたら、設計の段階っていいますか、まず作るか作らないかの段階で例えばもう民間連携によりますＰＰＰとか、ＰＦＩとか制度があって、民間の活力を活用して、その事業に携わってみようかという将来の今からの公営住宅の在り方について進んでいるようなとこもあります。本町においても、これから持続可能なまちづくりをされる中で、この町営住宅の運営といいますか管理、建設から始まるのですけどもその中に、どういう考えをお持ちなのか。もしそういう民間を活用するというお考えもあれば、まずはそれからスタートできるのではないかと思います。

町長。もしよければ、それについて何かご意向ありませんか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

大きな市町では、先ほど申されたＰＦＩを活用した民間活力の活用導入を図られているところがございますけれども、なかなかそこの段に行きつくまでの準備作業といいますか、そういったものがなかなか小さな自治体では、マンパワーが足りない部分で、少し知識も足らないところがございまして、なかなか取り組めない状況でございますけれども、今後の財政状況等を考えればそういった民間の活力等は活用すべきものであろうというような判断をしております。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

それでは町営住宅にもかなり老朽化で順番待ちといいますか、いろんな改修工事等もあっている団地もありますけども、順を追ってそういうふうに、建て替えをしたり、改修をしたり、維持管理するためにいろんな今後の経費もかかってくるわけなのですけども。

先ほど年数的には268戸を目的として減少の方向に持っていかれるというわけなのですけども、話が何回も出ますけども古いとこはもう本当10年、20年先はもう廃止といいますか使わなくなってしまう。良い場所の新しい建物っていいますか、まだ築20年、30年の建物はまだ維持していくという方向でよろしいのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

まず先ほど申し上げた268戸。これはあくまでも2045年を見据えた試算でありますので、最終的なその適正ストック数というところについては、また現状の建物もありますので、そういったところはいろいろ加味しながら考えていくべきかというように思っておりますので、これが絶対というわけではございませんが、そういう方向に向かっていくということも含みがあると

いうことで御理解いただきたいと思います。

あとそれ以外の老朽化した住宅だったり、団地だったり、そういったものも含めての維持管理ですが、やはり現状において入居者がまだおられる場合においては、そのまま利用されておりますので、引き続き維持補修は努めてやっていきたいというふうに考えております。

場合によっては、先ほどのストック数のところもありますので、他の団地とか、そういったところへの住替え等も今後は研究、検討していくべきかと思っております。また先ほど民間の活用についてお尋ねがあったのですけど、これにつきましてはやはり新たな住宅の制度ということでセーフティーネットというところで、民間アパートもございまして、そういったところの空き家も出てくる可能性も十分ありますので、そういったところを踏まえた対策というところも示唆されておりますから、そういったところも含めて、考えていければというふうに思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

それと先ほどどうも地域対応という言葉を話しましたけども、例えば現在も町営住宅で募集されている物件もあるかも分かりませんけども、例えばもう募集しても、募集しても、なかなか入り手が少ないというか、申込みがないというようなところを先ほど地域対応でも条件として出ておりましたけど、そういう地域おこし隊とか移住したい方とか、学生の寮とかですね。そういう方にも現在対応できるような物件というのはないのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

今、それに対応できる物件がということですけれども、団地としての戸数で見れば、実際に政策空き家というところもちょっと考えて、空き家をつくっている関係上、空き家としては全部で36戸ほどございます。

ただし、よく使われるような団地については、空きがなかったり募集をしたらすぐ応募があったりというところで、今おっしゃるような活用も空いているところと、そういったニーズが合えば研究ができると思うのですけれども。そのあたり、そこの団地がそれに合うかどうかというところも見極めていく必要があると思いますので、実際にそこあたりは今後の研究かなというふうに思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

本当に町営住宅、公営住宅ですね。今後ぜひ、なるべくスムーズにいくような、いろんな検討課題も多いと思いますけどよろしくお願いします。

一つで最後にお尋ねしたいのが、もし例えば建替えになって、工期等に入った場合にいろんな建設の方法があると思うのですけども、実際に構想が始まってから、建設完了まで相当な日

にちがかかると思うのですけども、そういうときに、そこに住んで老朽化した町営住宅に住んでいる方を民間の例えばアパート住宅に住ませようと言ったときに、家賃が発生すると思うのですけども、そういうときの町からの家賃補助とかも考えられるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

まず建て替えのお話になりますと、それに入った場合ということで、当然その対象となる団地入居者については、一旦こうそこの場所から移ってもらうというかたちになりますが、そのための政策空き家というところで、今ある団地の中の空き家のところに移ってもらうというふうなかたちを通常取りますので、我々としてその民間アパートへ移ってもらうとか、そこのところは考えておりません。以上です。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

話が尽きないですけども、ぜひこの公営住宅に関してはいい采配をしてもらって、持続可能なまちづくりに貢献していただきたいと思います。

次にキャンプ場の供用開始ということで、鴻ノ巣公園のふれあい広場のところの道のことでちょっとお尋ねします。先日、波佐見高校の卒業式がありまして、ちょっと帰り道に鴻ノ巣公園へ行ってみようかということで行ってみました。とても天気がよかったので、遊具のほうの設備はどうかということでほぼ完了しておりました。まだ立入り禁止でありましたけど。やはり相変わらずの坂道で僕も不安になったのですけども、冬凍結したりしないのかな、この道はというのもありました。

今回も質問しますけども、子供たち、家族連れ、楽しい公園に遊びに来られるわけなのですね。次に今度キャンプ場に来られる方。とにかく楽しくて、楽しくて、いい場所に来られるわけなのですけども最低でも事故があってはいけない場所。特に入り口、帰り道ですね。

そのような中で、先ほど答弁にもありましたけど、ある程度は安全第一の策をとっているということを言われましたけど、車で来られる方ばっかりではないとおっしゃいました。ベビーカーを押している方があの坂道を登っている風景は見たことはありませんけども、多分車で移動して来られて園内で遊ばれたり、キャンプ場に来られたりする方も近くまで多分車だと思います。

とにかく車時代でありますので、以前からも同僚議員が質問しておりましたように、本当に安全なのかということで確認をしたいのですけども。まだ脇に土地があるようなのですけど、もうちょっと道を拡張して、通行出来ないかと思いますけど、その辺に関してはどう思いでしょうか。

○議長（百武辰美君）　建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

今おっしゃったその通路ですね。まず町長の答弁にもありましたとおり、安全面に目を向けて、そういったカーブミラーであったり、視界の影響にあるようなところについては樹木の伐採をしたりして対応していって、今後もちょっと様子を見たいということで答弁があったと思います。

本当に安全なのかというところで、話でいくと我々としては幅員も実はあそこは４メートルありまして、通常の走行には支障がないと思っております。ただ大型化しているというところも承知をしているところで、そのあたり対策というところもあると思います。ただ容易に拡幅してしまいますと、今度はもう車両専用になってしまって、そこをもうちゅうちょなく、入っていかれると思うのですよね。

ですので、そういったところも考えていくと、例えば全幅の拡幅だけではない違う方法もあると思っております。まだ用地自体は周辺あるというようにおっしゃいましたけども、波佐見町の用地ではないので。それの用地の求めるところからも始まってまいります。

あとは一部においては離合場所とか、そういったところは考えていく余地があるのかと思いますけれども、いずれにしてもまずは様子を見ていきたいというふうに考えているところです。以上です。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

道のことばっかりですけども、とにかく見た目だけでも道が切れたような形状なので、例えばガードレールをするとか何らかの策もとれないのかなと思いますけども、そのあたりはどうお考えでしょうか。

○議長（百武辰美君）　建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

ガードレールについては、どちらにしても道の余地の部分で対応しないといけないので、そうすると幅員そのものが今度狭まってしまう可能性もございますから、一応そこあたりはもう少し、先ほど同じことのこちらも繰り返しになりますが、いま一度研究をさせていただきたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

もうあとはもうお任せします。ただその条件としては、遊具が4,000万円かけてリニューアルされた。キャンプ場も２年、３年がかりですか。4,000万ほど経費をかけられて立派なキャンプ場が出来ております。

もう皆さん利用者は待ちに待ったというばかりで、４月、５月、６月ずっと来られると思います。ぜひ安全対策は、しっかり今後も気をつけていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）

それでは次に（３）の県道102号線の塩田波佐見線ですね。こちらの小樽地区の歩道整備工事なのですけども、最初私は地元の方から聞きました。「澤田君って、測量に県のほうから来られている」ということで。「何ですか」って言ったら、「いや歩道がね、出来る」って。「よかったですね、でも急ですね」という話から大変うれしいことだなと僕は思ったのです。

以前も東小学校のＰＴＡで役員をしているときに、子供たちの通学路。永尾からの通学路、小樽からの通学路、野々川からの通学路で、何回も御相談を小樽のほうもしましたけど、出来ない、出来ない、出来ない。なぜですかと。永尾地区に関しても45センチか60センチしかないような稗の尾地区の歩道ももう相当な年数かかっていると思います。10年、15年以上かかったと思います。最終的には川まで造成して、川の敷地をこっちの道路に持ってくるような工事があって。今回の県道102号線に関しても歩道工事が行われるように計画をされておりましたけども、大変うれしいことで。

今回ですね、私がこの地元からの要請がないかということをお尋ねしたのですけども、今度説明会があるそうですけど、それはいつあるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

まず先ほどおっしゃった県道の分。県道塩田波佐見線ですけれども、９月の７日に、まず事業を行うということで、測量したいというような地元説明会があっております。

現在、測量が完成。大まかに出来上がったところで、今設計に入られておりますが、その設計が出来てからの話になりますので、現状我々のほうで確認しているところは、５月ぐらいかなというふうに。あくまでその予定ということで、御承知おきいただきたいと思います。以上です。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

工事の内容で分かる範囲で結構ですので、工事の概要――例えば期間とか、工事の内容をちょっともし分かる範囲があればで結構ですからお知らせください。

○議長（百武辰美君）　建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

工事の内容ということでございますけれども、端的に申しますと歩道の設置工事ということで、距離がおおよそ1.6キロメートルで、町道鳥越線という手前のほうから小樽と永尾のほうをつなぐ道があるのですけども、そのあたりぐらいから県境まで。それが大体1.6キロメートルというふうになります。大体これを、５年間で設置してしまうというふうな予定というふうに聞いております。以上です。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

それでは1.6キロを５年間かけて建設工事を行われるわけなのですけども、私も以前から県道入り口として小樽地区、永尾地区を言っておりましたけど、新幹線の効果もあっているのか分かりませんけども、かなり県外から波佐見に来られる観光客もいらっしゃいますし、永尾のほうもものすごく高速道路から来られます。

小樽地区は武雄方面。最近は特に「わ」ナンバーのレンタカーを借りて、武雄から波佐見に来られる方も増えているようでございます。ぜひ、長崎県の玄関口入り口でもありますので、ものすごく何か明るいイメージを想像しておりますけども、今度の歩道整備工事において、街路灯とか防犯灯は夜の電気のことになるのでしょうけども、その歩道整備の工事によって、ぜひ地元から、もしよければ本町からもこういうちょっと明るいイメージで、歩道を整備してくれとか何か御要望というのがあればしていただきたいのですけど、今の段階ではないと言われましたけど、町長何かイメージ的にないでしょうか。玄関口としての歩道整備について。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

イメージと言われましても、なかなか難しゅうございますけれども。平成30年度に地域振興補助金を活用されまして、小樽郷自治会は街路灯をＬＥＤ化して設置されたというふうな記憶がございますので、多分それが道路改良工事において、県の工事で支障になるということであれば、恐らく移転補償対象にはなるのではないかなというふうに思います。

ただし、通常の改修工事において、街路灯の設置は整備内に入っておりませんので、あとはそういった補償費が出れば地元がどういうふうな対応をとられるかでありましょうし、県が直接するのであれば補償工事として行われるものとも思いますけれども、そのあたりの判断については私たちが承知しているところでございません。

出来ましたらおっしゃるとおり観光施策に力を入れているわけですから、お見えになった方に好印象を持たれるような整備を望むところではございます。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

それではですね、小樽地区は私も頻繁に通る路線でもありますけども、朝早く通っておりましたら、小樽の方が矢筈ダム――県境ですね。ものすごく小樽は県境のイメージが強いのですけども。矢筈ダムのほうに散歩に行かれている方もかなりいらっしゃいます。私の近所の方も、矢筈ダムを一周してきたけど、かなりの距離だったとか言って、結構健康的な感じとか特に桜の咲いているときは最高の場所になって、ウオーキングされる方もいらっしゃいます。

５年後、６年後でしょうけども、歩道が整備されたらかなり散歩される方も増えるだろうし、歩道が新しくなれば、散歩しやすい環境でいい場所になってくると思いますので、今後期待しておきたいと思いますので、よろしくお願いします。

とにかく、かなり今から説明会とか工事に入られるわけなのですけども、ぜひいいアイデアといいますか。企画があればぜひその工事に関連して要望を出していただきたいと思います。

それでは次に入ります。２．（１）消費生活の相談の内容についてなのですけども、私の資料で消費生活相談というのが載っておりまして、これは令和４年度の決算委員会のときの資料なのですけども、相談内容が通信販売、訪問販売いろいろ書いてありまして、大変現状、今の時代複雑な相談があっていると聞いておりますけど、令和５年度における相談内容の数をもし分かれば教えていただきたい。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

令和５年度における消費者生活相談の相談内容の件数でよろしいですかね。

お知らせしたいと思います。通信販売が21件。訪問販売が５件。訪問購入２件。連鎖販売取引０件。その他73件となっております。ちなみにこの件数につきましては、令和６年１月末現在のものでございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

大変もう本当自宅でＳＮＳを使い、テレビを使いながら楽に買物ができるような時代で、便利にはなったのですけども、相談内容にもよりますけど詐欺まがいの商売も行われております。私もテレビショッピングなどを見ておりまして、これ安いなと思って、ついつい電話したくなりますけども、下の文字の小さいところを見ておりますと年間トータルで11万とか。えっ3,000円の商品がこんな年間に払えば12万円にもなるのかという30分以内で電話してくださいとか、いろんな勧誘的な電話もテレビショッピング等もありますけども。

現在先ほど言われた数字が上がっておりまして、ちょっと興味があるのですけども、その他で73件と言われまして、かなり先ほど言われた通信販売、訪問販売、訪問購入などに入らない項目で、その他の73件ってありますけども、もし言える範囲内でよければ、何か今までになかったような犯罪トラブルのそういう消費生活相談で今までなかったような件があれば教えていただきたいです。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

先ほど申しました。その他73件の内訳としまして、まず詐欺的な案件に関わるものということで、それが73件のうち28件になります。

それ以外の45件が生活用品等の購入案件とかで分類が難しいものというふうなことになりますので、まずはその詐欺的案件。こういったものについて御説明をいたしますと、この中身に含まれるものは不審電話、それからセキュリティー関係、それから不審メール、不審者、副業詐欺、投資詐欺、個人情報不正利用などがこの内容に含まれます。近年の傾向としましては、

まずコロナ禍で生活収入を増やしたいとか、投資が一般的になってきたというふうなところも踏まえて、この副業詐欺それから投資詐欺が増加しているというような状況でございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

それでは相談の項目の中で、電話勧誘販売とかもありましたけど、件数はなかったのですけども。消費生活はちょっと関連しているかどうか分かりませんけども、特殊詐欺ですね。最近は正式名をニセ電話（特殊詐欺）と言われるようなのですけども。架空料金請求詐欺とかキャッシュカード詐欺、金融商品詐欺、オレオレ詐欺、還付金詐欺、ギャンブル詐欺、融資保証詐欺、預貯金詐欺、交際あっせん詐欺などですね、いろんな項目で電話による勧誘みたいな詐欺的なこともあっております。

消費生活というのは、消費者の方が物を買うので警察が入れないような分野でありますけども、本当買物したばっかりに自分が思っていた以上の商品が送られてきたなど、そういう自分が全く想像してなかった案件で買物をしてしまったということの相談に乗られる、役場のほうに来られると思いますけども、強化体制として相談員を置かれているって書いてありましたけども、町内に相談員というのは何名いらっしゃるのですか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

役場庁舎内には専門相談員を商工観光課に１名配置しております。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

町内においては１名ということで、結果が出てから相談する人はいいのですけども、買物する前に、もしよければ誰かに相談する人がいたらなということで、悩まれていらっしゃる方もいらっしゃいます。

そのあたりに対応できるような、今ちょっと私も聞いたら民生委員さんとかですね。いろんなかたちで講座とか講習とかもあっておりますので、そのあたりの力を入れていただいて。こういうご時勢でございますので、あまり買物にあんまり決まり、ルールばっかり作ってもいけないんですけども。相談に乗っていただいて、ぜひ安心安全な消費生活が送れるようなまちにしていただきたいと思います。

あと留守番機能の電話機を貸して、そういう消費生活のトラブルがないようにされておりますけど、町内で留守番電話機能付きの電話は何台ぐらい貸していらっしゃるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

録音機能付きの機械を現在貸出ししておりますが、現在で67件になります。以上でございま

す。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

かなりの数だなと思いましたけど、もう最近は携帯電話を皆さんお持ちなので、固定電話を切ってしまうような家庭も出ております。でも家庭電話を切ったら、なかなか親戚付き合いとか近所付き合いが出来ないということで、固定電話も何とか維持されております。それが消費生活のトラブルにならないよう、こういう留守録音機能付きの電話をもし貸せる範囲内であれば、数が増えてでも貸出しを今後ともよろしくお願いしたいと思います。

それでは次に波佐見町プレミアム商品券（仮称）としておりますけども、この案件は澤田議員がまた同じことを言っているかと思われますけども。ぜひ今物価高燃料高騰もう同じような言葉ばっかり毎日、新聞等にも載っておりますけど。

大変私も商売をしている以上、やはりお客さんからも聞きます。一番すごいのは、「澤田さん１人10万円の特別給付金をまたしてもらえるように」って言われますけど、本当あれは国が政策でやったわけなのですけども、すごいあの頃は世の中どうなるかということで、やってもらいました。あとは各種地区においても、いろんな商品券等で消費喚起をしてもらったわけなのですけども、現在波佐見町で消費喚起になるような支援策、今後消費喚起にできるような施策は何か考えられないでしょうか。お願いします。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

消費関係に関する施策といいますと、令和６年度に関しましては、実情としてはそういった予算は計上しておりません。これまでの経過としますと、やはりコロナ禍それから燃料費高騰等を受けて、国の財政的支援を受けながら実施をしてきたというふうなところもございます。

ですので、また同様の事業を行うとなると、やはりそれ相応の予算規模になるというふうなことも考えておりまして、なかなか財政措置等そういったところを勘案すると、支援は難しいかなというふうな状況でございます。

ただし町長も答弁いたしましたとおり、令和２年から４年かけて３か年。それから４年度から５年にかけて、２か年の経済支援措置を行っておりますので、こういったところからも一定程度の経済効果に寄与しているのではないかというふうに考えております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

それでは、以前プレミアム商品券の事業をしていただいた事業報告をちょっと参考までにお話しさせていただきたいのですけども、全国的にこの商品券事業というのは各地区でされました。

ただ事業を決定した後に、実証報告とか実績報告とかされておりまして、経済効果があったかどうかというのは、正式に発表したところあまりございません。私が聞いているのも地元の東彼商工会の波佐見支所から聞いている内容ですけども、ちょっと参考までに聞いていただきたいです。

令和４年度に２億4,700万円商品券を発行されておりまして、業種別で振り分けておられます。まず大型店が32％で8,080万円取られておりまして、次が32％でその他の食料品小売店が8,070万円。ほぼ同額です。次が８％でガソリンスタンドが2,060万円回収されております。次にコンビニエンスストアが1,420万円、次に飲食業が1,530万円。次に自動車関連が1,290万円。次に理美容さんが720万円。あとガス小売で360万円ということでした。

何を言いたいかって言ったら、2,400万枚発行されて、8,000万円を大型店が取っていらっしゃいます。あれは券の割合でいっても４枚が大型店でしか使えないようになってもおりましたけども、32％の8,080万円取られておりまして、２億4,000万円から8,000万円を引いて、あとの１億6,000万円が町内の小売店。食料品、小売店に回っておりまして、これは経済還流効果と商工会は報告されております。このような内容で３年間波佐見町が令和２年、令和３年、令和４年と３年間実施されましたので、トータルでしても７億3,000万円。それに券だけでお買物する人というのは少ないので、それにプラス現金を足されていますので、例えば30％上乗せしても10億円ぐらいの経済効果があったと思います。

これを見ても、ぜひ私が言いたいのは波佐見町での消費喚起と言っておりますけど、消費に刺激を与えていただきたいのですけども。まずはするか、しないかで、するとなればいろんな方法があると思います。川棚町ではＰａｙＰａｙと連携されて消費喚起をされております。佐世保では「させぼｅコイン」を使われて、現在も進められておりますけど、電子地域通貨。嬉野町ではそういう電子マネーというか、ポイントをされて、あれは100％還元でしたか。あっという間にもう１日、２日で終わったような。ちょっと失敗事例という話を聞きましたけども、とにかく何かをきっかけに消費喚起をされております。ぜひ波佐見町も元気にしていただきたい、ふるさと納税の目的にも書いてありますけど、元気なまちにしてほしいということでたくさんふるさと納税も来ておりますので、もし財源的にそのお金を使えるようであればぜひ。

プレミアムこういう商品券事業で今回も書いておりますとおり、電子、紙。電子ばっかりでしたら、なかなかスマートフォンのほうへ対応出来ない消費者の方もいらっしゃいますので、ぜひ今後ともこれはやっていただきたい。

やっているところですごいなと思ったのが佐賀県の江北町ですか、肥前山口の近くの。あそこの１回ちょっと大型店で買物しておりましたら、第７弾元気の出るクーポン券ということで3,000円の券を、各町民の方に3,000円ずつを配付されております。9,500人ぐらいの人口なのですけど、それが第７弾と書いてありました。第７回もやっているのだなということで、かなり消費関係に関してはその地域が頑張っていらっしゃるなと思っております。

ぜひ波佐見町も３年間続けてもらって、10億円以上ぐらいの経済効果が出たと思いますので、ぜひやっていただきたい。町長以前お金のばらまきに値するのではないかなと言われましたけど、今の考えで、何か新しい進展はないでしょうか。よろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

５年間トータルでいろいろやってきていますよね、消費喚起として。これを何年も続けていくのかと。消費喚起だからといってですね。私は少し否定的な考えがございます。

本来はこの５年間のうちに、どれだけ魅力ある商店づくりを頑張っていただくかということに支援したのだから、そこら辺を少し頑張ってほしいなという気持ちもございます。ただ小さな事業所ではなかなか厳しいところもございましょう。

それから今後はキャッシュレス化の時代ですので、なかなかそこに取り組めない事業所等について、今後の世の中の流れに沿った営業ができるような支援策というのを考えていくべきだなと。単純に商品券であったり、そういったお金であったりをばらまくようなこと。例えば本町が１万4,000人おりますので、単純に１万円配っただけでも１億4,000万円の財源が必要となってくるわけでございます。それを毎年毎年続けていくのかというのは少し私としては疑問に思いますので、もう少し本来の商店が元気になるような支援策というのを考えていきたいなというふうに思いますし、先ほど申しましたキャッシュレス化時代に即した商店の支援策というのを考えてまいりたいというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

御意向分かりました。最近こういうカードのポイント会社がうちのとこにもそういうカタログを持ってきて、ぜひ行政とタイアップしていろんな事業を始めませんかと言われておりますので、いずれ町長に相談に来る商店の団体もあると思いますので、そのときはよろしくお願いします。

あと今波佐見町の商店街でも頑張っておりまして、商品券を使ったイベントをやっております。スタンプラリーとか年末年始に売り出しにかけていろいろやっております。参考までに聞いていただきたいのが、スタンプラリーというのは230人が当選されるわけなのですけど、応募総数は330とか。あとサイコロゲームといいまして、満点カードをためた方にも参加してもらう。80名が抽せんに参加できるイベントなのですけども、それにも200人近い方が応募されておりまして、とにかく参加される方に御意見を聞いたら、いやもう助かります。商品券をもらって、ちょっとでも生活の足しになりますので、また楽しいですから買物が楽しいですからって言われますので、もう10年以上続けておりますが、今後とも続けていこうと思っております。３年間御支援をいただきましたけど、現在決まっておりまして、また御相談するかも分かりませんがよろしくお願いします。

最後に副町長の選任のことで、大変いいニュースを聞きましたのでよろしくお願いします。

僕が今回用意していた話は、町長が当選されたときは3,862票でしたか、得票数を取られて町長選挙で当選されたわけなのですけども、かなり町長に期待されていまして、また町長も期待された以上のことを今やっていらっしゃいます。

でも、もう１人副町長がいたら僕が思うに副町長は以前言われたように、補佐役であって調整役と言われておりました。ぜひその補佐役の方と、また今後とも相談しながら、町にとっていい施策があればどんどん進めていただきたい。大変今日はいいニュースを聞きましたので、本当ありがとうございます。

ぜひ町長、今度副町長来られる方に何か御期待があるでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

答弁の中にも申したように私で１人でしていた部分を、やはり最終的な決断は町長がいたします。それまでの判断であったり、あるいは次いろんな職員間との調整役であったり、あるいは町民との調整役。そういったものを副町長に期待したいと思っておりますので、今後そのような方を今議会中に上程をしたいと思っておりますので、ぜひ議員の皆様方にも、御承認をいただければなというふうに思っております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）

以上で、３番　澤田昭則議員の質問を終わります。しばらく休憩します。

14時40分より再開します。

午後２時28分　終了

午後２時40分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、５番　田添有喜議員。

○５番（田添有喜君）

皆さんこんにちは。一般質問通告書に従って質問を行います。

１．住みよいまちづくりについて

本町へのふるさと応援寄附金も安定し、まちづくりも計画的に進められています。しかし住民からの要望は多く、事業の見直しや新規事業への着手することが求められています。

そこで、次のことを問います。

（１）町道の整備計画は、どのようなものがあるのでしょうか。また県道の整備について、県にはどのような要望を行っているのでしょうか。

（２）農家による野焼きについては、苦情等が多く、再三野焼き禁止の放送が流れています。農家に対する「野焼き対策」について、どのように考えているのでしょうか。

（３）子育て支援の一環として、中学生への卒業祝い金または高等学校入学祝い金の制度は新設出来ないでしょうか。

２．教育行政について

教育行政は、時代の流れとともに、多事多難な課題と向き合わないといけない現実があります。そのような中、早急に対応しなければいけない教育課題も山積しています。

そこで、次のことを問います。

（１）１月以降、総合文化会館の管理及び運営と、町民の利用状況はどうでしょうか。

（２）中学校の部活動の地域移行についての進捗状況はどうでしょうか。

（３）小・中学校の校舎施錠業務委託について、今年度途中で委託内容の見直しがあったのでしょうか。

（４）全国学力・学習状況調査は、令和７年度の中学校理科においてオンラインで出題され回答するように進められています。その対応をどのように考えているのでしょうか。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

５番　田添有喜議員の御質問についてお答えをいたします。

１．住みよいまちづくりについて

（１）町道の整備計画はどのようなものがあるのかと。また、県道の整備について県にはどのような要望を行っているのかとの御質問ですが、町道の整備計画に対する考え方については、岡村議員の一般質問でお答えしたとおり、基本的にこれまで継続している路線の整備や各地区からの要望をもとに、道路の状況等を勘案し実施することとしています。

現在の予定としては継続路線である南武線や、第二狩立線、新釜線などを含め改良工事12路線、舗装工事11路線、維持その他７路線、橋梁橋３を予定しております。

県道の整備に対する要望については、地元からの要望を中心に、町においても舗装や区画線の状況で、気になる箇所を確認し要望を行っているところです。県道は本町においても最も中心となる路線でありますので、今後とも必要に応じて要望活動を行ってまいります。

（２）農家による野焼きについて苦情が多い。再三、野焼き禁止放送が流れている。農家に対する「野焼き対策」についてどのように考えているのかとのお尋ねですが、まず再三放送で注意喚起しているのは、農家の野焼きではなく違法な野焼きについてであることを御承知おきください。

農業による野焼きについては、農地の管理や害虫駆除のために行う藁や農作業の残渣、あぜ道や農地、用排水路等法面の枯れ草あるいは刈り払った草等の焼却があります。これらの野焼きは、廃棄物処理及び清掃に関する法律の例外として認められていることもあり、それを制限することは厳しいものと考えます。

野焼きに関する農林課への苦情については、年に二、三件あっていますが、時期的には麦の収穫後の野焼きが大半であり、内容は洗濯物への臭いの付着や煙による視界不良などです。その対応として、農業者に対して事前周知の徹底や、天候を考慮した野焼きをお願いしているところであります。また麦わら等のすき込みなど、燃やさない方法も指導していますが、最終的には農業者の考え方や判断となりますので、農業での野焼きは完全になくすことは出来ないと考えます。

（３）子育て支援の一環として、中学生の卒業祝い金または高校入学祝い金等の制度は新設出来ないかとのお尋ねですが、選ばれるまち、住みたくなるまちになるために、対象となる住民の皆さんに直接的に祝い金などを給付する制度は、選択肢の一つとして実際に取り組んでいる市町村もあるかもしれません。本町もコロナ禍においては、困窮する学生などの生活支援という位置づけで、高校生や大学生等への支援を行ったこともありました。

しかしながら単に住みよい町という目的で、給付制度の新設は慎重にならざるを得ませんし、現段階での実施は考えておりません。その他の御質問については教育委員会から答弁がございます。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

２．教育行政について

教育行政は時代の流れとともに、多事多難な課題と向き合わなきゃいけない現実がある。そのような中、早急に対応しないといけない教育課題が山積をしている。

そこで、次のことを問う。

（１）１月以降、総合文化会館の管理と運営状況は。また、町民の利用状況はどうかということでございますが、１月の移転当初は、管理委託をしたルピナス倶楽部様も分からないこと、不慣れなことも多い状況でしたので、社会教育班職員１名を２週間程度常駐させ、管理内容や予約受け付けのやり方などを指導しました。

その後、１月末までは本庁舎と文化会館を往復しながらの指導。現在は文化会館から連絡や要請があれば、対応に出向くようにしております。

利用状況については、おおむねこれまでどおりで、使用しにくくなった不便になったなどの意見はあっておりません。

（２）中学校の部活動の地域移行についての進捗状況はどうか、とのお尋ねでございますが、９月議会で同様の御質問いただいておりましたので、９月以降についてお答えをします。

９月末に第２回波佐見町地域部活動推進検討委員会を開催し、モデル活動であるサッカー部の状況報告などを行いました。11月には中学校教職員小学５年生から中学校２年生まで。そしてその保護者を対象とした意識意向調査を行いました。

年明け１月には、外部指導者の方々との意見交換会を開催し、現状や課題等を共有しまし

た。さらに県職兼業ガイドラインを策定し、波佐見町小中学校の教職員の業務量の適切な管理等に関する規則に追記すると同時に、学校に兼業兼職の要領等を周知しました。あわせてスムーズな移行ができるよう、波佐見町部活動地域移行に係る方針を策定しました。

今後の予定としましては、保護者、外部指導者の理解協力を得た上で、６年度の２学期から試験的に休日の指導について、教職員を外したかたちで行うように予定をしております。

（３）小中学校の施錠業務について。今年度途中に見直しがあったのかとのお尋ねございますが、現在小学校の施錠業務については、会計年度任用職員である用務員にお願いをしています。中学校施錠業務についてはルピナス倶楽部様に施錠業務を委託し行っていただいていますが、この業務についての変更等は行っておりません。

（４）全国学力・学習状況調査は、令和７年の中学校理科においてオンライン。その対応についてということでございますが、今年度にも、中学校の英語の一部をオンライン形式で行い、また令和６年度の児童生徒質問用紙はオンライン形式で、小中学校とも行われます。

今後通知されるでしょう文科省からの指示に従い、事前の環境整備や準備、実施方法の確認など、不足、不備等がないよう各学校に指示を行います。令和７年度の中学校理科についても同様の対応を行う予定であります。

以上、壇上から答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

まず町道の整備、それから県道の整備に関わっての県への要望についてお尋ねをしたいと思いますが。答弁にありましたように、計画的に進められ現在郵便局前から宿の濁渕までの歩道整備が行われて、随分交通環境が整備されて、弱者も守られるようなそういう取組がなされていることは非常にうれしく思います。

私が今回このような質問をしたのは、毎日子供たちを見守っているのですが、かなり安全運転義務違反といいますか特にスピード違反。そういうのが非常に目立つものですから、何かその対策はないかということで今回質問をさせていただいたのですが。

町長には現在町内の交通事情といいますか、交通マナー。そういうものはどのように映っておられるでしょうか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

全ての皆さんを把握しているわけではございませんので、何とも言えませんが。ある程度は交通ルールを守って運行されている部分があろうかと思いますし、スピード違反等もあっているような方も見受けたりします。

例えば信号が黄色から赤に変わるときに、一気にスピードを出して交差点を通過するなど、よく目撃することがございますので、非常に危険だなというように感じることがございます。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

私は朝しか子供たち見ていませんけども、お互い仕事があったり、子供たちを送ったりというようなことで、ハンドル操作はその人の人柄または生活習慣が表れるとよく言われます。

非常に危険な状態でテレビ等でも報道があっているように、この子供たちに車が突っ込んで、最悪の事態が生まれなければいいなということで、毎朝ドライバーには頭を下げ半分ぐらいいの方は、応えて頭を下げてくださいますけれども。もうなかなか法定速度を守っていない。これは全国的にも交通事故の約74％が安全運転義務違反。特に代表される速度違反というようなことが統計的にも出ています。

そういうことで、今回環境が変われば人が変わると言われますので、町内県道、町道を全部見て回りました。まず一つ目は、路面の陥没箇所ですね。以前も質問したかと思うのですが、もうくどく言いたくありません。ぜひ通ってみてください。どんな状態なのか。

４月末から町の最大イベントである陶器まつり等も開催をされます。かなりの方がここを通られていますけれども、信号待ちで止まるときは何ともない――何ともないといったたら、もう止まるときもおかしいのですけど。青信号で行くときはかなり、大型車も軽自動車もかなり振動をします。１回通っていただければ私がどういう思いでこの質問しているかおわかりかと思います。

出来ましたら、計画があろうかと思いますが、もう以前から指摘をしているところでもありますし４月末には町のイベントもありますので、急には難しいかもしれません。その後から指摘をした稗古場郷の永田交差点については早々に舗装工事をして、改修していただいたのですが。最初に指摘をしたところがまだ未改修でございます。そのあたりの計画も今回６年度の予算に入っているのかお尋ねをしたいと思います。

○議長（百武辰美君）　建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

今おっしゃられた岩崎交差点のところ。ここについては陥没の状況は承知しております。この町道西武線の流れでありますけれども、前回永田線のところについては私も通ってみて、うねり等も感じましたので、ここから先にやろうかということで考えて行いました。

一方で、実は本来はずっと順番を追って攻めてきている中で、稗木場地区の急傾斜地の工事があって、あの区間をちょっと先送りしたのですよね。工事の関係でその関係でその先をやったという経過があって。今後については、これはもう申し訳ございませんが、急傾斜地崩壊対策事業の工事が終了見込みでありますので、そちらのほうを先にやりたいと思っています。

その後に今言われたところについては、対応できればと思っております。いずれにしても、そこらあたりは承知しているということで何らかの対応を続けてまいりたいと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

この路線は以前より大型トラックの利用が少なくなって、今佐賀の運送会社ですか。そこの一社が常時通っているような状況で、他の会社の方に協力をいただいて、迂回をして子供たちの安全も保たれているのかなと思っております。

最近その近くにアパートも出来て、新しい方も入居をされています。そういう方も通られることで、今まで以上にちょっと変化があるものですから、再度このようなお尋ねをしたわけですが。今後、計画はあるというようなことで、改修日を楽しみにしたいと思います。

次に路面表示について見て回りました。先ほど区画線等については県に要望しているというような町長答弁もありました。今回区画線それから道路標示、そういうものを見ていきました。皿山入り口から長野郷に入っていくところです。見れば「50」という表示は分かるのですけれども、もうこういう路面表示が消えかかっているのがあります。

これは、よくといいますか。ネズミ取りは町内のどこで行われていますかって言ったら、この旧道の舞相交差点から下宿のこの路線でネズミ取りをやっているということを聞きましたけど、ここは速度30キロメートルなのですね。こういうこの30キロ規制とか区画線、そういうものも整備されていません。そういうところで、警察もネズミ取りをしているのかもしれませんが、ちょっと汚いなと。もう少し整備をしっかりするべきだと思います。

これは以前もお見せしましたけれども、県道１号線キヤノンに通ずるところです。もうかなり中央線、区画線が消えかかっています。

これ皿山郷から稗木場郷に向かうところです。これももう「50」の表示が消えかかっています。まだこれはいいほうですが、まだ消えかかっているものもあります。

先ほど小樽のほうで歩道が出来るというようなことで、今見えている多くの建物から先のところに歩道が出来るのかなと思っているのですが。これ私も区画線を中心に見てまいりましたので、これは入り口のところですね。（次の画像）ここも舗装の整備の対象の区間になるかと思います。

感じたのは永尾線の道路の整備状況と、この小樽郷のほうとかなり差があるなと。５年かかけて歩道整備をするということなのですが、子供たちも少なくなったのかもしれませんけれども、もう少し道路整備をしてほしいなと。工事がかかるので、中央線あたりはこのままなのかなと思いますが、ぜひ中央線だけはきちんと県のほうに要望をしていただきたいなと思います。ナフコ前のもう中央線とか、そういうのもほとんど消えかかっていますね。このように小樽の先それから永尾の先、野々川の上。全部こう見て回りました。

今回お願いをしたいのは、先ほども言いましたけど、やはり観光の町。お客様をお招きするという意味でも、こういう区画線または道路標示。そういうものの整備も町または県で早々に手をつけていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

先ほど写真のほうで確認させていただいた箇所の中で、今後取組が入るような場所もございましたので、基本的に舗装工事が入ったりする場所については、センターをやる区画線とか、そういった表示も改めて設置がされますので、よろしいのですが。

一方で区画線のほうは要望できるのですけれども、速度規制とかこういったものはどちらかというと警察が対応するべきもので、県が簡単にできるものでもないというふうに聞いております。ですので、そういったことが御意見としてありましたというふうにお伝えができるかと思うのですが、一応そういったところはちょっと御理解いただきたいと思います。

ちなみに先ほど映りました箇所で言いますと、小樽郷の部分は歩道が今度整備されていきますので、それに合わせてきれいになっていくというところ。あとは先ほどのもの言いますとナフコの前とかは、聞いた話ちょっと舗装の予定も入るということなので、それに合わせて少し整備をされるのかなというふうに認識しております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

また私自身にも当てはまるのですが、どうしても慣れてしまうのですね。慣れてしまって、何かあったときにあら、こういうところが不備だったという意外とそういう事案というのが多いものですから。もう少しこう冷静になって見て回ったときに、手をつけられる分野があるのではないかなというようなことで今回、質問させていただきました。

警察のほうも朝夕パトロールをされていますけれども、警察の方もどのくらい意識を持ってパトロールをされているのか。そういう速度の表示等については警察と言われましたけれども、警察のほうももうそれに慣れてしまって、肝心なそういう環境整備といいますか、そういうところに手が向いてないかもしれませんので、町としても何か機会がありましたらぜひ、そういう意向を伝えていただければと思います。

次に野焼き対策について。質問をさせていただきたいと思います。農家による野焼きっていいますか、それは違法ではないというような答弁がありましたが、放送の内容ではやはり農家でも、その煙等が洗濯物について臭いがついた場合には違法になりますというような放送が流れれば、どうしても「いや違法じゃないんだ」というようなことでなかなかやりづらかったもので、取り組めなかったものですからお尋ねをしました。

年に二、三回というようなことで、あの放送が流れるたび農家の人は多分心を痛めて、おられたのではないかなと思います。その野焼きの効果については答弁の中にもありましたが、一番大事なのは草をそのまま刈ったままにしておくと、その草等が腐敗をして微生物が増えます。微生物が増えるということで、微生物は窒素分をどんどん分解をします。肥料分で例えるならば。そしたら、もう肥料が結合した土地になってしまうから、また肥料をやっても微生物

が多いものだから、また肥料。要するにこれだけ肥料高騰もあっている中で、そういうような無駄な作業がある。

燃やすことによって答弁にもありました、病害虫そういうものの抑制にもなります。灰自身も肥料となって土を肥やすものになります。要するに物価高騰のものにもなるし、ＳＤＧｓの考え方でもやはり有効活用の一つの大きな農法として、この野焼きというのをやられていたと思います。

麦の時期がというような答弁がありましたが、農家によってはどうしても燃やさなければいけないというようなところもあります。そこで農家の方は台風被害、物価高騰と鳥獣被害、もう本当にいろんなものと向き合いながら、消費者によりいいものを届けようということで必死に働いておられるわけです。そういう中での、ああいう放送が流れると今町長答弁もありましたので、違法ではないのだと認められているというようなことですが、天気がいいときに燃やさないといけないし、洗濯物も天気がいいときに干さなければいけない。非常にそれは言葉では理解出来ても、現実的にはかなり難しい課題なのかなあと思っています。

そこで、これも大きな課題でなかなか解決出来ないかもしれませんけれども、年間を通してずっとじゃなくて、どうしても燃やさなければいけない。そういうものについては、何か町として、東彼清掃工場あたりに無償で搬入できるような、今までないことですから一歩踏み出すのに勇気が要るかと思いますが、町長このあたりの取組はどうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

農作業で発生した刈りとった草等の処分について東彼清掃に持ち込むのはという御提案でございますけれども、一つの方法ではないかなというふうに思いますが、果たしてそこまで皆さんがなされるのかと。

今までおっしゃったように、すき込むなり、あるいは周辺の住民の皆様の御理解をいただいて、焼却をするなりしたほうがよっぽど合理的な取組になるのではないかなというふうに思いますので、現状そういうふうな施策をしても、持ち込んでいかれるところはないのではないかなというような判断をします。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

直接、農家の方から来話を聞いていましたので、あえて作物については言いませんけれども、非常に燃やすにしても、燃やしにくいそういう植物等もあります。一般的な雑草といいますか、それを僕はこう言っているわけではありませんので。今後お互いに共存していくためには、また新たな取組もしながら農家の人も、または一般住民の方も心地よい生活ができるためには、何か一考いるのかなというようなことで、提案をさせていただきました。

全ての農家が持っていくということは、私は考えておりません。もうここではちょっと控え

ますが、もしそういうような機会があれば東彼清掃工場あたりに持っていくものがありますかというような、そういう意識調査は行ってもいいのではないかなと思いますが、いかがですか。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

今御提案のありました件ですね。いろいろ農業の人と話す場があるのでそういう話はしてみたいと思います。ただ現状はやはり、今のこの野焼き自体を住民の方に理解していただいて、やはり共存という形が一番望ましいかと思います。

先ほど答弁にありましたが、年３件ぐらい連絡があるってことで言いましたが、私どもの対応としましては、電話があった方にこういう事情でやはりしなきゃいけないのですよって。していいのですよというお話はしているので。言われた方についてはそういうことで伝わってきていると思うのですけども、まだ町の全体的な部分が足りないのであれば、そのような方法を検討していきたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

今回こういう質問しましたので、テレビ等を見ていただいている町民の方も、こういう農法で単に燃やすじゃなくて、燃やすことによっての効果。そういうもので、より質のいい作物の栽培を行っておられるのだという理解の場をつくりたくて、こういう質問をさせていただきました。

次に子育て支援の一環として、中学生への卒業祝い金または高校入学祝い金制度が新設出来ないかというお尋ねをしたのは、もう御存じのように川棚町は町内在籍で、県立川棚高校に入学する生徒に対しての10万円の支援金を廃止し、中学生卒業生に一律３万円を支給するということが報道されました。そういうこともあって、今回の質問に至ったのですが、町長にお尋ねをします。

波佐見高校入学支援補助金の見直しを考えておられますか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

現状では考えておりません。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

この事業の提案がなされたときに10年間ということですから、2,300万円の10年間、２億3,000万円。波佐見高校の支援の一つとしてこの入学支援金を続けられるのかなと思いますけど、町民の方の話をすれば、やはり町民の方に10万円でしたかね。町外から５万円支給だったですかね。そういうのもいいのでしょうけど、子供たちがどんどん少なくなっていきます。ま

た中学から高校となると何かと出費も多いのかなと思います。

そういうことで、今回のような質問をしたのですけれども、将来を担う子供たちのためにちょっと前向きに、このことを考えていただきたいと思うのですがいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

先般の波佐見高校の卒業式に私、出席させていただきました。その中で卒業生の代表の方が答辞を申し上げられました。その中で非常に私うれしかったのは、波佐見高校の支援策として、先ほど言われた入学祝い金なり、あるいは家賃補助その他の支援をしっかり町がしてくださってうれしかったです。ということをおっしゃっていただきました。確かに私たちの思いが、波佐見高校生に届いていたのだなというのを確認したところでございます。

おっしゃるように子育て支援策の一環として中学生の卒業祝い金あるいは高校入学祝い金等の新設。それは一つの方法としていいかと思います。

これは他市町がしているからうちもやってはどうかということではなくて、うちはうちなりの方法、波佐見町は波佐見町なりの方法として、今回給食費の無償化等も提案させておりますので、それぞれの自治体の状況によって、対応すべきものであろうと思いますので、現状では直ちにそういったものを取り組もうというところではありません。というように私は思っております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

私も卒業式出ました。久しぶりに感動して涙が出ました。こういう思いを持っているのだなと町外から来た生徒でしたね。でもこの波佐見に住んでいる子供たちもそういう思いがやはりあると思うのです。

だから波佐見高校に町内から行った場合は10万円、町外から来た人には５万円。そこの見直しを少しして、波佐見の子供たちにまず手厚い支援をすべきだと私は思うのですけれども。予算が絡むことですから、急には実行出来ませんけれども、今後検討の余地に入れてほしいのですけれども、町長いかがですか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

いわゆるこの波佐見高校支援策というのは、町に高校がないと波佐見町のにぎわいっていいますか、活力が損なわれるということで支援をやっておりますので、今おっしゃっている子育て支援と若干趣旨が違いますので、異なるかと思います。おっしゃる意味はよく分かります。今回の議会でも、いろいろな要望が各議員さんのほうから上がっております。

しかし、それを全部やるよってなかなか町の財政としては厳しいものがございますので、ある程度の取捨選択は必要です。そこの中において他町ではやっていないような子育て支援策

は、本町でかなり取り組んでいると思います。そういったものも見比べながら、そういった今行っている支援策を縮小するなりして、その財源をものとして充てるとかいうふうなことは考えられましょうが、直ちにこのおっしゃっているような支援策を取り組むというのは、私は今もう少し検討が必要なのかなという感じがしている状況です。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

なかなか思いを言葉で言うのは難しいですね。将来的にこの波佐見高校の支援も10年間という基本線が示されましたけれども、子供たちの数も10年間ではかなり変動があろうかと思います。今後６年度の予算については、ある程度方向性が出されておりますので、今後の策としてそういうことも必要ではないかなと。

間違っていただきたくないのは、川棚がやったからうちもやれというようなそういう考えではありません。波佐見の子供たちに何かまず手厚い支援をすべきではないかなと。いろんな支援を出されておりますけれども、そういう視点からお尋ねをさせていただきました。

次に、教育行政のほうに行きたいと思います。監理団体等の引継ぎは行っているかということを聞きたかったのですが、行っているというような答弁でしたけれども。この移転に伴っての社会教育団体等との協議。そういうものは行われたのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

今回の移転に伴って、社会教育団体への協議というのは行っておりません。私たちが、こちらの本庁舎のほうに移るという話は行っておりますけれども、それに関しての協議というのは行っておりません。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

先般、総務文教委員会のほうで社会教育団体との意見交換会をしましたけれども、各団体の皆さんはぜひその協議会、話合いの場を持ってほしいと言われましたので、今後ぜひ検討、計画をして対応していただきたいと思いますが、いかがですか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

今後ですね、総会等が４月からあろうかと思いますので、その場でいろんな御意見をお伺いさせていただければと思っております。よろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

そこで旧教育委員会の執務室数ですね。そこの管理運営、今後どういうふうになさっていくのか。また改修工事等の着工はいつぐらいから行われるのか。もし分かる範囲でお答えいただ

ければと思います。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

今私たちがおりました事務室でございますけども、今後はその管理団体、今委託しておりますルピナス倶楽部さんが一部を使われます。あと残りにつきましては、図書館の充実ということを議会のほうからも求められておりますので、そういった図書館の充実を図ってまいりたいと思っております。現在の図書館の中に書籍をちょっと山積みしているという、もうそこはですね本当に申し訳ないと思っておりますけども、そちらを整理。あと図書館の中にある、そういった事務所のまた山積みになっている本をこちらのほうに私たちがいた事務所のほうに持ってきて、そちらのほうでそういった図書の整理というのを行いたいと思っております。

そのあとに、まだどうしていくかというのは現状を把握しながら現場と話をしながら、改修等が必要であれば、またそういったそれに向けて改修等は行ってまいりたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

ぜひ地域住民の声、または社会教育団体の声を生かして、有効なスペース活用に努めていただきたいと思います。

監理団体との引継ぎ――ちょっと戻って申し訳ないのですけど。なぜ聞いたかといいますと、私１回ちょっと用事があって電話したのですけど、なかなか電話に出られなかったのです。以前あそこは旧教育委員会のときは、もうコールまたは２コールで必ず電話対応していただいて住民サービスといいますか、住民対応なさっていたかと思うのですけど、かなり鳴らしても出られなかったものですから。

そこのところ、特に住民の方はそこを分からずに用事があって電話されるわけですから、最低でもそういう社会教育の窓口ですので。そういうところの引継ぎをしっかりこうやっていただきたいなというように思うのですけれども、あそこにはもう常駐されていないのですかね。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

申し訳ございません。多分、窓口対応をお２人でされていたか、お１人の方は館内の見回りをされていたかだと思っております。それで電話が鳴っていても対応が出来なかったのかなというふうに思いますけども。あそこには今２人常駐というかたちでお願いをいたしております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

社会教育の窓口でもありますので、そこのところは今一度確認をしていただいて、住民の方

が気安く活動できる、または社会教育活動ができるそういう場にしていただきたいと思います。

スペース等について、図書館の整備とかこう言われましたけれども、これも社会教育団体との意見交換でも出たのですけど、窓口で御相談じゃなくてやはり打合せをするスペースがちょっとないと窓口での話というのは非常にやりやりにくいと。あわせて今回の学習用のテーブルですか。そういうのも購入をするというようなことで計上されておりましたけれども、ロビーのところではやはり人が行き来するので学習スペースではないと思うのですね。

今の図書館の中にといったらますます狭くなるので、やはりこれを機会にどこか１部屋、以前の名称で言うと研修室の位置とかですね。何かそういうところをオープンスペースとして、社会教育団体との打合せとか、または子供たちが勉強できるそういう静かなスペース。そういう設計もぜひ行っていただきたいのですけど、今の計画はそこまでは計画をされてないのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

そういった打合せの時は、我々が出向いて行くことに――打合せでございますので、なるかと思います。そういったときは空いた研修室、部屋を使ってもいいと、部屋で打合せをすることになると思います。

そういった打合せが出来ないような。全部部屋が埋まってしまっておけば、以前のその事務所の中で打合せというのも出てくるのかなと思っております。

ですので、そういった部屋は幾つもございますのでそういった部屋を利用して、打合せを行ってまいりたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

社会教育団体の方もこう言われたのですけどね。どっかやはり一室を設けてほしいというようなことを言われました。確かにそのとおりだと思っております。

あと意見交換会でも出ていたのですけど、少なくとも社会教育の担当は常駐させるべきではないかというような御意見もありましたが、その辺についていかがですか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

担当を常駐ということでございますけども、その話はそういった担当１人とか――２人でもいいですけども。担当を常駐させたら我々の業務のほうが回っていかない。まずは我々の業務の中でこちらに移動してきましたので、まずその係の中、班の中の社会教育班のその業務を回すためには、こちらにやはり居るというのが基本だと思っております。

そういった打合せをしたいという電話がかかってくれば、もちろん私たちは役場に来ていた

だきたいなというのもあるのですけども、向こうでやるということであれば、もちろん出向いてまいります。

ですので、基本我々はここの新庁舎の中で業務をするのが基本だというように思っております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

新庁舎に移転したことによって生まれた新たな現象なのかなと思っておりますので、関係団体あたりの御意見を聞きながらよりよい方法で対応していただければと思います。

次に部活動の地域移行について、随分進められているなと思っています。９月にモデルのサッカー競技ですか。これも社会団体との意見交換のときに９月に中間報告をしましたというような御報告をさせていただきました。

また、年明けて１月18日には指導者を対象とした、話合いがなされたと思うのですよ。そのときに何か目立った課題、要望等は出なかったでしょうか。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

外部指導者との情報交換会の中ではやはり、指導者の確保と予算的なことに対する不安があるということは、出ました。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

ちょっと画面お願いします。ちょっと小さくて申し訳ないのですが、やはり一番――順番はつけられないのかもしれませんが。指導者の確保というのが一番大きな鍵だと私は思います。

先生方が土日の指導をしない。裏返せば、その分が地域の方に負担がかかっている。その大前提を忘れてはいけないし、方針等を作成されるときに先生たちは守られたけど、今度は地域の方は仕事もして、自分の家族も犠牲にするということがもうこれからは移行ですから、絶対誰かにやってもらわなければいけないわけです。

そう考えたときに、方針を見せていただいておりませんけれども、いっぱいあります。これは国それから県の移行に伴う方針を見れば事細かく書いてあります。練習時間どうするのか、いや勤務時間等ありません。その時間では付けません。とかですねいろんなことが出てきます。休養日はどうするのか。また保護者の経費負担、大会への参加基準、指導者の先ほど言いました身分保障――謝金も含めて。保険の加入、合同チームの規定、または町、学校の役割。やはりそういう基礎固めをしっかりしないと、６年度の２学期から土日は地域の方でお願いします。

私は昨日、有田町と波佐見町でバスケットの「セラミーカップ」という大会を行っていて、波佐見の子供頑張って女子のほうは見事優勝しました。でも現実を見るとこれ県の中学校のバ

スケットボール大会です。男子で優勝したのは、ヴェルカＵ１５です。もう180センチメートルとかもう、揃えたチームですね。そういうのに学校単独のチームは勝てません。昨日の大会でも長与中学校の女子バスケが来ていました。どのチームか分かりません。名前は「Ｌｉｅｎ（リアン：仏）」という名前をつけていました。「Ｌｉｎｅって絆（つながり）よね」といったら「はい」って言いました。もう何か地域の名前さえ消えてしまう。支援は町がするのに地域の名前も出てこない。これはクラブだからいいのかもしれませんけど。

そういうことも是非教育長が県あたりに行って、市町村の教育長あたりと意見交換をする場合には中体連の意義、部活動の意義は何なのか。こういうヴェルカＵ１５あたりが出てきたら、学校単位でやっているチームは勝てませんよ。そしたら、また自分たちも強く、強く、強く。勝利主義になってはいけないというのに、そういうところまで走っていきます。

そういう意味も含めて、ぜひ出された基本方針。これを公開していただけると、私が知り得た情報の中でアドバイスもできるのかなと思いますけれども。是非公表していただいて。

ある程度整った段階で多分予定はされているかと思いますが、２学期の９月から土日、外部指導者に委託、指導をお願いできるようなかたちに進めてほしいと思うのですが、それについてお考えを聞きたいと思います。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

最初に外部指導者の方と意見交換の場を持ちました。外部指導者の方がどういうお考えなのか、どういう困り感を感じていらっしゃるのかということをまずやる必要があるだろうということで、検討委員会を重ねた後に外部指導者の方と協議をしてさせていただいて、今おっしゃったようなこと。

ただありがたいことに、今外部指導をなさっている方々は皆、引き続き頑張りたいということをおっしゃっていただきましたし、今外部指導者がいない２つの部においても、やはりその地域の方々を探さなくちゃいけないなということで、自分たちもその人材探しに協力をするということもおっしゃっていただきましたし、私たちが予算的な支援だとか、不安に思っていらっしゃる人材確保、予算的なこと等についても意見交換しておりました。

しかし、まずは休日について移行をするということが最初ですので、これをやりながら様々な課題について対応し、８年度以降に検討が始まるであろう平日になったときに、今おっしゃったような大きな課題が出てくるだろうと思っています。

休日については現状で何とかやっていけるということで、私たちは判断をしておりますし、何とかやっていかなくてはいけないなということを思っておりますので、規約等々の詳細については今後、実際にやっていきながら保護者、地域の要望、教職員の思い等々も踏まえながらやっていきたいと思っています。

なお教職員については兼業、兼職を活用しますので、先ほど言った教職員が一切関わられる

じゃなくて、あくまでも外部指導者として関わる教員はそのまま参加をするかたちになっていきます。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

以前は各協会が新人大会、中体連を運営しておりました。しかし中学校の部活動の主要手当。そういうものが大分認められて、学校側に主権が移っていった流れがあります。今こそは指導者の確保については、各協会等にお願いをし、一時的な指導者じゃなくて、ずっと続いていくようなそういう体制づくりに。特に中学校の部活動振興費に400万円、150万円は指導者手当にあててください、150万円は逆にそういう指導者確保のための体制づくりに僕は使うべきだと思いますが、ちょっと時間がありません。

実際、昨日は長与の中学２年生の具合が悪くなって救急車を呼びました。土日の他活動でそういうふうにして地域の方、先生がいない段階でのそういうことがあったときにどうするのか。取りあえず土日だけはということの表現を教育長されましたが、何が起こるか分かりませんので、ぜひ９月までにそういうところも含めて。ガイドラインが国、県から出ておりますので、町のガイドラインをぜひ作成して、指導者または地域、各協会等にも公開をしていただきたいと思います。

次に校舎の施錠業務について、今年度途中に委託内容か見直しましたか。ちょっとびっくりしました。今年度も小学校は大体26万円、27万円ぐらいの予算でされていますが、中学校の場合、令和４年54万352円。令和５年度の予算が55万4,000円。６年度の予算額59万8,000円計上されています。かなり中学校や時間帯に制約があるから、現在どういうふうにされているか把握されていないのだなと思ってびっくりしました。

現在は17時だけ施錠に行かれて、帰りは教頭が施錠しているというように私は聞きましたよ。ルピナスさんの管理人さんから。その実態を把握されているのですか。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

中学校に確認をしました。部活動がない月曜日等々については、子供たちが帰った後30分かけて月曜からほかについては、児童生徒の下校が完全に終了した後、30分間ということでどうしてもそれが６時30分、７時になりますので、もっといけば７時、７時30分になっていく部分でやっていくのだと思いますが、そのときにルピナスさんのほうにお願いをしているというかたちでやっております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

予算が絡むので、私が聞いたのはもう今１回しか行っていませんというようなことを聞きましたので、その辺について事実かどうか。今年度の予算にも関わってきますので、ぜひそこの

ところは確認をしていただきたいと思います。

最後に令和７年度から理科において、オンラインによる出題、回答。それから動画あたりも配信をしてのテストとかいうようなことで、国も言っています。キーボード操作に個人差があるのだという指摘がありますので、そのあたりついて、また小学校については令和８年度からオンライン形式でやるということですので、そのあたりについての取組意向を聞かせていただきたいていただいて、私の質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

答弁に申しましたように、詳細がまだ一切送ってきておりませんので、詳細がこういうマニュアル等が送ってきてから改めて精査をし、学校と確認をして対応していきたいと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

詳細は来てないと思いますが、国もキーボードの操作というようなことを言っているので、そういうのはもうテストがあるなしは別にして、日常の教育活動の中でも意識して指導ができるかなと思ってお尋ねをしたのですが、いかがですか。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

今議員、御不安のところは私たちも感じております。実際今年度中学生につきましても、キーボード操作が不得手な子供については、職員を横につけて対応するというかたちで行っておりますし、これから、そういうキーボード操作等につきましても、子供たちの能力、実態の判断をしながら職員対応でやっていきたいということを思っております。

○議長（百武辰美君）

以上で、５番田添有喜議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。15時50分より再開します。

午後３時37分　休憩

午後３時50分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、２番　濵本秋人議員。

○２番（濵本秋人君）

通告に従い質問いたします。本日最後の質問です。よろしくお願いします。

１．コミュニティーバスについて

本町には「予約制乗合交通」（のんなっせ号）があります。

東彼杵町や有田町には独自のコミュニティーバスが運行されています。本町にもコミュニテ

ィーバスの導入は出来ないか。

２．物価高騰対策について

農業者や団体等には、農業者物価高騰対策支援交付金等の支援をされていますが、物価高騰で経済的負担増は一般住民も同じです。

前回発行されたプレミアム商品券の発行は出来ないかとお願いします。

３．高齢者支援について

本町の65歳以上の人口は、33.3％と全体の３分の１を占めています。

そこで、次のことを問います。

（１）高齢者の医療費の状況は。また、医療費に対する支援はないのか。

（２）高齢者運転免許証自主返納者への支援金額の見直しは考えられないか。

以上のことを質問いたします。壇上からの質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

２番　濵本秋人議員の御質問についてお答えをいたします。

１．コミュニティーバスについて

東彼杵町や有田町のような独自のコミュニティーバスを、本町でも近い将来導入出来ないのかというお尋ねですが、コミュニティーバスは自治体が車両や運転手を管理し、路線バスと同様に町内各所にバス停を設け、時刻表をもとに決まったルートを運行するものです。

東彼杵町や有田町でも運行されていますが、運行状況を確認しましたところ、コミュニティーバスは両自治体ともに、町が直営で運営しており、利用客は減少傾向で運行費用も2,000万円程度かかっている状況と聞いております。

利用者のニーズや交通事業者との競合など様々な課題を精査した上で、まずは既存の乗り合い交通を基軸として、本町に合う公共交通体系の構築を図ってまいりたいと考えており、今のところコミュニティーバスの導入は考えておりません。

２．物価高騰対策について

物価高騰で経済的負担増は一般住民も同じであると。

前回発行されたプレミアム商品券の発行は出来ないものかとのお尋ねですが、澤田議員の一般質問でも答弁しましたとおり、本町ではこれまで新型コロナにおける経済対策として、令和２年度から４年度にかけてプレミアム商品券販売事業を、燃油高騰対策として令和４年度、令和５年度に燃料費等高騰対策支援事業を、さらには今年１月から３月分までの上水道料基本料金の減免を実施しており、消費喚起や事業所支援についても取り組んでまいりました。

このように、これまで行ってきた住民や事業所支援は、本町の経済活性化に寄与しているものと考えておりますので、今のところプレミアム商品券の配布や販売は考えておりません。

３．高齢者支援について

本町の65歳以上の人口は33.3%、全体の３分の１であると。

そこで次のことを問うということで（１）高齢者の医療費の状況は。また、医療費に対する支援はないのか、とのお尋ねですが、高齢者の医療としましては、平成20年度から始まった75歳以上の方が加入する後期高齢者医療の状況について説明をいたします。

現在、団塊の世代が75歳に到達している最中であり、令和６年１月末での被保険者は2,517人となっています。被保険者が増加することに伴い、後期高齢者医療に要する予算規模も年々増大し、令和６年度は一般会計の療養費負担金が２億2,000万円を超え、特別会計への繰出金も約7,100万円となっています。高齢者の１人当たりの医療費は、年額100万円を超えており、県内でも３番目に高い水準が続いています。

医療費の負担については、所得に応じて１割、２割、３割の自己負担を求めており、また入院などで高額になった場合には、高額療養費制度があり、本人及び世帯内の所得に応じて、一定の金額以上の負担にならないように配慮されています。

医療費の支援ということですが、昭和48年に70歳以上を対象とした老人医療費無料化がスタートし、すぐに医療費が膨れ上がり10年ほどで終了した歴史がございます。

先ほども申し上げましたが、現在の後期高齢者医療の運営には、令和６年度予算でも一般会計からの持ち出しだけで合計で３億円近くになるなど、既に多額の公費、税金を投入しております。今後も制度改正を続けながら、全世代対応型の持続可能な社会保障制度の維持に努めていく必要があり、医療費へのさらなる直接的支援は難しいと考えております。

加齢に伴い病気の発症リスクが高くなる一方、それまでの生活習慣に起因して病気が悪化する傾向もあります。町としましては、病気の早期発見、早期治療に努めることで医療費を減らしていく医療費適正化に努めておりますので、まずは高齢者だけでなく若い年代の方を含めて、１年に１回は健康診断を受けていただき、御自身で健康管理をしていただくことに町民皆様の御理解と御協力をお願いしたいと考えています。

（２）高齢者運転免許証自主返納者への支援金額の見直しは考えられないかとのお尋ねですが、高齢者運転免許自主返納支援事業は、高齢者による交通事故抑止と公共交通機関の利用促進を図る観点から、自主返納された65歳以上の方に、乗り合い交通等で使用できるタクシー共通券。またはバス利用券１万円相当を交付しているもので、制度開始の平成30年度以来、２月21日時点で290名の方に交付をしております。申請者は、各年度60名前後で推移しており、制度として町民皆様へ浸透しているものと考えております。

そこで支援金額の見直しは考えられないかとのお尋ねですが、この支援事業が制度として定着していること、また高齢者の移動手段について乗り合い交通システムの運用、高齢者タクシー利用券助成事業など別途制度を設けていることに加え、これまで交付している方の公平性の観点から、現時点での見直しは考えておりません。

以上で壇上からの答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

まず、コミュニティーバスの運行について説明します。

東彼杵町は平成16年から運行されています。29人乗りのバスが２台、33人乗りが１台、補助的に14人乗りを１台持っておられます。全て東彼杵町で確保されています。

有田町では２台ありまして、１台は宝くじ事業から買っておられます。

これは東彼杵町のバスです。前と後ろと横から見た画像がありますけど、これは横から見た画像です。東彼杵町はクジラの産地ということで、こちらの写真が載っております。

波佐見町にもこういうバスが導入出来たら、波佐見高校に優秀なデザイン部の生徒たちがおられますので、その人たちにデザインをお願いしたら波佐見町の知名度のアップにもつながると思いますけど。町長どうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

コミュニティーバスのデザインを波佐見高校生がしたから知名度アップにつながるかとおっしゃいましたけども、私は幾らかつながるかなと思いますけれども、それそのものが地域ＰＲ、知名度アップに大きく貢献するとまでは思いません。

それから現状東彼杵町のコミュニティーバスを見てみましても、なかなか利用者の方が少ないような感じで、意外と空気を運んでいる感がしております。ですからそこら辺のやっぱ費用対効果もうまく見極める必要があるのではないかなというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

なかなかバスで利益を出すのは絶対これは無理です。

例えば1,000万円かあれば、利益は100万円ぐらいです。それは有田町でも一緒です。ほんの１割ぐらいしか利益は出ません。しかしその利益重視じゃなくて、住民に利益がなくても住民の奉仕ということであれば、「のんなっせ号」でも一緒なのですけど、「のんなっせ号」でも１割ぐらいしか利益が出ておりません。

「のんなっせ号」となれば予約をしないとちょっと乗れないということなのですよね。でも、このコミュニティーバスは、時間帯をずっとバス停に設置してありますので、バスがずっと時間帯に来ますので、そこにいれば乗れるというそういったメリットがあります。

デメリットとしては、基本的に赤字であるというのがデメリットであります。ほかにメリットはあるのですけど、ルートが定まっているので定時制を確保しやすいとか。運行経路や時間帯などを町の意思で決定し、運行ができ利用者の利便性を高めやすいということですね。

メリットは少ないかもしれないのですけど、住民にすれば、いつでもそこにおれば乗れるという利点があると思います。もう近い将来運行するということはまず無理でしょうか。町長。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

現時点でのコミュニティーバスの導入は非常に厳しいのかなというふうに思っております。と、申しますのも各家庭に自家用車がございますので、その利用者が多い。とあわせてなぜ路線バスが減便していったのか。減っていったのかということを考えれば、それの代替手段としてコミュニティーバスを、ということでありましょうけれども。

果たしてそれを運行して、どの程度の方が利用されるのか。確かに回っていることに対する住民の皆様の安心感というのは得られるかと思いますけれども、今度は走ったら走ったで、もっと利用促進とか、もっと乗る方法を考えなければならない状況になると思います。

ただそうしたものが、私の今の状況では思いつきませんので、現状では導入は考えていないということです。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

そうですね。西肥バスさんも６年度の４月１日からは461便が減便しますので、波佐見の路線はどうか分かりませんけども、西肥バスとかなんかが少なくなれば、いずれはそういうコミュニティーバスも必要じゃないかなとは思っています。

それでは、次の質問に移ります。物価高騰対策についてですけど、農業者に結構広さに応じて助成金が出ております。物価高騰で負担が出るのは一般住民も一緒ということなのですが、これに対して前回発行されたプレミアム商品券の発行を再度発行されてはどうですかということなのですけど、先ほど澤田議員さんのと重複いたしますけども、町長はばらまきとか言われましたけど、町民が待って、望むのならばらまきとは思いませんが、どうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

ばらまきといいますか、ばらまき感があるということで、いうふうに捉えていただきたいと思いますが。確かに希望されるお声もお聞きします。

しかしこれまで４年、５年いろいろな事業をやってきた中で、今回は国の交付金等を活用されて事業をやっているわけですけれども、事業者支援あるいは商品券事業等は行ってまいりましたが、農業者に対する支援というのが実はおろそかになっておりまして、そこあたりが全然対応が出来ていなかったということで今回は、全体の交付金の中での対応としまして、農業者支援を織り込んだところでございます。

そういったことを御理解いただきながら、別枠でのプレミアム商品券の発行ということでの要望というふうに捉えますと、なかなか町独自の財源を活用してプレミアム商品券というのか発行する難しいのではないかなと。そうであるなら別の方法で澤田議員のほうにもお答えしましたが、商業者への支援というのは考えていきたいというふうに考えております。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

前回１冊5,000円のプレミアム券が４万7,933冊発行されています。

これには300円は、こっちに３万円が住民の手出しで２万円の補助になるのですけども、出来ましたらその２万円に限らず5,000円でも、１万円でも、住民に発行できればと思っていますけど。

有田町では５年度に3,000円と、4,000円のトータル7,000円を住民全員というか１万1,800人あまりおられるのですけど、発行されています。金額は少なくてもいいですが、そういうその発行の考えはございませんか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

先ほどから町長もおっしゃられているとおり、これまで、この令和２年から今年度にかけていろんな経済対策を町としても取り組んできたところでございます。

その内容につきましては、先ほど澤田議員の答弁にもお答えしたようなとおりでございます。ある程度ですね、経済的波及効果というようなところにつきましては、一定の効果があったのではないかなというふうなことも考えておりますし、今後につきましても先ほど町長も申し上げましたとおり、ある程度のまとまった財源の確保というものが必要になってまいります。

ですので、そういった要望も確かに町民の方もされているというふうには思いますが、なかなか簡単に矢継ぎ早に次から次にというふうにできるような事業でもございませんので。ですので、ある程度財源の確保とか、そこの経済の状況とか、そういったところを勘案しながら、そういった支援策というのは検討されていくべきものだというように考えておりますので、少額であったとしても、今後発行するということは考えておりません。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

前回の発行のときに、３万円を持っていけば、５万円分もらえるという商品券ですけど、最初で全部完売ではなくて、残ったものを後でまた再発行され、抽せんされたのですよね。

多分私が思いますには３万、５万円欲しい。最初の３万円がちょっと、欲しいけど３万円がないって言われる方も、いらっしゃったのではないかと思います。それで、そのあまりの抽せんをされるときも、やはり低所得じゃなくて、お金に余裕のある方が買われたと思うのですけど、そういう低所得者層の人たちにもできれば比重を置いてもらって、少しでも１万円でもいいですので１万円、5,000円でも構わんとですけど、僅かな商品券でも発行をしていただきたいと思いますけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

若干の質問のあれが少しずれているかなと感じますけども、低所得者対策としましては各種、給付金制度がここ数年間かなり国の財源をもって行われてきております。ですからその方たちがなかなか商品券を、プレミアム商品券を買えなかったということはございましょうが、それとは別に給付事業として直接的に御本人さんたちに交付をしておりますので、改めてその方たちも対象とした少額の商品券というのは、今時点では考えておりませんが、将来的な日本全体の経済状況等を鑑みれば、その時点で考えるべきと思っております。現時点での発行は考えておりません。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

それでは商品券発行のことはこれで終わりにしたいと思います。そうですね。これもまたそのうちできることを期待しています。

それでは３番目の高齢者支援についてお尋ねします。令和５年の12月末で65歳以上の方が33.3%。全体の３分の１を占めているということですけども、町長の表明で高齢者が生涯元気で生きがいを持って社会参加ができるよう高齢者福祉計画に基づき、ひとり暮らしの高齢者が住みなれた地域で、安心して暮らせ続けるように、支援を行いますと説明をされました。

具体的な対策があれば説明をお願いします。

○議長（百武辰美君）　長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

令和６年度は初年度とする高齢者福祉計画及び第９期の介護保険事業計画の策定をしております。その中で高齢者が住み慣れた地域で、長く健康で暮らしていけるようにということで、いろんな施策を書いておりますが、その中で一番重要なところは自助のところですね。自分で健康になるというところが一番基本となりますので、健診の受診や、病気が見つかった場合は早めに治療をする。適度な運動とかですね。そういうのをするというところを掲げております。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

６年度の予算ですね。国民健康保険料事業で3,500万増額。後期高齢者医療費1,900万円増額。介護保険事業で4,000万円の増額となっておりますけども、高齢者に、特に年金暮らしの方たちに負担がかからないような、長く受けられるような医療費が安くなるような方法というか。病院に行っても安い金額で何回でも行けるというのではないですけど、長く生きられるような治療費の安くなる方法というのはございませんか。

○議長（百武辰美君）　子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

医療費が安くなるということは医療にかからない、元気な健康であるということにつながるのではないかと思います。ただ高齢者ですので年齢とともに病気になりやすいのは間違いございませんが、それまでの暮らしぶりといいますか、生活習慣。お酒をたくさん飲んだり、たばこを吸ったり、あるいは運動しなかったりと。そういったことでそういうことが行く行くはといいますか。

これに年齢を重ねてくると、そういったことが病気につながってくる可能性もございます。そうしたことをもっと早いうちから気にかけていただいて、病気にならないよう。なっても早く病院に行って、早期発見、早期治療で医療費がかからないように努力をする必要があるかと思います。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

現在の医療費は、普通非課税の方以外は２割でいいですかね。

○議長（百武辰美君）　子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

後期高齢の医療に関してはですね、おおむね１割負担になっていて、ある程度所得があれば２割とか３割ということに、いうようになっております。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

それでは昨年度の出生率が１月から12月で生まれた方が80名、亡くなられた方が202名でした。202名って高齢者の方に限った数ではないかと思います。なるべく病院代が高くかからないような支援をお願いしたいと思います。

それでは、次に２番目の高齢者運転免許証自主返納者の支援金の見直しを考えられないかということでお尋ねします。

現在65歳以上の返納者に１万円、70歳以上の返納者に１万2,000円、75歳以上で返納されない方に6,000円ということですが、確認ですけど

○議長（百武辰美君）　長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

今言われたのがちょっと２つの制度が一緒になっているみたいで、65歳以上免許を返納された時点で１万円ですね、その場でです。

70歳それと別に、70歳以上の免許を持たない方で申請をしていただくと１万2,000円、75歳以上で免許を持たれている方でも6,000円の支援ということになっております。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

これは年間、毎年ということでいいのですかね。

○議長（百武辰美君）　長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

免許証の自主返納の分はそのとき限りですね、１回限りです。長寿支援課で行っております免許を持たない方で申請された方、あるいは75歳以上の全員の方というのは、年度区切りですが毎年やっております。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

このタクシーでも使えるということですので、１万2,000円とか6,000円もらっても、すぐになくなると聞いておりますので、もう少しこの辺の増額とか出来ないのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

免許証自主返納ではなくて、高齢者タクシー利用券のほうの増額というお話になっているかと思いますが、今のところ、これ令和３年度からやっている事業でございます。毎年度、拡大、拡大をしております。今年度は令和５年度と同様の条件で令和６年度計上をしておりますが、今のところ増額の予定はございません。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

それでは、その免許証のことは一応分かりました。もう一つ最後にお願いですけど、現在温泉センターの入湯券が、多分２枚年間２枚ですかね。来ていると思います。この入湯券を例えば２枚から５枚ぐらいには増やしてはもらえないでしょうか。

○議長（百武辰美君）

答えられますか。答えられる範囲でお願いします。

長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

今65歳以上の高齢者に入湯券がお１人当たり２枚ずつ、700円分の２枚で1,400円分ですね。お配りしておりますけど、こちらのほうも今のところ増額の予定はございません。

○議長（百武辰美君）

以上で、２番濵本秋人議員の質問を終わります。

本日の会議はこれで終了します。明日も一般質問を続けます。なお、明日は９時開会となっておりますので、お間違いのないようによろしくお願いします。

本日はこれで散会します。御起立お願いします。お疲れさまでした。

午後４時25分　散会

第６日目（３月５日）（火曜日）

議事日程

第　１　町政に対する一般質問

前田 博司 議員

１．防災・防犯について

２．住環境について

３．歴史・文化・スポーツについて

福田 勝也 議員

１．自治会活動について

２．町政に関する要望書の取扱いについて

岡村 真由美 議員

１．波佐見高校の存続に向けた支援策の在り方について

２．子供たちを取り巻く環境について

３．コロナ予防ワクチン接種について

城後 光 議員

１．農林業従事者の担い手確保について

２．ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進状況について

脇坂 正孝 議員

施政方針について

１．生きる力と郷土愛を育むまちづくりについて

２．協働による地域のつながりを活かすまちづくりについて

３．産業・交流を軸とした人が輝くまちづくりについて

北村 清美 議員

施政方針について

第６日目（３月５日）（火曜日）

２．出席議員

１　番	前田　博司	２　番	濵本　秋人
３　番	澤田　昭則	４　番	岡村　真由美
５　番	田添　有喜	６　番	岡村　達馬
７　番	福田　勝也	８　番	城後　光
９　番	横山　聖代	１０　番	欠　員
１１　番	北村　清美	１２　番	脇坂　正孝
１３　番	尾上　和孝	１４　番	百武　辰美

２．欠席議員

な　し

３．議会事務局職員出席者

議会事務局局長	林田　孝行	書記	一瀬　若菜

４．説明のため出席した者

町長	前川　芳徳	総務課長	福田　博治
企画情報課長	澤田　健一	商工観光課長	太田　誠也
庁舎建設推進室長	大橋　秀一	税務財政課長	古賀　真悟
住民福祉課長	井関　昌男	農林課長兼 農業委員会事務局長	伊藤　幸治
建設課長	本山　征一郎	水道課長	中村　和彦
長寿支援課長	松添　博	子ども・健康保険課長	石橋　万里子
会計管理者 兼会計課長	串島　佳織	教育長	森田　法幸
教育次長兼 給食センター所長	朝長　哲也	総務課総務班係長	坂本　昌俊
税務財政課 財政管財班係長	鶴田　秀幸		

午前９時　　開　会

○議長（百武辰美君）

みなさん御起立ください。おはようございます。

ただいまから令和６年第１回波佐見町議会定例会第６日の会議を開きます。

本日の議事日程はあらかじめ御手元に配付のとおりです。

日程第１　町政に対する一般質問

○議長（百武辰美君）

昨日に引き続き一般質問を続けます。順次発言を許します。

１番　前田博司議員。

○１番（前田博司君）

おはようございます。通常より１時間早くて、皆さん慌ただしかったと思います。それでは通告に従い一般質問を行います。

施政方針について

町長は、新年度の町政運営について方針を述べられた。

そこで、次のことを問います。

１．防災・防犯について

（１）指定避難所である体育センターの空調機導入の時期はいつ頃になるか。

（２）避難所等の物資の備蓄は十分か。

（３）情報発信集約システムとは、どのようなものなのか。

２．住環境について

（１）「いつでもどこでも安定した水道水」とあるが、水源は十分か。

（２）老朽化した管路や浄水場の更新状況はどうか。

（３）公共下水道区域の早期接続促進の具体策はなにか。

（４）上水道と下水道それぞれ広域連携の状況はどうか。

３．歴史・文化・スポーツについて

（１）「スポーツの町波佐見」としての取組とあるが、中学校部活動の地域移行以外でどういう取組があるのか。

（２）全国大会等への出場に対する補助について近年の実績はどうか。

（３）劇団等を招いて観劇を実施されているが、プロスポーツ観戦の補助をする考えはないか。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

改めましておはようございます。

それでは１番前田博司議員の御質問についてお答えをいたします。

１．防災防犯について

（１）指定避難場である体育センターの空調機導入の時期はいつごろか、とのお尋ねですが、本町の指定避難場は、災害対策基本法に基づき公共施設の10か所に、自治公民館22か所を加え計32か所と指定しています。

現在、台風、大雨等に発令される警戒レベル３、高齢者等避難から勤労福祉会館、総合文化会館、農村環境改善センターの３か所を避難所として開設しており、状況に応じて体育センターを追加として開設することにしています。

しかし高温多湿の時期は体育センターに空調機がないことから、避難者の体調面を考慮して開設しておらず、令和２年９月の台風10号の折、避難者が殺到した際には空調機が設置されている各小学校の教室を避難場として臨時に開設したことがあります。

このような経過を踏まえ、令和６年度において体育センターに空調機を設置することとし、その空調機の電源については、停電等においても稼働するＬＰガスによるガスヒートポンプによる運用を計画しているところです。

そこで導入の時期でありますが、空調機の設置目的を考えれば夏あるいは秋先までには導入が理想ではありますが、新年度に入り実施設計、工事着手となります。したがって、鋭意事業の早期完成を目指すことに変わりはありませんが、現実的には年末前後の完成となる見込みです。

（２）避難所等の物資の備蓄は十分かとのお尋ねですが、本町の避難所等の物資の備蓄は国・県のガイドラインに従い、人口の５％が３日間避難場で最低限生活できるよう、飲料水、非常用パン、アルファ米等の食料品を中心に、衣類、毛布、紙おむつ、簡易トイレなどを備蓄しています。

また町内の食料品店舗と災害時に、店舗内の物資を提供していただく協定も結んでおります。

そこで、備蓄は十分かとのお尋ねですが、現時点で国等のガイドラインは満たしており、消費期限を考慮した更新も行っていることから、量としては十分との認識であります。

一方で能登半島地震では、トイレ不足で避難者の多くが苦労されたとの報道もあっていることから、携帯トイレの備蓄など国等も想定してない事態が見受けられますので、被災地の状況等の情報を収集し、町独自でも購入を検討したいと考えています。

（３）情報発信集約システムとは、どのようなものかとのお尋ねですが、現在、町民皆さんに対する諸災害情報の伝達は、防災行政無線による音声、防災メール、ＬＩＮＥによる周知、個別電話など様々な手段、チャンネルを用いて情報が１人でも多くの方に伝達できるように運用しています。

一方でその情報伝達には、職員が各システムにそれぞれの情報を入力しており、災害発生時の初動体制等整える上で、大きな負担となっています。このため、今回これら情報発信を一元管理できる情報一斉発信システムの導入を計画しています。このシステムでは入力した１回の情報を、複数のシステムと連携し、同時配信することで複数回同じ情報を入力する手間が省かれます。

また、導入するシステムは、これまで本庁で運用がなかった電話の一斉発信する機能があり、例えば登録している要支援者宅に避難情報の内容を複数同時にお知らせする機能もあります。

近年、自然災害は大規模化する傾向がありますので、これらシステム導入を行い、町民の情報伝達の効率化と迅速化を図りたいと考えています。

２．住環境について

（１）「いつでもどこでも安定した水道水」とあるが、水源は十分かとのお尋ねですが、本町の水道水源は、河川の表流水、地下水、農業用などのため池から成り立っています。４か所の浄水場で、河川からの取水５か所、地下水４か所、貯留水であるため池からの取水２か所の合計11か所の水源があり総量では計画水量を確保しています。

しかし、いずれも規模が小さく、また河川や農業用ため池からの取水は、干害期間は農業用水を優先するため、年間を通じ安定して取水できる水源は限られています。

昨年は夏場以降に降雨が少なく、12月下旬から先月の下旬までの間、節水の御協力を呼びかけ、利用者に御不便をおかけいたしました。

このように本町の水源は決して安定していると言えるものではなく、安全でおいしい水を安定的に供給しなければならない水道事業者にとって、常に安定した水源を求めていくことは当然の責務であります。

ただし、新たな水源については事業経営の中・長期的な観点の中で、今後の水需要と供給のバランスを考慮し、検討する必要があると考えています。

（２）老朽化した管路や浄水場の更新状況はどうかとのお尋ねですが、配水管などの基幹管路については、耐用年数を基準にしながら管路更新を計画的に行っています。

あわせて耐震性の高い管種や継手を採用し、安定給水への信頼度を高めるとともに、計画的に老朽管の更新を実施し漏水を防ぐことで安定供給に努めています。

４か所の浄水場は、完成年が古い順に昭和35年３月の皿山浄水場、昭和43年３月の川内浄水場、昭和53年３月の鬼木浄水場、昭和57年３月の湯無田浄水場となります。

川内浄水場は昭和57年度に、皿山浄水場は平成15年度にそれぞれ改良工事を行っています。土木建築施設は耐用年数が長いため、現状では経年化、老朽化した施設はありませんが、資産額が大きいため財源の確保も必要です。劣化補修工事や耐震化工事などにより、耐用年数以上に施設利用が可能となる長寿命化を視野に入れ、水源の確保同様、中・長期的な視点で整備計

画を検討していく必要があると考えています。

また機械、電気、計装設備や耐用年数が短いため、修繕や定期的な更新に努めています。

（３）公共下水道区域の早期接続促進の具体策は何かとのお尋ねですが、本町の下水道事業は平成16年度の供用開始から20年が経過し、下水道接続人口は令和５年４月当初において5,946人で水洗化率では85.3％となっています。下水道整備区域の拡大に応じ、下水道接続率も増えていますが、まだ未接続世帯は残っています。

下水道事業は、生活改善と水環境保全等を目的に多額の事業費を要して整備を行っており、整備区域の方が接続しなければ、その目的は果たされず下水道事業の有用性がなくなります。そのため下水道法では整備が完了した浄化槽設置世帯については速やかに、くみ取り世帯は３年以内に水洗化を行い、下水道に接続しなければならないとされています。

新たに供用開始した地区には説明会を行い、下水道事業への御理解と御協力を求め接続促進に努めています。供用開始から現在までに接続されていない世帯には、継続的に広報紙やホームページでの周知や接続をお願いする通知を送付しています。

下水道に接続するためには、自己負担により排水設備工事を行う必要がありますので、本町でも接続工事のため、借入れの利子を補助する融資あっせん制度を設けています。

一方で未接続の世帯には、経済的負担や今後のライフスタイルなどの個々の事情から、接続されていない方もいらっしゃいますので、丁寧かつ慎重な対応も必要であると考えています。引き続き下水道事業の健全運営のため、取り組んでまいります。

○議長（百武辰美君）

（４）上水道と下水道それぞれ広域連携の状況はどうか、とのお尋ねですが、上水道事業の広域化は令和元年の水道法の改正により、都道府県に対して管内水道事業の広域化の推進が義務づけられたことから、令和５年３月に長崎県水道広域化推進プランが策定されました。当面の具体的な取組は、県が他の先行事例の調査・分析を行い、県内取組を推進するための研究テーマを設定し、各ブロック研究会で継続的に協議を実施するとされています。

昨年５月に全体推進会議が開催され、10月に１回目のブロック会議が開催され、去る２月26日に本格的にテーマを定めた２回目のブロック会議が開催されたという状況です。

また下水道事業の広域化は、平成30年１月に関係省庁、総務省、農林水産省、国土交通省及び環境省連名で都道府県に対し、令和４年度までに市町の枠を超えた施設の広域化や維持管理の共同化などに取り組む広域化共同化計画の策定要請があったことから、令和４年12月に長崎県汚水処理広域化共同化計画が策定されました。

さらなる施設の広域化や、管理の一体化のほか事務処理の共同化などが考えられますが、現在のところブロックの枠組みの中で調査研究している状況です。

そのほかの御質問については、教育委員会から答弁がございます。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

３．歴史・文化・スポーツについて

（１）「スポーツの町波佐見」としての取組とあるが、中学校部活動の地域移行以外でどういう取組があるか、とのお尋ねでございますが、教育委員会が関係する波佐見一周駅伝大会や町民大運動会は、地区を母体としたスポーツイベントであり子供から高齢者まで出場されております。また林道マラソンやロードレース大会は、町内外から個人レベルでの参加をいただいている大会です。これらは本町の特色を生かし、本町らしさをアピールする大会にもなっています。

先月、体育施設利用調整会議を行いましたが、約130団体の方々が体育館やグラウンド等の体育施設を利用され、１年を通して週末は練習や試合等で埋まっている状況です。

このように、サークル単位の活動、スポーツ少年団やスポーツ協会所属の活動も充実しており、老若男女がスポーツに勤しむ雰囲気、意識を維持、発展させるためにも、施設等の維持管理やイベント等の開催に尽力、創意工夫を図ってまいりたいと考えております。

（２）全国大会等への出場に対する補助について近年の実績はどうか、とのお尋ねでございますが、本町では全国大会や九州大会に出場する際に、波佐見町スポーツ振興補助金を交付しております。平成30年度、年間70件。149万5,000円。令和元年度、年間78件。311万円。コロナ禍の令和２年度は大会の中止もあり年間10件、金額にして71万円。令和３年度は年間53件195万円の実績でした。令和４年度には、コロナ対策もあり年間76件、559万6,000円まで増えております。なお、この年度から中学校の部活動とスポーツ少年団への補助金額を見直したことも補助金増の要因となっています。今年度は２月末時点で年間44件、355万円となっております。

（３）劇団等を招いての観劇を実施されているが、プロスポーツ観戦を補助する考えはないか、とのお尋ねでございますが、一流のプロの文化芸術にじかに触れる機会につきましては積極的に提供をしています。議員お説のように、スポーツ面においても同様の機会をとは考えておりますが、これまではなかなか実現をしておりません。

対応できる施設等の課題や、各種イベントの開催等の情報提供、依頼が少ないこともあげられております。今後は、県内のプロスポーツ団体さらには行政機関や各スポーツ団体との連携を図りながら、その実現に取り組んでいけたらと考えております。

以上、壇上からの答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

それでは最初の避難場の空調機の導入時期に関してなのですが、災害が想定される６月から９月までには整備をしていただきたいというところが本音なのですが、実績からというのでは、なかなか難しいなと思っておりますが、どんなに急いでも、やはり間に合わないものなのですかね。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

今回ですね町長申したとおり、発電についてはＬＰガスによるガスで行うようにしております。したがいまして今までちょっと、こういったケース初めてになりますので、いろんな情報を集めて今から設計というふうになります。

議員がおっしゃったように６月、７月までできればいいのですが、そういった経過を踏まえると、ちょっとマンパワーも足りませんので、町長答弁したとおり年末がぎりぎりのところかなと思います。

ただし、いろんな情報を仕入れて入札等で早めにできるようであれば、前倒しを行いたいというふうに考えております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

空調機なのですが、天井つり下げつきというふうな説明がございました。空調機としては、そういう設置型と可搬式のいわゆるスポットクーラー的なものがあると思います。

このスポットクーラー式というのは、中にはエンジン方式で通常の電源を必要としないという自分で発電して動くというタイプのものもございます。

天井つり下げ式を採用された根拠というか、理由は何でしょうか。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

体育館は大変広うございますので、私どもも検討段階では可搬式を検討いたしました。ただし可搬型はエンジンつきであっても、熱効率からいうとプラスマイナスゼロになってしまう。体育館の中の空気を冷やしてまたエンジンで、外に温めた空気を外に出すということになりますので、熱交換としてはちょっと非効率ということがあります。

今回、エアコンの室内機については、体育館に入ったアリーナのところ。バスケットのゴールポストのとこに下屋がありますので、そこにつり下げるようにしています。

したがってどの程度、全てをうまく冷やすということは無理かもしれませんが、避難所の趣旨からいうと、やはりあったほうがいいだろうということで、天吊り式の室内機を選択したということでございます。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

分かりました。この可搬式については、そのエンジン駆動方式というので、これは空調冷却のみならず、電源としても使えると。発電装置としても備わっているというものもあります。今後ほかのところでも、こういった動きがある場合には、参考にしていただきたいなと思います。

それで、この空調なのですが、設置型でありますので災害用以外でも通常の使用も考えておられますか。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

今回体育センターのほうに設置をいたします。ガスの容量については通常の使い方をして、１週間から10日ほどもつということで言われております。したがいまして、そういった量が十分交換できるようであれば通常の体育館の使用、いわゆる社会体育の部分についても使えるものと思いますが、この点については教育委員会と今後詰めていかなければいけないだろうと思います。

あわせて、そういった費用をかけたものでございますので、別途料金をいただくということになろうかということで考えております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

それでは次に行きます。避難所の物資についてですが、一般的に人口の５％、３日分というので備蓄をされているようですが、今それプラスアルファの備蓄というのも、あちこちで聞いております。そういったお考えはないでしょうか。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

町長が答弁したとおり、国県のガイドラインに従って備蓄を進めております。

ただし近年は災害が大規模化しております。あわせて御高齢の方も避難をされるということで、ガイドラインに載っていないような物資も避難者の方から要望されるということも聞いております。

例えば今回の能登半島地震では、新聞報道等がありましたが、やはりトイレの関係がかなりきつかったということで聞いております。私どもとすれば簡易トイレをしておりますが、それもいっぱいになったということでございまして、やはり携帯トイレを十分、十二分に備蓄する必要もあるのかなというふうに考えております。長崎県のほうもその辺も情報収集をしているようでございますので、今後そういった会議等で提示があれば、ガイドラインに載ってないような物資も町独自で購入することも検討したいと考えております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

そうですね。私も報道等見て今回の能登半島の災害については、ある市では珠洲市だったかな。下水道関係も90何％損壊したと。多分復旧するというのは100％に近い復旧、いわゆるゼロから造るのではなくて多分マイナスからのスタートになって、かなりの復旧の遅れが予想されると思います。

そこでやはり水道、下水道については復旧まで時間を要するということで、備蓄関係は大変重要だなと。特に仮設トイレは先ほど言われたように、仮設トイレ、簡易トイレ、ポータブルいろんなもので、これはもう必ず必要なものですので十分備えをしていただきたいなと思います。

それと次ですが、飲料水の確保は出来てますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

飲料水の確保もガイドラインに沿って備蓄を行っております。飲料水は10年間保管がききますので、そういった意味では継ぎ足ししても全然問題ないのかなと思いますので、計画的にこの辺は交換・備蓄を行っていきたいと考えております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

この飲料水は確保されていますが、例えば簡易トイレなどで使う生活用水。これが入手出来なければ、どうするのかという問題も出てくると思います。

そこで、今現在町として給水車なるものは多分なかったと思います。必要性は感じられておりますか。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まず、そういった給水車が必要かと言われれば、やはり災害の担当とすればあったほうがいいだろうと思っております。

特に大規模災害であったときには、自衛隊等の出動も要請するわけでございますが、到着するまでの間、やはり自前で生活用水等も確保する必要があると思います。この辺については、水道課等とも協議を深めながら他の市町の状況もあわせて、研究をさせていただければというふうに思います。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

検討よろしくお願いします。

次に備蓄物資の中で食料品――水に関しては先ほど長期間保存ができると聞いておりますが。食料品、非常食等についての、入替えについてですが、どういったふうな入替えを行っているのか。また入れ替える際に、元あったものはどういう処理をされているのかお伺いします。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まず食料品については主なものとすれば、いわゆる乾パンというか備蓄用のパン。そしてア

ルファ米――アルファ米は水を入れると10分程度で、米が出来るというものでございます。

おおむね５年間の保存期間というふうになっておりますので、そういった中で更新をかけるということになります。そこで更新をかけるときどうするか。要するに廃棄にするのかということでございますが、例えば今までやっている状況であれば、自治会のほうに配布をして災害の訓練等で使っていただく。あるいは郷民の皆さんに試食をしてもらうということも行っております。

昨年も自治会のほうにそういったパンを配布したということもありますので、そういった中で順次更新のサイクルをしていきたいと考えております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

その入れ替えなのですが、ちょっと言い方を間違えると、ちょっと大変失礼になるのですが。毎年、毎年全国のあちこちで災害が起きています。賞味期限、消費期限もあるでしょうが若干前倒しでも、そういうところの支援物資として活用するという考えはございませんか。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

御提案の趣旨はよく分かるところでございますが、町民の皆様に一応備蓄をしているものでございます。災害はいつ何時起こるか分かりません。やはりこれの例えも失礼な話ですが、被災者の方に拠出したばかりに、その後災害が起こってちょっと町民の方に御不便かけたということもあってはなりませんので、可能であれば町内のほうでそこはサイクルを回していきたいと考えております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

私が言ったのは入替えで、廃棄する前のもののことに関してお伺いしたところです。大体分かりましたので、次に行きます。

情報発信集約システムというものを先ほど説明ありましたが、これはいわゆる発信するものであって、逆に情報収集する機能はないということですか。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

先ほどの備蓄の関係大変申し訳ございませんでした。

それでは集約システムで、まず情報収集機能があるかということでございますが、情報収集機能はほかのいろんな国等のＪアラート等々から来ますので、今回は町から町民の方に情報を発信するという機能でございます。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

例えば災害が発生しているところ、その近く。危ないところからの情報の収集というのは、それにはないということですね。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○１番（前田博司君）

まだシステムのメーカーさんがもう決まっているわけではございませんので、一概に言えないとこでございますが、例えば導入するシステムがスマートフォンから発信できる機能があるとすれば、担当職員が現地のほうに出向いた折に見たものまたは聞いたものを、スマホを介して情報発信するということは可能だと思いますので、そういった意味では職員が情報収集したものと連携することは可能というようにも考えております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

伝聞とか言葉だけではなかなか伝わりにくいので、最近は写真も、動画も発達しております。スマートフォンとかでもやり取りは出来ますので、そういったことで情報収集はできると思いますので、ぜひそういうのを活用できるようなシステムにつくり上げていっていただきたいと思います。

では次、住環境についてですが、水源について。現在波佐見町の水源は先ほども申されましたけれども、河川水と地下水がメインになっていると思います。

そこで新たな水源を確保するというか、探すというのはなかなか難しいと。確かに人口も減少しておりますので、今のもので十分とは言わないけどあるのであれば、今後の人口減少を考えると新たに見つけるのは費用もかかるし、必要性はあまり感じないのかなというふうには考えますが、緊急時とか渇水時にはこれは年々起きておりますので、例えば近隣の市町とかそういうところと接続するとか、融通を利かせるとか、そういった研究はなされていますか。

○議長（百武辰美君）　水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

原水に限らず上流した水についても、原水をそのまま近隣の市町から供給するか、浄水した水をつないだほうが安価で済むというところもあるかと思います。その分について県をまたいでというところまではちょっとまだ難しいところがありますけども、今広域化という形もありますので、そういった形で調査研究もしていきたいと思っております。

現在のところ本格的な調査というところありませんけども、近隣である川棚町あるいは佐世保市からの供給とかというところも研究していきたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

今水道課長が言及されました、原水ではなくて浄化した上水ですね。これを接続したほうが早い、確かにそうだと思います。であれば、先に言おうと思ったのですけど、災害時のことを

考えると、よその市町と近隣の市町と連絡管をつないでおくほうがいいのではないかなと思うのですが、その辺のお考えはないですか。

○議長（百武辰美君）　水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

机上でありますが、そういった研究というか、考えは持っておりますけども、まだちょっと実行までは至っておりませんけども、その辺を踏まえてやはり近隣の市町との協議も必要なことになりますので、まずは技術的な問題等もありますので、どこをどうつなぐかとか連絡管としてつないでおけば、どちらかがちょっと渇水等に陥ったときには、相互協力ができるということに関しては認識をしております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

私もそちらにいた立場で、理解はしていると思ってはいたのですが、なかなかですね、ほかの市町と接続するといっても我が町にはメリットはあるけど、ほかのところに――例えば佐世保市とかに関しては、つないでも大してメリットがないはずですね。波佐見町から水を佐世保市に送るなんてことはまず考えられませんので、なかなか難しいのだろうなとは思っております。

しかし災害のことを考えると、波佐見町としてはお願いしてでも、よそと繋いでおくと、こういったことは必要になってくるのではないかなというふうに思っておりますので検討していただきたいと思います。

次に耐震化についてですが、今波佐見町の耐震化率と、それからあわせて老朽化――いわゆる耐用年数を過ぎたものの更新状況についてはどのぐらい進んでますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

法的に耐震適合があるかということ等での率になりますけども、耐震適合性がある管路につきましては11.1％。距離で言いますと全体で179キロメートルありますけども、そのうちの19.8キロメートルである11.1％であります。

あと老朽化につきましては、全体の管路の中で20％がまだ老朽管となっています。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

そうですね、波佐見町の今の状況を考えると耐震化が本当に必要なのか。それより老朽管を早く更新したほうがいいのではないかなという気はしています。災害はいつ、どのように起こるか分からないので、そう簡単にはそう言えないところなのですが。

その中でも老朽化に関して、今全体で大体179キロメートルあるとありました。耐用年数が40年とされていますね。これ多く見積もって50年だとしても、年間２％は更新していかないと次

の老朽化するまでに間に合わないという計算に、一般的計算するとなります。

そうすると年間に350メートルほどは更新していかないといけないというようになるのですが、今年間でどのぐらい更新されていますか。

○議長（百武辰美君）　水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

約２キロメートル前後です。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

すいません、私計算間違えていましたね。年間２キロメートルの更新ですね。分かりました。

それでは配水地について伺います。配水地――いわゆる浄水場で水をつくって、そのまま供給しているというわけではございませんよね。特に配水地より高い場所にあるところについては、一旦山の上の配水地にためて、そこから水道とはほとんど自然流下で今水を供給しているはずなので、この配水地というのが災害時にも大きな意味を持ってきます。

配水地の老朽状況。それからここは特に耐震化も必要かなと思うのですけども、耐震状況。それから遮断弁。これ何かあったときに自動的に遮断する。要するに管路等が破損して倒れて一晩のうちになくなってしまったということがないように、遮断弁というのをつけるのですが、こういうのは設置されてますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

配水地につきましては現在18か所ございます。そのうち計画としましては、令和９年度１か所、それと14年度に１か所、建て替えを実施する計画をしております。

それと残りの配水地につきましては、図面上での対応診断では震度５あるいは６の地震動に対しましても、耐震性があるとの結果が出ております。ただ耐用年数とか状況を確認しながら順次建て替えを行う予定であります。

それと遮断弁につきましては、主要の採水地のまず確認をしまして、遮断弁を設置するような形で検討したいと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

重要なところだと思いますので、ぜひとも遮断弁等については考えていただきたいなと思います。

それと先ほど災害関連で総務課長の答弁にありましたけども、水道課としては給水車等についての必要性は考えられていますか。

○議長（百武辰美君）　水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

先の能登半島地震とか考えますと、災害時における浄水施設がもう被災した場合については浄水槽が出来ませんけども、管路の被災により排水が途絶えた場合の手段として、給水車の必要性は十分認識しております。しかし維持管理等を考えますと、なかなか難しいというところでございます。

限られた水量ではありますが、現在のところ軽トラに積載できる量になりますけども、給水タイプで対応するようなことになるのかなと思っております。加えてですけども、今後1.5トン容量のステンレス製の給水タンクを配備することも検討しております。ただ車両がございませんので、その場合は建設業者等からのリースになるかと思っております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

ぜひとも検討をお願いします。

先ほど言われた軽トラックへの給水タンクですけど、いわゆる黄色いＦＲＰのタンクだと思います。ちょっと衛生的にどうかという疑念も出てきますので、そこあたりはもうちょっと検討していただきたいと思います。

次に公共下水道の接続状況なのですけど、これ接続率というのが出ています。これ、たしか人口ベースだと思うので空き家等が最近増えていますよね。これ空き家が増えて、そこは接続されていない。そのまま空き家になってくるというところがあるのですけど、これは人口ベースなので接続率には影響しないということですかね。

○議長（百武辰美君）　水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

以前、人口ベースじゃなくて、世帯ベースとかという形での普及率を出していたというときがあったみたいなのですけども、現在のところの人口ベースでの普及率になっておりますので、空き家の把握というところはしておりません。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

それでは広域連携についてなんですが、広域連携が法改正もありまだ検討中という言葉が何度も出てきたのですが、私がそちらにいるときも検討中でした。長らく検討中です。なかなか進みません。これは町が独自でやるものではなく、県主導でやっているものなのでなかなか進まないのだろうなと思います。

あまり言えないのですが、長崎県は県営の水道はありませんので県職員でも水道に熟知した方はなかなかいらっしゃいません。上水道に関しては。下水道は広域下水道持っていますので、流域下水道とか。県のほうで所有していますので、そのノウハウについては持っているのでできるのだろうと思います。

これ広域化については検討中とありましたが、上水道も下水道も広域連携が出来ているものは一つもないのですか。

○議長（百武辰美君）　水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

現時点で連携が出来ているというところはございません。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

下水処理場の汚泥に関しては、東彼杵町と共同でやっているというのは前からずっと、私がいた頃からやっていたので出来ていると思いますけども。それ多分忘れている――忘れているのかな。

なかなか難しいと思います。地形的に言うと長崎県は尾根がずっと町ごとにあって、上水も下水もつなぐのはなかなか難しいので、施設の統合等というのはなかなか難しいと思いますが、ハードではなくてソフト面についてはどんどんやっていかないと、人口減少していくとなかなか職員数も減ってくると町長も言っていましたけども、今でさえ大変厳しい状況にあるのでしょうから、この先多分やっていけなくなると思います。

早めに広域連携は本気で――考えていないわけではないのでしょうけども。やっていかないと、特に県主導でやっているからと言いますけど、前も私言っていましたけど波佐見町の地理的なことを考えると、嬉野市だって、武雄市だって、有田町だってあるわけですよ。なかなか県の手前そういったことは言い出しにくいでしょうけど、町としてそこは検討しておくべきだと思います。

県が言ったところで、波佐見町のことだけを考えてくれることはありませんので、そうするとよそを中心に考えられて、波佐見はそれに従ってくれというようなことになってくると、大変なことになると思います。ぜひそういうことも含めて検討していただきたいと思います。

それに関連して、この連携につながるような職員の交流とか勉強会はされていますか。

○議長（百武辰美君）　水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

まず前段といいますか、一つ前の質問の中で広域連携をしているものがないのかということで、出来ていませんということで答弁しましたけども、それはもう従前からしておりましたので、計画を策定されてからはしていません、出来ていませんということで答弁をしました。

それと広域連携に向けた、職員の研修あるいは交流ということでございますけども、担当者会議等につきましては積極的に出席をしております。その会議の合間やあるいは終了後にも他市町の職員と情報交換も行っております。

内容に特化して、この事業に特化して、この連携に対してというところでなかなか踏み込んだところまでは出来ておりませんけども、各市町の状況についての情報交換はしております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

大事なところです。よろしくお願いします。

次に「スポーツの町波佐見」についてですが、先ほどの教育長答弁の中に駅伝とか運動会とか、ほかもろもろ挙げられました。この中で駅伝も町民運動会も岐路に立たされていると思います。今までの状況ではなかなかいかないと。いろんなことを考えて対応していかないといけないと思います。

それで「スポーツの町波佐見」としての目玉としては、ちょっとアピールとして薄いような感じもします。ほかにないだろうかと問いたいところですが、私も今考えを持ち合わせておりませんので、ちょっと何とも言えないところなのですが。

次に全国大会への出場に対する補助についてですが、これは学生に限らず一般社会人。大人の方も対象、適用されるものなのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

対象になっております。九州大会で大人の方で大学生以上でございますけど、九州大会に出場した折には5,000円。全国大会に出場した折りには１万円ということで助成金がございます。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

ということは、よくある国体選手として県の代表で出るとかというときにも、そういうのを適用できるということですね。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

そうでございます。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

それでは最後のところなのですが、プロスポーツ観戦の補助についてなんですが、これもスポーツはするだけじゃなくて見ることも大事です。先ほど答弁にもありましたとおり、プロの選手の躍動する姿を見るということに関しては、これは貴重な経験にもなると思います。

なぜこれを挙げたかというと、これ先日も同僚議員の中から出ました地域公共交通の問題で、なかなか波佐見町からそういうところに行こうとしたときに行きづらい。親と一緒に車で行くしかない。私よくサッカー観戦行くのですけども、鉄道があるところに関しては子供たちだけでたくさん来ています。

なかなかこういうところへ行くのは大変だなと感じています。ですので、補助というか。実際にはやりやすいのは、教育委員会なり交通会社なりでツアーを組んでいただいて、そこに補

助をしていただくと。そういったやり方が一番いいのではないかと。

大型バスを借りて１日10万円ですね。40人乗っても１人2,500円です。チケット代を合わせると4,000円程度です。その半分でも補助すると、大した額というのは失礼ですけど、そんなに大きい金額にはならないと思います。これについてのお考えを再度お伺いします。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

確かにそういったプロの、本当躍動する姿を子供たちの目に焼きつけるというのは、本当もう観戦というのはもう重要なことだと思っております。

ちょうど議員から質問をいただいて検討している最中でございましたけども、県のほうは今まで離島に対して、そういった子供たちの助成をしていたということで、それを本土地域に広げるということで、ちょうど調査にやってまいりました。

そういう県の支援とか何とかいただければ、ものすごく動きやすいなというのを私たちも思っておりますので、今後そのように県と連携しながら出来たらいいなということで考えております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

前向きで大変ありがたいと思います。

せっかく長崎県にプロスポーツがあります。なかなかこういうのを、今までは例えば福岡まで野球見に行くとかしかなかったわけですね。でも身近に、例えばバスケットボールであれば佐世保でも今やっています。身近なところでやっていますので、ぜひともこういう機会を増やしていただきたいと。

最後になりますが、去年ですか。サッカー観戦に行ったときに、そのチームと波佐見町とサンクスマッチデーということで、町長も来られておりました。こういうことが今年もあるかどうか分かりませんが、こういう機会を逃すことはないと思います。波佐見町のＰＲもできるけど、子供たちも一緒にそこに行くというのはなかなかいいことだと思います。町長いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

今ちょうど御意見を伺いながらですね、ちょうどその試合を思い出しておりまして、そういった機会をとらえて、せっかくの波佐見のサンクスマッチデーでございますので、前向きに検討はしていきたいなというふうに考えております。

○議長（百武辰美君）

以上で、１番　前田博司議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。10時10分から再開します。

午前９時58分　休憩

午前10時10分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。ここでお願いですが、マイクに雑音がどうも入っているようでございますので、発言者はマイクの先端部分を触らないようにしながらセッティングお願いをします。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは一般質問を続けます。

次は、７番　福田勝也議員。

○７番（福田勝也君）

おはようございます。それでは通告に従いまして一般質問します。

１．自治会活動について

本町の「住みやすいまちづくり」のためには、行政、自治会の協働が不可欠と考えております。

しかし、自治会加入率の低下などで自治会活動に影響が出てくるものと考えております。

そこで、次のことを問う。

（１）自治会加入率は、直近20年前から５年おきにどのように推移しているか。

（２）自治会加入率の維持、向上に向けて行政として、どのような対策をとっているのか。

（３）自治会の今後の課題と対策はどのように考えるか。

２．町政に関する要望書の取扱いについて

令和５年10月18日付けで議会として、総務文教委員会と産業厚生委員会から町政に関する要望書が提出されました。

（１）総務文教委員会において、「総合運動公園の早期建設について」と「総合文化会館の機能充実について」要望されているが、それぞれどのような研究、検討を行っているのか。

（２）産業厚生委員会において、「浄化槽整備事業の推進について」と「乗合交通の推進について」要望されているが、それぞれどのような研究、検討を行っているのか。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

７番　福田勝也議員の御質問についてお答えをいたします。

１．自治会活動について

（１）自治会加入率は、直近20年前から５年おきにどのように推移しているかとのお尋ねですが、自治会加入率は町全体の統計として、今から20年前の平成15年度が93.3％、平成20年度が88.8％、平成25年度が87.8％、平成30年度が85.5％、令和５年度は81.6％と推移しており20年前からすると12％程度減少しています。

（２）自治会加入率の維持向上に向けてどのような対策をとっているのか。そして（３）自

治会の今後の課題と対策はどのように考えるかとのお尋ねですが、国では高齢者人口がピークを迎えて、少子高齢化、人口減少が一層深刻した2040年頃の日本を前提として、人口減少と高齢化により、公共も民間もそれぞれの人々の暮らしを支える機能が低下するため、新しい公共の姿として町内会、自治会などの既存の地縁組織を含む民間の地域運営組織が暮らしを支える担い手になることが求められています。

地域運営組織は地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践し、地域内のコミュニティーの維持と人間関係を構築していく組織だと言われています。

本町の場合これまで多くの皆様の努力により、自治会組織はしっかりと構築されており行政との連携も順調ですが、自治会組織は先ほど答弁したとおり、組織率の低下。特に若い世代の自治会離れ、役員の成り手不足、環境整備活動など様々な問題も出てきています。

このような中、今年１月には自治会役員さんなどに呼びかけを行い、協働による地域のつながりを生かした自治会づくりセミナーと題して講師を招き、今後の自治会を取り巻く状況や問題点、課題点、対応策などの勉強会を実施したところです。

今後2040年問題も見据えて、地方自治体も従来の方法や、水準で公共サービスを維持することが困難になることから、既存自治会の役割は重要になりますが、省力化や合理化、負担軽減、組織の在り方の研究など、先行自治体の例も参考に自治会と自治体が連携して、今後迫りくる少子高齢化、人口減少時代の今のうちからしっかりと見据えて、少しずつ対策を考えていかなければなりません。

それから町政に関する要望書の取扱いについてということで、まず（２）産業厚生委員会において浄化槽整備事業の推進について。それから乗り合い交通の推進について要望されていますが、それぞれの研究・検討を行っているのかとのお尋ねですが、まず浄化槽整備事業の推進については、浄化槽の設置整備補助は国の循環型社会形成推進交付金及び県の長崎県浄化槽設置整備事業補助金を活用し、設置者の申請に基づき助成をしているものです。

これまでも国の基準額に、他市町と比較しても遜色のないかたちで町独自の一部上乗せを行い、設置者の負担軽減を図りながら普及に努めています。

今回の委員会提出の要望の一つである新築物件にも転換同様の補助事業の設置については、下水道接続工事での費用負担との均衡を図ることを考慮した結果、令和４年度からくみ取り等からの転換を対象とした配管補助を、新年度からは町の単独事業として新築も対象にすることとしました。

浄化槽の入替えに対する補助については、既に町の単独事業で行っているところです。そのほかの補助金に関する要望事項については、設置者の実情を踏まえ他市町の状況などを調査し、研究してまいります。

また広報活動については、ホームページや広報紙を通じ継続的に行ってまいります。あわせ

て新庁舎の開庁に伴い、水道課内に浄化槽補助のサインを掲げております。

次に「乗合交通の推進について」は、令和６年度予算において、地域公共交通計画策定のための予算を計上しております。このことにより乗り合い交通やバス路線、タクシーなど本町の公共交通の現状分析や課題の整理、利用者の利用実態などを明らかにし、今後本町に必要な公共交通政策について検討を行います。

公共交通計画の策定を踏まえ、本町における乗合交通の利便性向上などの検討を行いたいと考えています。そのほかの御質問には教育委員会から答弁がございます。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

２．町政に関する要望書の取扱いについて

（１）総務文教委員会において、「総合運動公園の早期建設について」と「総合文化会館の機能充実について」要望されているが、それぞれのどのような研究、検討を行っているかというお尋ねでございますが、まず総合運動公園の早期建設につきましては、高額な建設費と、その維持、管理費用をどう捻出するかという課題があります。

建設には将来的にも継続して、財政負担が発生することとなりますので、県内外自治体における建設状況、費用等の情報を収集しながら財政部局や建設課等との協議を行っております。

次に、総合文化会館の機能充実ということですが、基本的スタンスとしましては、現状維持を考えております。教育委員会が移転をしても総合文化会館の利活用に不安や、不満が出ないよう管理を委託していますルピナス倶楽部様と連携をして対応してまいります。

ただ御意見、御要望をいただいております図書館の運営につきましては、旧教育委員会事務所内に、本の補修業務等を行うスペースを確保して、図書館の整備を図るよう計画を進めております。

また小学校、小中学生、高校生の学習コーナーの確保を一層図るため、ロビーに専用の机椅子を配置することも計画をしております。総合文化会館の利活用については、今後も御意見等いただきながら対応していく考えであります。

以上、壇上からの答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

今回、自治会活動について一般質問をさせていただきましたが、本町のまちづくりのために、日頃より自治会の活動、御協力のもと行政運営がスムーズに運営出来ているものと思っております。自治会役員の方々の御尽力、住民皆さんの御協力に対して感謝申し上げたいと思います。

しかしながら自治会活動や運営につきましても、昨今の状況を見ますと少子化、人口減少やまた４年前からのコロナ禍もあって取り巻く環境また時代の生活の変化が顕著にあらわれてき

ており、自治会加入者の減少により今後の活動運営にも影響が出てくるものと感じております。

前一瀬町長が就任された約25年ほど前ですね、行政改革の一環として自治会との協働による行政運営を構築されて現在に至っていることだと思っております。

先ほど答弁いただきました自治会加入率の推移ですが、20年前からということで通告をしておりましたのですけども、担当の方が頑張って平成５年――約30年前の数字から調べていただいております。平成５年で97.9％ということで、ほぼ全世帯が自治会に加入されている状況であったというところで、年々加入率の低下に伴い令和５年では、約８割程度になっているということが見えます。

このような５年置きのグラフとなっておりますけども、今後どのように推移していくのか。上昇していく可能性あるのか、そこら辺をお伺いします。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

この表を見ていただければ、かなり下がっていっておりますけども、今から予想は分かりませんけども、なるべくこの自治会のメリットを皆様に周知して、現状を維持できるような研究とか呼びかけを行っていきたいというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

加入率の低下となってきている要因は、先ほど町長のほうからも答弁でございましたけども、そのようなことをどう打開していくかということも大事になっていこうかと思います。

そういった形でどのような対策をまたお考えなのかお知らせください。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

やはり特に若い人を中心に、自治会に入るメリットを感じないという方がやはりいらっしゃると思うのですよね。

ただこの自治会活動も水や空気のように、当たり前に行われていて、例えばいろんな防犯の面とか、掃除をしていただいているとか、草刈りをしていただいているとか、そういうことは当たり前だと思っていらっしゃるのですけども、こういう自治会があるからこそできるという部分もかなりあると思っています。

そういう中で転入者、転居者の皆さんには戸籍の窓口のほうで、こういった自治会に加入をしてくださいみたいなお知らせを配られています。また移住者向けについては、波佐見町の取扱い説明書というものの中に自治会の加入の呼びかけをしてきております。

また移住者向けでは定住奨励金の自治会加入要件というのも行っておりまして、そういうところが今行っている対策だと思っております。

あと自治会に対しては各種自治振興交付金とか、地域振興事業補助金で、いろんな改修とかそういった公民館の改修とかですねそういったものの補助金も用意をしておりますけども、なかなか個人に対して入ってくださいというためのそういった金銭的なメリットというのはなかなかないということなので、やはりそういう意識の醸成といいますか。そういった部分をしっかり説明して、郷土を愛する力につなげていきたい、そういうふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

この件は自治会加入率の問題だけではないと思うのですよね。特に今言われています人口減少による世帯数の減少で、絶対数ですね。そういったものも減って加入率も減少するといった推移でいきますと、自治会活動の運営費となる収入減である自治会費ですね。それも減少してまいります。そうなれば、これまでの行事等の活動、運営にも影響がしてくると考えております。

何らかの対策を打っていかなければ、今後の活動、運営にも影響が出てくるものと感じておりますが、そうなれば行事等の活動を見直していくのか。あるいは自治会費を増額するかというふうな考えになってこようかと思いますが、無理な加入者負担とならないような検討も必要になってくるかなと思っております。

自治会加入の推進については、自治会の活動運営するに至っての一つの手段だと思っております。そういった形で自治会運営の本来の在り方。あるいは自治会が担う役割というものはどのようにお考えでしょうか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

まず一番の役割というのは、地域のコミュニティーの形成だというふうに思っております。そのためにいろんな行事を行ったりとか、団結力を高めたり。また１人ではなかなか生きていけないこの世の中ですので、そういった地域の助け合いとか、そういった部分を担っていただくのが本来の自治会の役割だというふうに思っております。

今かなり行政からのいろいろなお願いごととか、配り物とかも行っていただいていますけども、基本的にはそういったコミュニティーの形成だというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

先日１月10日に少子高齢化人口減少が深刻化する中で、自治会運営の在り方と題して、合同会社フォーティＲ＆Ｃ地域活性化・まちづくりコンサルタントの水津陽子さんを講師に招いて講演をしていただいております。町民はじめ自治会長さんもたくさんおいでになられて、講演に耳を傾けていらっしゃいました。

これからは昭和の時代から平成、令和へと時代に沿った活動が求められてくるというような

ことでした。その中で、全国的な課題として組織面では加入率の低下、役員の高齢化、成り手不足、活動の担い手不足、参加者の減少、固定化。解散、会長不在の団体が出てきているということをお話しされております。この件については本町においても課題点は共通しているのかなと思っております。

また先月２月７日総務文教委員会でも、社会教育団体との意見交換も行っております。文化協会、敬老会、スポーツ協会、婦人会、青年会、ＰＴＡそれと合唱団、スポーツ少年団の方の代表者の方や役員の方と十二、三名ほど参加していただきました。そこで現状報告の中でも、やはり共通して言われるのが会員の減少、役員の成り手がいないと。先ほどの自治会の現状と課題も同じようなことでした。

この組織面での加入率の低下、役員の成り手不足ですね。活動の参加者の減少。いろんな団体も共通して言えることですので、今後を見据えて自治会ともそういった行事の内容も研究、協議を進めていけないと思いますが、どのような対策が必要になってこようかと思いますか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

先ほど議員がおっしゃったように地域のつながりを生かす自治会まちづくりセミナー。町長も言いましたけども、このセミナーを今回初めて開催させていただきました。

やはりこういった勉強会をしながら、その自治会をはじめ地域の問題の洗い出しをしながら何が一番問題なのか。それはある程度共通した問題もあるかと思います。それで長いスパンで今すぐできることもいろいろあるかもしれませんけども、例えば2040年を見据えて行政もスリムになっていく。

自治会も行政がスリムになったからといって、全部自治会に仕事を投げていいのかってそうじゃないと思っていますので、自治会もそういった問題スリムになっていかないといけない。そういう中で本当に今の22の地区の自治会と、行政の関係でいいのかというのは、今からちょっともっと考えていかなければならないと思っています。

そういう中でよく全国で言われているのが、先ほど町長も答弁しましたように地域運営組織とか地域自治組織、小規模多機能自治というのが今、いろんなところで起こってきています。そういった小学校区ぐらいを単位とするような新たな組織とかいうのも当然研究をしていかないといけないと思っています。

ただ相当なエネルギーもいりますので、すぐは出来ませんけども将来を見据えて少しずつ研究を進めていかなければならないというふうに考えております。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

自治会の活動の中に各地区の消防団の支援もございます。消防団の報酬等が個人口座へ振り込みになって、分団活動の運営費などが問題視されるようになってきております。

この分団の活動運営費を負担しているのも各地区の自治会が支援しておりますが、先ほどもお話しましたとおり、今後の少子高齢化、人口減少、世帯数の減少、自治会未加入の世帯の増加により自治会の会費等の収入減が予測される中、こういった支援事業も大きな負担となってこようかと思っております。

各自治会によって分団への支援は変わってくるかと思いますが、各自治会からの各分団への活動支援はどのようになっているのか。また行政からの支援はどのようになっているのかお知らせください。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

事前に質問いただいておりましたので資料を準備しております。

消防団の運営については、かねてからどのような自治会とのかかわりがあるかということで御指摘もいただいておりましたので、令和４年度の決算を令和５年度において、招集をしまして一覧表をつくりました。

御存じのとおり自治会の運営、自治会からの消防団の運営というのはかなり差があります。これはそれぞれの消防分団の活動がまずは平準化されていない。それぞれ長い歴史があって、それぞれの分団の活動に差があるということです。それに基づいて各自治会の補助金も差があるということで、私どもとしては理解をしております。

多いところと、少ないところ。１人頭にすると、かなり差があるのは事実でございます。そこでこういったことを今後見据えたとき、先ほど議員もおっしゃったとおり出動手当、報酬が直接支払いされますということになりますので、分団の運営に支障がないようにということになります。

そこで今回、令和６年度の予算において６番目の行でございますが、分団の力があるところと言えばちょっと語弊がありますが、そうでないところについて町の補助金の全体を底上げした上で傾斜配分をするということにしております。

そういうことで、各分団の団員当たり１人頭の運営費について是正をしていこうということになっております。今回こういった措置は初めてということになりますので、今後分団の運営がどのように推移するか。自治会の皆様とも情報交換をしながら、あるいは分団長の意見も聞きながら、今後検討してまいりたい、進めていきたいと考えております。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

こと詳しく総務課のほうで調べていただきました。やはり１分団からですね８分団まで各担当区域ですね。それと団員数、世帯数、自治会の補助金というふうなかたちを全部調べていただきまして、自治会からの補助金の団員１人当たりの５番目になりますが、１人当たりの補助金、活動費ということで出ております。

一番多いところで１分団の４万3,333円から、８分団の１万9,596円ですかね。倍以上の開きがあるわけですね。そこの中で６番目の町の補助金で幾らか調整をするというふうな内容になってこようかと思いますが、やはり自治会の補助金――負担金といいますかですね。やはり５分団、６分団ですね。世帯数を見ていただきますと200世帯ですよね。それで80万円以上の補助金というか支援金を出しているというふうな形で大きな負担となっていることが目に見えているのかなと思っております。

そういった考えから、やはりこう行政の役割として、やはり町民の生命と財産を守るということが義務づけられておりますけども、その役割を担っているのがこの消防団だと思っております。

やはり各自治会で、やはり消防団への補助費の支援についてはそれぞれが自主的な支援であって、これまでの先ほど言われましたけど歴史とか、伝統ですね。そういったものもありますので一概には言えませんけど、消防団の活動費はどの分団も点検あるいは整備、夜警といったことで同じような活動をされているわけなのですよね。

ですので、やはり平均化して数字を、支援金をしていただきたいなと思いますが、６番のところで町の補助金で調整されているかと思うのですが、そこも一番下のものは団員１人当たりの活動費というのは、５万1,000円から３万までということで２万円以上あるわけなのですよね。ですので、やはりそこの６番の町の補助金で、やはり平均化というか、１人当たり４万5,000円ぐらいになるぐらいで、そこら辺の補助金の調整というものは検討されないのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まず、そもそもの話をすると、やはり分団の活動に差がある。それは自治会との関係があると、こちらとしては思っております。したがって、そういった活動をまず平準化すべきだろうと思います。

そういった上で、自治会が分団のほうに助成金を出しているということでございますので、私ども総務課とすれば、各分団にお願いしている活動の内容あるいは詰所の維持ということについては平準化しています。

ただしそれ以外のことについて、どのような論議が今後進んでいくかというのがポイントになります。そういうことを考えると、町の補助金でその差を埋めるということは適切ではないというふうに思います。

今回の傾斜配分、要するに差をつけているのは、それぞれの分団の財力面を考えて一定の配慮をしているということでございますので、自治会からの補助金の多い、少ないを埋める制度ではないということは御理解いただければと思います。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

先ほども申しましたけども、自治会活動におきましてはそれぞれの自治会で、その活動の内容や伝統とか歴史ですね。そういったものもそれぞれ様々であります。

また各自治会で、地域差とか会員の負担額なども抱える問題もそれぞれかと思います。

今後、危惧される加入率の低下で、役員の成り手不足などを組織名、活動内容、行政からの依頼事項の負担など、いろんな問題点がございます。

住民ニーズに沿った運営や活動への転換あるいは活動の負担軽減に向けたスリム化。

連携等の推進役員の負担軽減、新たな参加、担い手など獲得など今後の研究内容は、そういったことが研究内容かと思っております。

自治会が負担とならないような運営となるように、活動内容が先ほど言いましたが、町民全体にかかるような消防とかあるいは防災の支援とかですね。そういった町民全体に関わるようなことは行政である程度できるようなもの。あるいは地域住民のコミュニティー活動、自治会がやるべき活動とか行事ですね。そんなものを全部こう洗い出して行政がやるべきもの、あるいは自治会がやるべきもの、そういったものを各自事業の内容を洗い出して、そういった住み分けをする作業も必要になってこようかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

確かにそのような点検といいますか、棚卸しといいますか洗い出しは必要かと思っております。

今はただそれでいいかもしれません。ただし、もっと将来20年後とか30年後とか考えると、行政できることがもっと少なくなってきますので。そういうところをどうするかということも含めて、まず現状の課題を洗い出して、そういった振り分けというのを行いながらもっと将来を見据えた部分というのは、引き続き研究をしていかなければならないというように考えております。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

それでは自治会について以上で終わりたいと思います。

次に町政に対する要望書の取扱いについて質問させていただきます。

10月の18日に、常任委員会である総務文教委員会、産業厚生委員会からそれぞれ２項目について要望をいたしております。10月といいますと、その時期は各担当課で新年度に向けて、予算に向けて事業の策定をされる時期なので、どのように今回の要望書を６年度予算に反映、検討されたのかお伺いしていきたいなと思っております。

ちょっと順番が前後しますけども、先に産業厚生委員会からのですね要望についてから質問したいと思っております。

まず「浄化槽整備事業の推進について」ですが、要望の趣旨として、一つ維持管理費、修繕費、浄化槽の入替えに対する補助事業の設置を要望する。

一つ浄化槽設置整備事業補助金の見直しを行い、新築物件にも転換同様の補助事業の設置及び下水道区域の見直しにより、除外となった地区への特例措置――補助の上乗せですね。の設置を要望する。

一つ浄化槽整備事業の広報活動を充実させるとともに、相談窓口を設け相談者が分かりやすい環境整備に努めるよう要望する。

浄化槽整備事業の推進についてはですね、この３点について要望をしておるところです。

最初の２点についてはですね、予算が絡んでくる事業でございますから、予算書を見てみますと浄化槽設置整備事業補助金として、令和５年度の当初予算が2,127万8,000円。６年度が2,701万円の予算を計上されています。

初日の６年度の予算の内容説明で御説明がありましたけども、600万円ほどの増額となっております。内容では、やはり新築物件の新規設置の増加を見込んでのというような説明がございましたけども、具体的に何基ほどなのか。また内容について詳しく御説明をしていただきたいと思っております。

また今回の要望書についてどのように予算を組んで、予算に絡んで考慮されたのかをお知らせください。

○議長（百武辰美君）　水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

まず予算に絡む部分でございますけども、増額になった部分につきましては、新築物件に対する補助については、設置費用の分に対する補助だけでした。産業厚生委員会からの要望という形もありまして内部のほうで十分検討をしました。

その中で、やはり下水道事業の接続との工事費の負担割合等その辺を加味しまして、配管の部分についても新築については、上乗せをしようということで予算要求をしたところでございます。

今回、当初予算で増額、対象となる分については19件分が対象として、計上をさせてもらっております。

それと、ほかの要望につきましては、内容をちゃんと確認をしまして、まずはできる部分につきましては対応するということと、やはり継続的にしないといけない部分もございますし、ほかの自治体の調査研究も踏まえながら対応するということで進めてまいりました。以上です。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

検討されてこのような予算編成をしていただきました。

それと３点目の相談窓口を設け、相談者が分かりやすい環境整備に努めるよう要望するとともに、やはり広報活動として事業者や点検業者を巻き込んでのＰＲ活動やチラシの配布等または、地区説明会や個別訪問の実施についても要望しておりましたけども、どのように計画されていくのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

まず町長の答弁のほうでありましたけども、まず新庁舎の移設、開庁に合わせて、これまで浄化槽の担当とかそういったところの表示がなかったということもありまして、水道課内に浄化槽補助という形でサインを掲げております。

それと中身というか、工事業者点検業者を巻き込んでの広報活動ＰＲという形でございますけども、まず浄化槽の設置につきましては相談として住環境の整備ということで、まず工事業者が窓口になる。窓口とか相談に乗られるケースがございます。その際設置業者に対しましては、補助事業の概要については説明をしておりまして、情報共有を図っております。その際、制度の説明をしていただいております。

それと今後も業者の意向も確認をしながら、どのような方法で周知が図れるかということにつきましては検討したいと思っています。

あわせて地区説明会や、個別訪問の実施ということにつきましては、効率的、効果的な面からどのような方法がいいかということを今研究中でございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

浄化槽の整備については以上で終わりたいと思います。次に乗り合い交通事業の推進についてですね。

要望の趣旨としましては、一つ地域公共交通計画策定に向けて、検討委員会を立ち上げ準備を進めるよう要望する。

①として、国が求める地域公共交通計画を早急に策定するための準備を進める。

②同時に町民の交通に関するニーズ調査を行い、現状分析を行う。

③路線バス、乗合交通、マイカー事情等重層的な交通の在り方について、10年後の本町を見据えて、検討委員会を立ち上げて抜本的な研究を行う。

一つ乗合交通の在り方について抜本的な見直しを行うよう要望する。

①ＡＩ等の最新技術導入を行い、待ち時間を減らす仕組みを導入するなど。

②オンデマンドの仕組みを導入することで、運行会社への負担軽減策を考慮する。

一つ西九州新幹線開業に伴う周辺駅への二次交通の見直しを行うよう要望すると。

この３点について要望しておりますが、先の二つの地域公共交通、乗合交通については、先ほどの答弁あるいは昨日横山議員の一般質問でも、議論されましたので、そちらのほうでよろ

しいのかなと思っております。

またこの地域公共交通につきましては、抱える問題とか課題研究材料がたくさんあるようですが、まちづくりのために地域住民サービスにつながるような施策となるように計画的に進めていただきたいと思っております。

３点目の西九州新幹線に伴う周辺駅への二次交通の件ですけど、新幹線が開業されて、１年がたちました。本町への観光客の利用者どのくらいの効果があるのかお知らせください。また現在、どのような感じで二次交通手段を使われておられるのか。お知らせください。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

新幹線の西九州新幹線の開業に伴いまして、本町への観光客の入り込みの関係についてではございますが、実際として、今新幹線を活用して本町に来たというふうなところが実際どの程度いらっしゃるかというふうなところの正確なデータというのは、実際持ち合わせておりません。

ただし、いろんなところからの話を聞きますと、バス路線はあるものの、なかなか駅との接続は出来てないので、そこからバスに乗ってくるというお客様の話は聞いたことはございませんが、レンタカーを活用して本庁のほうへ来られているというふうなことをお聞きしてお聞きはしております。

今後の二次交通の在り方についてなのですが、実際に西九州新幹線の嬉野もしくは武雄の駅からの利用者の声とか、いろんな状況のちょっと調査を把握いたしまして、そこからどのような手段を使って本庁へ誘客に結びつけるか。その交通の在り方も含めて、今後ちょっと検討していきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

今、答弁いただきましたけども、周辺駅となれば嬉野駅とか武雄駅になろうかと思います。先ほども今ちょっとお話ありましたけども、二次交通としてレンタカーの利用等も検討する余地はあろうかと思っております。

嬉野駅周辺にレンタカー事業者さんが出来たというふうなことも伺っておりますが、本町でもレンタカーを取り扱っていらっしゃる業者さんもいらっしゃいます。

そういった業者さんとか、うちの観光協会と協議して嬉野のレンタカー業者さんと業務提携して、レンタカーを利用するというふうなことは検討していっていただけないでしょうか。

○議長（百武辰美君）　商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

御提案ありがとうございます。今後ちょっとレンタカーの需要等も含めて町内の事業所ともいろいろとお話を聞きながら、状況を踏まえながらそういったのも視野に入れながら、検討を

進めていきたいと思います。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

それでは、その産業厚生委員会のこの２項目については終わりたいと思います。次に総務文教委員会からの要望でございます。

先に総合文化会館の機能充実についてお尋ねしたいと思います。

要望の趣旨として、一つ管理の外部委託においては住民サービス等が低下しないように考慮し、よりよいサービスの提供を強く要望する。

一つ教育委員会事務局のスペースを有効的に活用できるように改善、改修を施すなど施設整備に努めることを要望する。

一つ文化、生涯学習の中心施設としての機能を一層充実させるため、教育文化の施設として管理及び施設整備に努めこれまで以上の利用促進を図ることを要望する。

以上の３点でございます。

総合文化会館で、これまで教育委員会が駐在して業務をなされておりましたけども、今回新庁舎の完成に伴い、教育委員会は新庁舎のほうに移転してきております。まだ２か月ではございますが、総合文化会館の利用に当たって町民からの御不満とか御意見等ございましたら、どのようなものがあっているのかお知らせください。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

今、２か月がたったわけでございますけども、そういった不平不満とかいうお声はまだ私たちの耳に、こちらには届いておりません。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

また総合文化会館が所在する地区には、やはり小学校・中学校・体育センターがあり、本町における教育文化の中心となっております。

施設の管理については、外部団体に管理委託を予定されていると。また前の教育委員会、事務局のスペースの活用についても図書館の有効的な活用と、なるように整備されると昨日の田添議員のほうで一般質問のほうで御回答がありました。理解出来ました。

住民サービス、利用者のサービス低下とならないように努めていただきたいなと思っております。また今後もやはりその利用に当たって、住民からの意見等もあろうかと思います。活用しやすいような施設になるようにお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

はい確かに、住民の今までの利便性を、先ほども教育長答弁しましたとおり現状維持という

ことで、当面はさせていただいて、そういった利用に対して不平不満が出ないようにしたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

それでは次に、総合運動公園の早期建設についてであります。

要望の趣旨として、一つ早期に総合運動公園整備についての研究会等を立ち上げ調査研修を進めることを強く要望する。

一つ野球競技に実績のある波佐見町として、野球場から着手し長期展望として公園や陸上競技場などの総合的な施設整備の充実を要望する。

この２点でございます。

第10次波佐見町基本計画には基本目標４．豊かな心を育むまちづくりとして、生涯スポーツの推進委員が掲げられております。そこには体育施設の計画な整備として、長期的な展望に立って総合運動公園の研究を行うと明記されております。

また、第６次波佐見町総合計画の前期基本計画にも、体育施設の計画的な整備と総合運動公園整備の研究を進めますと併せて明記してありますが、長期にわたって同じような基本計画の内容でございますけども、これまで調査研究をなされてこられなかったと思うのですが６年度研究する予定はあるのか。また研究される場合は、どのようなメンバー、構成員の方を予定されているのかお伺いします。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

この野球場総合運動公園につきましては、以前からこういった要望が出されておりまして、調査研究ということで進めているということでお話をしておりますけども、教育長の答弁にもありましたとおり、まずはその建設費用に対する問題。それと今20億円ぐらいかかるのではないかと言われているその建設費用にかかる問題。それと建設した後の維持管理に対する問題。施設の規模によりけりでしょうけども２億ぐらい。諫早の野球場でも年間１億円ぐらいかかっているという情報がございます。

まずここの問題をどうしていくかというところが一番の問題だと思っておりまして、まだ調査研究のそういった研究会を立ち上げるというところまで行っておりませんで、内部の担当者レベルで、まだ検討しているというところでございます。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

もちろん総合運動公園の整備となれば、やはり今言われたような多額な予算を伴うと。また維持管理費もかかろうかとは存じ上げております。

ただ総合運動公園ではなくして、先に最も盛んで実績のある野球場から着手してもらうよう

に要望しているわけですが。10年前の2014年「頑張らんば長崎国体」がありましたね。本町は野球競技に会場として立候補したわけですが、準備段階で断念した経緯もございます。

今年2024年には佐賀国体が開催されます。その大会の運営に当たって、やはり各競技の会場の整備も整っております。佐賀県は隣の県でございますし、また野球競技におきましては有田町あるいは川登そういった近隣で開催されることになっております。

そういった大会の会場ということで大分整備をされておりますので、近々にも施設の視察ですね。それでまた建設費とか修繕費ですね。維持管理費等などをヒアリングするような調査、研修をしていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

今本当に問題になっております、その費用の問題でございますので、そういった近隣の市町村の状況等を調査。それともう一つ突っ込んだ形で詳しい資料をもらいながらですね、研究をして進めていかなければいけないかなというふうには思っております。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

それと、この野球場の建設に当たっては、長いことですねこれまでの議会においても町民の声、意見の代弁者としてたくさんの議員の方が一般質問等でも提案されてきたことがあります。

今回も総務文教委員会からも要望書として提出しておりますけども、そのあとに野球関係者の方からも野球場の建設に向けての要望書が提出されたと聞いております。

その関係者からのですね、要望書の取扱いについてはどのように対応されているのか。ちょっとお伺いします。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

いただいております。波佐見野球場の建設についてついてということでいただいております。こちらにつきましても先ほどと同様のところ建設費用とそのあとの維持、管理というところで検討している段階でございます。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

去年の９月も私、議会において提案したところでございますが。次世代を担う子供たちの健全育成に関する事業として、ふるさと応援基金を活用した野球場の建設を提案したところでございますが、予算面を考慮して鴻ノ巣グラウンドの整備について提案もしましたが、前向きな答弁もいただいたように感じたのですが、そのまた鴻ノ巣グラウンドを整備するにあたって、ちょっと言えば照明器の入替えとかですね、駐車場の整備そういったものをちょっと今計画さ

れていますよね。

そうなれば鴻ノ巣での研究、検討はなされてないのかなと思うのですが、いかがですか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

鴻ノ巣グラウンドの整備につきましては、そういった野球場ということでございますけど。鴻ノ巣のあそこに野球場をつくれば、ほかの団体様との調整も必要になってこようかと思っております。

それとありましたとおり、そういった総合運動公園的に整備となってくると土地的にあそこではちょっと狭いというふうに判断をいたしております。また新しくですね、土地を求めなきゃいけなければならないのかなという話も出てまいっておりますので、取りあえずは現状の鴻ノ巣グラウンドの整備ということで、照明器具の更新を考えておるところでございます。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

あと二、三点聞きたいところがあったのですが、ちょっと時間がないのですが、やはりどの規模の野球場を造るかで予算も変わりますし、予算決めればどの規模の球場ができると。そういった逆算、多方面で検討していただきたいと思いますが、いかがですか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

その一番の問題になっております予算でございますので、そこらあたりは町全体の、私たち教育委員会サイドだけじゃなくて町全体のことになってまいりますので、そういった長期的な財政運営状況等々、検討を重ねてまいりたいと思っております。

○議長（百武辰美君）

以上で、７番福田勝也議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。11時20分から再開します。

午前11時10分　終了

午前11時20分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、４番　岡村真由美議員。

○４番（岡村真由美君）

皆さんこんにちは。それでは通告に従い質問いたします。

１．波佐見高校の存続に向けた支援策の在り方について

後期選抜の合格発表が３月15日に行われると、新入学生の数がほぼ確定する。そこで、次のことを問う。

（１）波佐見高校への志願状況を見て、支援策を見直す必要、考えはないか。

（２）美術・工芸科に対しては、どのような支援がなされているか。

２．子供たちを取り巻く環境について

（１）南小学校の敷地内に放課後児童クラブの建物を造ることは出来ないか。

また、「こどもの居場所づくり」については、本町においても取り組まれているか。

（２）本町における学校給食の歴史と成果をどう評価しているか。

（３）小児科医院誘致の進捗状況は。また、予算措置を伴う誘致を考えているのか。

３．コロナ予防ワクチン接種について

新型コロナワクチンの全額公費による接種は３月31日で終了し、４月から有料となる。

接種費用はどの程度になるか。また、町として補助する考えはあるか。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

４番　岡村真由美議員の御質問についてお答えをいたします。

１．波佐見高校の存続に向けた支援策の在り方についてということで

（１）波佐見高校への志願状況を見て、支援策を見直す必要はないか。というふうなお尋ねでございますが、１月19日に発表されました令和６年度前期志願者数は72名の募集に対して74名の応募。令和５年度の前期志願者数94名に対して大きく下回っています。

令和４年度の前期志願者数は73名ですので、令和５年度だけが大きく突出した状況でした。後期選抜の志願状況が２月26日に公表されましたが、普通科、商業科においては定員に大きく足らず厳しい状況であります。

しかし、美術工芸科については令和６年度の前期が12名の募集に対して22名の志願者があり、12名が合格され後期選抜では８名の募集に対し、11名の志願者があっています。普通科商業科は、後期選抜での志願者が少なく、最終的に大きな定員割れは免れない状況にあります。

これは波佐見高校に限ったことではありませんが、その年度により志願状況は変わり、非常に厳しい物価高騰や少子化などの社会情勢の中で、定員の生徒確保を目指すためには、一定の効果があっているものと思いますし、支援制度がなければもっと悪い状況になっていたかもしれません。

いずれにせよ波佐見高校の支援策が、令和３年度から始まって３年が経過したばかりであり、すぐに効果が出るようなものでもないと考えておりますので、長期的な視点に立ち状況を分析しながら、引き続き事業を継続していきますとともに、学校や地域とも連携をし波佐見高校の魅力アップに向けた取組を支援してまいりたいと考えております。

（２）美術工芸家に対してはどのような支援がなされているか、とのお尋ねですが波佐見高校存続のためのこの支援制度はＰＴＡを通じて、波佐見高校全体に支援しているものであり学科ごとの支援ではございません。

支援メニューとしては、入学支援金、通学費補助、家賃等補助、進学受験料補助、部活動遠征費補助などがあり、当然ながらその中に美術工芸科の生徒も含まれています。

大きな２番目。子供たちを取り巻く環境について

（１）南小学校の敷地内に放課後クラブの建物を造ることは出来ないか。は後ほど教育委員会のほうから答弁がございます。

「こどもの居場所づくり」については本町において取り組まれているのか、との御質問ですが、国の子供の居場所づくりに関する指針は次のように説明があっています。

自分の居場所を持つことは、自己肯定感や自己有用感に関わるなど、全ての人にとって生きる上で不可欠な要素である。当然子供、若者が生きていく上でも不可欠と言えるものであり、居場所がないことは人とのつながりが失われ、孤独・孤立の問題と深く関係する重大な問題である。

子供は家庭を基盤とし、地域や学校など様々な場所において安全安心な環境のもと、様々な大人や同年齢、異年齢の子供同士とのかかわりの中で成長する存在であるが、社会構造や経済構造の変化により、子供、若者が居場所を持つことが難しくなっている状況にある。

すなわち地域のつながりの希薄化、少子化の進展により、子供、若者同士が遊び、育ち、学び合う機会が減少しており、子供、若者が地域コミュニティーの中で育つことが困難になっている。このような構造変化は、地縁や血縁による子育てのサポートにも影響を及ぼしており、共働き家庭や独り親家庭の増加と相まって、家庭における子育ての孤立が懸念されている。

他方で、子供、若者を取り巻く環境に目を転じると、児童虐待の相談対応件数の増加や不登校、いじめ重大事態の発生件数の増加、自殺する子供、若者の数の増加などその環境は一層厳しさを増すとともに、課題が複雑かつ複合化しており子供の権利が侵害される事態も生じている。

とりわけ厳しい環境で育つ子供、若者は居場所を持ちにくい、失いやすいと考えられることから、こうした喫緊の課題や個別のニーズにきめ細やかに対応した居場所をつくることで、子供の権利を守り誰１人取り残さず、抜け落ちることのない支援を行う必要があると。居場所づくりの必要性の背景が示されています。

小学生以上の子供たちの居場所は、家庭や学校で多くの時間を過ごすこととなります。家庭と学校をつなぐ放課後の過ごし方ももちろん大切にしなければならない時間とは考えますが、先ほど背景として説明しましたように、様々な課題を解決していきながら、子供の視点に立った居場所づくりを考えております。

医療的ケアを必要とするお子さんにとっては、家庭が安全安心に過ごせる居場所となる必要があり、令和５年度非常用電源購入の補助制度を設けるなど個別ニーズに対応しているところです。地震などの災害により地域コミュニティーの重要性が再認識されています。ふだんから地域で子育てを見守るシステムを考えることも、居場所づくりに通じるものだと思います。

これまでは、高齢者を中心に地域包括ケアシステムの構築を進めてまいりましたが、地域が子供たちの居場所となるような活動が出来ないかと検討しており、令和６年度は試験的に子ども食堂、みんな食堂のモデル事業を進めてまいります。

今後、設置する子ども家庭センターにおいても、調理室や多目的スペースは活用の幅が広げられるものと思われます。なお先ほど申しましたとおり、南小学校の敷地内への放課後児童クラブ設置については、後ほど教育委員会から答弁がございます。

（３）小児科医院誘致の進捗状況はどうか、また予算措置を伴う誘致を考えているのか、との御質問ですが、今後の人口減少、高齢化に伴う医療ニーズの質、量の変化や、労働力人口の減少を見据え、質の高い医療を効率的に提供できる体制を構築するため、長崎県では地域医療構想が策定されています。

波佐見町を含む県央地域医療圏、佐世保県北医療圏は全国に比べると医師が多い区域とされています。一方で地域医療を維持していくために、小児科の医師の確保の方針が長崎県医師確保計画で策定される予定です。県内でもそうした小児科医の減少が危惧されている状況です。

誘致の進捗状況ですが、現在はどういう条件であれば小児科が開設できるのかを医師会に御意見を聞きながら、ハード、ソフト両面の支援や、持続可能な経営の視点から、先行して誘致に取り組んでいる他市町の状況を調査しているところです。

当然ながら予算措置を伴う誘致でなければならないと思っておりますが、県内では令和２年に補助金交付要項を制定した西海市でも、小児科の誘致には至っていないとのことです。

昨年は佐世保市でも小児科と産科を対象とした新規開設の開設、承継の補助金要項が制定され、数件の問合せはあったとお聞きしています。このことから全く可能性がないわけではないと安堵したところです。小児科医に来ていただける条件などを詰める必要がありますので、町民の皆様の要望、期待に応えられるかたちに近づけるように努力をしてまいりたいと考えております。

大きな３番目。コロナ予防ワクチン接種について、新型コロナワクチンの全額公費による接種は３月末で終了ということで、４月からの有料に対して接種費用はどの程度になるか。また町として補助する考えはとのお尋ねですが、新型コロナワクチン接種は、令和３年度から開始し、これまで集団接種、個別接種、合わせて５万4,156回の接種を実施してまいりました。

令和５年度は重症化予防の観点から、高齢者を中心に６回目、７回目の接種を行ったところですが、１月末までに７回接種を済まれた高齢者は1,919人いらっしゃいます。御案内のとおり、今年度３月31日までで全額公費による接種は終了することが決まっており、令和６年度以降はインフルエンザ予防接種と同様に、秋冬の時期に１回接種となる予定です。基本的には65歳以上の高齢者の方が、希望により有料で受けていただくというものになり、医療機関での個別接種になってまいります。

接種費用については、厚生労働省からの説明では7,000円程度という情報がありますが、まだ

確定的なものではございません。支援についても助成する方向で検討をしておりますが、県内の動向や東彼三町で調整を図りながら助成額を決定してまいりたいと思います。

そのほかの御質問については教育委員会から答弁がございます。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

２．子供を取り巻く子供たちを取り巻く環境について

（１）南小学校の敷地内に放課後児童クラブの建物を造ることは出来ないか。また、「こどもの居場所づくり」について、本町においても取り組まれているのかというお尋ねでございますが、現状南小学校の校舎内に学童施設を開くことは出来ないことはこれまでも答弁をしておりましたが、敷地内に新たな建物をつくるという御提案につきましては、設置場所や費用の課題、何より教育活動への支障がないかなど十分な検討が必要となりますし、新規の学童施設なのか。既存の学童施設なのかも含め現段階では考えておりません。

「こどもの居場所づくり」につきましては、教育委員会としては既存の教育施設の有効活用、部活動やスポーツ少年団活動、地域活動などへの参加の推奨や充実を図る。支援員や地域サポーターのサポート体制づくりを行っておりますが、保護者、地域からの御意見や、御要望があれば真摯に検討してまいりたいと考えております。

（２）本町における学校給食の歴史と成果をどう評価しているかというお尋ねでございますが、本町の学校給食の歴史は、昭和38年４月南小学校において完全給食が開始され、同年11月に東小、東中学校、南中学校で粉ミルク給食が開始されております。

その後、昭和44年３月に波佐見町立学校給食センターが完成し、４月から全ての学校において完全給食が開始されました。

昭和52年から米飯給食が開始され、昭和63年は御飯茶わんが強化磁器食器に切りかわっております。平成12年４月に現在の給食センターが運営を開始し、この年から全ての食器が強化磁器に変わっております。

学校給食は栄養バランスのとれた食事の提供、栄養についての知識や食事の大切さを教える食育活動、学習における集中力の向上など、成長期にある子供たちにとって大変重要であります。

本町では、おいしく安全に確実に給食を提供するために、その食材購入等の原資を、保護者の皆様による徴収でお願いしてきました。その御協力、御労苦によりほぼ100％の徴収が達成されていることも、他市町にない波佐見町学校給食の成果と言えるのではないかと考えております。

以上、壇上からの答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

思った以上に詳しく、丁寧に回答していただきましたので、もう私の再質問は必要ないぐらいのように思っております。ですが残りの43分を使って、できるだけ詳しく内容を深めていけたらと思いますので、御協力ください。

まず再質問に移る前に、もう一度、昨日も言われましたけれども、波佐見高校の卒業式に出られての感想を町長からお聞かせいただければと思います。簡単で結構です。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

昨日の同僚議員の御質問にもございましたけれども、支援策を行ってきてよかったなと。特に昨日の答弁にもありましたけれども、答辞をおっしゃった卒業生の中で、佐世保から通学されていた方だと思いますけれども、本当に波佐見町からの支援、あるいは地域の住民の皆様からの支援がありがたかったというふうなことで、私は受け止めておりますので、非常に感慨深い卒業式であったというように思っております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

私も久々に出席をさせてもらって、涙が出るくらい感動いたしました。支援を呼びかけてよかったな、支援をしてきていただいてよかったなと本当に痛感しております。この手厚い支援のおかげで昨年は入学者が、今までよりもかなり増えました。

さて今年はどうなるのだろうというふうに心配しておりましたところ、前期選抜の合格者と後期の志願者が全員合格するものと見込んでも、クエスチョンマークの上にある77名にしかなりません。ここに入学辞退とかが出てきますと、私立とかに行って出てきますと、さらに減ることになると思います。これより増えることはありません。

同様の計算をすると入学祝い金をしなくなったと昨日聞きましたけれども、川棚高校は同じ120人の定員に対して102名ですね。全くそういった支援をしていない東翔高校も101人です。さらに、来年からは入試制度が変わり、波佐見高校はますます不利な状況に追い込まれるのではないかなと予想されます。

昨日、同僚議員からも質問がありましたが、この入学準備金に関しては不平等感が感じられるものであります。この入学準備金だけでいいですけれども、志願者増にどのくらい効果が上がっていると思われますか。支援全体ではなくてですが。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

高校の支援で、今決算で出てきてるのは令和４年分しか出てきておりませんので、当然ながら令和５年中でありますので出てきておりませんが、令和４年中の入学支援金が450万円ぐらいの支出があっております。

それが希望といいますか、志願の状況にどう結びついたかというのはちょっと、全てにアン

ケートするわけいきませんので、そこのちょっと分析はしておりません。分かっておりません。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

そのとおりだと思います。波佐見高校支援はよく子育て支援と混同されがちですが、町長の施政方針にもあるように、これは町の活性化のための事業の一つだということを忘れてはいけないと思います。

入学準備金は確かにありがたい支援でしょうが、生徒たちは入学準備金や検定料の補助につられて波佐見高校に来ているのではないと私は思います。また、多額の費用を投じている割には宣伝効果もあまりないと思います。

先生方は県内のいろんなところに行って、学校説明会等されますけれども、果たしてどのくらい、そういうのがはっきり伝わって、それをいいなと思ってきている生徒がどのくらいいるのかなと私は思います。あまり知られてもいないのではないでしょうか。

今年の１年生94人。――先ほど表にありましたけれども94人のうち、聞くところによると30人近くが他県からの生徒です。他県から来ています。言い換えれば、他県からの生徒で何かもっているような状況です。

私の考えですけれども、支援は下宿代や寮費などの住居費の補助に限定して、額をもう少し手厚くしたほうが志願者増につながりはしないか。より効果的ではないかと考えるのですけれどもいかがでしょうか。簡単によろしいです。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

いろいろな支援の在り方があると思います。臆測で、なかなか言えないとこもありますけども、当然今議員がおっしゃったような考えを持っている方もいらっしゃると思いますし、そこはまだ制度始まったばかり――ばかりというか、入学金について今の高校３年生はもらっていらっしゃいません。今の２年生、今度３年生になる方からもらっていらっしゃいますので、まだ２回実施したという状況であります。そういうところもいろんな状況を考えながら見直しできるところは見直さないといけないと思いますし、そこはいろんな議論が必要かと思っております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

有田工業にもセラミック科とデザイン科というのが定員40名ずつの課がありますが、町内にも卒業生がたくさんおられます。この名門高校でも少子化の影響というのはありまして、年々入学者が減っております。佐賀県と有田町が支援に乗り出して、一昨年から地域未来留学という制度を利用して、全国から生徒を集めていることは以前にもお伝えしました。その上佐賀県

は、県外からの生徒の制限枠というものも外しております。１年生には佐賀新聞には載っておりましたけれども、東京などから６名の生徒が入学してきております。

長崎県にも離島留学制度という制度があって、離島の高校に対してはかなり支援が行われてきたのですけれども、残念ながら波佐見高校の美工科に対しては、県は有工ほどの支援はしてくれておりません。

町長。この違いにちょっと寂しさというか、憤りみたいなものは感じられませんでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

県立高校の施策でございますので、私がどういうことと言うことはございませんけれども、佐賀県がそういうふうに行っているのであれば、同等の支援はしていただきたいなという気持ちがございます。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

ありがとうございます。何かこう知事にお会いになったときとか、教育長にお会いになったときにちょっと言っていただければなと思います。

また３月１日付の佐賀新聞によると、有田町は空き家を男女別に２戸改修してシェアハウスにして、県外からの生徒を受け入れると発表をしております。新しい１年生用に４人ずつ入れる、８人は大丈夫ですよというシェアハウスを作ってすると。受け入れるということ発表しています。ちなみに有工の生徒には家賃補助が３万円なされています。ほかの支援はあんまり聞いておりません。

このままでは県外だけでなく、近隣の先ほどおっしゃった広田中や三川内中の生徒も有工にとられてしまうのではないかなという危機感を私は抱いております。本町では下宿先を見つけるのはかなり困難です。かといって、新たな寮の建設には多額の費用がかかりますので求めるなどはいたしません。

運動部と違って、美工科の生徒には空き家を利用したシェアハウスが適しているようにも思えます。美工科定員40人を目指して、昨日、同僚議員が言及された町営住宅をも含めた空き家の活用を前向きに検討してはいただけないでしょうか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

一口に空き家といいましても、今窯業界においても、そういった移住者が空き家を望んでいてもなかなか、そういうところに物件がないとか。賃貸の空き家ってなかなかないのですよね、今。そういう状況の中で、貸していただけるところを探すのも苦労するような状況でもあります。それは、多分議員さんがいろいろ探されていますので分かってらっしゃるかと思いま

すけども。

そういうような有利な条件とか、場所的な問題もあると思いますので、そういった今、既存の空き家改修用の助成制度もありますので、そういうところをうまく活用しながら。あとシェアハウスといっても、プレーヤーといいますか実際運営する方が必要になってくると思いますので、そこが大きな問題だと思っております。箱だけ出来てもというとこありますので、そういったところも含めながら、まずは既存の空き家改修の助成制度とかも活用していただければというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

分かりました。私は探しまして３月から空き家を格安でお世話いただいて、１人世話をしております。そういう感じで、探せば求めればあるということを私は経験上、知りましたので、なるべく前向きに検討していただければなと思います。

それでは２つ目の子供たちを取り巻く環境についての最初の（１）番ですね。

答弁は今までと余り変わらないのですけれども、しつこいようですけれども今回も９月、12月に続いて今回も質問をさせていただきたいと思います。

これは前回もお見せしました南小学校の校庭の様子です。奥のほうに見える建物は体育用具倉庫だと思うのですけど、その左側のところは今どうされていますか。どういう状況になっていますか。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

飼育舎と学級園、学年園になっています。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

飼育舎ですよね。しばらく前までは何か動物がいたようですけど、いなくなってちょっと久しいと私は近隣住民として見ております。花壇も美しいなというほどの手入れはされてないのではないかなと思います。空き地といえば空間的にはないわけではないなと。こっそり伺っております。

これは反対側の駐車場側です。遊具が置いてあります。放課後ここにはブランコに乗ったりする子がちらほらと見えるぐらいで、あとはほとんど、あんまり活用されていません。もったいないなあって思っているところです。

子供の数が少なくなっているのであれば、町有地である保育所ですね。保育園か小学校の敷地内に敷地内に学童の施設をつくればいいのではないかと。私は素朴に考えて質問をしたところ、今回と同じように出来ませんという。それは無理ですという回答を得られました。この考えは変わっていないということが今分かりました。

これは隣の有田町の学童、といっても小学校の中に設置をされている学童施設についての表です。私は有田小学校と曲川小学校ぐらいは知っていますかね。通るような気がするのですけれども、４つも小学校があるとは知りませんでしたが、全ての小学校に専用施設があるのですね。大山小学校というところはなくて、空き教室を利用していると。すごい４つも学童があるのかと思ってさらに聞いたら、これ以外に民間にも４つありますよという回答を得ました。

この違い。何も最初から小学校に学童の施設が、町が判断して作っているのですね。この違いというのは一体どこから。今さら聞いても、今の皆さんに聞いても分からないのですけれども、学童をつくる力が民間にあられたからということなのですかね。町が出る幕もなかったということなのでしょうか。どう捉えていいのかなと私はこれを見て思いました。

回答いただければ、お願いします。

○議長（百武辰美君）

お答え出来ますか。教育長。

○教育長（森田法幸君）

今回学南小学校の敷地内に学童というお話も初めて伺いましたし、そのような要望意見を町民の方々あるいは既存の学童施設の職員の方々から、一切話を聞いておりませんので、即答することも出来ませんし、学校との協議も行っておりません。

一応校長にはどうかということは聞きましたけれど、先ほど２か所の場所を提案されましたけれど、状況的に今そうだっただけであって、教育活動にもあるいは昼休みや中休み、放課後の遊びにも十分使っておりますので、遊んでいる空き地という考え方は私たちには一切ありません。

他市町のことを言われても、私たちもそこについては全く考えが及ばないところですので、ここでの答弁は控えさせていただきたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

県が違うし、平成16年ぐらいの設置時の状況が違ったから、こういう違いが出てきているのだろうなと私も思います。具体的に私は今作ってくださいとか言っているわけではないのですね。作るという考えが出てこなかったのはなぜなのかなという素朴な疑問から、今言っているわけです。交渉しているわけではございません。

さらに12月15日付けの佐賀新聞。私はこの佐賀の動きにすごく興味がありまして、佐賀は今「子育てし大県」というキャッチフレーズをつくって、「たい」は「大きい」って書くのですね。何かそんな感じで子育てにかなり力を入れておられます。これ上に書いてあるとおり、佐賀県の上峰町というところに４月にオープンする放課後児童クラブ。小学校の中の敷地の中にあります。これをたまたま12月15日定例議会が終わった後、スマホで見まして、あっという関心を持って見ていたところでございます。

これは上峰小学校の敷地内に、この４月にオープンする放課後児童クラブの建物です。この施設は木造二階建て延べ床面積375平方メートル。事務所やシャワールーム、トイレなどを完備し定員は135名。建物の建設費１億2,000万円は企業版ふるさと納税として寄附されると。そのニュースには書いてありました。

企業版ふるさと納税とはどんな制度なのでしょうか、説明をしていただけますか。

○議長（百武辰美君）

岡村議員に申し上げます。企業版ふるさと納税については通告にありませんので質問を変えていただけますか。

岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

通告にないから駄目だというふうに言われましたけど、企業版ふるさと納税は、私が知っている限り波佐見町でも行われておりますし、町民にははっきり公表されてはいないですけれども、行われております。ありがたい制度だなって思います。通告なくても答えてもらえるものと思っていたので書いておりませんでした。

ここを見てください。これは私が上峰町に行って、興味を持ったので行ったときにいただいた広報はさみと同じ町民だよりです。町民だよりの一昨年、2022年の12月号の表紙です。これは手書きですね。まだ出来てないので完成予想ということで、絵で書いてあります。そして２ページ、３ページに、企業版ふるさと納税いただきました１億2,000万円ただでもらいました。出来ます。よかったですというのが、詳しく分かりやすく町民に分かりやすく書かれています。

私が思ったのは学校の中に、学童があるのも驚きなのですけれどもよそでは。驚きなのですけれども、どうして企業版ふるさと納税が１億2,000万円ももらえるのだろうってすごく驚きまして、早速出かけていって視察をさせていただきました。

寄附を受けた経緯を尋ねましたら、町のまち・ひと・しごと創生推進計画。総合計画といいますか、の「誰もが安心して出産し、子どもの生きる力が育まれるまちづくり事業」に全国的に大手の建設会社が賛同し、寄附の申出があった。くださいって言ったわけじゃなくて、造りませんかというふうに向こう側からあったと聞いてさらに驚きました。

上峰町の放課後児童クラブは、波佐見町と同じ頃だと思うのですけども、平成16年頃「カギっ子対策」として、体育館の２階の部屋からスタートしたというふうに聞きました。

地図です。これもこの中に載っている地図です。小学校の敷地がありまして、建設予定地があそこですね。左側の道路に保護者は来て送られます。あそこに「すぱーく上峰」って書いてありますね。これは違う施設なのですけど、この川が流れていますね――溝か川か知りませんけれども、ちょっと左側。川を挟んだ左側に現在使っている学童の施設があります。

この学童の施設は、使わなくなった私立の幼稚園の園舎を――お借りしたか、買上げたか聞

きませんでしたが、それを使って運営をされていたそうです。体育館の二階が手狭になっていったので、そこを借りてやっていましたと。しかし、さすがに手狭にもなったのでしょうけれども、道路が歩いたらすぐなのですよ。出ていったらすぐのところにあるけど、道路を渡るのが危ない。旧幼稚園も建物が古い。あと園庭も小学生には狭過ぎる。ということで、何かやはり移転しないといけないな、移設をしたいなというふうに思っていた矢先に、この工務店のほうから造りませんか。お金出しますよというふうなありがたいオファーがあったということでした。

全く南小学校の学童が置かれている環境と一緒かなと思うのですけども、この方向性の違い、解決策の違いに私はもう驚いております。何でこんなに違いが出てくるのだろうというように思っております。

これもちょっと小さいのですけど、私行ってみて初めてというか、このニュースを見て上峰町というのが佐賀県にあるのだということを知りました。ニュースにはふるさと納税の返礼品が届かないとかいろいろ問題にあったので、上峰町というとこがあるのだなというのは知っておりましたけれども、どんな町が全く知らなかったのですね。見てください。下に波佐見町書いていますけど、面積めちゃくちゃ小さいです。佐賀県で２番目に小さい自治体だそうです。人口１万人弱ですね。世帯数も少ないです。少ないって言っても多いですかね。

令和４年度の一般会計見てください。歳入あと町税。ほとんど一緒ですね。波佐見町と町税はあまり変わりません。人口はちょっと波佐見町が多いですけど。大きいのはここですね、寄附金。波佐見町は20億と言われていますけれども上峰町は108億。何だ、これはと思いましたけれども、こんな状況ですね。

あと、もう一つもっと驚いたのは、字が薄くて悪いのですけれども、人口の推移ですね。昭和40年5,000人足らずだったところが、令和２年のこれは国勢調査なのですけれども、令和２年はもう倍ぐらいになっております。何でこういう急成長ができるのかって、もう謎です。私にとってはですね。もちろん鳥栖に近い、久留米に近い、佐賀市にも近いというのもあるとは思うのですけども。ちょっとそれにしても、左の同じ郡の中にある吉野ヶ里町とか、みやき町とかと比べても、ちょっと突出してるんではないかなと思うのですね。

そしてここには小児科もあるのですよ。小児科もあるし、来年度には高校も通信制ではあるのですけども新設されるとネットに書いてありました、これも。知れば知るほど圧倒されるのですけれども、この羨ましほどの違いはどこから来ると思われますか、町長。感想で結構です。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

本来いただいた一般質問の趣旨からは逸れているかと思いますけれども、これは地形的な要件であったり、それまでの歴史であったりいろいろな要素がかみ合っていることであろうかと

思いますので、単純にどうのこうのと他町と比較するわけにはいかないというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

私は質問の意図というのですかね、これは後でまた申し上げますけれども。

これ庁舎の入り口のところに広い駐車場があって、駐車場から見た庁舎の一部ですね。庁舎って30年前に建てられたそうなのですけど立派な庁舎でした。古かったですけど大きかったですね。作りは波佐見町の今の庁舎と同じような庁舎でした。ここで気に入ったのはこの看板です。タブレットで見ていただければ詳しく分かるかと思うのですけども、平成16年でしたかね、小学生と中学生が合同でつくった看板というのが、10年たった今でもここに掲示をされております。私はこれに感動をちょっとしまして、小さいことですけども感動しました。子供を大切にする町はこんなに発展するのだなと納得してしまいました。

私は、波佐見町はすごく元気な町だって言われて私うれしいのですね。町民として。それは皆さん、役場の皆さんを中心に町全体の、町中の方が協力してくださっているからだろうと思って、感謝をしているのですね。

私が何でこんな質問したかというと、もっともっとやはり元気な町に波佐見町をしていただきたい。その思いがあるので。こっちがよくて、こっちが駄目ですと言っているわけではないのですよね。本当に感謝しつつ、参考にしてもらって、子供を大切にするという方向でしていけば意外とこんな……。

地理的なものは本当にあると思います。ベッドタウンであったのでしょう、工場も誘致いっぱい出来たのでしょう。いろいろあってこういうことだと思うのですけども、子供を大切にしているのだということが図書館の設備とかそういったものも見ても思いました。古かったですけれども、学習室があるのですよ。何人分、たくさん。そして読み聞かせの部屋もありました。古いのにある、小さいのにあった。そこら辺もちょっと考えていただければなと思うのですけれども。

通告とはちょっと逸れるとおっしゃいましたけれども、私の長い話の中で、何か感じられるところは少しあったでしょうか。ちょっとだけでいいです。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

常に職員はですね、まちづくりに関してあるいは、おっしゃったように元気なまち、何回も申しておるとおり選ばれるまちにするために職員は既にフルパワーで働いていると、働いてもらっているというふうに理解しております。

その上に、もっと働けと言われれば、もっと働かないといけないでしょうけども、そういうふうな理解のもと、職員はもう意識して働いているものと理解しております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

私の今回のこの質問がもっと働けといというように聞こえたのであれば、それは失礼します。全くそういうつもりではありません。いろいろされるときに、ちょっと頭の片隅にとめていただければ助かるなと思います。失礼な発言があったら御容赦いただきたいと思います。参考にしていただければと思います。

それでは、次の２番目の質問に行きたいと思うのですけれども、本町では本当に職員さんの御努力があってですけれども、高齢者の居場所づくりも熱心に取り組まれていて、徐々に広がりを見せています。いろんな集会に私も参加をさせていますけれども、頑張っていらっしゃるなと感じております。活動の一環として、多世代交流が開設されているところもあるようです。

次も佐賀県の取組ですけれども、佐賀県を検索していましたので、いろんな佐賀の取組がヒットしまして、これもちょっと見つけて面白いなと思って。白石町で行われた子供の居場所ワークショップも何回かされているみたいなのですけれども、これが面白いなと思って、これを言ったのは有田町の職員さんがこのワークショップに出て発表されるということが、小さい文字ですけれども見えたので、何を言われるのだろうと興味を持って行ってきました。

子育て支援課――有田町には子育て支援課というのが、あるのかってこれもちょっと驚いたのですけども、実はなかったのですね。子育て支援課という単独の課はありませんでした。ここで言う子供の居場所は先ほどたくさん説明をしていただきましたけども、まず何をやったかって子供食堂。子供食堂の開設に有田町がどう関わったかというふうな説明がありました。すごく参考になったのですけども。

施政方針の中にあったとか、先ほどもおっしゃいました子供食堂、みんな食堂というのが準備をされているようですけれども、簡単に中身はどんなものでしょうか。

いつ頃、どんなかたちで考えてらっしゃるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

子供食堂に関してはやってみたいという事業所のお声がありはするのですけれども、やはり踏み出せないところがあられます。で、そういった事業所とは別にこれまでも町内で子供たちの食に関する問題などのところで、社会福祉協議会からお弁当の配布とかをやっておりました。

一方ですね、食改さんたちも自分たちができることをやりたいとかですね、あるいはこれまでも先ほどありました高齢者の部分でも地域の取組として、居場所といいますかつくりをされてきた中で、そういったところがばらばらに動くのではなくて、何かこう一緒にできることはないかということをいうことを今考えております。

というのが、昨年食育フェスタというのを開催しまして、あちこちの食に関係する方が集まる機会がございまして、そういったところから集まって、何かできることがないかということを今考え出したところです。

まず子ども食堂に関しては、まずできれば地域におろしていって身近なところで、できることがないかということにつなげていきたいのですが、まずモデル事業として何か所かに区切ってどういった管理、あるいは提供のスタイル、子供たちの集め方とかですね。そういったものを学習しながら、今後こういう形で進めていけるかどうかというのをまず、令和６年度は研究をさせていていきたいというふうに思っているところです。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

白石町で発表された有田町の職員さんも、特に自分がしたことは何かというと、開設するにあたってどんな補助がありますよ。という補助、資金的な部分の情報提供を行ったというふうに言われていました。そして、呼びかけて何か話をしたら、やってみたい、してみたいという声が思った以上にあったというふうに言われていました。課長が言われたことと同じようなことがやはりあるのですね。できればお手伝いをしたいという方はたくさんおられると思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

あともう一つ、これもまた小さいのですけど、これも私も通りはしていたのですけれども、有田町に福祉保健センターという建物が道路のちょっと行った小高いところに立っているのですね、この建物の近くに社協の大きな建物もあります。

波佐見町の職員さんでここに行かれた方が、どのくらいおられるのかなと思いつつ、私も初めて行ったので、こんなのが有田町にはあるのだと。比較的新しい建物でしたね。

もう一つよろしいでしょうか、これも有田町のホームページにあったのですけども、先ほど申しました有田町福祉保健センターの中には健康福祉課という――子ども・健康課と一緒ですよね。これね。恐らく似たようなものだと思うのですけども。この課がここにあるのだそうですよ。役場ではなくてここの中に。

そしてここが便宜上、健康福祉課と子育て支援課に分かれている。課長さんは健康福祉課のほうにおられて、課長補佐というのですか、次長というのですか、係長というのですかね。ポジション的にこの人が下におられて職員さんを束ねていらっしゃると。しっかり分かれて業務もできるようになっております。常駐されていますので私が行ったときも結構たくさん高齢者の方が来て、説明をされ、いろいろ相談を受けておられました。

本町でもこども家庭センターの開設準備が進められておりますけれども、この建物を参考にされたということはあるでしょうか。もし、しなくちゃいけなかったと言っているわけじゃないですから誤解されないように。どうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

こちらは参考にはしておりません。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

行ってみて、これはちょっと、よくないなという部分も私も見えたりしたので、ちょっと改良の余地あるなというふうに思いながら見ておりました。波佐見町の場合は調理室もあるし、また本当にこうワンランク上の、こども家庭センターになるのではないかなと思って感動をしております。開設が楽しみです。

それでは次の学校給食の歴史と成果について。このことについては先ほど教育長のほうから詳しい歴史も伝えていただいたので、テレビを見てくださっている町民の皆様もよく理解をされたと思います。大変ですね波佐見町の学校給食に対する取組というのは、早くから本当に熱心にされていて、よその佐世保の子たちからしてみればとっても羨ましいような状況だったのではないかなと思います。

またこの度町長は、他町に先駆けて支援も無償化の支援も表明をされました。議会で審議をしていくわけですけれども、これはすごいなと私は高く評価しております。頑張って継続されることを希望したいと思います。

よくこれ質問、再質問１個にとどめたいのですけども、民間でできることは民間でとよくおっしゃいます。ちょっと私は思うのですけども、将来この給食センターが民営化されるなんてことはありうるのでしょうか。これがとっても私は不安なのですけど、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

そういった民営化するという考えは今のところありません。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

その言葉を聞いて安心しております。給食というのはとっても大事なものですね。子供たちの命にもかかわりますし、安心にもつながります。何を食べているのだろうかとか、値上がりするのではないかとかですね。いろんな不安を抱えるような業者委託というのはもうなるべく避けて、公の施設として頑張って続けていただきたいなと。町民の皆様にもそれを支えていただきたいなというふうに、要望します。

あと最後ですね。コロナの予防ワクチンの接種ですけどこれも答弁どおりで、私は満足しました。最後に思うのは、ワクチン接種は補助の考えているのですけど、ワクチン接種に限らず学校や医療関係者が疲弊しないためには保護者もそうですけども、そのために町にできること、町ができることはどんなことかなあと思いましたので、最後にまとめていただければと思います。

まん延防止に向けて、ワクチン以外で町にできることは何でしょうか。

○議長（百武辰美君）

答えること難しい内容なようなので、答弁はなしということで判断させていただきます。

岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

私が期待していたのは難しいことじゃなくて、町民に放送で手洗いしましょうねとか。その程度のことかなと思うのですね。３密はまた避けましょうねと。

私たちはどこで、感染が広がっているのかということを知るすべが大分なくなりました。学級閉鎖したのだってねとか、しているのだってねというううわさは聞きますけれども放送はありません。新聞にも詳しく載りません。

でも放送等で際限なく伝えていただければ予防策になるのではないかなというふうに思ったので、最後に聞きました。質問で終わらなくちゃいけないのですけども、これ以上の質問はございません。本当にありがとうございました。

○議長（百武辰美君）

以上で、４番　岡村真由美議員の質問を終わります。

しばらく休憩をいたします。13時30分より再開といたします。

午後０時20分　終了

午後１時30分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、８番　城後光議員。

○８番（城後光君）

皆さんこんにちは。通告に従い一般質問を行います。

１．農林業従事者の担い手確保について

人口減少及び資源価格高騰など、社会情勢の変化は、日々の営みにはなくてはならない農業・林業の分野に顕著な影響をもたらしており、担い手確保は喫緊の課題であります。

また、近年の豪雨災害の頻発化を踏まえても、農業・林業への環境支援は本町にとって、重要なテーマであると考えます。

そこで、次のことを問います。

（１）本町の農業従事者数、耕地面積、主要生産高はこの10年でどう変化したのか。

（２）耕作放棄地及び非農地面積は、地区別にどの程度存在するか。

また、その土地で栽培されていた作物はどうなっているのか。

（３）基盤整備実施地区において、現在の作付けの状況は。また、その課題と今後の方針は。

（４）家庭菜園など、小規模な耕作者向けに町としてどう支援を行う考えか。

（５）私有林・町有林の面積は、この20年でどう変化したか。また、林業の現状は。

２．ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の進捗状況について

政府は、2025年度までに地方自治体の情報化システムの標準化・共通化を行う方針を掲げ、各種施策を推進しています。本町においても新庁舎稼働に合わせて、ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）に対して、町内外で多くの新しい取組が行われています。

そこで次のことを問います

（１）実施自治体ＤＸについて、庁内における主な取組実績と現状における課題はどうか。

（２）町民向け自治体ＤＸの取組として、新しいサービスの状況は。

（３）各種デジタルサービス拡充を踏まえ、町ホームページのリニューアルの方針は。

（４）民間事業者及び個人のＤＸ推進に向けて、町としてどう支援を行っていく考えか。

（５）教育分野のＤＸ推進の現状と課題は。特に、教育者の負荷軽減の状況は。

以上、壇上から質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　町長。

○８番（城後光君）

８番　城後光議員の御質問についてお答えをいたします。

１．農林業従事者の担い手確保について

（１）本町の農業従事者数、耕地面積、主要生産高はこの10年でどう変化したか。というお尋ねですが、農林業センサスの2010年と2020年の比較になりますが、まず農業従事者については1,490人から1,011人へ479人の減少となっています。ただし調査による分類等の中身が変わっており、直接比較することは適当でないと思われますので、農家戸数の状況について加えて説明をいたします。

農家戸数は736戸から558戸へ178戸減少しています。次に耕作面積については、767ヘクタールから714ヘクタールへ、53ヘクタールの減少となっています。

主要作物の生産高については、長崎県の統計データにより平成24年と令和３年との比較により、米・麦について御説明をいたします。米については1,950トンからが1,540トンへ410トンの減収となっており、これは条件不利地や、米価低迷による耕作意欲の低下による作付面積の減などが要因として考えられます。

麦については361トンから、530トンへと169トンの増収となっており、要因については裏作の推進などの影響によるものと推測されます。

（２）耕作放棄地及び非農地面積は、地区別にどの程度存在するか。また、その土地で栽培されていた作物はどうかとのお尋ねですが、耕作放棄地の地区別状況についてですが、農業委員会で実施している利用状況調査の結果によるものです。地区別についてはちょっと割愛させていただきます。

合計で23万683平米約23ヘクタールとなっており、御覧のように山間部を中心に、耕作条件が不利益な地域での耕作放棄地等が多いことがうかがえます。非農地についても合計で2,926平方

メートル。約0.3ヘクタールとなっています。

そのような土地で栽培されていた作物が何であったか断定は出来ませんが、主に水稲やお茶であったと思われます。

（３）基盤整備実施地区において、作付状況は。またその課題と方針はとのお尋ねですが、基盤整備実施地区である駄野地区においては、約66ヘクタールの農地面積において、水稲が31.0ヘクタール、麦が20.4ヘクタール、大豆4.7ヘクタール、キャベツ1.7ヘクタール、ブロッコリー0.2ヘクタール、イチゴ0.2ヘクタール、飼料用作物が30.9ヘクタール、そのほかにゴーヤやバレイショなどが1.4ヘクタール栽培されています。

基盤整備した駄野地区は、田ノ頭郷、川内郷にまたがり農事組合法人も各地区に存在しています。課題については耕作者の高齢化や後継者不足であり、今後認定農業者や農事組合法人での耕作を引受けていく必要があり、法人の組織強化やオペレーターの育成、幅広い世代での就農者の確保が必要となっています。

今後の方針については米、麦、大豆の土地利用型作物のほか、高収益野菜等の産地拡大を図るとともに、ほかの収益性の高い新たな作物の導入を研究するなど、可能な限り地域内での農業者を募り、地域全体で利用する仕組みの整備を進めることとしています。

（４）家庭菜園など、小規模な耕作者向けに、町としてどう支援を行うのかとのお尋ねですが、町の支援策としては、波佐見町施設園芸推進対策事業費補助金などで、簡易ハウス施設や附帯する資材等に要する経費についての補助制度があります。ほかには町も構成員である農業振興会において、野菜の栽培技術の向上や、農業に対する関心を高めることを目的に、野菜づくり講習会を開催しております。

また耕作する上では、農地が必要となりますが、農地法の一部改正により、農地の取得等に係る下限面積要件が廃止になり、経営規模の大小にかかわらず、意欲を持って農業に新規参入しやすい状況となっています。

（５）私有林・町有林の面積はこの20年でどう変化したか。また、林業の現状はとのお尋ねですが、農林業センサスの2000年と2020年の比較によると、私有林面積は、3,102ヘクタールから3,022ヘクタールへ80ヘクタールの減となっています。

また、町有林面積については、131ヘクタールから129ヘクタールへ２ヘクタールの減となっています。

町内の林業の現状については、森林経営計画により、森林組合等による生業として間伐や主伐が行われています。町有林についても伐採時期を迎えた樹木に対しては、木材として切り出しており、新庁舎建設においても資材として利用したところであります。

現実的には高齢化や、高齢者の人材不足により厳しい状況が続いており、林業を守る上で、森林組合への支援等を通じて林業従事者の維持や、人材確保を行っているところです。町としましても林業や木材についての理解が深まるよう、森林環境税を活用した木育等も行っている

ところであり効果を期待しているところです。

２．ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の進捗状況についてということで、

（１）自治体ＤＸについて、庁内における主な取組実績と現状における課題はどうか。

（２）町民向け自治体ＤＸの取組として、新しいサービスの状況はとのお尋ねですが、総務省では自治体においては、まず自らが担う行政サービスについて、デジタル技術やデータを活用して住民の利便性を向上させるとともに、デジタル技術やＡＩ等の活用により業務効率化を図り、人的資源を行政サービスのさらなる向上につなげていくことを求めるとともに、ＤＸを推進するに当たっては住民等とその意義を共有しながら進めて行くことも重要だとしています。

自治体ＤＸを進めていくためには、住民の利便性向上と職員の業務効率化の両方が大切で、できるところから順次取組を進めているところです。これまでの庁舎内での取組として、勤怠管理やチャットシステムの導入、文書管理の電子決裁、デジタルサイネージ、議会用タブレットの導入などのＩＣＴを駆使した取組から、外部人材として政策参与の委嘱、職員向けのＤＸセミナーの開催、先進地等視察などを実施してきました。

現在ＤＸに対する取り組むべき課題の設定が出来ていませんので、今後は専門家を招聘して、職員の意識改革のためのＤＸマインドセット研修、サービスデザイン研修、業務課題の整理効率化のために各課の現地指導、窓口改革としてアドバイザーの派遣、さらに先進地視察などを行ってまいります。

一方、町民向けの新たなサービスとして、マイナポータルでオンラインでの行政手続ができる、ぴったりサービスでの受付やラインを使った各種申請、母子手帳アプリ「母子モ（ぼしも）」の導入、Ｗｅｂ口座振替受付サービス、住民票などのコンビニ交付、スマホ教室の実施などが挙げられます。

令和６年度には、役場など公共施設での窓口キャッシュレスやオンライン予約の導入などを予定しており、より利用しやすい環境の整備を引き続き行ってまいります。

（３）各種デジタルサービス拡充を踏まえ、町ホームページのリニューアル方針は、とのお尋ねですが、町のホームページについては、令和６年度に一部リニューアルを予定しています。住民に分かりやすいホームページを目指し、情報へのアクセスルートの見直しや、申請手続等の集約化等を見込んでいるところです。

なお今後、窓口改革が進む中で申請手続が整理され、オンライン申請の拡充も見込まれることから、それらを踏まえながらホームページの見直しを随時実施する予定です。

（４）民間事業者及び個人のＤＸ推進に向けて、町としてどう支援を行っていく考えか、とのお尋ねですが、町内の事業者や個人のＤＸに対する推進状況は把握出来ておりませんが、ＤＸ以前にデジタル化自体も、それぞれ格差があるのではないかと思います。

デジタルデバイト対策としてのスマホ教室を令和５年度から開催していますが、今後、民間

事業者や町民向けの講習会の開催も検討していかなければならないと考えています。　なお支援事業としては、町単独では経営改善拡大支援事業の対象としており、県では長崎県デジタル力向上支援事業費補助金などがあり、これらを活用していただければと思います。

その他の御質問については教育委員会から答弁がございます。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

２．ＤＸの推進状況について

（５）教育分野のＤＸ進捗の現状と課題は。特に、教育者の負荷軽減の状況は、とのお尋ねございますが、ＧＩＧＡスクール構想によって１人１台端末やデジタル教科書等の活用が広がり、個別最適な授業や新たなコミュニケーションツールとして、学びを深める学習がスタンダードになってきています。これからはさらに一歩進んだ活用の段階、教育ＤＸ推進に入ってくるものと思っております。

現状としましては、デジタル教科書の活用が以前より進み、データや写真、動画等を用いて分かりやすい授業が出来ています。またｅライブラリーなどのデジタルドリルの導入によって個別な振り返りや、予習復習などの学習に取り組んでいます。今後は各種試験や調査もデジタルデジタル化することによって、個々の習熟度を細かく把握ができ、それぞれの児童に合わせた課題の提供など可能になると考えております。

課題としましては、どうしても教師個人のデジタルスキルに違いがあるところです。この課題を克服するためにも研修機会の確保と、ＩＣＴ支援員の活用と確保が重要であると考えているところです。

また教育者の負担軽減ということでございますが、職員会議のペーパーレス化。出欠確認のデジタル化、欠席や遅刻の連絡のデジタル化、授業でのタブレット活用等に取り組み一定の負担軽減は実現しているものと思っておりますが、さらに学校の現状や要望等を踏まえ、適時適切に対応を図るようにと考えております。

さらに今後、教育関係のＤＸを推薦推進していくための支援、御助言をいただくために東北大学大学院情報科学研究科 特任客員教授の小出先生を波佐見町教育ＤＸアドバイザーとして就任いただき、町内先生方へのご講演の計画をしているところでございます。

以上壇上から答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

今回、前回窯業に関して質問させていただいたのですけども、今回農業に関して質問をまずさせていただいたのが、本町でもかなり広く耕作をされていた方。またはいろんなかたちで農業に関わられた方が、次々と残念ながらお亡くなりになられたり、農業離れられないといけなかったりという状況が起きています。

本当に先ほど答弁の中で、データで示していただいていますけども、農地としてはそこまで減っていないのだけれども、従事者数がもう非常に減っていて、10年後にどうなるか分からないってもう本当に差し迫った状況だと思いますので、農業に関わらない人にも少しでも本町の環境維持をしていただくためにも考えていただきたいなと思いまして、取り上げさせていただきました。

まずせっかく事細かに農林課で調べていただいたので、調査いただいた資料をもう１回出していただければと思うのですけども、農業従事者数をいただきました。これちょっと数字とか細かいので具体的にちょっと解説が必要かなと思いますけども、右手に農家の戸数が示されていまして、2010年が736戸あったものが、2020年は558戸というふうに農業センサスの調査でなっています。24％率にして減っているという状況があります。

一方耕地面積については、左側に書かれていますけども6.9％。そんなに大きく減っているわけではないというのが、やはりこの数字で分かることは、一人の農家さんが広く集約等で対応されている結果、何とか維持をしていただいているという現状かと思います。

右手に主要作物とすると、水稲及び麦だと思うのですけども、水稲は平成23年から令和３年に関すると21％。率でいうとこの数字検証しています。麦に関してはそこまで減ってないというふうに、米に関しては思えますけども、やはりかなり20％近く減っている状況というのが見てとれるかと思います。

資料の次のページ。これすごく細かいので細かく説明をするのは難しいのですけど、私のほうで、ここで調査されている数字と、各郷の面積。これ国勢調査の数値でちょっと、この数字がきれいかどうか分からないのですけど大体、考えてみました。

ところで、例えば永尾郷でいうと0.6％が全体の面積の中の耕作放棄地。田ノ頭郷でも0.7％。やはり広い土地で、先ほど町長の答弁の中であったのは、山間地が耕作放棄地多いというのが一般的だと思うのですけども、ある程度、平野部でも当然ながら１人の農家さんが持たれている場所がなくなってしまうと、耕作放棄地広がりますので、山手・平場かかわらずいろんなとこで耕作放棄地が増えているのが現状だと思います。

それでちょっとまずお伺いなのですけども、町長ですね。町長選挙等で、やはり職員であられたというのも含め、御自身で水田とか作られている部分で、今までにない町長というので期待されて、町長選挙戦われて町民の皆さんから支持を得られた部分もあると思います。

今、耕作放棄地が増えている現状をどういうふうに町長お考えでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

私も農業40年以上してきまして、非常に状況が変わったなということで基本は水田だけだったのですけども、何で水田を維持してきたかというと、先祖伝来の土地を荒らしてはいけないという気持ちと、自分が荒らしたら周りの水田に迷惑をかけるという気持ちと、何はもとより

自分が作った米が一番うまいという自信ですかね。その３本が、私が農業を続けてきた大きな推進力でございます。

ただ今の状況を見てみますと、私の地区でも一緒ですが、若い方がほとんど農業に従事していない。あるいは後継者がいないという危機的な状況を非常に認識はしております。それをどうやって若い人に任せるのか。といえば逆に農家からは、とてもじゃないが任せられないというふうな御意見がほとんどでございます。

しかしそう言いながらも、農地が果たす役割というのは単純に農作物の生産現場というだけでなく、国土保全やあるいは水源の肝要であるなど、いろいろな多様性のある土地ということを鑑みればどうしても保全しなければならないという意識はしっかりと持っております。

研究といいますか、試行錯誤ですが、いろいろな施策を勉強しながら取り組んでまいりたいというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

町長の地元の鬼木郷。総務課長の地元の金屋郷。かなりやはり今まで農業に従事者された方がもう手に負えない状況になって、耕作放棄地と言われなくても、ちょっともう見た目明らかに手が入っていないなという状況の場所が増えていっていると思うのですね。別にその地区に限らないのですけども、町全体で増えていると思います。

令和３年のように大雨等が起きれば、やはり水田になっている部分ですね。今町長もおっしゃったとおり、水を一定蓄える力はありますけども、荒れ地になってしまえばもう水が流れてしまうだけになって、そういう防災の面からも非常に難しい状況になってきますので、当然やはり現実問題、担い手を新しい方を入れていくというのは理想ではあるのですけど、そう簡単に増やすことは出来ないので。

やはり今いらっしゃる方に少しでも農業に関心を持っていただくというのをやっていかないと、どうしても足りないのかなと思っています。

今後５年、10年色んなかたちで手を打たれていると思うのですけども、基本的に就農者とか増やしていく方向性というのはどういうふうな考え方で、農林課としては取り組んでいるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

そうですね、新規就農者もなかなかですねおっしゃるように入って来ない状況です。そういいながらも、ここ二、三年で３人ぐらいはちょっと入ってきているのですけども。言われたように現状を維持していくというのも一つの考えであって、省力化ですね。今耕作されている方が少しでも長くできるような環境を整えていく。

それと、あと幅広い世代での就農者の獲得。夕方とか土日の農業されている方がいると思う

のですけども、そういう方が例えば定年退職後に農業に入りやすいような環境。そういったものをしていって、取りあえず今の状況を打破していく必要があるのではないかと考えております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

今ですね、農林課長がおっしゃっていただいたとおり幅広い年代の方に農業に関心を持っていただいて、就農に進んでいただくことが非常に大事かなと思っています。

今まで波佐見町に住んでいた方は、子供のころから農業が身近にある方、たくさんいらっしゃると思うので、例えばお父さんお母さんとか、おじいさんおばあさん。関わられた方もいらっしゃると思うのですけど。

今本町は宅地開発が進んでいて、そういう非農家から移り住まれた方もかなり増えていると思います。そんな中で例えば嬉野市とか、近隣の市町村ではふれあい農園とか、いろんなかたちでまずはちょっと親しめる農地を開設されていたり、あとは民間で開設されるのに、何か支援を行われていたりするのですけど、本町としてそういう町民農園を開かれる部分とか。あとは開かれる団体に支援をするとかそういった考え方はありませんでしょうか。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

耕作放棄地とか、他町とかそういったことをやられていると思うのですけども、自分も実際そういうやられている町の話を聞いたのですけども、結構やはりこう手入れをしない人とかいて、やはり隣の畑に草が侵入したりとか問題があって、そういう督促の文書を出したりとか、そういう話も聞いております。

波佐見町においても過去に民間の事業者のほうで、そういう農園をされた経緯があるのですけども、やはりそういった部分でうまくいかない部分があって、なかなか長続きしなかった部分があります。といいながらも、やはり新規就農者の獲得の上ではやはり農業を知ってもらうという機会は大事だと思うので、小学生からいえば多分芋掘りとかそんなのもありますし、多分米づくりとかも小学校のほうでもやっていると思うのですけども。それの大人バージョンというかですね、そういうのが先ほどちょっと町長答弁にあった野菜づくり講習会とか。そういったものをもう少しレベルを上げていって、農業の関心を高めていければと思っております。

それに対して土地が必要ということになるので、そのあたりについてはそこの中で例えば本気で農業をしたいって方であれば、今農地を取得する要件が緩和されているので、そういった部分につなげていけるのかなと思っております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

いろいろ農林課長も研究していただいて、町民農園的な部分をいろいろ事例は研究次第だと

思いますけども、できることが可能であれば、いろいろ検討していただいて、少しでも農業というレベルじゃなくても、家庭菜園レベルでも作物の栽培にかかわりたいって思っている方に、支援を少しでもやっていただきたいなと思います。

それで、私個人的に家庭菜園やっている方から切実な思いとして伺ったのが、せっかく自分の庭で野菜を作っているけど、全部イノシシに食べられてしまったと。当然、農地に関しては町とかいろんな自治会とかで、ワイヤーメッシュの囲いされていると思うのですけど、やはりその御自身のレベル。家庭菜園レベルだとなかなかワイヤーメッシュとか、そのあたりがちょっと十二分に対策が出来ない部分もあると思いますので、その対策の仕方とか、その辺も勉強会とか講習会とか、それこそ猟友会と一緒になって考えていただきたいと思うのですけど、その辺はいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

そうですね、もうイノシシの被害については農業者だろうが、農業者でなかろうが多分関係ないと思うので、そのあたりの対策は全域的にはしていかなきゃいけないものだと思っています。

ただそれに対して、例えばメッシュに対しての補助があるのか、ないのかというところのちょっと問題はあるのですけども、防ぎ方とかについては、いろいろ町民の皆様方にお知らせできる機会をつくっていきたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

いろんなかたちで、結局当たり前ですけど、農業は自分事って思える人が増えれば増えるほど今回の一般質問でもありましたし、野焼きの問題とかいろんな形で農地に関して、理解を進める町民の方が増えれば少しでも農業に関心が持たれる方が増えると思いますし、また獣害対策とかも対応に御理解をいただけると思いますので、いろんな形で草の根とは思うのですけども、そういう動きをぜひいろんな課で検討いただければと思います。

次に林業に関しても質問を行っていたのですけども、こちらも面積でいうと先ほど提示していただきましたけども、2000年から2020年でそこまで森林面積自体は若干減ってはいると思うのですけどもそこまで大きく減少はしていない。

ただやはり林業従事者というのは基本的にもうほとんどいなくて、森林組合さんにお願いされているという状況というように伺っています。

そんな中でも東彼林業研究会さんがハランを作られていまして、今出荷をされているということで、今は福岡市とかそういう市場に出荷をされているということで、町内にある事業者さんでそういう選定を行って、箱詰めをして出荷されているという状況がありました。農林課のほうで、どれぐらい作られているかというのは把握されていれば教えていただければと思うの

ですが。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

細かな枚数はちょっと分からないのですけれども、長崎県全体で40万枚のハランが採れている状況です。その中の75％程度が東彼のほうで取れた分となっております。あと東彼連携において今30名ぐらいで活動されている状況です。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

当然、林業という木材生産の部分では、なかなかいきなりそういう専門技術が要る部分に従事していくというのは難しいと思うのですけども、こういうかたちでそこまで重労働を要しなくて、林業というかたちで関わるという部分。広い意味でとなると、そうやっていろんな方が関わる可能性があります。

本町は長崎県下でも森林の面積というのは割合が大きい町だと思いますので、ぜひそういう形で、例えば東彼杵町であれば間伐材を使って、薪として生産をされている方もいらっしゃいますし、いろんなかたちで本町でも関わっていって、林業と言わずに森林に関わって、何かしらその副業とかいうかたちは出来てくると思うのですけども、そういう紹介とかいろんなかたちで必要と思いますけど、どうお考えでしょうか。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

そうですね最近、家庭に薪ストーブが増えて需要は増えてきていると思います。各々の山の状況なのですけども、そういうのを配慮して切りやすいところに、そういう木があればもちろん出来ますし、間伐材等だったら実際山の中で切捨ててもう処分する部分もあるので、そのあたりの有効活用を考えて。

あとは労力ですね。そこを出して、実際薪にして販売できるという労力があればそういうのを紹介していけるとは思っております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

というのも、その東彼杵で薪を作られている方のお話いただいたのですけども、長崎県でも県の事業も使って、森林山村多面的機能発揮対策支援金という事業を活用されて、本町でもこの事業を使って、要するにグループをつくってですね、そこのグループでこの事業が合致するような対応ができれば助成金をいただけるという仕組みがあって。

私も今事業として今年度活用させていただいて、グループで一緒にやらせていただいているのですけども。こういう形で少しでも森林に関わる人が増えていく仕組みというのは、町としてもぜひ支援していただいて、増やしていただきたいと思うのですけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

そうですね。おっしゃるとおり、そういう事業でできる部分もあるので。多分そういう制度を知らない方も多いかと思うので、利用実績はあるのですけども多分山が好きな方とかおられるので、そういう方で団体組まれて行われる分だったら、もう、うちとしては推進していきたいとは思っております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

こちら長崎県で森林山村対策協議会というものが、この事業を営むに当たって事務局になられている組織があります。長崎森林山村対策協議会ですかね。

こちらが非常に申請書の書き方とか、あとはその現場の検査のどういうかたちで対応してほしいとか事細かに指導をしていただきます。なので、初めて申請するグループであっても非常に分かりやすく説明をしていただけます。

今回の一般質問でも予算の説明でも、ちょっといろいろ話がありましたけども、中山間地域のいろんな事業支援とか、やはり申請の手続が面倒な部分があると思うのですよね。当然役場でも事務局として、支援をしていただいていると思うのですけども、やはり独特の申請の仕方というのがありますし、やはり国の制度は年々変わっていきますので、そういう申請に当たっての事務局の一元化とか。

あとはいろんな事業ありますけども、中山間地域でも多面的支払いでもいろんな形で事業ありますけども。そういうのを、ちょっと一元的に取りまとめを行って、事務局的に役場内、外別にいいのですけど。取りまとめを行うような仕組みもちょっと検討していただく必要があるのではないかなと思うのですけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

そうですね、現状を申しますと実際地元で多面的とかという書類を最終的に県に上げるような書類になっているのですよね。その前に私たちが見て、修正をするなどのそういうお手伝いはしております。

多面的事業とかに関して、広域化の話はあっているのですけども、なかなか地域が異なるもので、うまくいかないという現状がちょっとあるのですよね。

支援という部分では、引き続き皆様方の労力が軽減できるように、国自体もシステム改修とか行って、なるべく簡単にパソコンにてできるようになっているので、私たちはそういう使い方を指導するなどし、あと長崎県のそこを管轄しているところからも来てもらって指導をしてもらっている状況でございます。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

というのが森林山村対策協議会さんでいうと、もちろん書面的なサポートも事務申請書のサポートもされますし、現場でこういう木の切り方であったほうが、森林に対していいですよというアドバイスもしていただけるのですね。

なので、やはり農業に関してもそうだと思うのですよ。申請書としては、農林課の部分で十分サポートしていただけると思うのですけども、やはりずっとその事業に関わられている方がアドバイスをいろんなかたちでされると、申請された助成金を本当に生かして、環境をよくすることにつながっていくと思います。

今は農林課のほうでは環境、美化の作業員さんというかたちで雇用されていますけども、今後、そういういろんな申請書も含めて、その環境をよくするという部分もちょっと今後検討していただいて、要するに農業環境をよくするために、いろんな地域おこし協力隊等も活用考えでありますけども、申請書だけじゃなくて環境をよくすることで、町全体の農林業がよくなっていくような支援をぜひ併せて考えていただきたいと思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

今すぐできるとか、できないとかちょっと言えないのですけども、そういう状況になればと思います。

今のところ職員で対応しているので、もっと細かなところ申しますと、多面的事業とか地元で工事あるのですけども、こちらで図面をつくったりとか、積算をしたりとか、入札の補助をしたりとかですね。そういう業務もちょっと担っているので、そこで不足するようであれば、そういうところも考えていきたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○農林課長（伊藤幸治君）

当然できる、できないがあると思うのですけども、なるべく１年とかその事業単位で終わるのではなくて、長い目で波佐見町の農林業の環境がよくなるような支援を今後も使われる事業者さんとあわせて検討いただければと思います。

それではちょっとＤＸについての質問に移りますけども、まず新庁舎に移っていろんなかたちでシステムとか変わったと思うのですけども、全体的に庁舎内でどういう業務改善が進んだのかをもう一度ちょっと説明をお願いします。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

先ほど町長も答弁しましたとおり、今回新庁舎に移る前からまずそういった書類的な、文書の文書量を減らすとか。そういった部分として、文書管理システムとか、あと勤怠管理、出勤簿等あたりとかいろいろ残業とか休暇の申請とかそういうのをデジタル化、完全デジタル化し

てきました。

そしてあと、コミュニケーションツールとしてのチャットシステム――ロゴチャットですね。議会はまた別のものを使っていると思っていますけども、そういったチャットシステムの導入。先ほどとちょっと被りますけども、文書管理の電子決裁ですね。これも紙と併用しておりますけども徐々に電子での決済が進んできております。

あとはデジタルサイネージとか議会用のタブレットは議会のほうがされておりますけども、こういったＩＣＴを駆使した取組というのが今出来てきているような状況であります。

○議長（百武辰美君）城後議員。

○８番（城後光君）

いろんなかたちで庁舎が新しくなることに併せて進められていると思います。デジタルトランスフォーメーションのＤの部分はですね、かなり進んでいると思うのですけど、肝はやはりＸの部分、トランスフォーメーションの部分になると思います。

町長答弁にもありましたとおり、これからそのあたりがメインになって進めるということなのですけども、担当課としてどういう部分を今課題に思われていますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

本当おっしゃるとおりＤＸのＤが先行している部分がございます。基本的にはデジタルツールを入れないと改革が出来ないとか、デジタルツールを導入する余地がないから、自分のところは関係ないとかそういった感じがすごく多いのですね。

そもそもそのＤＸのＸが言われるとおり大事で、このＸの変革のために、Ｄのデジタルを駆使する。それが基本的な姿勢です。ただＤＸというとうちの企画情報課の電算担当がやればいいんだろうみたいな感覚が非常に。

いくら考えていっても、それはもううちだけじゃないです。全国どこの市町村もそういう感じがあっております。そこをやはりこう、マインドセットとかマインドチェンジしながらそういう研修を外部人材の研修を行いながら、少しずつこう変えていかないといけない。

そして、業務改善ＢＰＲとか言われますけども、業務プロセス全体の根本的な見直しと再構築を図っていきながら自分の仕事が本当にこれで大丈夫なのか。そこをちゃんとしっかり考えながら、そのあとに手段としてデジタルを使っていこうというようなところをいかに職員の皆さんに伝えていけるかが大きな課題だと思っております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

前川町長ですね、選挙のときからですねＤＸについて取り組むというかたちで、訴えられましたけども現状ですね。就任されてから現状。特にトランスフォーメーションですね。業務改善の部分はどういうかたちで考えられていますか、今後も含めて教えお願いします。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

まずＤＸとデジタル化を同一視っていいますか、に考えているものがまだ多いということですね。単純にデジタル化といいましても大きく３つあると言われていました。デジタイゼーションそれから、デジタライゼーションそれからデジタルトランスフォーメーションですが、略して、ライとタライとトラというように覚えてくださいと私は、県の以前の担当者の方から伺いました。

デジタイゼーションというのはいわゆるカメラで言いますと、フィルムカメラからデジタルカメラに変わったと。デジタライゼーションはそのデジタルカメラがスマートフォンやあるいはドローン――空撮に使うドローンに搭載されたと。これがデジタルデジタライゼーション。デジタルトランスフォーメーションは、そういったデジタルカメラを駆使して、そういった技術あるいはものを活用しながら動画やあるいは静止画、ユーチューブであったり、あるいはＳＮＳの中のインスタであったり、フェイスブックであったり。そういったものが、できてそれをさらに職業とする人も出たと。インスタグラマーだとかユーチューバーとかですね。それがＤＸというように捉えなさいというふうに聞いております。

ですから、デジタル化は個別最適であるかもしれませんけども、ＤＸは全体最適でなければならない。デジタル化は一つのツールでございますので、それをいかに活用して、いかに広く影響を及ぼすかということを常に頭に考えなければならないということを思っております。

そういったことで、先ほど課長申しましたように、職員のマインドチェンジが一番必要でございますので、酸っぱく言っておりますけどもまだまだ道半ばで。これから、よりそれを進化させるために、お互いに勉強しながら進めていかなければならない状況だと。まだ道半ばという状況だというふうに理解をしております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

その道半ばと思うのですけども、令和６年度ですね、コンビニの住民票交付とかオンライン申請が進むとか、いろんなかたちで予定をされています。あとはホームページのリニューアルとかですね。

その中で、住民福祉課の役割が非常に高くなってくると思うのですけども、新年度どのような取組を具体的に行っていただくのかというのと、課題とかそのあたりをどう考えているのか、お願いします。

○議長（百武辰美君）　住民福祉課長。

○住民福祉課長（井関昌男君）

先ほど言われたとおり住民福祉課としましては先般からお話ししておりますけども、まずコンビニ交付が今週から３月の８日から始まります。その中で、町民の方に利便性を深めていっ

て、とにかく今１件あたり100円に初年度はなっておりますので、まずはコンビニ交付で住民票、戸籍あと印鑑証明、税の証明という状況で６時30分から11時まで。夜の11時までありますので、まずは利活用お願いできればと思います。

６年度以降につきましては、まず窓口のキャッシュレスが４月の15日からの予定でございます。窓口の現金から、その辺のクレジットであり、ＱＲコードでありと多種多様なキャッシュレスでの支払いに取り組んでいく状況でございます。

あと今後の課題につきましては、町長が答弁したとおりまず職員の意識改革から本当に町民のためにＤＸをどう進めていくか。町民にどう還元していくかというところは今後研修等を深めながら進めていかなければいけないというように思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

その具体的なサービスを行うにあたって、町長答弁にもありましたとおり紙でないと使いにくいという町民の方がいらっしゃるのは事実です。ですので、そこのあたりをうまくサポートしていくのも必要だと思うのですが、その辺りはどういうように考えられていますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

おっしゃるとおり、もちろん人口規模もございます。全てＤＸといいながらデジタルで、何でもやってしまうと返って時間がかかるとか、手で書いたほうが早いよとかいうのもあると思います。

そういうところはしっかりこう業務、棚卸ししながら本町に合ったＤＸの姿。そこは見失わないようにやっていかないといけないと思っています。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

当然そうはありますけれども、ただやはり例えば事業者さんでいうとこのキャッシュレスの対応とか、あとはその身近に迫るとこでいうと、手形の廃止とかですね。いろんな形で事業者さんもやはり変化していかないといけない部分があると思います。

その辺は支援をしていただいて一足飛びには出来ないと思うのですけども、やはり時代がそういうかたちで変わりますので、事業者さんとしても変わっていかないと思いますので、その辺はどういうかたちで支援をしていかれる考えでしょうか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

いろいろな町内の民間企業の中に、デジタルにおいてもＤＸにおいてもレベルというのはいろいろあると思います。そういう中で特に窯業会なんかも、窯業界といいますか。全体的には

ですねそういったＤＸの講習会等からまず入っていかないといけないのではないかなという考えを持っております。

そして、いろいろ先ほど手形とかありましたけども、そういうところはいろんな金融機関とかとも連携しながらどういう支援を望まれるのか。そういうところも窯業組合さん、工業組合さんもいろいろ要望もされたようなこともあったと思っております。

そういうところでいかに効率よく、そういうＤＸの推進をできるような取組ができるのであれば、そこがあればメニューというのは、考えていかなければいけないのではないかなというように考えております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

その中でちょっと派生するのですけど、波佐見町のふるさと納税は昨年から特設サイトを作られまして、町独自で受け付けができるようになりました。

そういうのを民間事業者さんに例えばどういうかたちで寄附者の注文が多いとか、そのあたりをフィードバックして、例えば自社の通販サイトに活用していただくとか、そのあたりの考え方とかは。要するにデジタル化を支援する意味で、そういうサービスの提供とか、具体的にデータの提供とかは考えられてますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

ふるさと等納税のデータの活用というところでございますけども、今のところはまだ民間業者にそれを渡すとか、いうところまでは考えていませんけども、どうしても知りたいということであれば、そういったところは個々にお渡しといいますか、状況をやってもいいのではないかなと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

今後、ホームページのリニューアル等も考えられているということなのですけども、いろんな形でデータ集めるのも必要ですけども、今度集まったデータをいろんなかたちで町内の方に還元していくというのもやはり必要になってくると思います。

というのが、一番やはり情報が集まるのは町だと思いますので、当然事業者さんはそれぞれに集められますけども、集約はなかなか出来ないので。いろんな集まったデータを当然、個人情報は特定出来ないかたちとかでフィードバックするというのは必要だと思いますし、それがオープンデータの考え方だと思いますので、そのあたりは各課でホームページリニューアル等も考えられると思いますので、ぜひ検討していただきたいなと思います。

最後に教育分野でいろんな形でＤＸ進めていると思うのですけども、やはり特に部活動の地域移行とかいろんな形で教育分野も変わっていると思いますし、教育長答弁されたとおり先生

たちも変えていくのに大変だと思うのですけども、なるべく負荷を軽減していただくためにＤＸを活用していただきたいと思うのですけども、先ほども課題ありましたけども、どういう部分がやはり進めていくのにネックになられると思いますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

答弁で申しましたように、やはり先生方教職員のデジタルリテラシー、デジタルスキルの部分が一番大きいのだろうと思っております。

ただ、今やりとりを聞きながら学校現場がやはり、どうしても生身の人間対生身の人間の関わりという一応どうしてもアナログ的なところがまだまだ土台にあるものですから。デジタル化あるいはＤＸ化については、どうしても後ろ見といいますかね。そういうところがあるのかなと思っております。

４月の下旬に小出先生を招いての基本的な考え方とか、あるいはこれまでの答弁にも出しておりましたＩＣＴ活用推進委員会等を使って、学校におけるデジタル化、ＤＸ化ということについては研究・検討を進めていきたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

別にこれ担当業務にかかわらず、学校関係のふるさと教育等で町内の事業者さんとの関わりも大分増えていると思いますので、そういう部分からも企業さんが進まれている、逆に学校が進んでいる、いろいろ活用していただきながらＤＸの部分も進めていける部分があると思いますので、そのあたりは課の垣根を越えて検討いただきたいと思うのですけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

今おっしゃったように、民間あるいは行政オンラインを使ったかたちのやりとり等については、今までもやっていますし、より充実なかたちで行っていきたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

あと今回、施設の予約をオンライン化していくということで、これまでもいろんな予約が窓口に出向かないといけなかったという部分があると思うのですけども、どういう方向で変えていく予定なのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

教育委員会だけの分野じゃなくて、いろんな公共施設ありますので、町全体をちょっと網羅したような、まず職員同士での研究会も立ち上げて、いろいろ煮詰まってきているとこもあり

ますので、なるべく町民の皆さんが利用しやすいような、それでうちの職員も手がかからないような最適解を目指していきたいというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）

以上で、８番　城後光議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。14時40分から再開します。

午後２時29分　終了

午後２時40分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、12 番　脇坂正孝議員。

○12番（脇坂正孝君）

皆様こんにちは。私は施政方針の中から、大きく分けまして３件について質問をいたします。

施政方針について。

１．生きる力と郷土愛を育むまちづくりについて。

教育行政について掲げてありますが、そこで次のことを問います。

（１）学校教育について、「学校施設の適切な管理」とありますが、利用度が低い中学校のプールは利用増に向け次のように改善出来ないでしょうか。

提案としまして学校施設から離し、町民プール（仮称）として、利用は中学校優先とし、中学校の利用がないときは町民に開放する。

または学校開放施設として利用は中学校優先とし、中学校の利用がないときは町民に開放する。

（２）生涯学習について、「生涯学習は大切なもの」とありますが、社会教育団体の減少及びその構成員の減少にどのように対応されるのか。また、生涯学習を推進するためには、社会教育主事の役割が重要であり、社会教育法で必置となっているにもかかわらず長期にわたり未配置であるため、令和６年度にはぜひ配置すべきであると思いますが、いかがでしょうか。

（３）歴史・文化・スポーツについて、「歴史・文化の再確認をしてもらう取組を行う」とありますが、その一環として「波佐見史」続刊の刊行が必要であると考えます。また、本町の歴史を原始時代から現代まで平易に読める歴史の刊行も必要と考えますがいかがでしょうか。

（４）「国民文化祭に向け、準備を進める」とありますが、本町開催に向けての進捗状況、そしてイベントの内容はどうでしょうか。

２．協働による地域のつながりを生かすまちづくりについて

住民参画・コミュニティーについて、「自治会の皆様が将来を見据え検討ができるよう研究を行う」とありますが、そこで次のことを問います。

（１）研究とはどのような内容でしょうか。

（２）期間はいつまででしょうか。

３．産業・交流を軸とした人が輝くまちづくりについて

農林業について、「センチピードグラス吹付工法による事業を小規模農林事業の補助対象メニューに加えて農地保全活動を支援します」とありますが、そこで次のことを問います。

（１）事業化に当たっては、実証試験の結果と思いますが、効果はどうだったのでしょうか。

（２）支援の具体的内容は。

（３）要望が多かった場合、支援先の選択はどうするのか。また、補正増は予定されているのか。

以上でございます。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

12番　脇坂正孝議員の御質問についてお答えをいたします。

まず１番目の質問については、後ほど教育委員会のほうから答弁がございます。

２．協働による地域のつながりを生かすまちづくりとして。

住民参画・コミュニティーについて、「自治会の皆様が将来を見据え検討ができるよう研究を行う」とあるが、そこで次のことを問うということで、まず１番目に研究とはどのような内容か。２番目に期間はいつまでかとのお尋ねですが、総務省の有識者研究会、自治体戦略2040構想研究会では、人口減少下において、満足度の高い人生と人間を尊重する社会をどう構築するか。高齢者人口がピークを迎えて少子高齢化、人口減少が一層深刻化した2040年頃の日本を前提として、逆算して現時点から取り組むべき課題を整理するものとしています。

すなわち、2040年頃にかけて迫りくる内政上の危機と対応策を整理し、その改革を統合し、各行政分野における取組とあわせて、自治体行政の在り方の根本を見直す必要があると結論づけられています。

人口減少と高齢化により、公共も民間もそれぞれの人々の暮らしを支える機能が低下するために、新しい公共の姿として、町内会、自治会などの地域運営組織が暮らしを支える担い手になることが求められています。

今後自治体は、経営資源の節約により、従来の方法や水準で公共サービスを維持することが困難になり、住民ニーズを満たす共助によるサービス提供体制をいかに構築するかが課題であり、共助は今後不足する公共サービスを補う役割を期待されています。

基礎自治体は従来の行政サービス供給能力をもはや維持出来ず、標準的な行政サービスしか提供することが出来なくなることが想定される中、これを超えられる地域ごとのニーズへの対応や課題の解決などについては、基礎自治体にかわって地域運営組織の共助によってこれを行

うことが求められてきます。

そして地域運営組織では活動の目的が十分に達成出来ない場合は、地域自治組織の設立などを研究していかなければならない時代が来ると考えています。

とはいうものの本町の場合、これまで多くの皆様の努力により自治会組織はしっかりと構築されており行政との連携も順調です。しかしながら自治会組織は既に組織率の低下や役員の成り手不足など様々な問題も出てきていますので、少子高齢化、人口減少時代を迎えた今、国の状況なども注視し、いつまでという期限ではなく、随時その対策を少しずつでも考えていかなければならないと捉えています。

３．産業・交流を軸とした人が輝くまちづくりについて。ということで「センチピードグラス吹付工法による事業を小規模農林業の事業補助対象メニューに加えて農地保全活動を支援する」とあるが、（１）事業化に当たっては実証試験の結果と思うが、効果がどうだったのかとのお尋ねですが、町内の事例では令和３年に川内郷上地区で、令和４年には鬼木地区で実施されており、夏場の最も苛酷な作業である草刈り作業が不要となり、管理上は冬場の年１回の草刈りとなったとのことで、作業軽減の効果が端緒であったと聞き及んでおります。

（２）支援の具体的内容は。ということで、小規模農林業事業の補助メニューとして加え、業者委託となるセンチピードグラスの吹付作業部分を補助対象として、その補助率は70％とする予定です。

（３）要望が多かった場合、支援先の選択また補正増はというお尋ねですが、センチピードグラスについては、吹きつけ作業を行う前年度において、除草作業等の事前準備が必要なことから、令和６年度においては、実証で施工済みの作業、状況等を他地区の方へ紹介するなどを主に考えておりますので、申請件数が増えるのは令和７年度となってくるものと予想しております。

今後、農地管理の省力化や農地保全の観点から、町としてセンチピードグラス吹付工法を推奨していきたいと考えており、施工状況の紹介や補助制度があることなどを事前に周知し、農家や地区が取り組みやすい環境をつくっていきたいとの考えから、今回の対応をとったものです。

そのほかの御質問については、教育委員会のほうから答弁がございます。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

１．生きる力に生きる力と郷土愛を育むまちづくりについて、教育行政について次のことを問う（１）学校教育において、「学校施設の適切な管理」とあるが利用度が低い中学校のプールは利用増に向け、次のように改善出来ないか。

提案として学校施設から離し、町民プール（仮称）として、利用は中学校優先とし、中学校の利用がないときは町民に開放する。または、学校開放施設として利用は中学校優先とし、中

学校の利用がないときは、町民に開放する。というお尋ねでございますが、中学校のプールにつきましては、長寿命化計画の中で約１億5,000万円をかけ令和８年度に大規模改修を行うようにしておりましたが、水泳指導の授業等の利用状況や、中央小学校のプールを利用することで代替措置が可能ではないかと中学校と協議を行いました。

結果、中央小学校のプールを有効に活用することで、水泳指導をカバーできることや、費用対効果を考慮して大規模改修は行わないこととしました。

改修費さらにはプールの維持管理や人件費、町民の利用頻度等を考慮すれば、町民プールとしての利用については考えておりません。

（２）生涯学習について、「生涯学習は大切なもの」とあるが、社会教育団体の減少及びその構成員の減少をどのように対応するのか。また、生涯学習を推進するためには、社会教育主事の役割が重要であり、社会教育法で必置となってもかかわらず長期にわたり未配置であるため、令和６年度には配置はすべきであると思うかどうか。というお尋ねでございますが、生涯学習は個人の人生を豊かなものにし、同時に地域社会の活性化に寄与するものとして、大変重要な活動です。本町の生涯学習活動や社会教育活動は、各活動団体委員の団結とその御努力、そして教育委員会社会教育班との連携により、充実した活動が行われており県内においても高い評価をいただいています。

しかし団員の高齢化や固定化、共助意識の低下、入団、入会者の減少等団員の確保や活動の継続が難しくなっていることも現状です。

今後は生涯学習、社会教育活動の意義や楽しさ、活動内容やその魅力などを積極的に情報発信、広報することが重要であり、その場や機会を増やすこと。工夫することが必要だと考えております。活動の紹介や発表の場の提供、学校や保育園こども園との連携、地域との協働活動などが行えたらと考えております。

生涯学習、社会教育活動の充実に社会教育主事の配置をとの御質問ですが、その人選につきましては、役場内の人事異動や本人の意思や状況等により配置が出来ておりません。

その資格を有するには相応の研修も必要となりますので、人選や関係機関との調整を図りながら対応を図りたいと思っております。

（３）歴史・文化・スポーツについて「歴史・文化の再確認をしてもらう取組を行う」とあるが、その一環として、「波佐見史」の続刊の刊行が必要と考える。また本町の歴史を原始時代から現代まで、平易に読める歴史書の刊行も必要と考えるかどうかというお尋ねでございますが、現在波佐見史は上巻、下巻、第３巻の３巻発行されています。

それぞれ上巻は昭和51年、下巻は昭和56年、第３巻は平成５年に発刊されており、上巻においては47年経過をしております。その間の学術研究の進展によって、新たな史実も判明しており、見直す時期と我々も考えておりました。

現在の計画では、令和８年度が波佐見町70周年を迎えるため、その記念事業として着手し３

巻全てのリニューアルと、窯業編を加えた４巻を発行したいと考えております。

また、平易に読める歴史書の刊行につきましても、その際協議したいと思っております。あわせて、波佐見町の通史を平に学ぶ場として、令和３年７月に開館した波佐見町歴史文化交流館波佐見ミュージアムの利活用をさらに進めていきたいと考えております。

（４）「国民文化祭に向け、準備を進める」とあるが、本町開催に向けての進捗状況イベントの内容はどうかということでございますが、

現在の計画では、本町にある文化財や伝統芸能を生かしたイベントを計画しております。波佐見町講堂を使った音楽イベントやシンポジウム。中尾地区や畑ノ原登り窯跡などの焼き物、文化財を利用したイベント。さらには皿山人形浄瑠璃を介した全国人形芝居フェスティバルなどを計画しております。

今後、県とも協議を重ねながら準備を進めているところであります。

以上、壇上からの答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

中学校のプールでございますが、昭和54年10月の完成。開校まで間もない昭和54年の完成ですね。そしてこのプールは中学校の正門から入りまして、グラウンドの先の川棚川との境の道路端。こちらのほうにございます。長さは25メートルプールで８コース。深さは一番深いところで1.5メートルと聞いております。

そういったことで、現在中学校にプールがあるわけでございますけども、現在中学校で利用されている期間あるいは時間。これはどれぐらいでしょうか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

現在の中学校の水泳の指導でございますけども、６月の第４週から７月において１、２年生においては９時間。３年生は選択制で８時間の利用を行っている状況でございます。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

中学校のプールは、このままでいきますと８年度に廃止ですか。そして中央小学校と一緒に水泳の授業が行われる予定のようでございますけども、そうなりますと小学校のプールの稼働。中央小学校これはどのくらいでしょうか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

中央小学校でございますけども、水泳の実施時期につきましては、６月の16日から９月の第２週まで。時間につきましては年間10時間程度行っております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

そうしますと、いわゆる夏休みに入る７月の20日ぐらいから８月いっぱい。このあたりの利用はどうですか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

夏休みの利用につきましては、水泳教室を７月の28日から８月25日までのうち15日間開催を行っております。その間、水泳教室が２日間実施されております。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

それは今も、例えば去年の夏休み。そういった使われ方をされているのですかね。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○12番（脇坂正孝君）

昨年の利用でございます。なお中学校については夏休みの利用はあっておりません。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

私が提案しました中学校の利用というのは、６月の中途から７月の夏休み前まで。そしてそのあともう全く使われてないということで、これはもう非常にもったいない、宝の持ち腐れになろうかと思いまして、せめて町営プールにして一般の町民の方に使っていただく。あるいはそれが無理なら学校開放というかたちで、一般の方に同じく使っていただく。

もちろん中学校の利用が最優先ということで提案しているわけでございますけども、中学校のプールは例えば長期使用に耐えないと、そういうふうな判断でしょうか。８年度以降も耐えないものなのか。そのあたりの耐久性ですね。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

答弁をいたしましたように、今年度につきましても水漏れとか補修するところがありますので、それについて補修をしながら今やっている状況で、８年度に大改修と思っておりましたが、先ほどの理由をもって新たな施設を作り直すとか、それに係る維持管理、水道あるいは人件費等々を考慮した場合には、総合的に判断をし、近くに中央小学校のプールが利用できるような状況にありますので、改めて作るということは考えておりません。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

そういうような事情があれば、もう町営プールなり、あるいは学校開放施設としてのプールの利用はちょっと難しいかなというふうに思っております。

本町には海水浴場もありませんし、ほかに一般の方が利用できるプールも全くない状況ですから、これからますますの温暖化を迎え、そしてまた中学校をとにかく卒業したら、町外のプールなり海水浴場に行くしかもう方法はないわけですよね。そういったことで、レクリエーションづくり。それから健康づくり。スポーツの振興。そういったことから提案したことでございますけども、新たにつくるというのはなかなか難しいことじゃなかろうかと思っておりますので、これはもうひとまず置きます。

続きまして社会教育団体の減少等のことでございますけども、社会教育団体の一つであります文化協会を例にとりますと平成25年度、37団体。構成員が541人ですね。平成30年度、36団体442人。令和５年度、31団体366人。

こういったことで５年度を基準にしますと平成25年との差で、この10年間で６団体175人の減。それから平成30年度との５年間で５団体76人の減というふうなことになっております。これはどう捉えますか。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

町の文化協会のみでなく全ての社会教育団体、生涯学習、地域活動団体においても、同様の状況にあるのだろうと危機感を持っております。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

その原因はどう思われますか。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

詳細に分析研究はしておりませんが人口減少、少子高齢化等々もあるのだろうと思いますし、活動そのものに対して地域住民の方々がどういうような要望といいますか。それに対する期待、ニーズがあるのか。私たち全体として考えていることは、価値の多様化とか、共助意識の低下等々先ほど答弁申しましたような理由が考えられるのではないかなと考えております。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

10年前と比べますと、高齢化は進み、そしてまた社会的な変遷ですね。いろんな団体の好みとか何とかそういった興味とかも出てくるだろうと思います。ただその中で、やはり社会教育主事ですね。恐らく10年以上前から不在だと思うのですが、この不在も大きな要因じゃなかろうかと思っております。

もちろん現在、教育委員会の皆様方が一生懸命されているということはよくよく理解出来ますけども、どうしても核になって、こういうふうな指導とか取りまとめをしている社会教育主事。この方の配置が出来てないというのも大きな原因かと思いますけど、教育長いかがでしょ

うか。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

答弁にも申しましたように、本町の社会教育生涯学習の活動においては、県内においても高い評価を得ている状況があります。と同時に今おっしゃった団員の減少とか、活動の停滞が社会教育主事を派遣された、派遣されていないということが理由とは私は結びつかないと思っております。

それがいなくても本町はこれまで高い実績を上げているというのは恐らくそれぞれの団体の御努力と、私たち教育委員会との連携等果たしながら充実した活動が行われているものと判断をしております。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

今県下でも相当の評価を得ておられるというふうなことでございますけども、これもその前の社会教育主事さんたちがずっと以前は２名おられたかと思いますけども、そういったことで基礎づくりをされてきた。その結果も大きな原因じゃなかろうかとそのように私は解釈をいたしております。

そういったことで社会教育主事は社会教育法、第９条の２で教育委員会に社会教育主事を置くということで必置の職制であるわけですね。指導主事と並ぶ教育職というようなことで、学校における県教育教員免許と全く同じように考えるべきだと思っております。

私は平成29年の12月議会、そして令和３年の３月議会で同様の質問を行っております。前回の質問の折には教育長、町長から早く設置しますというようなことで、予算にも計上されたところでございましたけども、しかしいまだ設置に至っておりません。

そういったことで社会教育主事を配置出来ない理由というのは、先ほどちょっとお伺いはしましたけども、やはりそれを乗り越えてあくまでも必置義務でございますので、それを乗り越えて配置は出来ないでしょうか。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

前回の答弁時に配置に向けてということで動きを、確かに私たちも課内で検討し、人選をし、依頼をしましたが、個人的な理由によって叶うことが出来ませんでしたし、役場人事との絡みがありますので、それと社会教育主事を指定した場合に、その職員がどういう人生を考えているのか。役場に入ってどう自分は働きたいのか。ということなどの考えにも関わってくるところがありますので、必置について確かに法的にそういうふうに求められておりますが、現状では配置が出来ていないということになります。

県内においても本庁のみではなくて、数自治体が配置出来ていない。あるいは資格を持って

いても配置が出来ていないとか様々な現状がありますので。

私たちとすれば先ほど申しましたように、その中でやれることを精いっぱいやって、社会教育生涯学習の充実に図っていくというスタンスでこれからもやっていきたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

教育長は長崎県公民館連絡協議会の会長を今務めておられます。県下の公民館をリードし、生涯学習、社会教育を指導する立場にいらっしゃるわけですね。

そういったことで、教育長がそういうふうな役職を務められていてですよ――県下の重要な役職を。しかし地元に、足元に社会教育主事が不在というふうな現象。これはどう考えられますか。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

確かに役職から言えば、きちっとした指導をしなくてはいけないのかもしれませんが、そのことにつきましては県教委とも確認をし、本町の状況を説明しましたら各自治体、自治体ごとに状況が違いますので、分かりましたということで。

とはいえ波佐見町の現状を考えたときに十分な活動が行われていることも認めていただいておりますし、今後役場職員の中にそういうような適切な人材がおれば、研究・検討を重ね、そして本人にも承諾を得ながら進めていくということについては、やらないということではなくて、現状ではやれない状況があるということを申し述べさせていただきたいと思っております。

なお蛇足ですが、私は社会教育主事を持っておりますので、ここ数年は今のところ波佐見町は１名ということにはなっています。以上です。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

教育長が社会教育主事の資格をお持ちであるというふうなことは、かねがね伺っているわけですけども、やはりただ教育長という立場と、それから一職員であるという立場。またこれは違いますので、そこあたりは大局的な指導はできるのでしょうけども、やはり時間の制約とかいろんな制約もありますのでそれは難しいかと思いますけど、引き続き社会教育主事の配置については、御努力をお願いしたいと思います。

町長にお伺いしますけども、現在人事の作業中かと思っております。６年度の人事異動に反映するということは出来ないでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

まず行政に対する質問の中で、住民参画コミュニティーについての御質問がございましたが、その中でも答弁をいたしましたが、国の有識者会議の自治体戦略2040構想研究会では、2060年には働き手が今の7,500万人から4,000万人に減ると。3,500万人も減るというふうな状況が報告されております。

そういった中において、行政には例えば健康増進法において管理栄養士を置きなさいだとか、包括支援センターに社会福祉士だとか保健師だとか、ほかに主任ケアマネジャーを配置しなさいと義務づけされたものがたくさんございます。

実は私は、そういったものをもう少し緩和してほしいと国に要望したいぐらいの立場でございまして、できればもう少し資格というのを緩和していただかないと、働き手が減る中でそれぞれの専任を配置するということは非常に厳しゅうございます。

というのは、先ほど言ったように働き手が減るということは、波佐見町の人口が9,000人に減るという将来見越しがある中で、今の100人が50人でも働けるような職場をつくりなさいというような提言もなされてある状況では、なかなかそこに専任を置くというのは難しいのではないかなと。

ただし以前の質問の中では配置するというふうな答弁もしておるようでございまして、実は予算化もして実は研修には参加させるような準備までしていたのですが、御本人の御都合により参加出来なかったという経緯もございます。

そういった状況を踏まえれば、直ちに次年度の人事に反映するというのは厳しいものがあるというふうに答弁させていただきます。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

社会教育主事の配置については、引き続き御努力のほうをよろしくお願いしたいと思います。

続きまして「波佐見史」の続巻でございます。先ほど教育長から説明がありました「波佐見史」の既刊分でございます。上巻が482ページ、下巻が807ページ――カバーがあるのが下巻です。それから青表紙が第３巻で513ページあります。あわせて1,800ページありまして、この当時作られた編さんをされた方々、それぞれ大変な御労苦があったことかと、偲んでおるところでございます。

そういったことで、それから第３巻が出て30年がたっておりますので、次の巻を考えておられると。次の発行を考えておられるということは、非常に喜ばしいことでございます。ぜひ次の続刊の続刊で、そういったことでお願いをしたいと思いますけども。

もう一つですね。これは最近ずっと付随して出されているものでございますけども、先ほどの第３巻に及ぶ1,800ページの資料はなかなか一般の方にはとっつきにくいと。研究とかそういったことで、時間をかけてゆっくり読まれる分には適切な書物だと思うのですけども。そうい

ったことで簡単という言い方は悪いですけども、平易に読めるようなそういうふうな資料。それも原始時代から現在に至るまでの内容で、小学校高学年ぐらいから中学生。こういった範囲のところから読めるような。そういうふうな図書を刊行してもらえばと思いますけども。

ちょっと先ほど、そのような話も聞かれたと思いますが、もう一度答弁のほうお願いします。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

先ほどの教育長の答弁の中にも申し上げましたけれども、令和８年度が波佐見町政70周年ということでその記念事業として、そこから編さんにかかろうかということで計画をいたしております。

今のところの計画で申せば８年度、９年度、10年度で一応調査等を行いまして、11年度から１巻ずつの発行で14年度までかけて発行していこうということで今計画をいたしております。

ですので、もうしばらくございますけども、そういった事業に着手した折にもそういった要望もあったということで検討させていただければというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

ちょっと詳細をお尋ねしますけども、８年、９年、10年で調査を行うということですね。そして11年から14年にかけて、これはもう今までどおり３巻、今のようなことを改善版的に出されると、そういったことでしょうか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

まず上巻――何ていう呼び名になるか分かりません。第１巻を今のところの予定では自然、地質植物、それと室町時代までを予定をいたしております。

その次でございますけども、その室町時代から近世。江戸時代を予定いたしております。３巻目が近世から現在まで、令和まで行いまして、そこに民俗芸能等々を入れ込むと。それと４巻目として窯業を別冊、別刷りで４巻目として窯業編ということで波佐見焼の歴史から現代までということで、合計４巻を発行するように予定をいたしております。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

そしたら大体形としては、最初の巻と似たようなそういうふうな形になりますね。本町には、他町にあんまり例がないかと思いますけども、２人の学芸員が配置されておりまして考古学と文献学。古文書のほうですね。こういった町の専門家もおられますので、ぜひこの計画を実現に向けてほしいと思っております。

あわせまして先ほど申しました手軽に読めるそういうふうな内容の通知。１冊で済むような

こういうふうなものも作成いただければと思っております。

続きまして国民文化祭の本町開催でございますけども、大体進められていると思いますけど県の本町決定の県が決めるのでしょうかね。それはいつ頃になる予定ですか。本町が確実に波佐見町で開催しますよという。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

今ですね県と進めておりますけども、ここは長崎県の全ての自治体において、そういった令和７年度にどういった事業ができるかというヒアリングをされております。

波佐見町においても、先ほど教育長が答弁したとおり講堂を使った音楽イベント。今ですね、そういった講堂ファンクラブさんが中心になってしていただいておりますそういった音楽イベント。

それともう一つ考えている、その講堂自体のそういうもっと文化的価値というのを高められるようなシンポジウムを開催したいなというふうに思っております。それと中尾の上登窯。それと畑ノ原の登り窯跡を。現在でも畑ノ原につきましては、中高連携のほうで焼き物体験事業を行っておりますけども。そういった焼き物体験ということで、そこを町外の方にも参加してもらえるような取り組みをしてまいりたいと思っております。

それと同時に、文化財の新たな使い方ということで、ここ２回ほど文化財をそういった畑ノ原を使いまして、屋外レストランの開催をされております。今までのそういった文化と何というのですか、ちょっと違った方々もその文化財に触れてもらうことによって、波佐見町の文化・歴史を御理解いただくというような。そういった取組を行ってまいりたいというように思っております。

それと皿山人形浄瑠璃ですね。伝統芸能である皿山人形浄瑠璃の全国フェスティバルということで、これは東京とか大阪からお呼びして、あと九州内のそういった浄瑠璃関係者を集めまして全国人形フェスティバルということで銘打って行いたいというふうに。波佐見町はそういった計画を出しております。

他市町においてもそういったそれぞれの町で出されておりまして、それを今のところ県と協議を行いまして、それでそこを長崎県中で開催するというようなかたちで県のほうは進められております。今県と調整準備をしながら今後事業についてまた煮詰めていきたいと思っております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

本町開催されるということは確実ということでよろしいですね。そういうふうな御理解ですね。

そこでぜひ本町開催が決定しましたら、ポスター制作は波佐見高校へ。そしてまた波佐見高

校の作品もぜひ、どこかに展示をして、来場者等全国にＰＲをしてはどうかと思いますけど、これはもう質問通告にはありませんので、一応耳に入れていてください。

それから自治会の検討事項でございますけども、先ほど道町長の説明では、相当先のほうのことを研究するというふうなことで受けたのですけども。直近のことについては特別研究というか、そういったことはされないのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

自治会の支援についてはずっとやってきているところであって、いろいろな自治会の困り事とか、組織にいろんな組織率の低下とか、役員さん担い手不足とかそういった部分はいろんな勉強会とか意見交換をしながら随時対応をしていきたいというように考えております。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

研究項目として会員の減少対策ですか。それから特に集合住宅の場合が、加入率が低いというようなことを聞いておりますので、こういったこととか。それから長い目で見れば自治会の統合、小さな自治会をまとめてもらうと。そういったこと。役員の成り手不足はもちろんでございます。

そしてまた町と自治会との関係。あるいは最終的には条例なり、規則なり、あるいは要項なりそういったものの作成。こういったことはどうかと思っているのですけども、これは自治会長会とは一緒に協議をされる内容でしょうか。それとも町単独で進められるものか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

先ほど町長からの答弁にもありましたように、将来的には今の22地区でそういう自治会制度が成り立っていくのかというのは、人口が減っていけばそういうところも難しくなる可能性もあると思います。

そのために先進の自治体では地域運営組織とか地域自治組織、また小規模多機能自治とか、小学校区ぐらいを対象とした町と今の自治会の間ぐらいに入るような組織をつくるようなことも、もう成進地ではそういうところもあります。

ただなかなかそれには人もお金も相当かかるし、いろんな補助金もありますけども、ずっと持続可能でなければならない問題ですので、補助金があるときだけできればいいというわけもいきません。そういうところもありますので、少しずつ研究をしながら、今まだ自治会のほうもかなりしっかりとした組織になっていますので、そこをブラッシュアップしていくような取り組みが出来ないかというところで、当然町だけでできる話はありませんし、まずいろんな勉強会をしながら、問題意識を共有化していくところから入っていかないといけないというふうに考えています。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

とにかく現段階でも会員の減少、加入促進、こういったこと。それからさっき同僚議員のところで話がありました消防費の問題。こういったことも喫緊の問題として、上がっておりますので、ぜひこういったことも踏まえまして、自治会長協議会のほうとできれば同一歩調で検討をしていただければと思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

もちろん自治会と当然協議しながら、いろんなことを話はしていかないといけないのですけども、例えば協議会をつくって今すぐ直ちにどうこうというところではなくて、
まず勉強会といいますか、そういうところから意識の共有といいますか、そういうところから入っていくべきだというように考えております。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

まずはいわゆる職員間での情報共有というか。そういったことをまずはですね。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

もちろん職員ともですね、情報共有をしないといけないというふうに考えております。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

これはセンチピードグラス。これを植えつけた写真で、草が青いほうはもちろん夏でございます。そして白っぽいほう。これはここ最近の10日か20日ぐらい前の写真です。

ここは川内郷の水田の法面で、前同僚議員が令和２年の６月議会だったと思いますけども、そのときにセンチピードグラス植栽の実証実験について質問をされまして、自ら試みられたというふうに聞いております。

その前にも同じく同僚議員が、やはり同じようなことをされたということでございますけども、実証実験の結果はよかったということで、そういうふうに理解をいたします。ちょっとこれは参考ですが、長野県の南信農業試験場の主任研究員斉藤さんという方がちょっと書いておられるのがありますので、ちょっと御紹介をさせていただきます。

よく手入れされた水田を見ると心が安らぎます。しかし、このためには長年にわたり、農家の多大な労苦がありました。畦畔管理がおろそかになったときは、耕作の放棄、農地の荒廃化、農村の荒廃化の始まりです。日本の農業、水田農業を支え、美しい農村風景を形づくってきた畦畔。センチピードグラスの導入は畦畔の省力管理の一方法ですが、多くの皆さんが畦畔の省力管理に目を向けていただけることを期待しますというようなことで、こういうのを受け

たような今回の事業かと思っております。

そういうことで進めていただきたいと思いますけれども、施行方法について簡単に説明をお願いします。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

施行の工程についてなのですけども、一応２年にまたがった感じになります。まず７月から９月ぐらいまで草を伸ばした状態でいてもらいます。その後、10月大体稲刈り後ぐらいに除草剤を散布して、まず枯らしてしまう。その後、枯れたものが長過ぎるので、少し切ってもらってそのあとに焼却ですね。それが大体11月ぐらいになってきます。

それでまた春４月ぐらいに、今度は春草に向けての除草剤散布ということで、４月に除草剤散布を行います。その流れで、また５月に１回また焼却ということになります。

その次、６月ですね田植時分になってくるのですけども、今度は吹付け直前にまた除草剤を散布してというになります。で、散布後に種子の吹きつけということで、一応工程的にはなっております。以上です。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

２年間に及ぶというふうなことで、大変な作業ではありますけども、そのあとは大体年に１回ぐらいの草刈りで済むということでよろしいでしょうか。

ところで、単位面積当たりの経費、これがどのくらいかかるのかですね。もし試算でもされておりましたらお願いします。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

おおむねですね、平米当たりの単価が400円となっております。平米400円ですね。以上です。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

実際の交付は来年度、再来年度となりますよね。来年度から始められて、吹付をされたところに大体補助されると。そういったことでそういうふうな解釈でよろしいでしょうか。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

そうですね。答弁書に書いていたのですけど、今年から始められる地区があれば、令和６年度に施行して、令和７年度に実際補助をやれるってかたちになると思います。申請が令和７年になります。

来年度から始められれば、その１年後という形になりますね。吹付に対してだけの補助にな

りますので。以上です。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

最初が７月、９月ぐらいから始めなきゃいけないということですので、来年度すぐにでもこのあたりの周知を徹底いただきまして、早めの取りかかりですか。こういったことをお願いしたいと思いますけど、先ほどから、もう昨日からずっとお話が出てますとおり、もうどこも高齢者でございます。特に農業されている方、結構もう確実にもう１年、１年、年齢が加算されていくと。そういうような状態です。

それから法面も私の近くにあるところなんかもう４メートルも、５メートルもあって、草刈りをするのに３回ぐらい分けてしないといけないですよね。それを年に４回も、５回もしなくちゃいけないと。

相当労力、草刈りには苦労されていますし、特にもう真夏日。夏なんかやはりそのために相当体力を奪われるというふうなこともありますので、１年でも１か月でも早く、こういうようなことが実現されるようにお願いしたいと思います。

当初予算でということで、思っていましたけども、７年度の予算になるかと思いますが、そのあたりの要望をよく聞いていただきまして、ぜひ予算に反映していただければと思いますが。いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

今年ですね、また鬼木地区のほうでやられるので、それを本当見ていただいて、その中で皆さんに御紹介して、取り入れてもらえればと思っています。

予算に関しては一応もう小規模農林事業ということで、新規事業で上げておりますので、その分を含めて対応したいと思っていますので、以上です。

○議長（百武辰美君）

以上で、12番　脇坂正孝議員の質問を終わります。

しばらく休憩をいたします。15時50分から再開します。

午後３時39分　休憩

午後３時50分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、11 番　北村清美議員。

○11番（北村清美君）

皆さんこんにちは。通告に従い次の質問をいたします。

施政方針について

施政方針の冒頭に「波佐見町に住みたい、住んでよかった」と思っていただける施策が重要であるが、人口減少は避けられない未来であり、備えが必要となる。

そのためには、戦略性を持って問題を縮小化させるために先手を打ち、前提として戦略的に「縮小」及び「投資」という打開先を積極的に目指すべきと考えます。

そこで、次のことを問います。

（１）ＩＲ見直しで本町の交流範囲を広めることを考えざるを得ません。幸いにも西九州新幹線も開通し、地勢学的に恵まれてきた本町の位置づけを鑑み、福岡・長崎のベッドタウン化が可能となった。移住・定住に加え、通勤・通学の支援などの優遇措置を考えるべきと思いますが、どうでしょうか。

（２）グローバル時代において、子供たちにも外国の文化や考え方に触れる機会を作り、世界を意識するような教育が必要と考えます。そして、将来を見据え、まちづくりの根幹となる人と次世代を担う世代に「投資」する施策はどうでしょうか。

（３）世界の65歳の年齢は日本の76歳にあたり、日本人はこれだけ元気で「気力・体力」が充実しております。これを維持し、老化を遅らせるために「自助・互助・共助」の推奨と対策をどう考えられますか。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

11番　北村清美議員の御質問についてお答えをいたします。施政方針について。

（１）西九州新幹線も開通したことで、それらを福岡・長崎のベッドタウン化が可能となったということで、移住・定住に加え、通勤・通学の支援などの優遇措置を考えるべきと思うがどうかとのお尋ねですが、先ほど脇坂議員の御質問にも答弁しましたが、日本全国で少子高齢化、人口減少問題が深刻化し喫緊の課題となってきました。

そのためにも移住定住関係人口の拡大などの対策は待ったなしで、本町でも移住・定住対策としての定住奨励金など助成制度の充実と、移住相談会などのアプローチを拡大してきました。

ＩＲによる公共インフラの整備や、通勤圏内として移住者の大幅な増加を期待していましたが、現段階では難しい状況ですので、選ばれるまち、住みたいまち、住んでよかったまちになるように他の対策も考えていかなければなりません。

西九州新幹線の有効利用は観光面もさることながら、議員御指摘のとおり通勤圏の拡大ととらえることも出来ます。幸い嬉野温泉駅にも近く、地理的にも有利な条件がそろっていますので、新幹線を使った通勤通学を切り口とした移住定住対策も貴重な御意見として受け止め、研究や検討は必要かと思いますが、現時点での実施は考えてはおりません。

（３）老化を遅らせるために、「自助・互助・共助」の推奨と対策をどう考えるかとのお尋

ねですが、まず日本の高齢者健康度が世界的に高いレベルにあることは大変喜ぶべきことと思います。

特に波佐見町では、農業や窯業を中心とした担い手として、多くの高齢者が活躍されており、その方々の健康と元気が町の活性化へとつながっております。その維持のためには自助、互助、共助、全てが大切であります。その中でも基礎となる自助については、高齢者が自分自身の健康を管理し、維持することが最も重要となります。

そのためには適度な運動と健康的な食事、十分な休息が不可欠であります。また定期的に健康診断を受けていただき、病気の早期発見、早期治療につなげることも重要となります。互助・共助については、地域住民や家族、友人同士での交流や助け合うことが大切です。

高齢者の孤立を防ぐため、サロンやいきいき100歳体操、居場所など地域交流の場への参加や、介護保険のサービスなどを適切に活用して状態の悪化を防ぎ、生活機能の維持向上や改善を図ることが大事になってまいります。

元気な高齢者の方々の活躍促進と、住みなれた地域で安心して住み続けることができるよう引き続き取組を進めてまいります。

そのほかの御質問については、教育委員会から答弁がございます。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

施政方針について

（２）グローバル時代において、子供たちにも外国の文化や考え方に触れる機会をつくり、世界を意識するような教育が必要。そして将来を見据え、まちづくりの根幹となる人と、次世代を担う世代に「投資」する施策はどうかというお尋ねでございますが、

世界を意識するグローバルな考え方を育成する教育活動は大変重要だと私ども認識をしております。本町で行っている外国の暮らしや文化に直接触れる活動としては、「原マルチノの足跡を学ぶ天正遣欧少年使節ヨーロッパ訪問」があります。これは３年に１度をめどに、天正遣欧少年使節にゆかりのある市町の中学生をヨーロッパに派遣する取り組みです。

ふだんの活動におきましては、町内小中学校に配置していますＡＬＴとの外国語活動、中学校１年生で行っておりますイングリッシュキャンプ、長崎県立大学山崎教授による小学五、六年生を対象にした授業など、異文化理解と英語力の向上、意欲づけを行っております。

人づくりはまちづくり、町の将来を見据え、まちづくりの根幹となる人づくり。人育ては、ふるさと教育、キャリア教育の根底となる考え方であり、波佐見町を多面的、多角的さらには俯瞰的に見る感性や力を育むためにも、どのような施策活動が望まれるのか、実現できるのか、今後大いに検討してまいりたいと考えております。

以上、壇上から答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

私は今回、縮小と投資というようなことを、最初に申し上げましたけど、今回は施策と投資ですね。この２点に絞っていきたいと思います。

まず今、関東地区を中心にして非常にまちづくりの概念といいますか、理念といいますか。非常に取り上げる市町村が多いわけですね。東京都区内でも。

何かといいますと、シビックプライドという概念があるわけですよ。これが非常に19世紀イギリスで産業革命が始まった頃からの200年前からの概念なのですけど、これが今ちょっと見直されて、10年前からずっと皆さん各市町村に広まっております。

その概念について、ちょっと企画情報課の澤田課長に説明をしてもらいたいと思います。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

シビックプライド。最近結構注目された言葉だと思っております。シビックプライドというのは、地域や自治体に対する住民の誇りや愛着、そして地域社会に貢献する意識を指す言葉と言われています。地域住民のシビックプライドを育むことで、地域社会の活性化や魅力の向上に寄与し、住民の協力を促進する重要な要素と言われております。

要するに自分が住んでいる地域に対する誇りですね。またその地域や自治体に対する誇りを持って、それを支え改善しようとする姿勢ですね。単に郷土愛とか、協働意識とかいうことを指しているわけではないということでよく言われております。

なので、やはりこの地域に何て言いますか、お金がもらえるからその地域に来るとかではなくて、その地域を誇りに思うとか、地域をみんなで協力し合いながらよくしていこうという意識というふうに理解をしております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

現在波佐見本町は、先ほどからずっとありますけど自治会組織がしっかりしておりますので、別段この上にあえて言うことでは無いのですけれども、これを土台にして物事を進めていかなくちゃいけないと思います。

だから波佐見町の現状ということでちょっとお聞きしたいのですけど。波佐見町も、新築物件というのが毎年出来てきております。ここ３年どのぐらいの推移で出来ているか。　税務財政課課長、御答弁願えますか。

○議長（百武辰美君）　税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

税務財政課固定資産税のほうで把握しております新築物件の数というところでございますけども、課税基準が１月１日ということになっておりますので、今から申し上げます新築の家屋数につきましては、年度ではなく年ということで、まずは御承知いただきたいと思います。

それでは申し上げますと、令和３年の新築家屋数は40棟。それから令和４年の新築家屋が58棟ですね。それから令和５年が49棟ということになっております。以上です。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

それでは移住定住のことで、ちょっとお尋ねしたいのですが、今過去３年ぐらいのデータはありますか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

移住定住者といいますか、定住奨励金の件数で御説明をいたします。こちらはちょっと年度で把握をしています。これは新築、中古含めての件数でございます。令和３年度が51件、令和４年度が63件、令和５年度がこれは現在でございますけども、38件となっております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

それでもう一つ、合併浄化槽の奨励があっています。それはここ３年のトータルでいいのですが数字が分かったら教えてください。

○議長（百武辰美君）　水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

先ほどの移住定住というかたちで、新築とかという区分をされていますけども、手元にある資料ではちょっとトータルでしか把握出来ませんので、令和２年度が25件、令和３年度が32件、令和４年度が28件というかたちで補助を行っております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

引き続きデータがあると思うのですよね、長崎県の住みやすい町。それから住みたい町。長崎県内の現状が多分発表されていると思うのですよ。そのデータはどうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

いろいろ報道関係でも発表がされておりましたけども、ともに波佐見町は３位だったということで記憶しています。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

そうですね、３位ですね。それはやはり１位が時津町、長与町、これは全く変わりません。波佐見町の下に大村市ですね。これはもう事実変わりませんので、そこまで持ってきたというのは皆さん民間、行政の力だと思うのですよね。これはもう自信持って進めていいのではないかと思うのですよ。

その上に今からの現状と言いますが、人口問題研究所によりますと2020年を100としますと、2050年の16歳から64歳までの――現役世代ですね要は。それが何％になるかと、2020年を100とした場合ですよ。2050年何％か、これもデータが出ていると思います。お分かりになりますか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

2020年を100とした場合に、2050年には59.55％という数字が出ております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

今本町だけやりましたけど東彼３町、名前挙げて悪いのですけど、川棚町と東彼杵町は大体どのぐらいなります。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

川棚町が2050年は49.5％、東彼杵町が39.7％となっております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

そういうふうなことで、非常に東彼三町の中でも群を抜いているわけですね。誇るべき状態になるのではないかと。

ちなみにこの参考のため、１位はどのぐらいかというと、佐々町が70％で、大村市が76％という数字が出ております。予想ですね。だからそういった意味では今までの経過だったのが間違いないのではないかと思うのです。

一番悪いところはどこになるのかというのは、新上五島町が26.2％、南島原市が35.2％という数字が出ております。それから比べると波佐見町の状況というのは、非常にいい状態が続いているのではないかと思っております。

そういった中で、去年の令和５年の政策の中で、私は一番評価をしたいという政策があるわけですよ。それは何かといいますと、創業者支援をやられましたよね。個人に対して100万円。実際、令和５年度ではどのぐらいの実績があるわけですか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

令和５年度から新しく制度を立ち上げていまして、５年度に９件応募がありまして、６件の採択をいたしました。その中でも６件採択のうち、町外から移住を伴う人が５件ということで、非常に移住対策にも永住・定住のほうにも寄与しているというような結果が出ました。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

先ほど答弁の中にＩＲの見込みがなくなったというような答弁もありましたし、その中で波佐見というのが、戦前は有田町に列車が通って、汽車が通って。波佐見は通らなかったというような、波佐見が拒否したとかいう話をいろいろ聞きますけども。これが結果的には波佐見の地の利を得ているわけですよ。幸いに西九州新幹線が出来たわけです。嬉野市と武雄市と。

というようなことで、本当に政策戦略的に考えて、これをもっていけば非常に波佐見はまだこの今までみたいな数字じゃなくて、もっと高い数字になるかと思うのですよね。そのためにどうするべきか、ということです。

いろんな答弁の中でも出ていましたけども、現実に嬉野温泉駅から長崎駅と新幹線に乗っていると約20分ですよね。武雄温泉駅から博多駅に行きますと現在の特急だけで約１時間です。佐世保はもうバスは駄目ですから車で行って50分。そのぐらいの都市間ね。こういう時間で行けるわけですよ。少なくとも１時間半以内には博多駅に行けるわけです。自宅からですよ。

その中で町長ほら、いつも長崎出張されているでしょ。みんな新幹線でしょ。行かれるのは。どうですか感じは。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

非常に快適ですね。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

快適ということは疲れないということですよね。町長。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

おっしゃるとおりで、本当に20分の乗車でうかうか居眠りも出来ないという状況で帰ってきております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

ここに博多、長崎でやはり仕事をする人を引っ張ることも戦略、戦術であろうかと思うのですよね。これができるようになりました。

実際私が東京のときには２時間かけて行っていましたから仕事場まで。満員電車揺られてね。

それと比べたら、今みたいに町長の答弁あるみたいに、本当に快適です。というようなことですので出来ないことはないです。だから、そこまで広げて波佐見の位置というのを生かすべきだと思うのです。どうでしょう。そういう点で考え方は。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

議員御意見のとおり交通手段としては非常に快適でありますし、通勤あるいは通学範囲も広がるということでその利用は非常にいいかと思います。

御提案のそういったものに支援をということでございますけれども、貴重な御意見として受け止めることとして、早々にまだ実施をすることにやはり財源等の問題もございますし、果たしてどれくらいの需要があるのかということも研究をさせていただきながら当面はまだ実施はしないという方向でいきたいというように思っております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

たった今、しろというわけじゃないのですよ。こういう考え方で進むべきじゃないかということを言いたいわけですよ。だからこれは出来ないことないですから。出来やすいです、これは。

それと嬉野市の現状を説明しますと、嬉野市になって約20年ですよね。合併して。そしてもう減少リストの全国一なのですよ、嬉野市というのが。約20％が減っているのです。３万人あったのが、今２万4,000人ぐらいしかありませんから。

だから嬉野市はものすごく必死なのですよ。そのために嬉野市と武雄市はどういうふうな政策を打っていらっしゃるか。ちょっとどうですか、企業情報課長。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

今、嬉野市、武雄市ともに新幹線の通勤・通学の定期券に対する補助金を出されております。定期券に対して月額、嬉野市が２万円を上限、武雄市が３万円を上限ということで、いろいろ諸条件はあると思いますけども、そうした金額を上限として補助されております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

これは月ですか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

月あたりです。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○９番（横山聖代君）

それは一般と大学生なんかも一緒なのですかね。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

武雄市の場合は、武雄市に在住する18歳以上の高校生を除く50歳未満の方というふうになっております。金額の上限は同じですけども、特に通勤の場合は会社等から通勤手当等が支給さ

れれば、定期券から通勤手当を引いて残りの２分の１以内の上限３万円というふう条件がございます。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

ちなみに定期代というのは、一般人と大学生に分けた場合、大体１か月と３か月でいいですからちょっと数字が分かっていたら教えてください。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

武雄温泉駅から博多駅の場合は通勤の場合１か月７万2,000円程度。通学の場合大学生と想定しまして１か月当たり４万円が、武雄温泉駅－博多駅間特急の定期券であります。

武雄温泉駅から長崎駅の新幹線の定期代については、通勤が１か月７万4,000円。通学大学生の場合１か月４万8,000円程度になっております。

ちなみに嬉野温泉駅から長崎駅の場合は１か月通学通勤で６万9,000円、通学で４万5,000円というような数字になっております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

その中で２万円、３万円という支援金を出しているということですよね。そういう政策が入って、多分ベッドタウン化ということで人口増を狙っていると。嬉野市の場合は人口回復を狙っていると思います。

特に武雄市は皆さん御存じのとおり、やはり佐賀県の西部ですので、この中の中心になってきますよね。今度、来年度は大学も造るというようなことを発表されていますけども、非常に大きな集約された町であると思うのです。

ちなみに新幹線が通る前には武雄駅の駐車場に停めて、場所これガラガラだったのですよ、停めるときに。今はどうですか、停められないのですよ。手前の駐車場。そういう状態になっているわけですね、交通のハブです。西九州の。そういう状態ですから、これを我々も今までは佐世保ばかりだったですけど、長崎県を中心に考えて、そういう施策を考えればいいのではないかと思います。

例えば永尾郷か小樽郷からか行ってみてですよ、武雄市まで10分で行くのですよ。この地の利というのはたいしたもので、これ本当に考えないといけないですよ。

そうした場合に、ひいては東地区の活性化という再開発ができると思うのですよ。どうでしょうか、町長。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

活性化の一つ、弾みにはなろうかと思いますが、それそのものがですね全体的な活性化とい

うふうには捉え方次第だと思いますが、一つの活性化につながるということだけは確かに思います。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

だから、新幹線は消えませんから、なくなりませんから。だからじっくり施策を考えて、どうやったら波佐見に呼び込めるか、波佐見に住んでもらうか、またお客さんに来てもらうかということを考えるべきです。それを今後、期待したいと思います。

では次に行きたいと思います。私もこの教育の問題というのは、議員になって初めて質問します。全然素人ですから当てずっぽうじゃないのですけれども、不備な点はちょっと御勘弁願いたいと思います。

いろいろな今「投資」という言葉が非常に、あんまり聞かれないのですよね。

でも、これからは「投資」というのが非常に重要になるわけですよ。「投資」投資でも箱ものをつくるだけの「投資」もあります。いろんな「投資」があります。

でも未来に対する「投資」は、これは教育なのですよ。そう思いますけど。どうでしょう町長、教育というのは。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

まさにこれまでの投資は確かに箱物行政と言われるように、何かも造るということが投資のように捉えられてきましたけれども、これからは人に投資、「人財」財は財力の「人財投資」ということが重要だというふうに考えております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

先月12月の答弁の中にも未来の投資ということを非常に言いましたら、やらなきゃいけないというように町長は答弁されていますけど、覚えてらっしゃいますか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

そのように答弁したのだと思います。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

そしたら、本題に入っていきたいと思います。

子供の目から見た、現状から見たというのを把握しますと、考えてみますと、まず子供には選挙権がないのですよ。発言権がないのですよ。担任、校長を選べないのですよ。そういう状態なのです。子供というのは。

大人は現実にこの現世の世界、現状の世界に取り組まれていますから、あまりその発展もな

いし、希望もないのですが。子供は世界を想像し、成長をし続けますから、そのためにどうすればいいかと。今から考えなくちゃいけないと思うのですよ。

その点、未来への投資は答弁の中には全く何の方策も出ませんでしたけれども、もうちょっと私は期待していました。だから今後、未来への投資はどういうふうに教育長は考えていらっしゃいますか。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

未来への投資、具体的に何をするかということはまだ想定はしておりませんが、子供たちを例えるときに、子供たちは未来からの留学生という言葉を以前私たちもよく聞いておりました。

当然人づくり、子供育ちについては、多くの投資をするという考え方は大変私自身も賛成しておりますし、どのような施策を打つことが、子供たちにとってよりよいものになるかというのを今後研究・検討してまいりたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

12月の議会でもちょっと振って、質問したのですけど、同じような答弁ですよね。今まで教育長はこういうことを考えたことないの。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

今回の答弁の中でシビックプライドという言葉がありましたけれど、私たちはそれをふるさと教育、あるいはキャリア教育ということで捉えております。

私自身は教育長なったときに、このふるさと教育の推進については、かなり力をかけてやってきたつもりでおります。ふるさと教育のまず地元である波佐見を知ること。そして愛着を持つこと、比べること。そして、この波佐見町の現状や課題、未来を子供たちが自分事として捉えてそれをどう展開をしていくかというそういう力を子供たちにつけたいと思っております。

そのことが自分のキャリア、人生を生き抜く力につながっていくのだろうと思っておりますので、ふるさと教育とキャリア教育をつなげた形で推進をしたいと強く思っております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

それは波佐見の中での話。投資という話で私は質問をしています。

それでね、聞いてくださいよ。現状として教育次長に聞きたいのだけど、波佐見町の姉妹都市はどことどこですか。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

姉妹都市というとブラジルのマウワ市と、友好都市ですか韓国の康津郡（かんじんぐん）が、今なっております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

国内はどこでしたっけ。

○議長（百武辰美君）　教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

大阪の枚方市と友好交流都市を結んでおります。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

私は子供たちにやはり世界の多様化の文化を知ってもらいたいわけですよ。これが重要なことじゃないかと思うのですよね。それは何、どういういろんな方法があるかと思います。

例えば中学校には、多分生徒会という組織があるかと思いますけど、生徒会の会長になった、副会長なったという子供を例えば夏休みに10日間なり、１週間ホームステイさせるとか。そういう企画面白いのではないかと言いますけど、どうでしょう教育長。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

他者を知るということはもちろん、１年生から中学３年生まで発達段階が全然違いますので、それぞれの発達段階に応じた形で、自分を知る、他者を知る、他地域を知るということがあるのだろうと思っております。

今、議員お説の外国を知るという一つの材料として、そういうホームステイということにつきましては、新たな提案として面白いなということは今思っておりますが、実現かどうか分かりませんが。

先ほど答弁申しましたように、天正遣欧使節においては３年から５年において１度はヨーロッパのほうへ行かせてはいるのですけれど、これまでこういう状況になりましたので、今後どういうかたちで、外国の文化というのを直接学ぶ機会をということで、波佐見町らしさがそこにあるのであれば研究検討を行っていきたいと思いますし、ふだんの授業や活動において、異文化理解だとか他者理解については、いろんな場面が仕組みではないかなということは考えております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

これは絶対に大事なのですよ。それと例えば生徒会長なったら副会長になったらホームステイできる。アメリカだったら例えばアメリカの話。アメリカに行けるぞ、10日間。そういう子供たちの夢も与えたらどうですか。そういう考え方もあると思うのですよ。どうでしょう。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

今の北村議員のお考えも一つのアイデアとして、考えていきたいと思います。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

それでこれは町長とか総務課長あたり、あるいは企画情報絡みが考えることですけど。あと高校生、大学生をどうするかですよね。これも一つ考える必要があるわけです。

今、仮にアメリカの話を出しましたけど、アメリカに留学するためには１年間の費用が約600万円から700万円かかるそうです。１年ですよ。飛行機に乗って、部屋を借りて大学行って。

だからそういうことですので。それで波佐見に将来30年後、40年後戻ってくるか。もしくはアドバイスくれるかというようなことができると思うのですよ。

私が今この話しているのは30年後、50年後、100年後の話ですから。そのための人材をどうするかということです。先ほど町長の答弁の中にもそれはありましたよね。人材投資というのは。

そういうことをよそやっているからじゃない、よそがやらないことを波佐見はやるのだということを思ってもらいたい訳です。どうでしょう町長。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

先ほど来から北村議員のお話を聞いていると、異文化に触れて、外国に行くものに対しての積極的な支援を行ってはどうかというふうにお受けしました。

人材への投資というのは、一つそういった海外の文化を体験してくるというのも大事でしょう。国内においてもほかの地域の実情を見てくる。あるいは、もう一度地元をしっかりと見つめ直す。そういったことに対しても、投資は行うべきだと考えておりますので、一つの御意見として参考にさせていただきたいというように思います。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

なぜ、こういうことを言うかというと、今、日本の置かれている立場分かりますか。30年前、35、6年前と今の状態と。韓国、中国行ってみないですか。ほとんど現金はないですよ。現金を使うことない。

みんな、今日本で流行っていますけど、ＰａｙＰａｙとかそういうものばっかりなっていますから。だから日本がそういうシステムを遅れてるわけですから、日本を、要するに韓国、中国捉えて言えば非常な競争社会です。日本以上に。何のためにインバウンドでこっちに来ているかということですね。そこあたりをよく考えていないといけないですよ。

だから疲れて日本に癒やしに来るわけですよ。それが今変わっているわけですよね。前は爆

買いとかなんかいろいろありましたが。そういう時代に突入していますから、日本にそういうなんていいますか、昔古来といいますか。自然が残っている、文化が残っているということも魅力を感じてきていますから。

そういうことを頭に入れて、だからそういうことは、いち早く体で覚えることが大事だと思うのですよ。体ですよ。１年間住めば大体分かってきますよ。どうでしょう、町長。そういう考え方もあるということを頭の中にしっかり置いとってもらいたい。どうでしょう。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

確かにおっしゃるとおりですね、そういう考え方もあろうかというふうに思います。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

そして我々は執行部の皆さんと、議会も、議員も未来に責任があるわけですよ。そう思いませんか、皆さん。未来に責任があるのですよ。今じゃないです。今は大きな問題あります。本当は、未来に対する問題のレールを引くことは我々の仕事なのですよ。これを忘れてもらっちゃ困るわけです。

もっと見られてビジョンを語ったらどうですか。どうあるべきかと。いうことは大事です。どうですか総務課長どう思います。

○議長（百武辰美君）　総務課長。

○総務課長（福田博治君）

なかなか壮大なテーマだなあというのが率直な意見でございますが、今北村議員がおっしゃったように、私たち職員は確かに未来に対して責任を持っていると思います。今決めたことがどういった感じで、将来波及するか効果が出るかということを考えて、政策は立案すべきと思います。

私たちも先が大分見えてきたのですが、特に若い職員にやはりそういうことをしっかり考えて、自らやはり施策を立案するときに自分たちが課長になったとき、これがどういった姿になっているのだろうということを意識づけさせていきたいということをちょっと今思いました。以上です。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

今若い職員の話も出ましたから。結局職員でもいいのではないですか。海外に触れるということは大事なのですよ。これが大事だから、その感覚は行かないと分からないわけですよ。いくら口で聞いても、耳で聞いても分からない。絶対これ大事だよ。若い職員でもいいわけですから。それが一番大事なことです。それを頭に置いていてください。

もう本当に先ほど申したとおり、我々執行部と議会議員も本当に未来に対して責任がありま

す。これを皆さん一緒に考えて、真剣に考えて政策を打つ。投資をするということは大事だと思います。

だから特に一番重要なことは、波佐見の子供たちは波佐見に生まれたのですから宝ですよ。宝は大人の我々が、町がほかにない教育環境をつくるべきではないかと思うわけですよね。その点どうしよう、教育長。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

いま、北村議員のほうから未来に責任を持つという言葉を聞きながら、私自身学校教員をやっているときに、小学校の役割としまして、眼前の子供の10年後、15年後を豊かに自分らしく生きるために今を支える、今を鍛える。という思いで教育に当たってきたなということを振り返りながら今思っているところでした。子供たちを支えるために私たちの役割がきっとあるのだろうと思っておりますので、そこらそこにつきましては北村議員と全く同感であります。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

結局それが大事なのですよ。やる責任があるってことですよ。我々はですね。だからほかにやっていないから波佐見もいいだろう。しなくていいだろうというようなことで。

先駆けて「投資」という意味で、そんなお金がかかることじゃないのですよ。何千万円も何億円もかかるわけじゃない話ですよ。先ほどのベッドタウンに対する支援策に関しても、そんな大したお金じゃないです。やろうと思えば出来ます。だからこういう子供たちの投資というのは、本当にこれからは真剣に考えてください。一緒に考えましょう。

特に多文化を知るってことは非常に大事なことですので、だから我々は役場も町も議員も、これからこういう楽しい教育環境をつくるべきと思って、この問題をちょっと終わって、次に行きたいと思います。

昨日も高齢者のことで、世界の65歳は日本の76歳にあたるということをちょっとここに書いていますけど、昨日の答弁の中でも、75歳以上の数字が出ていましたが、その数字をもう一度言ってくれますか。

○議長（百武辰美君）　長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

高齢化率ということになりますか、波佐見町の高齢化率で言いますと最新の２月末現在でございますが、人口１万4,164人に対し65歳以上が4,718人。75歳以上が2,514人となりまして65歳以上が33.3％、これは高齢化率であります。75歳以上が17.7％になります。

ちなみに全国の分になりますが、令和４年10月１日現在になります。先ほど申しました波佐見町が33.3％だった、65歳以上のところが、全国平均になりますと29％。75歳以上、先ほど波佐見町が17.7％だったところが全国でいうと15.5％ということになります。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

先ほどもずっと波佐見がいかに努力をして、いい結果が出ているということは、皆さん今も知っていただいたと思うのですけど。

この高齢者福祉というのを波佐見町は誇っていいわけですよ。改めて申し上げますけど、訪問介護、訪問診療を見てみないですか。波佐見町には全病院の先生がみんな訪問診療しているわけですよ。川棚町はどうですかってゼロですよ、川棚町は。東彼杵町は２人です、先生が。川棚町に波佐見町の先生が行っているわけですよ。

だから、この現実の福祉の波佐見の厚さですね。そういう面では住みやすい町というような評価を受けていると思うのですよ。そういう意味では皆さん自信持って、仕事をしてもらいたいと思うのですよ。

その中で非常に高齢化社会というふうに現在全て、今回の一般質問で皆さん出ていますよね。それは事実ですよね。高齢化社会というその前にお１人世帯というのがあるのですよ。これが多いのですよ。いま長寿支援課の課長が数字を出されましたけども、全国的に見ますと大体3,600万人ぐらいの高齢者がいるわけですね。

高齢者以上にいる人たちがいるわけですよ。それは何かといいますと、お１人様世帯なのですよ。俗に言うソロ世帯というらしいですよね。これが大きいのですよ。約5,000万人いる。高齢者が3,600万人、ソロ世代が5,000万人。

だからここが問題ですよね。だからこういう今さっき自助の話が出ました。そして、まちづくりの話が自治会の話も出ました。その中で１人暮らしがこれだけ全国平均の多いわけですから、そのコミュニケーションをどう図っていくかというこの問題も出てくる。これはどういうように考える、これから我々の考え方ですけど。

突然ちょっと振って申し訳ないけれど、企画情報課長。この問題どう考えますか。

○議長（百武辰美君）　企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

いろいろ先ほどから出ています自治会とかも、2040年問題か2050年とか少子高齢化になっていく中で、そういった１人の世帯とかも出てくるし、そういうのを地域全体で見守っていく必要があると思っております。その中で今、長寿支援課で行っている支え合いの運動とかも全てＤＸもそうなのですけども、全てつながっているものだと思っていますので、あそこはいろんな連携をとりながら、そういうコミュニケーションをとっていくような、意識を育んでいくべきだというように思います。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

やはり優等生の答弁ですよね、だから問題は一人住まいの世帯をどう引っ張り出すかです

よ。これ難しいのですよ、考えただけでも。私も１人でおりましたから。今はちょっと違うのですけど、いるからあれなのですがね。

よく分かるのですよ。人と会いたくない、人と接しようとしている人は、どうでしょう２割いかないかでしょう。意外と自分の世界に取り組まれます。

それともう一つ、一番の一人住まいの欠点ってあるのですよね。まず協調性がなくなる。思いやりがなくなる。そして妥協を知らない、要するにわがままですよ。だから家族は多ければ、多いほどいいわけです。そういうトラブルあって人と話をしたくない、自治会に入りたくないとか、もう近所の人と付き合いたくないという人が皆さん聞かれるでしょ。

そういう状態であるから、そういう問題も真剣に考える必要があるかと思います。高齢者の問題と含めて。だからそういうことで、今日皆さんに確かめて、今後はこういうものに投資をしていくということが非常に大事じゃないかと思いますので、ぜひ教育長、次長、それから町長。皆さん本当に投資とは未来をつくるためにあるわけです。

それを頭に置いて波佐見町の未来をどうするかということですから、それを皆さん真剣に考えていただきたいと思います。町長どうでしょう、少しは理解出来られるでしょうか。

○議長（百武辰美君）　町長。

○町長（前川芳徳君）

お話しされていることが投資という話と、一つは福祉という考え方と、少し混在しているのかなという感じもしますが、確かにおっしゃるとおり、まちづくりは人がいないと出来ていかないわけですね。相互運用のためにはやはり人に対する支援、あるいは投資というのは大変重要なことだというふうに思います。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

先ほどの今の同じ質問ですけど教育長、今後子供の未来に対して、どういう覚悟で持っていきたいと思いますか。一つ＝ごぞんめい＝おきたいと思いますが。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

私は教育のまち波佐見というのを指標としてぜひ選ばれるまちにしていきたいなということを思っております。波佐見に住めば自分が賢くなる、優しくなる、豊かになる、たくましくなる、そういうものを感じられる教育のまち波佐見で選ばれるまちづくりをしていきたいなということを思っております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

ぜひ、そういうお気持ちで物事に当たって、今後の企画投資をどうすべきか。波佐見町をどうするべきかという観点で物事を考えていただきたいと思います。これで終わります。

○議長（百武辰美君）

以上で、11番　北村清美議員の質問を終わります。

以上で通告がありました一般質問が全て終了しました。以上で本日の日程は全部終了します。

本日はこれで散会をいたします。御起立ください。お疲れさまでした。

午後４時48分　散会

第 23 日目（３月 22 日）（金曜日）

議事日程

第 １ 提案要旨の説明
第 ２ 議案第 ９号 令和６年度波佐見町一般会計予算
第 ３ 議案第 10 号 令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計予算
第 ４ 議案第 11 号 令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計予算
第 ５ 議案第 12 号 令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計予算
第 ６ 議案第 13 号 令和６年度波佐見町上水道事業会計予算
第 ７ 議案第 14 号 令和６年度波佐見町下水道事業会計予算
第 ８ 議案第 15 号 令和６年度波佐見町工業用水道事業会計予算
（以上７件 予算特別委員会委員長報告）
第 ９ 議案第 23 号 町長等の損害賠償責任の一部を免責する条例の一部を改正する条例
第 10 議案第 24 号 波佐見町町営住宅条例の一部を改正する条例
第 11 議案第 25 号 波佐見町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
第 12 議案第 26 号 波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例
第 13 議案第 27 号 波佐見町介護保険条例の一部を改正する条例
第 14 議案第 28 号 波佐見町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例
第 15 議案第 29 号 波佐見町水道条例の一部を改正する条例
第 16 議案第 30 号 波佐見町公共下水道条例の一部を改正する条例
第 17 議案第 31 号 東彼地区保健福祉組合規約の変更について
第 18 議案第 36 号 波佐見町固定資産評価審査委員会委員の選任について
第 19 議案第 37 号 副町長の選任について
第 20 閉会中の継続調査申出について
（総務文教委員会、産業厚生委員会、議会運営委員会）

第23日目（3月22日）（金曜日）

３．出席議員

１　番	前田　博司	２　番	濵本　秋人
３　番	澤田　昭則	５　番	田添　有喜
６　番	岡村　達馬	７　番	福田　勝也
８　番	城後　光	９　番	横山　聖代
１０　番	欠　員	１１　番	北村　清美
１２　番	脇坂　正孝	１３　番	尾上　和孝
１４　番	百武　辰美		

２．欠席議員

４　番　岡村　真由美

３．議会事務局職員出席者

議会事務局局長	林田　孝行	書記	一瀬　若菜

４．説明のため出席した者

町長	前川　芳徳	総務課長	福田　博治
企画情報課長	澤田　健一	商工観光課長	太田　誠也
庁舎建設推進室長	大橋　秀一	税務財政課長	古賀　真悟
住民福祉課長	井関　昌男	農林課長兼 農業委員会事務局長	伊藤　幸治
建設課長	本山　征一郎	水道課長	中村　和彦
長寿支援課長	松添　博	子ども・健康保険課長	石橋　万里子
会計管理者 兼会計課長	串島　佳織	教育長	森田　法幸
教育次長兼 給食センター所長	朝長　哲也	総務課総務班係長	坂本　昌俊
税務財政課 財政管財班係長	鶴田　秀幸		

午前10時　　開　会

○議長（百武辰美君）

皆さん御起立お願いします。おはようございます。

ただいまから令和６年第１回波佐見町議会定例会、第23日の会議を開きます。

本日の議事日程はあらかじめ御手元に配付のとおりです。

日程第１　提案要旨の説明

○議長（百武辰美君）

日程第１．提案要旨の説明を求めます。

前川町長。

○町長（前川芳徳君）

皆様おはようございます。本定例会に議案１件を追加提案させていただきましたので、その要旨について御説明を申し上げます。

議案第37号副町長の選任については、村山弘司さんを副町長に選任したく、地方自治法の規定に基づき議会の議決を求めるものです。なお、村山さんは元長崎県県北振興局長でありますが、今月末で県職員を退職することになっていますので申し添えます。

以上でありますが、詳細につきましては議案審議の折に御説明をいたしますので、何とぞ慎重に御審議の上、適正なる御決定を賜りますようよろしくお願いをいたします。

日程第２～８　議案第９～15号

○議長（百武辰美君）

日程第２．議案第９号　令和６年度波佐見町一般会計予算から、日程第８．議案第15号　令和６年度波佐見町工業用水道事業会計予算までの７件を一括議題とします。

本案は予算特別委員会に付託をしておりましたので、尾上委員長からの審査結果の報告を求めます。

尾上委員長。

○予算特別委員会委員長（尾上和孝君）

皆さんおはようございます。それでは、審査報告をいたします。

令和６年３月21日

波佐見町議会

議長　百武辰美様

予算特別委員会

委員長　尾上和孝

予算特別委員会審査報告書

本委員会に付託された事件は、審査の結果、次のとおり決定したので、波佐見町議会会議規

則第86条の規定により報告します。

事件番号、件名、審査結果の順で読み上げます。

議案第９号　令和６年度波佐見町一般会計予算、原案可決。

議案第10号　令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計予算、原案可決。

議案第11号　令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計予算、原案可決。

議案第12号　令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計予算、原案可決。

議案第13号　令和６年度波佐見町上下水道事業会計予算、原案可決。

議案第14号　令和６年度波佐見町下水道事業会計予算、原案可決。

議案第15号　令和６年度波佐見町工業用水道事業会計予算、原案可決。

予算特別委員会審査報告

議案第９号「令和６年度波佐見町一般会計予算」ほか、予算特別委員会における審査の経過と結果を報告します。

１．審査の経過

（１）審査の方法　二分科会方式で審査を行い、予算審査特別委員会に各分科会から審査内容等の報告と説明を求め、各分科会で質疑及び総体的な審査を実施した。

（２）審査期日

（第一分科会）令和６年３月６日（水）、３月８日（金）

（第二分科会）令和６年３月９日（木）、３月11日（月）

（委　員　会）令和６年３月15日（金）こちらは委員のみとなります。

（委　員　会）令和６年３月19日（火）

（３）審査場所　　議場、委員会室・災害対策室

（４）出席者　　全委員（議長を除く12名）

各担当課長及び課長補佐、次長、室長、局長、各担当係長

２．審査内容

（１）各分科会における報告については、４日間の分科会を経て報告書の作成を行った。詳細は別紙のとおりである。

（２）予算特別委員会（３月15日）において、それぞれの分科会ごとに質疑及び答弁を行い、通告書による質疑の取りまとめを行った。

（３）予算特別委員会（３月19日）において、報告書による質疑を行った。

主な質疑内容は、下記のとおりでございますが、何点か読み上げたいと思います。

Ｑ．波佐見高校支援金はどのようなものがあるか。

Ａ．入学支援金、通学費補助、通学困難な生徒への家賃補助、大学受験に係わる受験料補助、部活動遠征に対する補助、その他町長が認める補助があります。

Q．生地生産環境改善対策事業とは。

A．生地組合会員39社に限り、暑い時期などの職場環境改善のためのスポットクーラーを78台、１台当たり６万円を想定し各社２台設置できる補助金事業である。

Q．児童手当増額の内容は。

A．２億7,000万ほどの増額であり、10月から対象を中学生から高校生へ引上げ、所得制限の撤廃、第三子が１万5,000円から３万円に増額とした。

３．審査の結果

予算特別委員会では、真の住民福祉の向上につながる効果的な予算であることかに主眼を置き、予算の決定権は議会の権限の中でも重要であるとの認識のもと、多岐にわたって終始積極的かつ慎重に審査を行った。

（１）議案第９号「令和６年度波佐見町一般会計予算」から、（７）議案第15号「令和６年度波佐見町工業用水道事業会計予算」については、討論なく、全会一致で原案可決すべきものと決定した。

４．総括的な所見

内閣府の月例経済報告による基調判断では「個人消費・設備投資ともに持ち直しに足踏みが見られる。輸出はこのところ持ち直しの動きに足踏みが見られる。生産は、持ち直しに向かっていたものの、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響により、このところ生産活動が低下している。企業収益は、総じてみれば改善している。企業の業況判断は改善している。雇用情勢は、改善の動きが見られる。消費者物価は、このところ緩やかに上昇している」との判断であり、先行きについては、雇用・所得環境が改善される下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし世界的金融引き締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の動向に十分注意する必要がある。さらに、令和６年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要があるとしている。

また、日銀は17年ぶりに大規模な金融緩和策の柱であるマイナス金利政策の解除に大きく舵を切った。これにより日本の経済がどう動くか注視しなければならない。

なお、本町の一般会計予算は、95億2,000万円としており、令和５年度と比較して７億8,000万円の減額となっているが、障害者総合支援法に基づく各種給付費等の扶助費の増、学校給食支援費補助金の補助費の増などあるが、新庁舎建設工事及び災害復旧事業の完了等による普通建設事業費の減が原因であり、ふるさと納税額は５年度と同等の寄附額が見込まれていた。また、国民健康保険事業特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険事業特別会計については、前年度と比較し増額となっている。

本町の経済状況は、歳入では、町民税の個人は増、法人は減、固定資産税は土地の分譲地等の開発により宅地化が進んでいることもあり増としています。

ふるさと応援寄附金は、昨年度の当初予算と同額と計上されているが不安定な要素は残っている。全体予算に占める自己財源の割合は、令和４年が44.4%、令和５年度が50.4%、令和６年度は48.0%となり、まだまだ地方交付税や国・県支出金に依存する財政基盤となっている。

このような中、人口減少社会に立ち向かい、基幹産業の活性化、交流人口の拡大、安心安全なまちづくり等により、持続可能なまちづくりを進め、それを推進するため95億2,000万円の「令和６年度波佐見町一般会計予算（案）」をはじめとし、「各特別会計予算（案）」及び「企業会計予算（案）」が提案されたが、歳出では引き続き社会保障関係費の増加など厳しい状況が見込まれていることから、財源確保に最大限傾注し地方交付税等を含め必要な財源確保と充実を望むものである。

最後に、予算書や予算概要に新規事業と分かる表記を望む。以上です。

○議長（百武辰美君）

これから委員長報告に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから議案第９号　令和６年度波佐見町一般会計予算の討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第９号　令和６年度波佐見町一般会計予算を採決します。本案に対する委員長報告は原案可決であります。本案は委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第９号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第10号　令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計予算の討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第10号　令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計予算を採決します。

本案に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案は委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第10号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第11号　令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計予算の討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第11号　令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計予算を採決します。本案に対する委員長の報告は原案可決であります。本案は委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第11号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第12号　令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計予算の討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第12号　令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計予算を採決します。本案に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案は委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第12号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第13号　令和６年度波佐見町上水道事業会計予算の討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第13号　令和６年度波佐見町上水道事業会計予算を採決します。本案に対する委員長の報告は原案可決であります。本案は委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第13号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第14号　令和６年度波佐見町下水道事業会計予算の討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第14号　令和６年度波佐見町下水道事業会計予算を採決します。本案に対する委員長の報告は原案可決であります。本案は委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第14号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第15号　令和６年度波佐見町工業用水道事業会計予算の討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第15号　令和６年度波佐見町工業用水道事業会計予算を採決します。

本案に対する委員長の報告は原案可決であります。本案は委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第15号は委員長の報告のとおり可決されました。

日程第９　議案第 23 号

○議長（百武辰美君）

日程第９議案第23号町長等の損害賠償責任の一部を免責する条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

議案第23号町長等の損害賠償責任の一部を免責する条例の一部を改正する条例について説明します。町長等の損害賠償責任の一部を免責する条例の一部を別紙のとおり改正する。

提案理由でございますが、地方自治法及び地方自治法施行令が改正され、引用する条項の移動が生じることに伴い所要の改正を行うものでございます。

次ページ、別紙をお願いいたします。今回の改正は地方自治法及び同施行令が改正され、４月１日に施行されますが指定公金事務取扱者制度に係る条項が、同法243条の２以降に追加されたため、条項の繰り下がりが発生することに伴うもので、内容として第１条中「第243条の２第１項」を「第243条の２の７第１項」に、「第243条の２の２第３項」を「第243条の２の８第３項」に改める。

あわせて地方自治法施行令も同様に、指定公金事務取扱者制度に係る条項が追加され、条項の繰り下がりが発生することに伴うもので、内容として第２条中「第173条第１項第１号」を「第173条の４第１項第１号」に改めるものでございます。

なお、引用している条項の内容自体には改正・変更はございません。

附則として、この条例は、令和６年４月１日から施行いたします。あわせて関係条例といたしまして、波佐見町工業用水道事業の設置等に関する条例の一部改正として、第５号中「第243条の２の２第８項」を「第243条の２の８第８項」に改める。

次に、波佐見町工業用水道事業の設置等に関する条例の一部改正として、第５条中「第243条の２の２第８項」を「第243条の２の８第８項」に改める。加えて、波佐見町下水道事業の設置等に関する条例の一部改正として、第５条中「第243条の２の２第８項」を第「243条の２の８第８項」に改めるものでございます。

次ページが新旧対照表でございますので御確認をお願いいたします。以上で、議案第23号の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第23号町長等の損害賠償責任の一部を免責する条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに、賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第23号は原案のとおり可決されました。

日程第 10　議案第 24 号

○議長（百武辰美君）

日程第10．議案第24号　波佐見町町営住宅条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

本山建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

それでは議案第24号　波佐見町町営住宅条例の一部を改正する条例について御説明いたします。波佐見町町営住宅条例の一部を別紙のとおり改正する。

提案理由でございますが、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律の一部改正等に伴い、所要の改正を行うものでございます。

次ページをお願いいたします。別紙でございます。

波佐見町町営住宅条例の一部を改正する条例。波佐見町町営住宅条例の一部を次のように改正するとして、その下に改正条例の内容を記載しておりますが、今回の改正は配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律の改正によるもので、これまで同法「第10条第１項」に定義されておりました保護命令の内容において、接近禁止命令と退去命令が規定されておりましたが、改正後の法律では、第10条第１項に接近禁止命令、第10条の２に退去命令と分けて規定されたことにより、現行条例では退去命令に対応できないことから、今回の条例改正では「第10条の２」を追加するものでございます。

また、同法第28条の２については、特定関係者のことを指し示しており、いわゆる配偶者であったものや、事実上婚姻状態にあるものもこの条項に適用するとするため、組み替え条項を加えております。なお今回の改正に合わせ、引用法令名や字句等の訂正もあわせて行っております。

次ページ以降は、新旧対照表となっております。なおこの条例は令和６年４月１日から施行するものでございます。

以上で、議案第24号　波佐見町町営住宅条例の一部を改正する条例の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第24号、波佐見町町営住宅条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第24号は原案のとおり可決されました。

日程第11　議案第25号

○議長（百武辰美君）

日程第11．議案第25号　波佐見町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について内容説明を求めます。

○議長（百武辰美君）　石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

議案第25号　波佐見町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、説明いたします。

提案理由は、地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律の公布に伴い、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律が改正されることに伴い、所要の改正を行うものです。

２ページ。別紙をお願いします。今回は、法改正に伴う項ずれや、特別利用教育の改正を行うものです。法改正の各効果として事務の負担軽減とされたことから、未整備であったデジタル化に対応すべく規定を追加するものです。

２ページから５ページまでが改正条文ですが、６ページからの新旧対照表を用いて説明します。

まず目次に第５条を追加します。第15条は先ほど申し上げました認定こども園法第３条第10号が削除され、第11項が第10項に繰上げられましたので、引用条項のずれを修正するものです。

第23条で、保育施設等の運営規定や職員の勤務体制をホームページ等でも閲覧できるように

しなければならないと規定するものです。

第36条は、保育認定を受けた満３歳以上の子供が、幼稚園を利用する特別利用教育に係る読替規定を追加するものです。

７ページから９ページにかけて、これまで最後に規定していた委任に関することを第54条に、第53条に、電磁的記録等として新たに追加するものです。昨今のデジタル技術の進歩により、保育の現場においてもインターネット等を活用した周知や報告が可能となりました。そうした実情を踏まえ条例の改正を行うものです。

第５条53条では、保育施設等で記録、作成、保存しなければならないとされている書類などを、電磁的記録いわゆるパソコンなどで処理するデータを書面に代えてよいと規定するものです。

第23条以外は公布の日から、第23条は令和６年４月１日から施行すると附則で定めます。以上で説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第25号　波佐見町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第25号は原案のとおり可決されました。

日程第 12　議案第 26 号

○議長（百武辰美君）

日程第12．議案第26号　波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

議案第26号　波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例

波佐見町国民健康保険条例の一部を別紙のとおり改正する。

提案理由ですが、全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律が公布され、令和６年４月から施行されることに伴い、所要の改正を行うものです。

別紙２ページをお願いします。波佐見町国民健康保険条例の一部を次のように改正します。２ページから５ページまでが改正条文、６ページから21ページまでが新旧対照表となっていますが、22ページ参考資料を用いて、その内容を説明いたします。

改正につきましては主に３点ございます。

一つ目は国民健康保険料課税限度額の引上げです。国民健康保険料のうち後期高齢者支援金等限度額を２万円引上げ、24万円とするものです。これにより国民健康保険料の最高額が104万円から106万円になります。

二つ目は低所得者に対する保険料軽減判定の見直しです。第16条の４の２は、低所得者の保険料の減額について規定しており、29万円を29万5,000円に、53万5,000円を54万5,000円に改めるものですが、低所得者の保険料軽減をする際の所得判定基準を上げることで低所得者の負担軽減を図るためです。

三つ目は被保険者の見直しです。退職被保険者制度の経過措置が終了することに伴い、条例上の退職者被保険者の規定を削除します。あわせて被保険者の区分けをする必要がなくなったことから、一般被保険者を被保険者に改めるものです。退職者被保険者制度については、参考資料の下段のほうで確認をお願いします。

附則において施行日を令和６年４月１日とし、令和５年までの保険料は従前の方法で算定します。

以上で説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第26号　波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

起立全員であります。

○議長（百武辰美君）

したがって、議案第26号は原案のとおり可決されました。

○議長（百武辰美君）

日程第13　議案第27号

日程第13．議案第27号　波佐見町介護保険条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

松添長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

議案第27号について御説明申し上げます。

波佐見町介護保険条例の一部を改正する条例

波佐見町介護保険条例の一部を別紙のとおり改正する。

提案理由でございますが、第９期介護保険事業計画による保険料の決定及び介護保険法施行令、介護保険法施行規則の一部が改正されたことに伴い所要の改正を行うものでございます。

２ページ目を御覧ください。別紙波佐見町介護保険条例の一部を次のとおり改正するとしまして、以下に改正の条文を上げております。

４ページの説明資料を御覧ください。条例の概要を説明いたします。今回の改正は２点となっております。

まず①の第９期介護保険事業計画による介護保険料の決定でございますが、介護保険事業計画は介護保険法により、３年ごとに計画を作成策定することになっております。この計画は、各専門職代表、関係団体代表、行政職員で構成される策定委員会において、今後３年間で必要なサービスや事業を検討し、それに伴う事業量を見込み保険料を決定するものです。

高齢者人口の増やそれに伴う認定者の増への対応など、保険料の上昇要因はあるものの第８期までの給付費の状況などから、今期の保険料については基準額ベースで月額300円、年間3,600円減額することといたしました。このことから保険料の額の改定及びその適用年度について、令和３年度から令和５年度までだったものを、令和６年度から令和８年度へと変更をしております。

次に、２についてですが、介護保険法施行令の改正による保険料の率等の改正が行われており、介護保険制度の持続可能性を確保する観点から、所得の再分配機能の強化が行われております。具体的には、従来第１段階から第９段階までの９区分だったものが、第１段階から第13段階までの13区分へと変更になっておりまして、第１段階から第３段階までの負担割合が下がっており、従来の９段階をさらに９段階から13段階へ細分化し、４段階追加されております。

なお附則第１条により、施行期日については令和６年４月１日からとし、第２条により、保

険料の適用は令和６年度分からとしております。

５ページ、６ページは新旧対照表となっております。以上で議案第27号の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第27号　波佐見町介護保険条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第27号は原案のとおり可決されました。

日程第 14　議案第 28 号

○議長（百武辰美君）

日程第14．議案第28号　波佐見町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例を議題とします。

本案について内容説明を求めます。

松添長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

議案第28号について御説明申し上げます。

波佐見町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例

波佐見町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例等の一部を別紙のとおり改正する。

提案理由でございますが、指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令及びデジタル社会の形成を図るための規制改革を推進するための厚生労働省関係省令の一部を改正する省令の公布に伴い、関連する条例の改正が必要であるため、所要の改正を行うものでございます。

２ページ目をお願いいたします。別紙。波佐見町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例。今回の条例改正は、国の基準省令の改正に伴い本町に関連する４つの条例を一括提案させていただいております。

まず第１条になりますが、第１条　波佐見町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例の一部を次のように改正する。以降５ページ上段までが第１条の改正になります。

５ページ目をお願いいたします。中段になりますが、第２条　波佐見町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営等に関する基準を定める条例の一部を次のように改正する。以降15ページまでが第２条の改正になります。

16ページをお願いいたします。第３条　波佐見町介護保険法に基づく指定介護予防支援事業者の指定の要件並びに指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に係る基準に関する条例の一部を次のように改正する。以降、19ページ中段までが第３条の改正になります。

19ページ目をお願いいたします。中段になりますが、第４条　波佐見町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を次のように改正する。以降、23ページ下段までが第４条の改正になります。

23ページ下段から25ページまでが附則となっております。第１条に、施行期日を令和６年４月１日と定めております。第２条から第５条までがそれぞれの項目における経過措置を設けております。

それでは概要について御説明いたします。26ページの説明資料を御覧ください。

今回の改正は、国の社会保障審議会介護給付費分科会での審議をもとに、基準省令の改正が行われております。これに伴い14の基準省令が改正されており、そのうちの４省令が本町の４条例に関連しますので省令に沿って基準の改正を行うものです。

改正概要については下の表に示しておりますが、「書面掲示」の規制の見直し、管理者の兼務範囲の明確化、身体的拘束等の適正化の推進、公正中立性の確保のための取組の見直し、指定居宅サービス事業者等との連携によるモニタリング、ケアマネジャー１人当たりの取扱件数、介護予防支援の円滑な実施、生産性向上に先進的に取り組む特定施設に係る人員配置基準の特例的な柔軟化、協力医療機関との連携体制の構築、緊急時等における対応方法の定期的な見直しの義務づけ、ユニットケアの質の向上のための体制の確保、介護現場の生産性の向上となっており、そのほかデジタル社会の形成を図るための規制改革を推進するための厚生労働省令改正に関する部分として、アナログ規制の見直しのための改正が行われております。

以上、地域包括ケアシステムの進化、推進、良質な介護サービスの確保に向けた働きやすい職場づくり、新たな情報通信技術の導入活用に円滑に対応できるよう見直しが図られておりま

す。表の右の欄は改正内容と、関係する該当条例を示しております。

27ページから30ページまでは改正概要として項目ごとに内容該当条例を整理しておりますので御覧ください。以降、31ページから113ページまでが新旧対照表となっておりますので御確認ください。

以上で、議案第28号の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第28号　波佐見町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第28号は原案のとおり可決されました。

日程第15　議案第29号

○議長（百武辰美君）

日程第15．議案第29号　波佐見町水道条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

それでは議案第29号について説明します。議案第29号　波佐見町水道条例の一部を改正する条例

波佐見町水道条例の一部を別紙のとおり改正する。

提案理由でありますが、水道法の一部が改正されたため、所要の改正を行うものです。

別紙をお願いします。改正の内容ですが、第５条第１項中「厚生労働省令」を「国土交通省令」に改める。

附則としまして、

１．この条例は、令和６年４月１日から施行する。

２．波佐見町水道布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を次のように改正する。

第４条第１項第６号中「厚生労働大臣」を「国土交通大臣及び環境大臣」に改める。

今回の条例の改正につきましては、生活衛生などが関係する行政の機能の強化を図るため、水道法等による権限を厚生労働大臣から、国土交通大臣及び環境大臣に移管するという趣旨の生活衛生等関係行政の機能強化のための関係法律の整備に関する法律が令和５年５月に制定され、令和６年４月１日から施行されます。水道整備管理行政の機能強化の１点目として、水質または衛生に関する事務について、河川等の環境中の水質に関する専門的な見地等を活用する観点から厚生労働省から環境省に移管されます。

２点目として、１点目の事務以外について、社会福祉品整備や災害対応に関する専門的な知見等を活用する観点から、厚生労働省から国土交通省に移管するとともに、当該事務の一部を国土交通省地方整備局長などに委任できるとされています。

以上で、説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第29号　波佐見町水道条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第29号は原案のとおり可決されました。

日程第16　議案第30号

○議長（百武辰美君）

日程第16．議案第30号　波佐見町公共下水道条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

それでは議案第30号について説明します。

議案第30号　波佐見町公共下水道条例の一部を改正する条例

波佐見町公共下水道条例の一部を別紙のとおり改正する。提案理由でありますが下水道法施行令の一部を改正する政令が公布されたことに伴い、本条例に規定する下水排水基準を改正するものです。

次ページ、別紙をお願いします。改正内容ですが第10条第１項第５号中「0.5」を「0.2」に改める。

附則。この条例は令和６年４月１日から施行する。

下水道は生活環境を改善するだけでなく、公共用水域の水質保全のためにも欠かすことのできない施設でございます。しかし工場、事業場から基準を超える下水がそのまま排除されますと、下水管を損傷させたり、下水処理場の機能を著しく低下させたりなど、悪影響を及ぼすことになります。したがって、このようなことを防止するために、下水道法及び下水道条例により下水の排出基準が定められております。

今回、下水排水基準が定められている物質のうち、六価クロムの基準が変更になりました。これまで１リットルにつき0.5ミリグラム以下の基準であったものが１リットルにつき0.2ミリグラム以下の基準に評価されています。

なお六価クロムは、下水処理場における生物処理の機能を低下させるほか、下水処理場等で発生した汚泥の処理、処分を困難にさせるという性質がございます。

以上で、説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第30号　波佐見町公共下水道条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第30号は原案のとおり可決されました。

会議の途中ですが、しばらく休憩します。11時10分より再開します。

午前10時58分休憩

午前11時10分再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第 17　議案第 31 号

○議長（百武辰美君）

日程第17．議案第31号東彼地区保健福祉組合規約の変更についてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

それでは議案第31号について説明いたします。東彼地区保健福祉組合規約の変更について

地方自治法第286条第１項の規定に基づき、東彼地区保健福祉組合規約の一部を別紙のとおり変更するための協議をすることについて、地方自治法第290条の規定により、議会の議決を求めるものでございます。

提案理由でございますが、管理者の選任方法について手続等を明確にするため、所要の改正を行うものでございます。

次ページ別紙をお願いいたします。改正内容として、東彼地区保健福祉組合規約の一部を次のように変更する。第８条第２項を次のように改める。

第２項　管理者は、各町の長の互選により、組合の議会の同意を得て選任する。

附則。この規約は、長崎県知事の許可の日から施行するものでございます。

経過でございますが、長崎県の助言もあり、今回の改正となり東彼３町同時に今回議会の議決を求めるものでございます。なお、新旧対照表は別紙のとおりとなっておりますので、あわせて御確認をお願いします。

以上で、議案第31号の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第31号東彼地区保健福祉組合規約の変更についてを採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって、議案第31号は原案のとおり可決されました。

日程第 18　議案第 36 号

○議長（百武辰美君）

日程第18．議案第36号　波佐見町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

前川町長。

○議長（百武辰美君）

それでは議案第36号　波佐見町固定資産評価審査委員会委員の選任について申し上げます。

下記の者を波佐見町固定資産評価審査委員会委員に選任したいから、地方税法第423条第３項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

まず、委員の住所でございますが、波佐見町湯無田郷821番地６。氏名が浦野正規さんでございます。

次の資料を御覧ください。御本人の略歴。学歴、職歴、公職歴についてはここに記載のとおりでございます。浦野さんは識見高く、また誠実な人柄でもあり当委員として適任と考えております。どうぞ御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第36号　波佐見町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを採決します。

本案は原案のとおり同意することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第36号は原案どおり同意することに決定しました。

日程第 19　議案第 37 号

○議長（百武辰美君）

日程第19．議案第37号副町長の選任についてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

前川町長。

○町長（前川芳徳君）

それでは、議案第37号副町長の選任について御提案申し上げます

下記の者を波佐見町副町長に選任したいから、地方自治法第162条の規定により、議会の同意を求める。

住所は佐世保市瀬戸越４丁目1370ー15。

氏名は村山弘司。昭和38年５月16日生まれでございます。

資料を御覧ください。略歴については、学歴、職歴、公職歴等は御覧のとおりでございますが、現在御本人は県北振興局長として在職してございますが３月末で退職予定でございます。

このように、行政人としても経験豊富であり、かつ人望も厚く、加えて識見高く、温厚で誠実な人柄でもあり副町長に適任であると考えております。

どうぞ御承認頂きますように御審議方よろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

11番　北村議員。

○11番（北村清美君）

まず３点ほど御質問します。

まずこの略歴見て、家族構成が入っていませんね。それを教えてください。

それから２月19日に我々には全協のとき発表していただきました。19日から20日、今日ですね採決。この短い時間で判断をしなきゃ、採決しなきゃいけないということが非常に問題じゃないかと思います。

それともう一つは、この採決にあたって、我々は職員の方もそうでしょうけど、まず面識がない。知らないということがあります。これで採決するのは非常に無理があるのではないかと思っています。

もう一つ。こういうスタンスがあった場合に、冒頭２月でしたっけ。町長が副町長の人事の案があると。途中まで言えないというようにおっしゃっていましたけれども、少なくとも議会というよりも議長だけには少しは開示をして、協力を求めるべきだったと思うのですが、その点どうですか町長。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

まず３点御質問がございましたが、まず家族構成については、この人事案について御当人のプライバシーに関わるものについては、これは差し控えたいと思いますのでご公表はしないということでございます。

それから２月19日とおっしゃいましたが、３月19日だったと思いますが。その中でも御説明しましたとおり、ご本人からは１月、正月明けてすぐに内諾の御返事を頂いたわけでございますけれども、県のほうからどうしても人事に関わることであるから、県の内示があるまでは差し控えてほしいという強い要望がございました。

そのために、私も一刻も早く皆様方にはお知らせをしたい気持ちが強くございましたけれども、どうしてもそういう人事面の配慮をいたしまして、差し控えさせていただいたという経緯でございます。

それから３点目。認識がないとおっしゃることは、確かに認識があられないとは思いますが、果たしてその面識がないことで御本人が副町長として妥当であるか、妥当ではないかということの基準にはならないのではないかなというように思いますし、先ほどのこの略歴等を見ていただきますと、十分に行政能力というのは高いというように私は判断をいたしますし、その点は議会の皆様にも御理解頂きたいなというふうに思っております。以上でございます。

私はもう10数年前から、同じ行政職として県からの意見交換の場でそれぞれ認識ございまして意見交換もさせていただいて、いろいろ要望をつないだりとか、あるいは県からの情報を頂いたりとか、そういった認識がございました。それなりに人望の厚い方でございますので、その点は御理解頂きたいなというように思っております。

議長のほうに報告をなぜしなかったのかということでございますけれども、どうしても先ほど申したとおり人事面に関して県からの強い要望であれば、本来であれば議長ぐらいには言っておくべきだという御意見もまさにそうかと思いますけれども、その点は非常に慎重にならざるを得なかったというのが事実でございます。

○議長（百武辰美君）　11番　北村議員。

○11番（北村清美君）

普通なら副町長というのは地元出身、地元の町の職員のＯＢとか、波佐見出身の県職員とか、要するに即戦力の人を選ぶべきかと思うのですよ。

なぜそう言うかというと、波佐見の地元の人だと波佐見の事情もよく分かっていますし、だからそういった面があるのですけど。その即戦力という意味、どういった経緯でその波佐見町職員を選ばなかったか。ＯＢも含めてですね。それと、波佐見町出身の県職を選ばなかったのかというちょっとそれを聞きたいのですが。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

ただいまの御質問であれば、いかにも今回私が選任をお願いしております村山さんが即戦力ではないかのようなお話でございますけども、決してそういうことでございません。

県北振興局長として波佐見町もよく御存じでございますし、それ以前に地域づくりであるとかあるいは物産振興あたりで波佐見焼との関わりも深くございますので、その点についての心配は無用かというふうに思っております。

それからなぜ職員の中からあるいは職員のＯＢから選任しなかったのかということでございますが、今の職員の中で新たに副町長を選任するとなりますと、また新しい人材を登用しなければならないと、不足が。非常に少ない職員数で現在働いておりますので、そういうようであればまた新たな戦力を確保しなければならないという事情もございますし、現在の年齢構成からしても、非常に厳しいものがあると。

それからＯＢの方につきましても、お話を聞けばもう現職といいますか行政のほうに戻る気はないというような方のほうがほとんどでございました。

そういったことを踏まえまして、そういったこともありまして、いろいろ人選をする中で今回の村山氏をお願いしたいというところに至ったわけでございます。

○議長（百武辰美君）　11番　北村議員。

○11番（北村清美君）

この略歴を見させていただきますと、非常に全ての業務、行政の仕事に関わっていらっしゃいますよね。非常にすばらしいあれではないかと思うのですよ。だから観光をはじめ産業労働とか産地振興とか企画振興、地域づくり、まちづくりですね。それから過疎地の対策。そして最後は県北局長なって波佐見を含めて見ていらっしゃると。非常に申し分ないということにちょっと判断せざるを得ないわけですけど。非常にいいことだと思うのですけど。

だから町長この１年半をかけて副町長の人事を考えられたと。だからまとめられるのではないかと私も思います。これは。

だから波佐見は、波佐見地域の特性として外部からの受入れに対しては非常に寛容ですよね。そういった意味で新しい地位、新しい考え方というのができるかと思うのです。そのための人事というのは非常にいいかと思います。

全然その顔を見ていないからどういう人物か、どういう考えを持っているかわからないですけど、今のこの略歴と町長の説明だと、そういうように判断をしていきますしね。

そういった意味ではいいかと思います。いいのではないかというふうにも、ベターではないかと考えますが。

ただこの中で、地域に波佐見に根ざしてやるべきだと思うのですよ。波佐見を外から今までは見られていますから、今度は波佐見の中に入ってこられます。だから地域の、部落の、例えば誰々さんあの人は岳辺田郷の何とかさんとか。あの人は小樽郷の何とかさんというのを覚えるのに約４年かかると思うのですよ。

だからそういった意味で、町長。本人が多分御承知だと思うのですけど、そういった面で協力して体制が出来る。また職員からも、やっと副町長のポストが出来たということで、安心感あって仕事が出来るという雰囲気が出来ると思うのですよ。だから、今後は町長の仕事が出来ると思うのですよ。

今までみたいに副町長兼任でやると、どうしても役場内調書だけの考え方になってきますから。

だからこれからは、町長の仕事が出来ると思うのですよ。町長の仕事やってもらわないといけないです。そのための町長のこれから副町長を置いた場合の、後からの将来の今後の方針に関して抱負を述べてもらえませんか。

○議長（百武辰美君）

お答えできる範囲でお願いいたします。

前川町長。

○町長（前川芳徳君）

副町長は、やはり職員と私の調整連絡調整もさることながら、波佐見町全般のことも把握して、私の方向性を助言なりで方向性を正していただくということもありましょう。

私は最終的な決断をするべき立場として、一層力を波佐見町発展のために注力してまいりたいというふうに思っております。以上でございます。

町長人事案の議案でございますので、私の抱負は所信表明の中で申し上げたとおりでございます。

○議長（百武辰美君）

ほかに質疑はありませんか。

８番　城後議員。

○８番（城後光君）

今回ですね現の県北振興局長を副町長人事に提案されましたけども、町長としてどういったかたちで県との関係性の強化という部分を今後、副町長に期待されるものかお聞かせください。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

行政には多くの情報が入ってまいります。しかしその中でも、やはり県というのは国との距離感が町に比べればはるかに近いものがあろうかと思いますし、多くの方との付き合い方というものがあろうかと思います。

そういったものを県庁の中で築いてきておられますので、ぜひそういった知見、あるいは知力、体力。知見等をぜひこの波佐見町のために全力で投入していただきたいと思いますし、お話をしたところぜひそういうふうに頑張りたいというようなお声も頂きましたので、この方で

あればという強い信念のもとに今回出されておりますので、そういった力を本当に期待しているところでございます。

○議長（百武辰美君）　12番　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

町長からは以前、副町長の条件としてまず町にお住まいの方。それから町職員とか年齢的には40代、50代。そしてデジタルに明るい人と、そういったことで、条件的なことを聞いていたわけでございますけども今回、村山現県北振興局長を候補とされた理由。そのあたりのいきさつがありましたら教えてもらえばと思います。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

以前の答弁の中で、おっしゃるとおり私よりかなり若い40代、50代。あるいは先ほどおっしゃったようにデジタルに明るい方というのを望んでおりましたが、なかなか現状では見つけることができなかったというのが実情でございます。

その点の方についても、この１年半の間にはいろんな接触とか御相談をした経緯もございますが、どうしても条件とかいろんなことで折り合いがつかなかったということもございます。

ただし、御本人がちょうど役職定年ですので60歳ということでございますが、これは全協の中で申しましたとおり、現在の職員構成の中で管理職と私のちょうど中間ぐらいの年齢層になりますので、そういった橋渡し役といいますか、調整役としてはベストじゃないかな、ベターじゃないかなという感じがいたしておりますし、必ずしもデジタルに明るく、御当人のどれだけデジタルについての強みを私は把握しておりませんが、それらはしっかりと職員が現在研修等を行いながら進めておりますし、各種の講師も招きながら、それからデジタル政策監も非常勤でございますけども、委嘱したような経緯で体制は整えているつもりでおりますので、その点のサポートはしっかりしていけるものというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　12番　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

町政で申しますと西ノ原の区画整理とか、それから町道・県道こういった県関係の仕事がかなり多いかと思うのですよ。そのほかにいろいろ観光産地振興とか、そういったものがあるわけでございますが。そこあたりの町長が期待されるところはいかがなものですか。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

御指摘のとおり本町のいろんな大きな事業については大きな転換期といいますか迎える時期にこれから入ってまいります。

そういった中において、この県職員を経験されてしかも部長級の管理職ということで経験されたのは大きな戦力になろうかと思っております。ぜひそういった力を発揮していただいて県

との調整、パイプ役としての大いなる活躍を期待するところでございます。

○議長（百武辰美君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第37号副町長の選任についてを採決します。

本案は原案のとおり同意することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第37号は原案のとおり同意することに決定しました。

日程第 20　閉会中の継続審査申出について

○議長（百武辰美君）

日程第20．閉会中の継続審査申出についてを議題とします。総務文教委員長、産業厚生委員長及び議会運営委員長から会議規則第83条の規定によって、御手元に配付のとおり、閉会中の継続調査の申出がありました。

お諮りします。各委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

異議なしと認めます。

したがって、各委員長から申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

お諮りします。会議規則第44条の規定により、今定例会において議決されました案件について、字句、数字、その他整理に要するものがあった場合、その整理を議長に委任されたいと思います。これに御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

異議なしと認めます。

よって、これらの整理に失礼しました。これらの整理を要するものについては、議長に委任

することに決定しました。

これで本日の日程は全部終了しました。

本定例会に付された事件は全て終了しました。以上で本日の会議を閉じます。令和６年第１回波佐見町議会定例会を閉会します。

午前11時43分　閉　会

地方自治法第123条第２項の規定により、ここに署名する。

議　　長

署名議員

署名議員